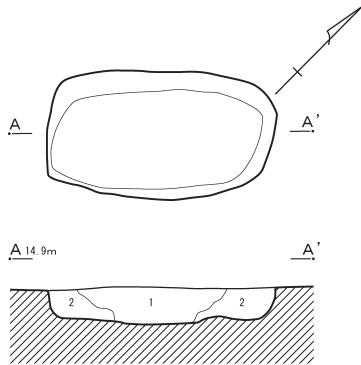


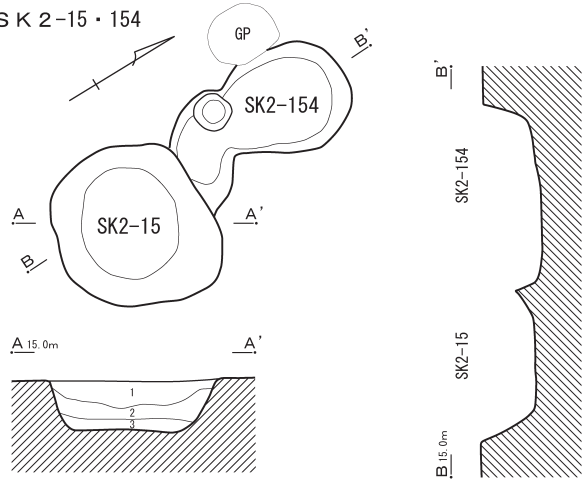
第152図 土壌 (1)

SK 2-13



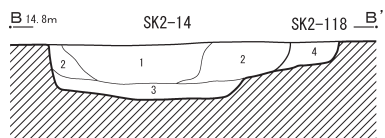
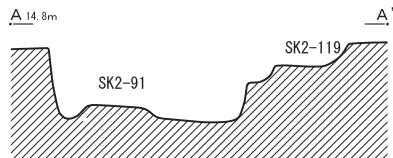
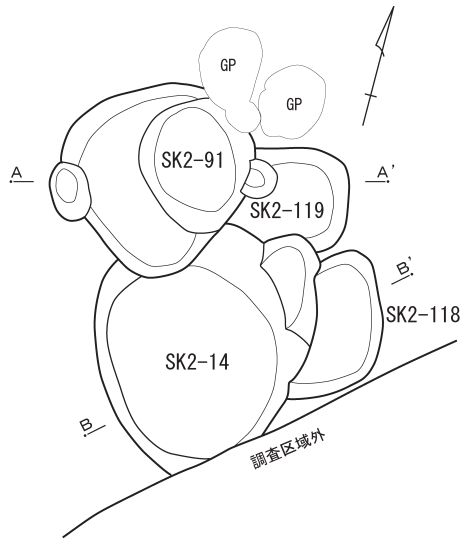
SK 2-13
 1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 2 褐色土 ロームブロック多量

SK 2-15・154



SK 2-15
 1 黒褐色土 ローム粒子・粘土ブロック少量 粘土粒子多量
 2 黒褐色土 ロームブロック少量 炭化物粒子微量
 3 灰白色土 粘土層 上面に炭化物粒子多量

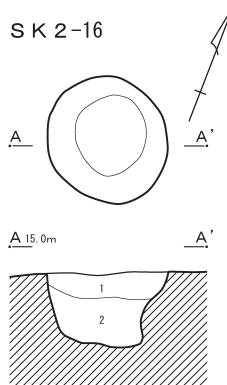
SK 2-14・91・118・119



SK 2-14
 1 黒褐色土 ローム粒子・粘土ブロック多量
 2 黒褐色土 ロームブロック多量
 3 暗褐色土 ロームブロック多量

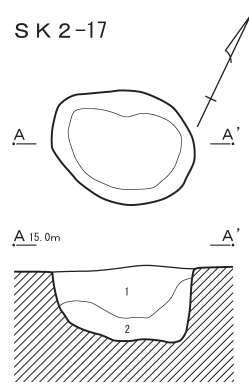
SK 2-118
 4 暗褐色土 ロームブロック少量

SK 2-16



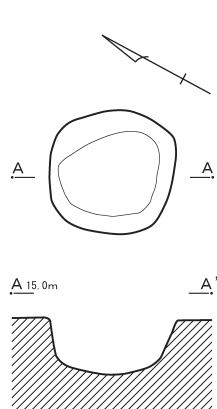
SK 2-16
 1 黒褐色土 ローム粒子・粘土ブロック少量 粘土粒子多量
 2 黒褐色土 ロームブロック少量 炭化物粒子微量

SK 2-17

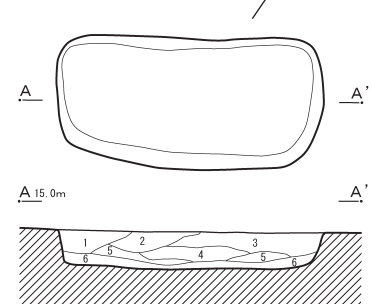


SK 2-17
 1 粘土 ローム粒子・黒褐色土ブロック少量 粘土粒子多量
 2 黒褐色土 ロームブロック少量 炭化物粒子微量

SK 2-41



SK 2-70

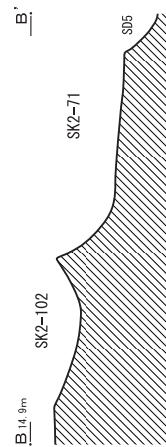
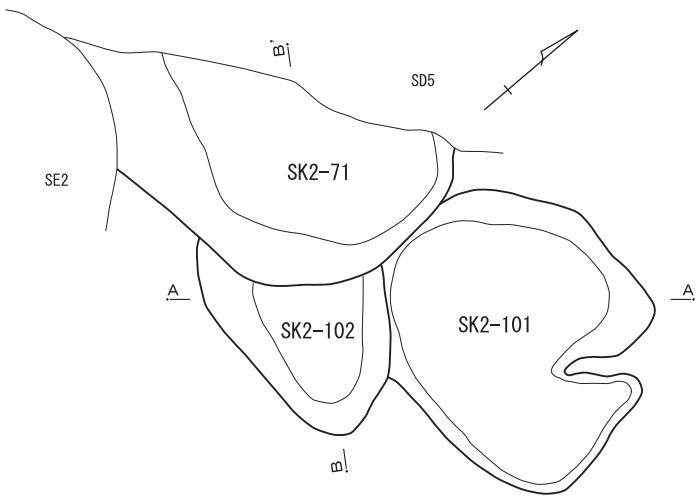


SK 2-70
 1 暗褐色土 ロームブロック多量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量
 3 暗褐色土 ローム粒子少量
 4 暗褐色土 ロームブロック少量
 5 暗褐色土 ロームブロック多量
 6 黒色土 ローム粒子微量

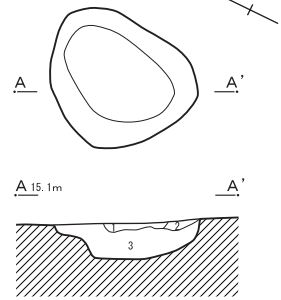


第153図 土壙 (2)

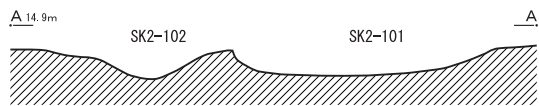
SK 2-71・101・102



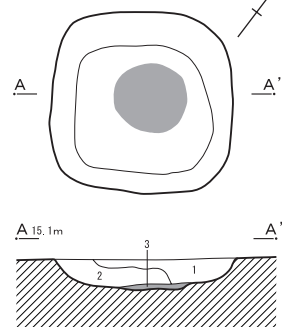
SK 2-74



SK 2-74
 1 黒褐色土 ローム粒子微量
 2 黄褐色土 ローム主体の層
 3 暗褐色土 ロームブロック少量

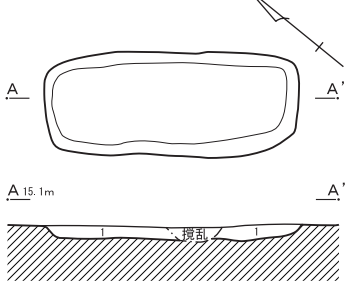


SK 2-75



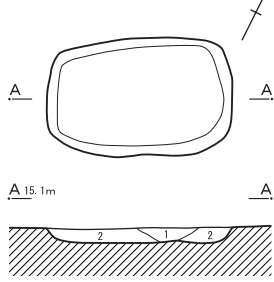
■ 焼土範囲
 SK 2-75
 1 暗褐色土 ロームブロックやや多量
 粘土ブロック少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量
 3 赤褐色土 焼土層

SK 2-72



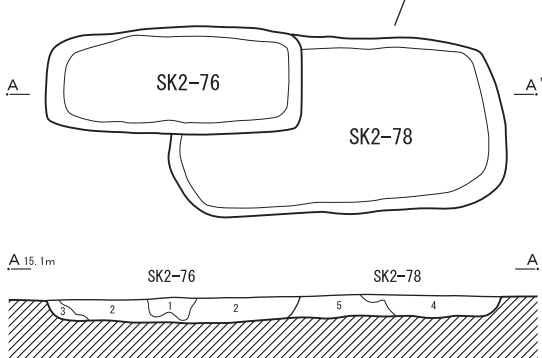
SK 2-72
 1 黒褐色土 ローム粒子多量
 ロームブロック少量

SK 2-73



SK 2-73
 1 暗褐色土 ローム粒子多量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量

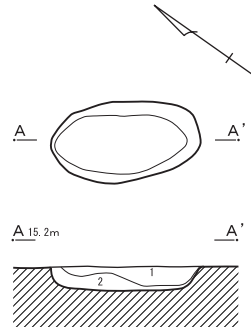
SK 2-76・78



SK 2-76
 1 暗褐色土 粘土ブロック多量
 2 黒褐色土 ロームブロック多量
 3 暗褐色土 ロームブロック多量

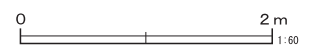
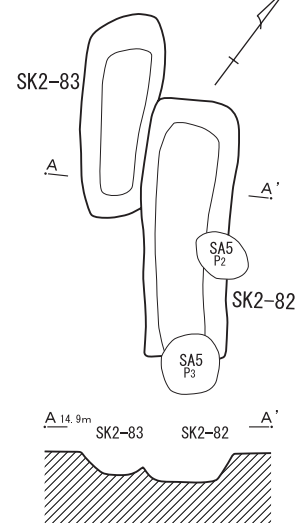
SK 2-78
 4 黒褐色土 ロームブロック多量
 5 暗褐色土 ロームブロック多量

SK 2-77



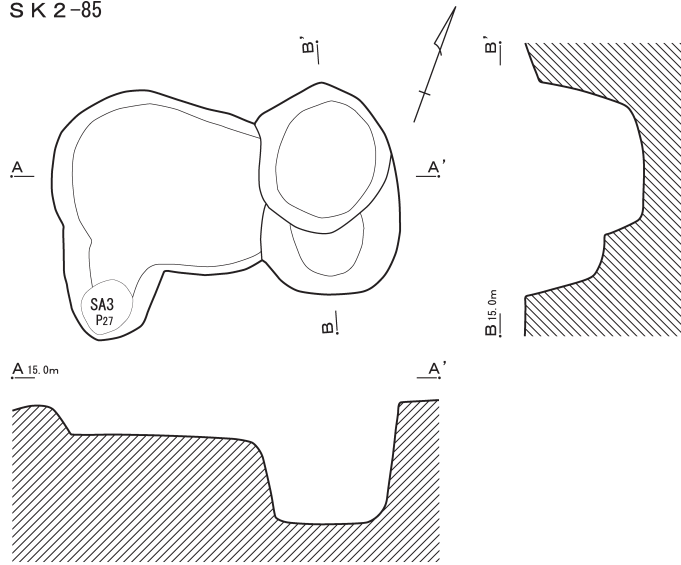
SK 2-77
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量

SK 2-82・83

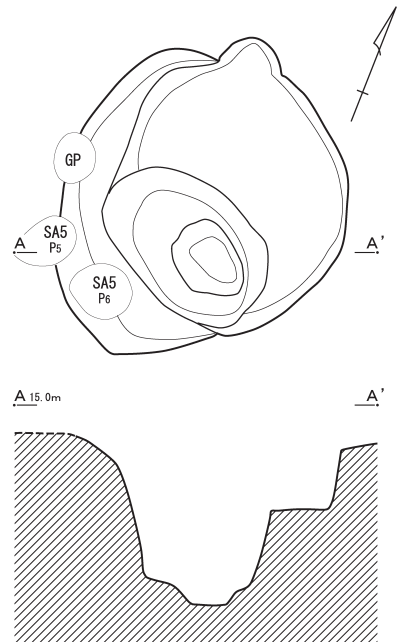


第154図 土壌 (3)

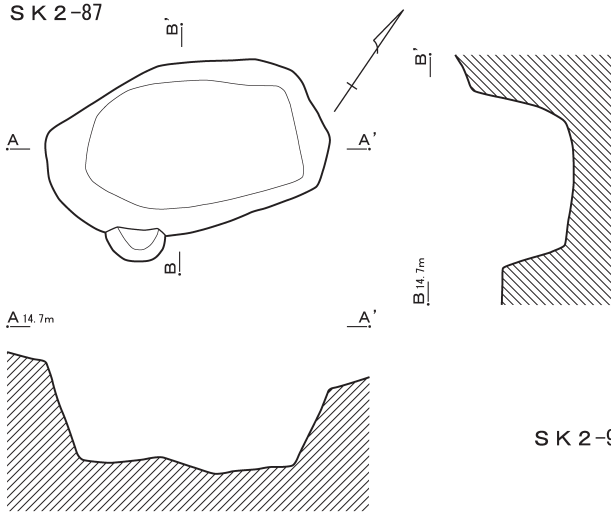
SK 2-85



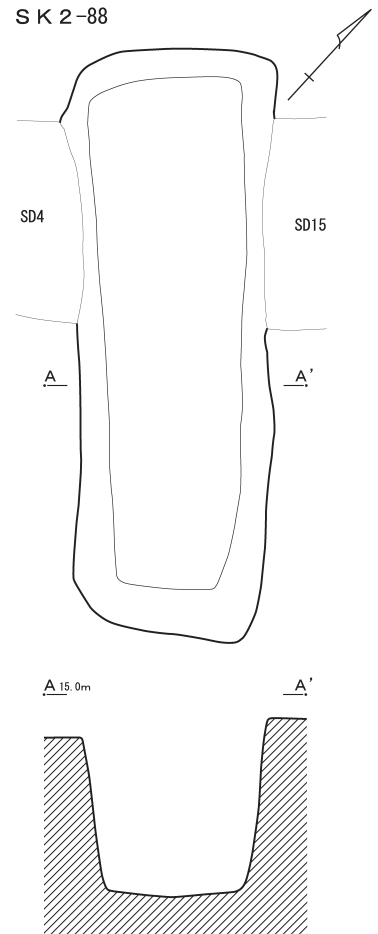
SK 2-86



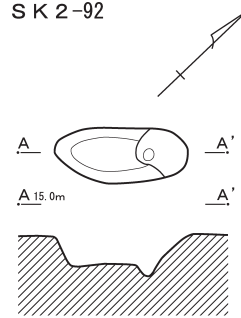
SK 2-87



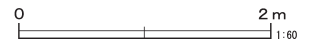
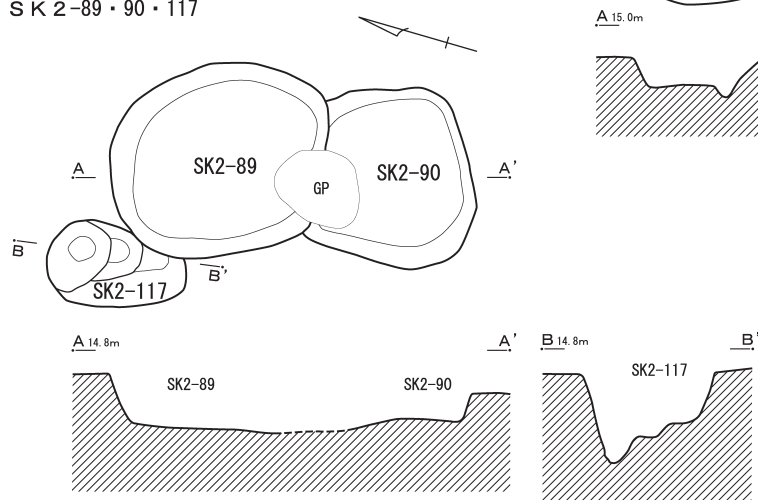
SK 2-88



SK 2-92

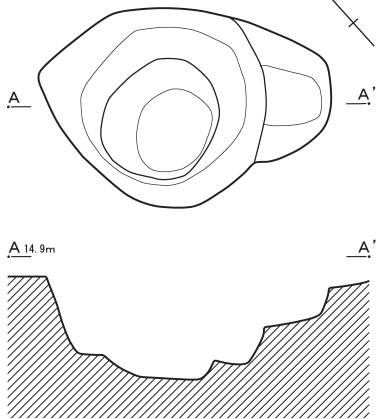


SK 2-89 · 90 · 117

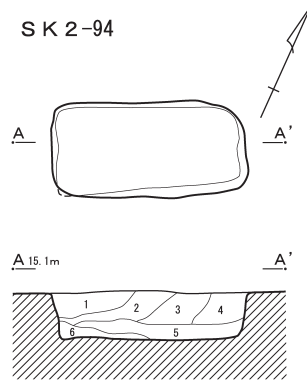


第155図 土壙 (4)

SK 2-93

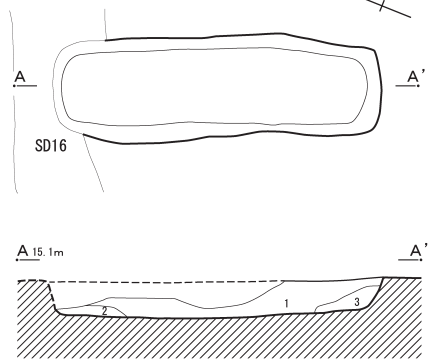


SK 2-94



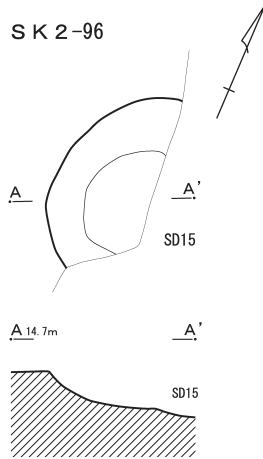
- SK 2-94
- 1 黒褐色土 ローム粒子多量
 - 2 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 4 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 5 黒色土 ロームブロック少量
 - 6 暗褐色土 ロームブロック多量

SK 2-95

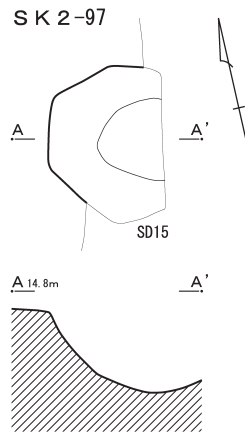


- SK 2-95
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 - 3 黒褐色土 ロームブロック少量

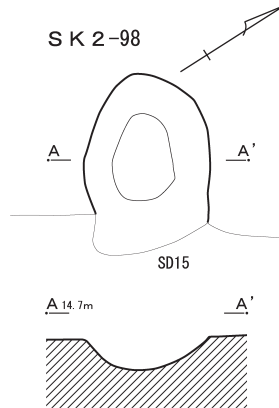
SK 2-96



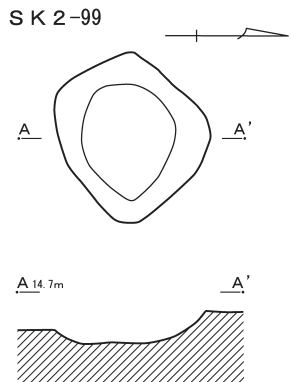
SK 2-97



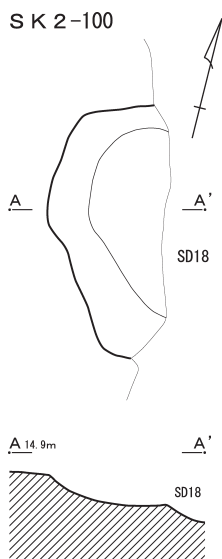
SK 2-98



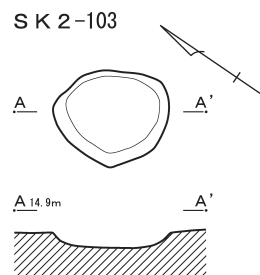
SK 2-99



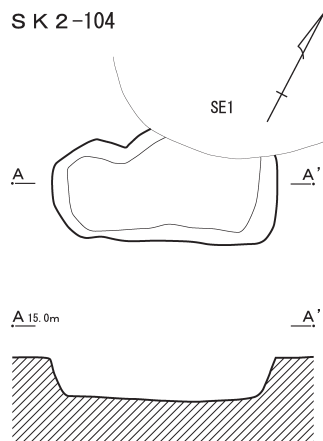
SK 2-100



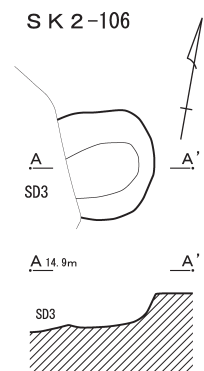
SK 2-103



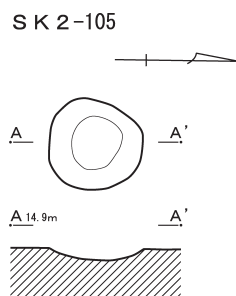
SK 2-104



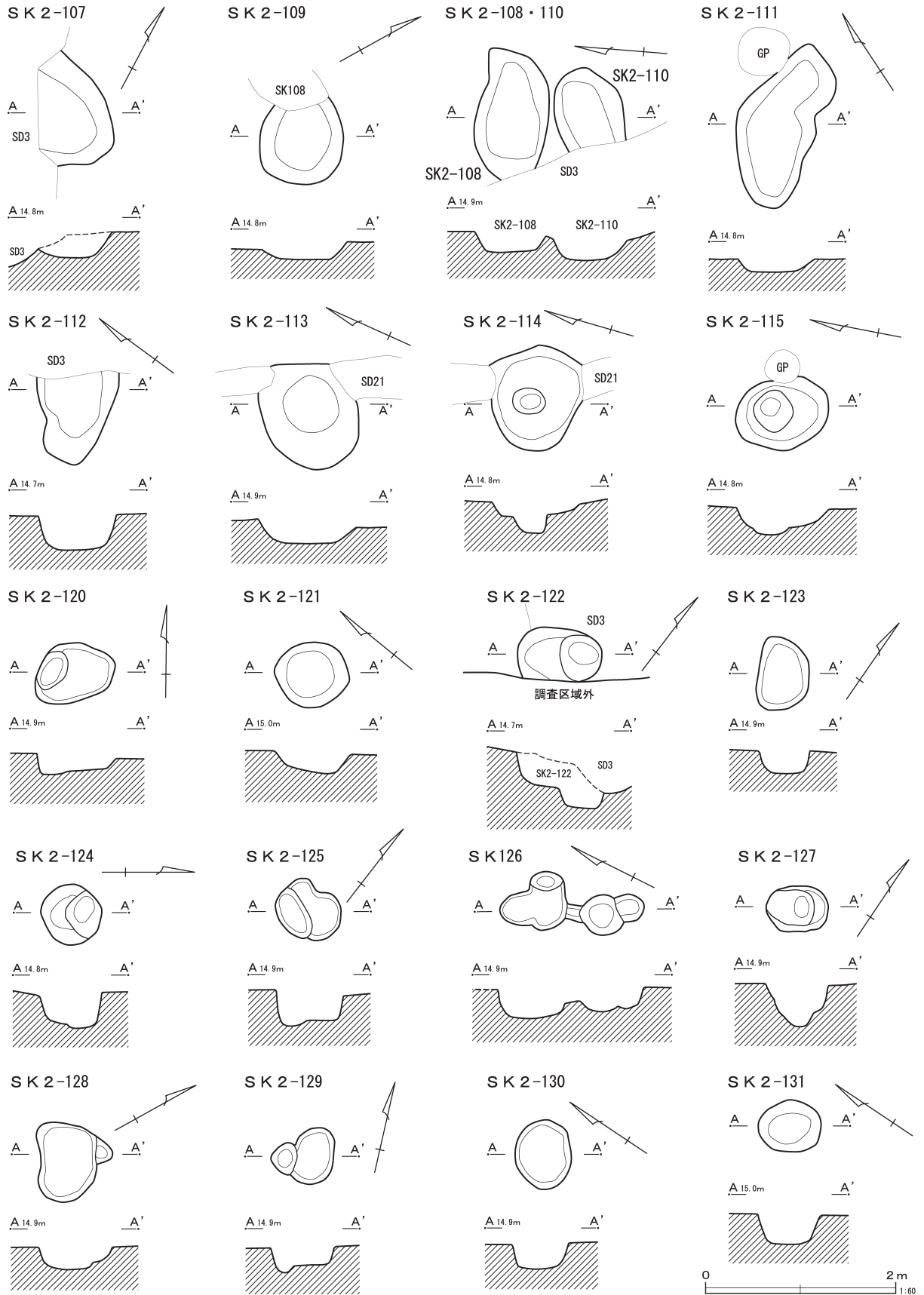
SK 2-106



SK 2-105



第156図 土壌 (5)



第157図 土壇 (6)

第2-145号土壙 (第158図)

N6・D6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.75m、深さは0.22mである。

遺物は出土しなかった。

第2-146号土壙 (第158図)

N6・E6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.75m、深さは0.30mである。

遺物は出土しなかった。

第2-147号土壙 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、中央部が深くなっている。径は0.66m、深さは0.72mである。

遺物は出土しなかった。

第2-148号土壙 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.64m、深さは0.36mである。

遺物は出土しなかった。

第2-149号土壙 (第158図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、北東側が一部深くなっている。径は0.80m、深さは0.4mである。

遺物は出土しなかった。

第2-150号土壙 (第158図)

N6・F7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.72m、深さは0.38mである。

遺物は出土しなかった。

第2-151号土壙 (第159図)

N6・F6、F7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.65m、深さは0.16mである。

遺物は出土しなかった。

第2-152号土壙 (第159図)

N6・G6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、南側が一部深くなっている。径は0.72m、深さは0.38mである。

遺物は出土しなかった。

第2-153号土壙 (第159図)

M6・G2グリッドに位置する。平面形は円形

を呈する。径は0.59m、深さは0.21mである。

遺物は出土しなかった。

第2-155号土壙 (第159図)

N6・B6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.05m、短径は0.75m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-156号土壙 (第159図)

N6・B6グリッドに位置する。南側はSA2-1(柵列)のピットと切りあっている。平面形は楕円形を呈すると思われる。長径は現況で0.70m、短径は0.55m、深さは0.10mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-19号土壙 (第160・161図、第165図6)

N6・C7グリッドに位置する。第2-19~27、29~40、42~53、53、55~69、80~81、157号の52基が密集している。

平面形は長方形を呈する。長軸は3.40m、短軸は0.64m、深さは0.25mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物は6の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

第2-20号土壙 (第160・161図、第165図7)

N6・C7グリッドに位置する。東側の一部が第2-21号土壙と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.00m、短軸0.88m、深さは0.21mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は7の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

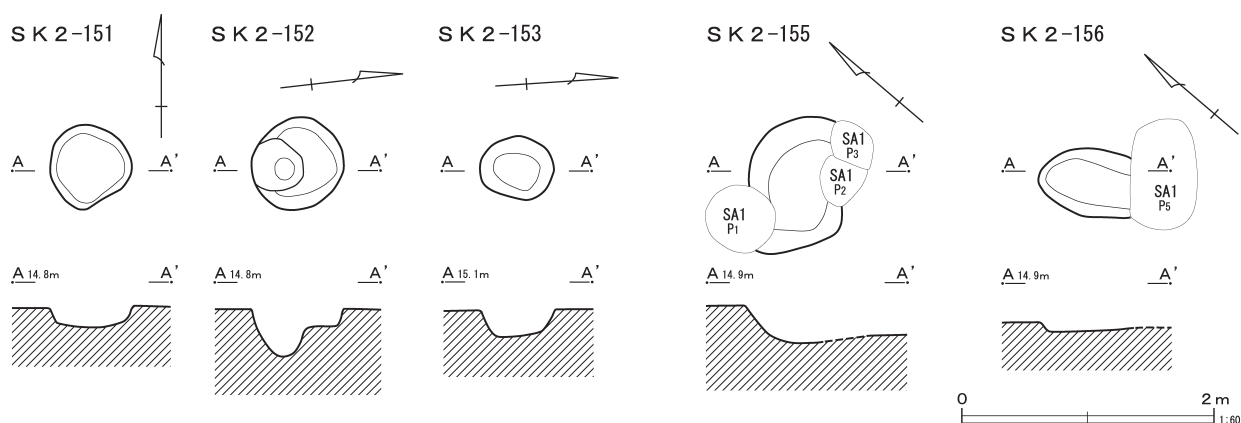
第2-21号土壙 (第160・161図)

N6・B7、C7グリッドに位置する。東側が第2-23号土壙に切られているため、長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.60m、深さは0.18mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-22号土壙 (第160図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。北側は



第159図 土壌(8)

第2-26号土壌により切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は2.17m、短軸は現況で0.60m、深さは0.24mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-23号土壌(第160・161図)

N6・B7グリッドに位置する。東側を第2-22、26号土壌に切られているため、長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.70m、深さは0.10mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-24号土壌(第160・161図、第165図8)

N6・B7グリッドに位置する。東側を第2-23、27号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.18m、短軸は現況で0.55m、深さは0.32mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は8の瀬戸・美濃系の皿破片が出土した。

第2-25号土壌(第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-36号土壌に切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は1.30m、深さは0.25mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-26号土壌(第160・161図、第165図9)

N6・B7、B8グリッドに位置する。周辺に第2-22、23、27、42号土壌と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.21m、短軸は0.81m、

深さは0.29mである。長軸方位はN-61°-Eを指す。

遺物は9の香炉が出土した。

第2-27号土壌(第160・161図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。南側を第2-26号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.05m、短軸は現況で0.49m、深さは0.21mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-29号土壌(第160・161図)

N6・C7グリッドに位置する。南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は1.78m、短軸は現況で0.40m、深さは0.15mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

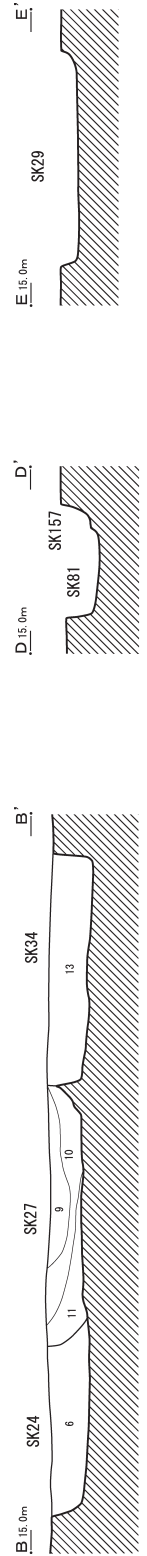
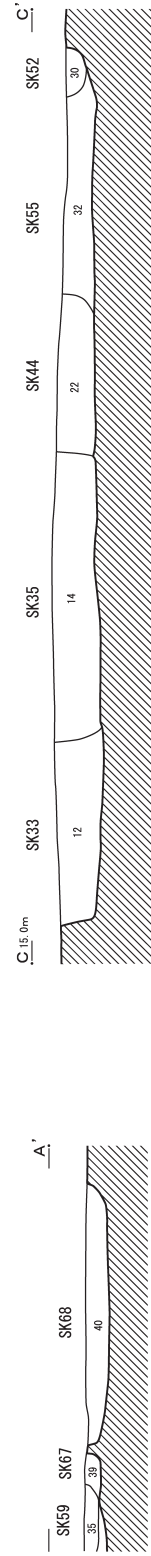
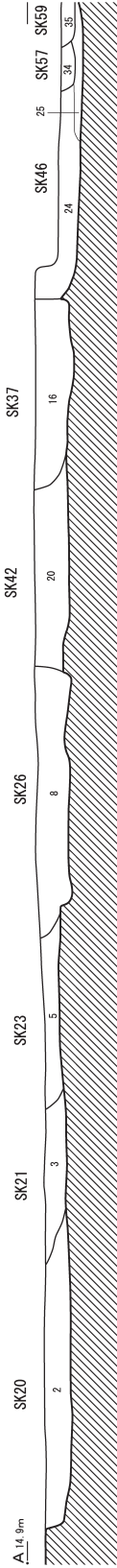
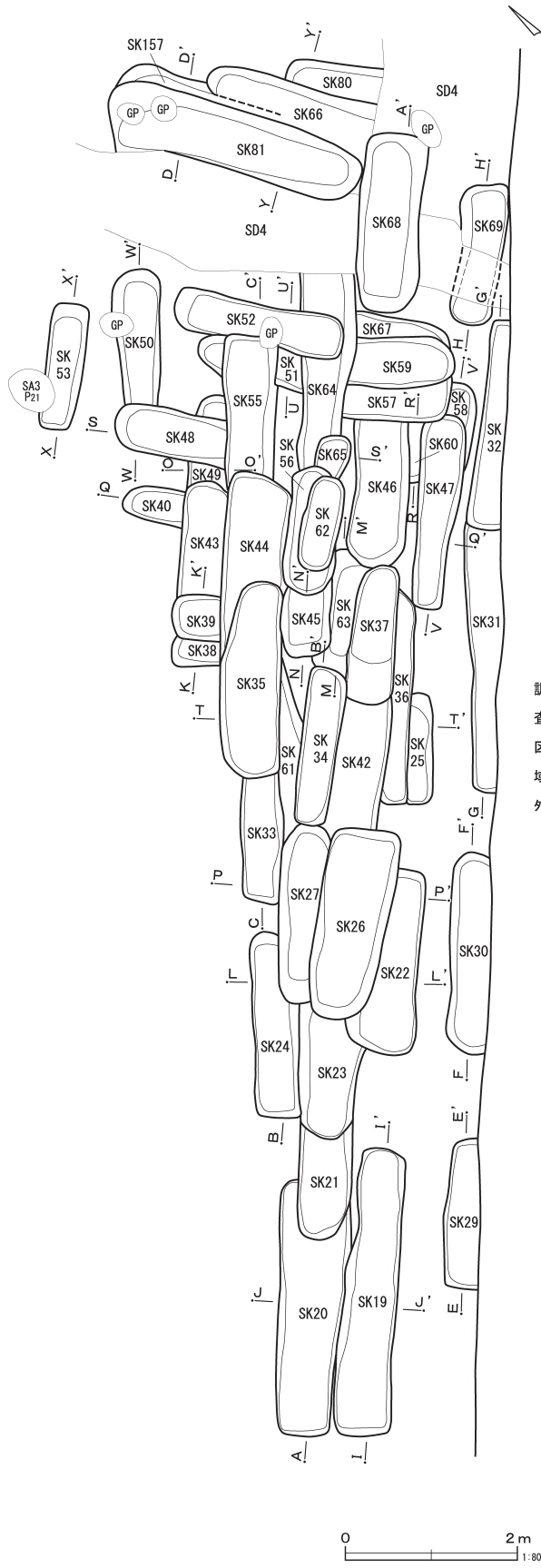
第2-30号土壌(第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は2.30m、短軸は現況で0.46m、深さは0.18mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

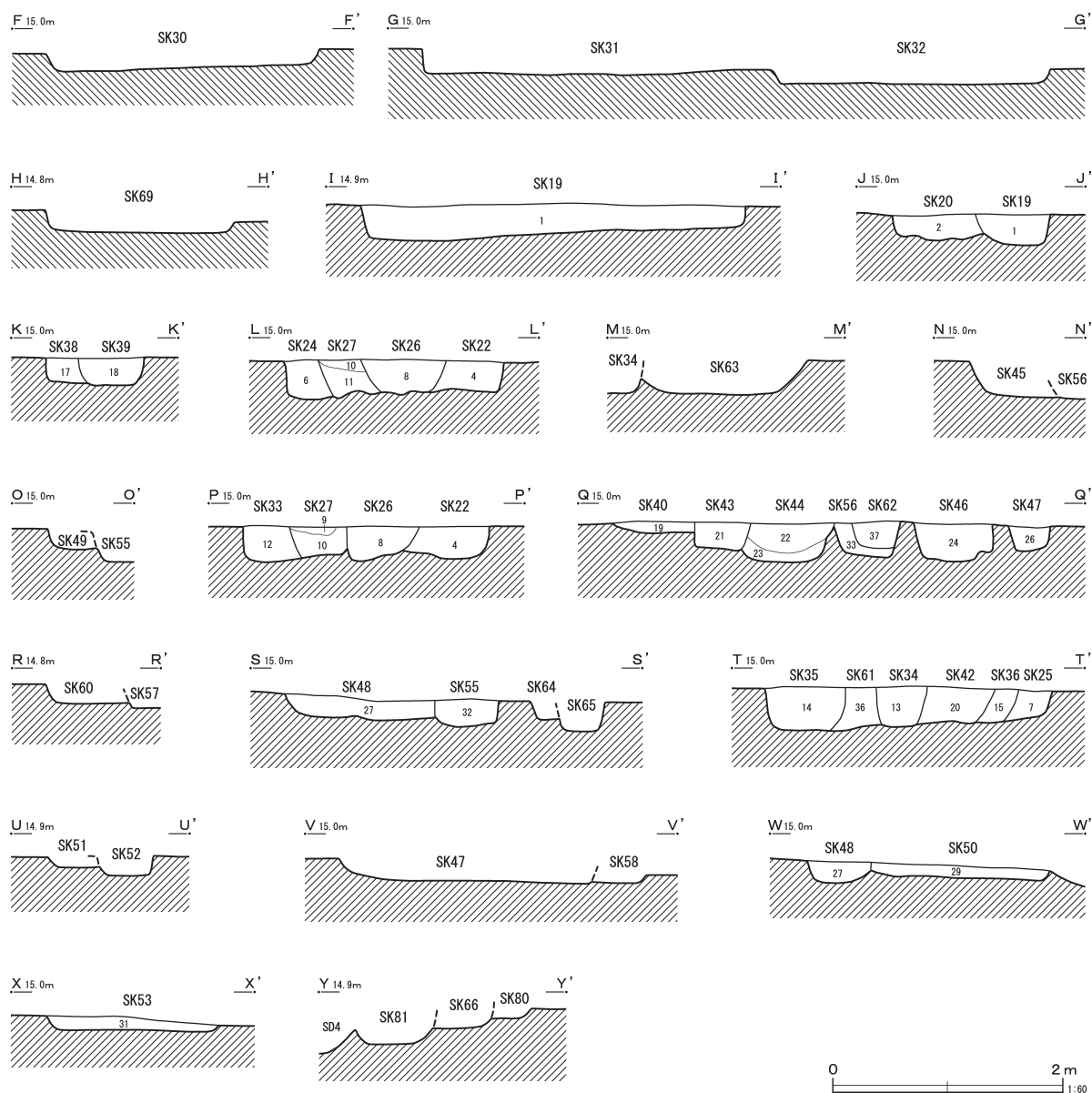
遺物は出土しなかった。

第2-31号土壌(第160・161図、第165図10)

N6・B8グリッドに位置する。東側を第2-32号土壌と重複し、南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で3.06m、短軸は現況で0.41m、深さは0.23mである。長軸方位は



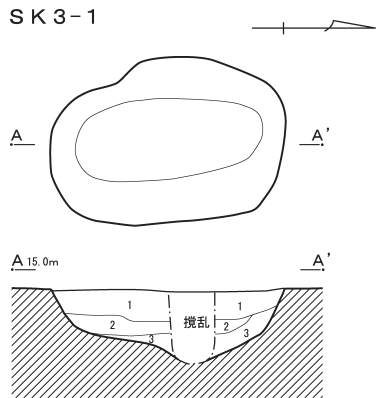
第160図 土壇 (9)



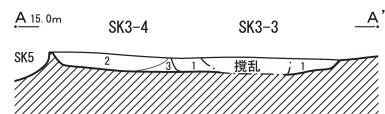
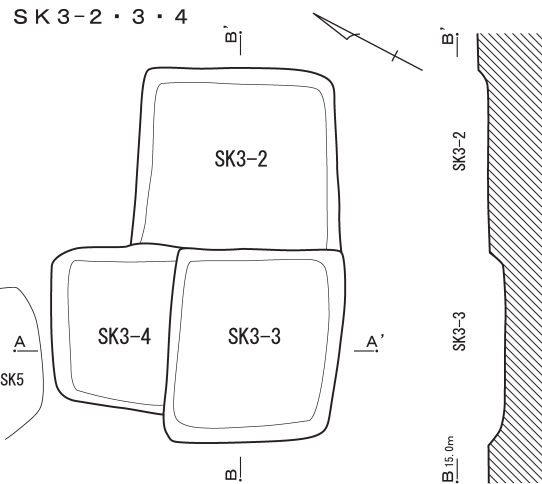
SK 2-19~27・33~40・42~44・46~50・52・53・55~57・59・61・62・66~68

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロック多量 | 21 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック・粘土ブロック多量 | 22 暗褐色土 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子微量 粘土粒子多量 | 23 黒褐色土 | ロームブロック・黒色スコリア多量 |
| 4 暗褐色土 | ロームブロック・粘土粒子多量 | 24 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子多量 |
| 5 暗褐色土 | 粘土粒子・多量 ローム粒子やや多量 | 25 褐色土 | ロームブロック多量 しまりやや強 |
| 6 暗褐色土 | ロームブロック多量 粘土ブロック少量 | 26 暗褐色土 | ロームブロック多量 粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色土 | ローム粒子少量 | 27 暗褐色土 | ローム粒子多量 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子多量 | 28 暗褐色土 | ロームブロック多量 |
| 9 暗褐色土 | ロームブロック多い | 29 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子少量 炭化物粒子微量 |
| 10 灰褐色土 | ロームブロック若干 粘土ブロック少量 | 30 暗褐色土 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 11 黒褐色土 | ロームブロック多い | 31 暗褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック・粘土粒子やや多量 |
| 12 黒褐色土 | ローム粒子・粘土ブロック少量 | 32 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 13 暗褐色土 | ロームブロック若干 粘土粒少量 | 33 暗褐色土 | ロームブロック少量 |
| 14 暗褐色土 | ロームブロック多量 粘土ブロック少量 | 34 暗褐色土 | ロームブロック微量 粘土粒子少量 |
| 15 暗褐色土 | ローム粒極少 | 35 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 16 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 36 暗褐色土 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 17 暗褐色土 | ローム粒多量 | 37 褐色土 | ロームブロックやや多量 |
| 18 暗褐色土 | ロームブロック多い、粘土粒少量 | 38 暗褐色土 | ロームブロック少量 粘土粒子微量 |
| 19 暗褐色土 | ロームブロックやや多量 | 39 暗褐色土 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 20 暗褐色土 | ロームブロックやや多量 粘土粒子少量 | 40 黒褐色土 | ローム粒子・粘土粒子多量 |

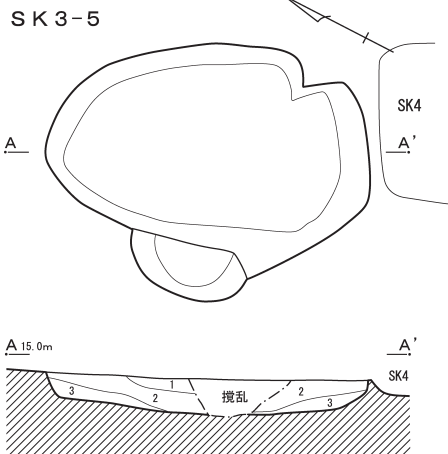
第161図 土壌 (10)



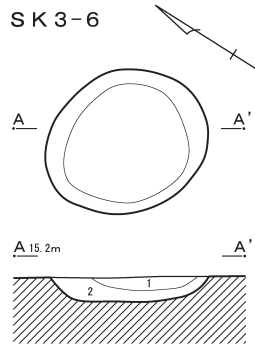
- SK 3-1
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック若干
 - 2 暗褐色土 ロームブロック微量
 - 3 黄褐色土 ロームブロック多量



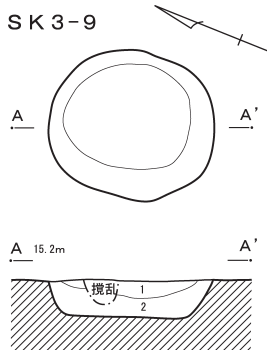
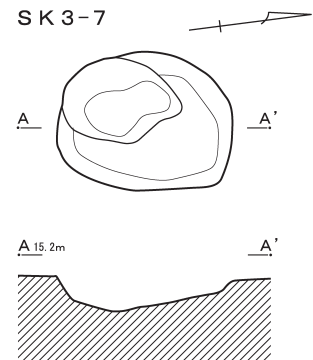
- SK 3-3
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量
- SK 3-4
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量



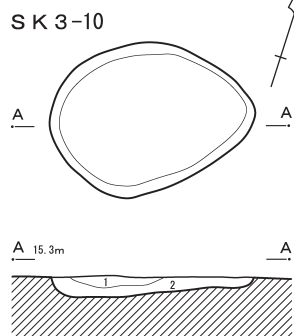
- SK 3-5
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 - 3 黄褐色土 ロームブロック多量



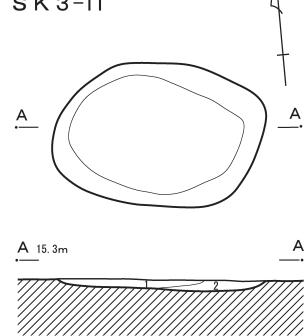
- SK 3-6
- 1 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 2 褐色土 炭化物粒子少量



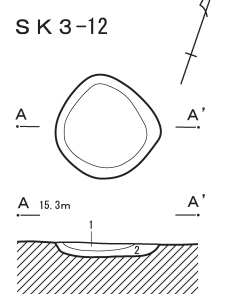
- SK 3-9
- 1 褐色土 ロームブロック少量
 - 2 褐色土 ロームブロック若干



- SK 3-10
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 2 褐色土 ロームブロック若干



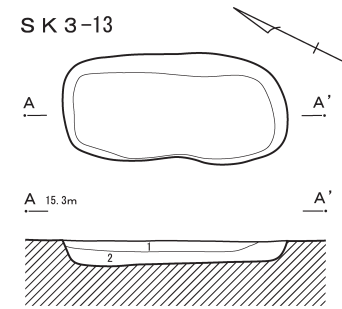
- SK 3-11
- 1 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 2 褐色土 ロームブロック若干



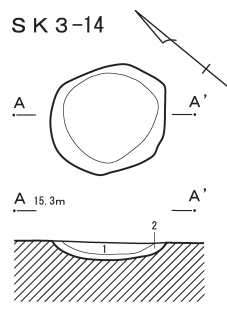
- SK 3-12
- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 - 2 褐色土 ローム粒子若干



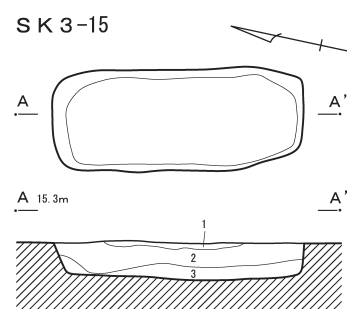
第162図 土壙 (11)



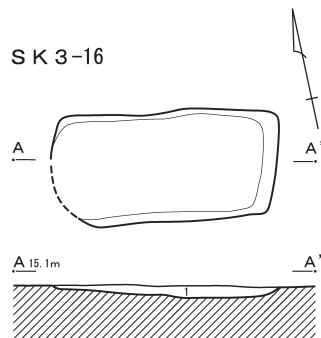
SK 3-13
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干
2 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子若干



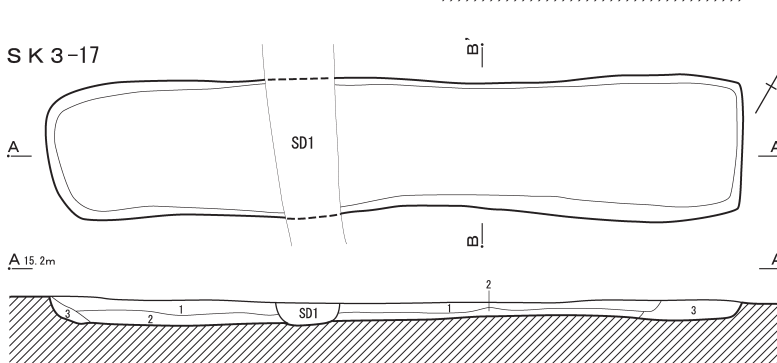
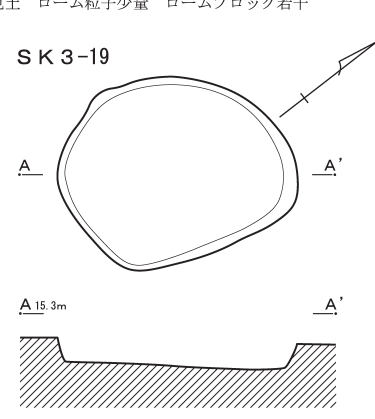
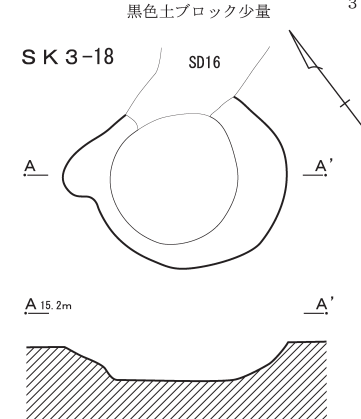
SK 3-14
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干
2 褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子若干 黒色土ブロック少量



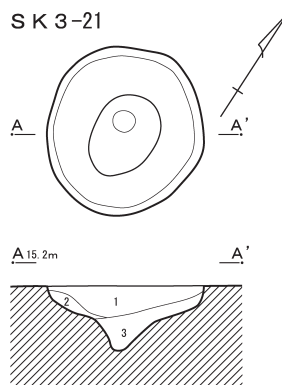
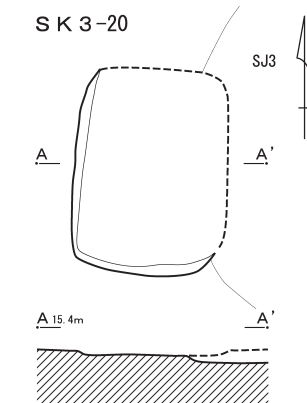
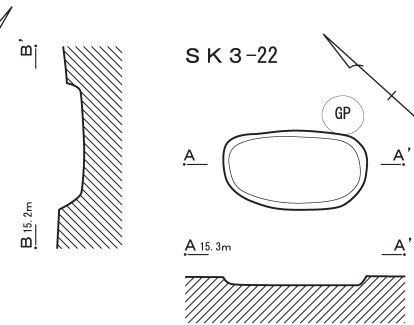
SK 3-15
1 黒褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック若干
2 黒褐色土 ローム粒子少量
3 黒褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック若干



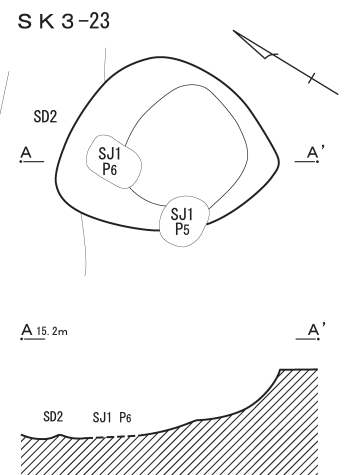
SK 3-16
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量



SK 3-17
1 黒褐色土 ローム粒子多量 炭化粒子少量
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
4 暗褐色土 ローム粒子



SK 3-21
1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物粒子少量
2 褐色土 ローム粒子多量
3 暗褐色土 ローム粒子多量



第163図 土壌 (12)

N-51°-Eを指す。

遺物は10の瀬戸・美濃系の小碗が出土した。

他に焙烙の破片が出土している。

第2-32号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-31号土壙と重複し、南側は調査区外となる。平面形は長方形を呈する。長軸は2.45m、短軸は現況で0.27m、深さは0.30mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-33号土壙 (第160・161図)

N6・B7、B8グリッドに位置する。東側を第2-35号土壙、南側を第2-27、61号土壙と重複するため規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.48m、深さは0.34mである。

遺物は出土しなかった。

第2-34号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-61、42、63号土壙に接している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.86m、短軸は0.42m、深さは0.32mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-35号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺は第2-33、44、61号土壙と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.30m、短軸は0.69m、深さは0.36mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-36号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北側は第2-37、42号土壙と切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は2.50m、深さは0.22mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-37号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-36、42、63号土壙と接している。平面形は長方形を呈

する。長軸は1.60m、短軸は0.50m、深さは0.30mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-38号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-39号土壙、南東側を第2-35号土壙に切られているため、規模は不明である。平面形は楕円形を呈すると思われる。深さは0.23mである。

遺物は出土しなかった。

第2-39号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南東側は第2-44号土壙に切られている。平面形は楕円形を呈すると思われる。短径は0.54m、深さは0.25mである。長軸方位はN-38°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-40号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南東側は第2-43号土壙と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で0.53m、短軸は0.30m、深さは0.22mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-42号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-37号土壙、南西側を第2-27、26号土壙に重複している。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.62m、深さは0.28mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-43号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-39号土壙、南東側を第2-44号土壙と重複している。平面形は長方形を呈すると思われるが規模は不明である。深さは0.22mである。

遺物は出土しなかった。

第2-44号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-35号土壙と重複する。周辺は第2-43、56、55号

土壌と接している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.72m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-45号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-56号土壌と重複している。平面形は長方形を呈すると思われる。短軸は0.60m、深さは0.29mである。

遺物は出土しなかった。

第2-46号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-57号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.62m、深さは0.33mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-47号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は2.28m、短径は0.48m、深さは0.20mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-48号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南側を第2-55号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。短軸は0.56m、深さは0.18mである。長軸方位はN-27°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-49号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-43、48、55号土壌と重複し、部分的検出であったため規模は不明である。深さは0.18mである。

遺物は出土しなかった。

第2-50号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-48号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.56m、短軸は0.48m、深さは0.25mである。長軸方位はN-40°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-51号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-55、64号土壌と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.10mである。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-52号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-55号土壌と一部重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.04m、短軸は0.48m、深さは0.16mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-53号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.48m、短軸は0.44m、深さは0.11mである。長軸方位はN-58°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-55号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-44号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.60m、短軸は0.58m、深さは0.30mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-56号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-62号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長径は1.52m、短径は0.58m、深さは0.29mである。長軸方位はN-57°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-57号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北側を第2-64号土壌、北東側を第2-59号土壌と重複しており、規模は不明である。深さは0.18mである。長軸方位はN-35°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-58号土壌 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-47、57号

土壙と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土しなかった。

第2-59号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北西側を第2-64号土壙と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.20m、短軸は0.60m、深さは0.17mである。長軸方位はN-37°-Wを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第2-60号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-47、46、57号土壙と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.16mである。

遺物は出土しなかった。

第2-61号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。周辺を第2-34、35、33号土壙と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.32mである。

遺物は出土しなかった。

第2-62号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-56号土壙と接している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.12m、短軸は0.44m、深さは0.30mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-63号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-45、37、56号土壙と重複し、部分的検出のため規模は不明である。深さは0.30mである。

遺物は出土しなかった。

第2-64号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。北東側を第2-4号溝跡、南西側を第2-56、65号土壙と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で2.24m、短軸は0.60m、深さは0.15mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-65号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-56号土壙と重複する。平面形は楕円形を呈すると思われる。短径は0.40m、深さは0.25mである。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-66号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-81号土壙、南側を第2-4号溝跡と重複しており、規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。深さは0.16mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-67号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。南西側を第2-59号土壙、北側を第2-64号土壙と重複しており、規模と平面形は不明である。深さは0.13mである。

遺物は出土しなかった。

第2-68号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-4号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.10m、短軸は0.72m、深さは0.17mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-69号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。第2-4号溝跡と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.66m、短径は0.52m、深さは0.17mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-80号土壙 (第160・161図)

N6・B8グリッドに位置する。西側を第2-66号土壙、南東側を第2-4号溝跡と重複し、規模は不明である。平面形は長方形を呈すると思われる。深さは0.08mである。

遺物は出土しなかった。

第2-81号土壌 (第160・161図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。西側を第2-4号溝跡と遺物重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.12m、短軸は0.72m、深さは0.30mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-157号土壌 (第160・161図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。第2-81、66号土壌と重複し、部分的な検出のため、規模、平面形状は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-1号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.88m、短径は1.30m、深さは0.57mである。長軸方位はN-0°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-2号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。第3-2・3・4号土壌の3基が重複している。南西側を第3-3・4号土壌に切られる。平面形は方形を呈すると思われる。現況の一辺の長さは1.62m、深さは0.08mである。長軸方位はN-53°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-3号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。一辺の長さは1.53m、深さは0.13mである。長軸方位はN-53°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-4号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。南東側を第3-3号土壌によって切られている。平面形は方形を呈すると思われる。現況の一辺の長さは1.35m、深さは0.13mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-5号土壌 (第162図)

N5・D10グリッドに位置する。平面形は楕円

形を呈する。長径は2.51m、短径は1.38m、深さは0.36mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-6号土壌 (第162図)

M5・J3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.33m、短径は1.11m、深さは0.18mである。長軸方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-7号土壌 (第162図)

M5・J2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、南側が深くなっている。長径は1.40m、短径は1.06m、深さは0.28mである。長軸方位はN-7°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-9号土壌 (第162図)

M5・I2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.29m、短径は1.16m、深さは0.30mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-10号土壌 (第162図)

M5・H2、H3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.60m、短径は1.28m、深さは0.16mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-11号土壌 (第162図)

M5・H2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.65m、短径は1.10m、深さは0.11mである。長軸方位はN-85°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-12号土壌 (第162図)

M5・G2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.83m、深さは0.12mである。

遺物は出土しなかった。

第3-13号土壌 (第163図)

M5・J2、J3、N5・A3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.72m、

短軸は0.84m、深さは0.21mである。長軸方位はN-26°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-14号土壌 (第163図)

N5・A2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.95m、深さは0.14mである。

遺物は出土しなかった。

第3-15号土壌 (第163図)

M5・J2、N5・A2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.99m、短軸は0.80m、深さは0.31mである。長軸方位はN-12°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-16号土壌 (第163図)

N5・C8、C9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.77m、短軸は0.86m、深さは0.10mである。長軸方位はN-78°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-17号土壌 (第163図)

N5・C9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は5.49m、短軸は1.00m、深さは0.22mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-18号土壌 (第163図)

M5・J2グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.76m、深さは0.31mである。

遺物は出土しなかった。

第3-19号土壌 (第163図)

M5・H3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.87m、短径は1.47m、深さは0.15mである。長軸方位はN-38°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-20号土壌 (第163図)

M5・H2グリッドに位置する。遺構の遺存状態は悪く、東側は立ち上がりが不鮮明であった。平面形は方形を呈すると思われる。現状での長軸

は1.45m、短軸は1.12m、深さは0.07mである。

遺物は出土しなかった。

第3-21号土壌 (第163図)

N5・C9グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、中央部が深くなっている。径は1.32m、深さは0.55mである。

遺物は出土しなかった。

第3-22号土壌 (第163図)

M5・I2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.14m、短径は0.60m、深さは0.07mである。長軸方位はN-41°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第3-23号土壌 (第163図)

M5・G2グリッドに位置する。北西部を第3-2号溝によって一部削平されている。平面形は楕円形を呈する。長径は1.75m、短径は1.37m、深さは0.42mである。長軸方位はN-31°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

(4) 井戸跡

第2-1号井戸跡 (第164図、第169図100~107)

N6・A6、A7グリッドに位置する。

平面形は隅丸方形を呈し、内側は楕円形に深くなる2段掘りである。外側は長軸は2.7m、短軸は2.5m、深さは2.8mである。中央部の楕円形は長径1.05m、短径0.85m、深さは2.8mまで掘り下げたが安全対策のため、底面まで調査しなかった。断面の観察から、中央に井戸枠を嵌め、埋め戻したと思われる。

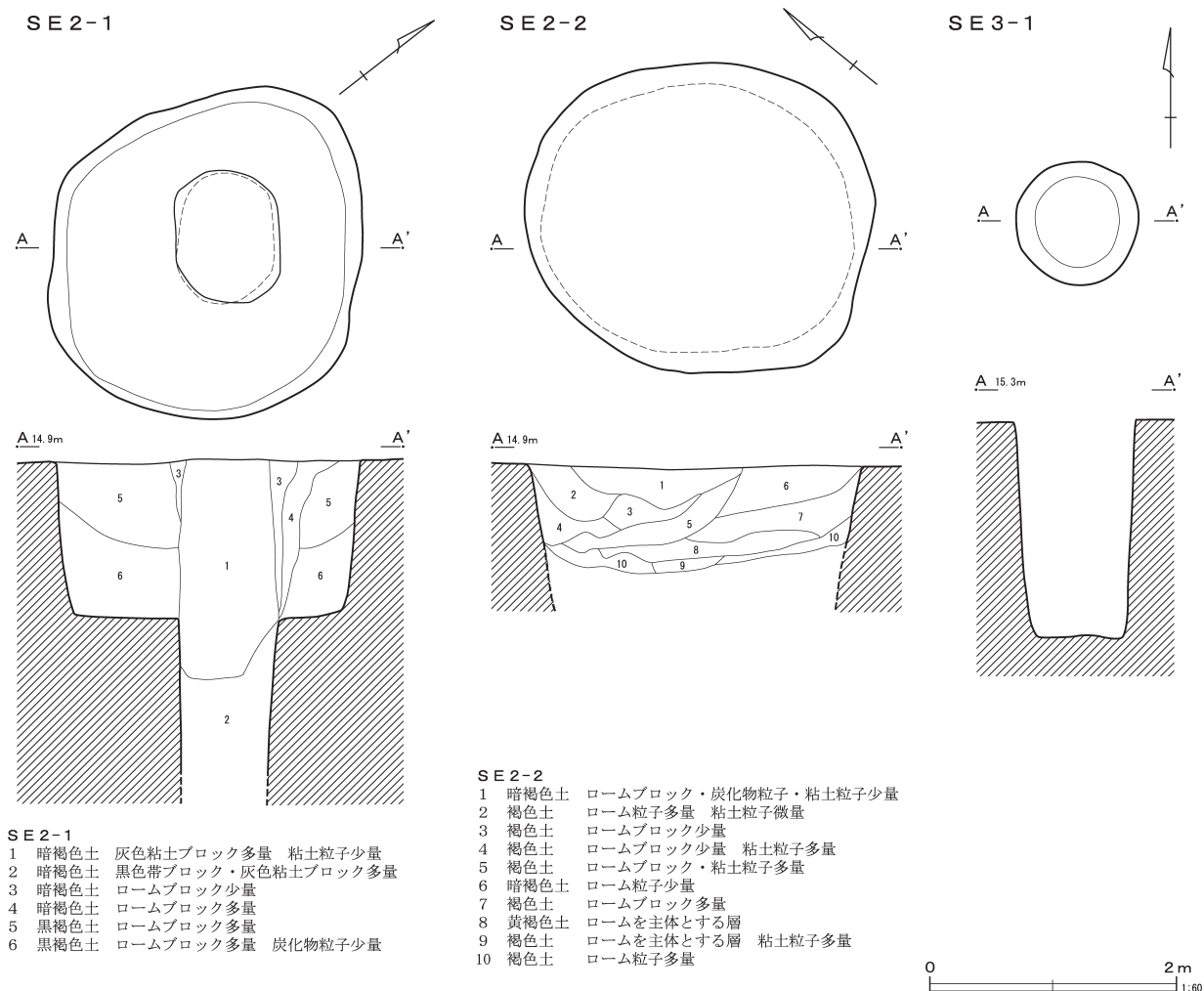
遺物は、100~107である。瀬戸・美濃系、肥前系。京・信楽系の碗、小鉢、皿と播鉢が出土した。

第2-2号井戸跡 (第164図)

N6・A6グリッドに位置する。

平面形は楕円形を呈する。長径は2.65m、短径は2.55mである。深さは1.20mまで調査したが、安全のため底面はおこなわなかった。

遺物は出土しなかった。



第164図 井戸跡

第3-1号井戸跡 (第164図)

M5・H1グリッドに位置する。

平面形は円形を呈する。径は1.00m、深さは1.77mである。

遺物は出土しなかった。

(5) 溝跡

第2地点で検出された溝跡は23条、第3地点で検出された溝跡は16条、計39条である。両地点の溝跡については、以下の特徴をもつ。

- ① 南西から北東へ走るもの (N-23°-E~N-63°-E) と南東から北西に走るもの (N-8°-W~N-60°-E) が大多数を占める。
- ② 比較的重複するものが少ない。

③ 直線的ではなく、湾曲・蛇行する例がある (第2-15号溝跡・第3-5~7号溝跡)。

基本的に①・②は、家敷地または耕作地を区画するための溝、③は根切りのための溝と考えられる。しかし、直線的な溝の中に、根切り溝も存在すると思われる。

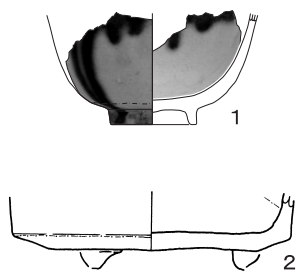
第2-1号溝跡 (第173図・第177図1)

N6・E7、E8、N6・F8グリッドに位置する。

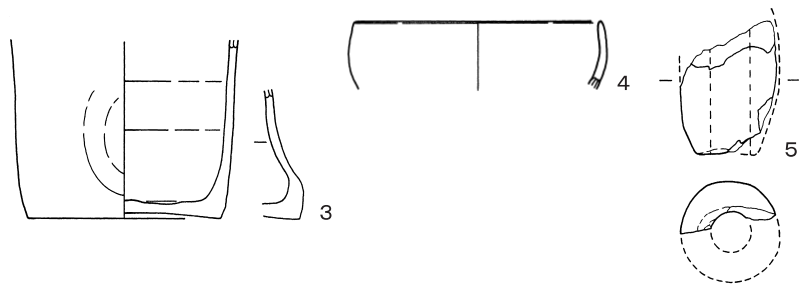
南側と東側は調査区外に延びる。2条から成るが、土層断面図の観察から、掘り返しによるものと思われる。

第2-2号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか不明である。

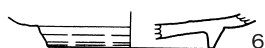
SK 2-15



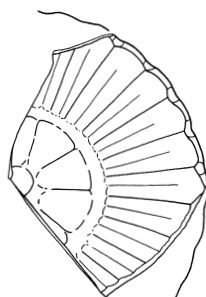
SK 2-17



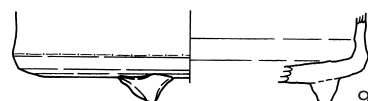
SK 2-19



SK 2-24



SK 2-26



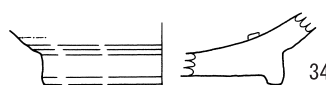
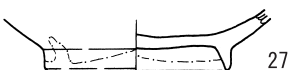
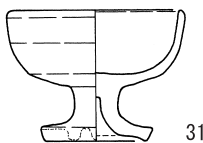
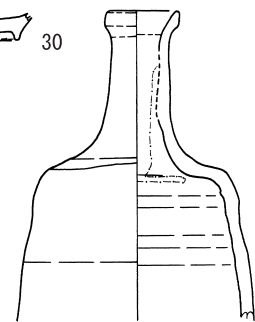
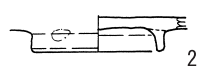
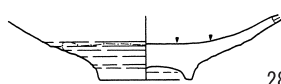
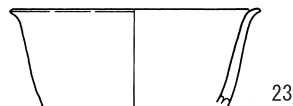
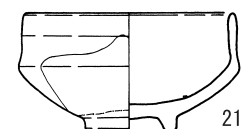
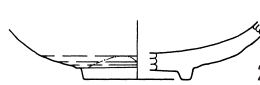
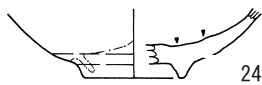
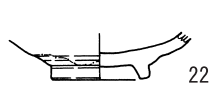
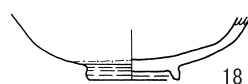
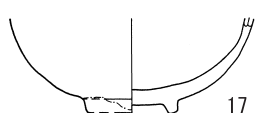
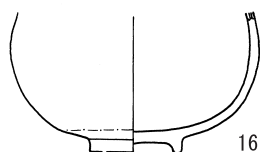
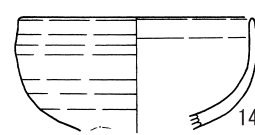
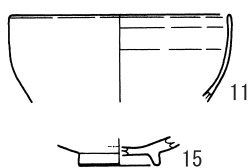
SK 2-20



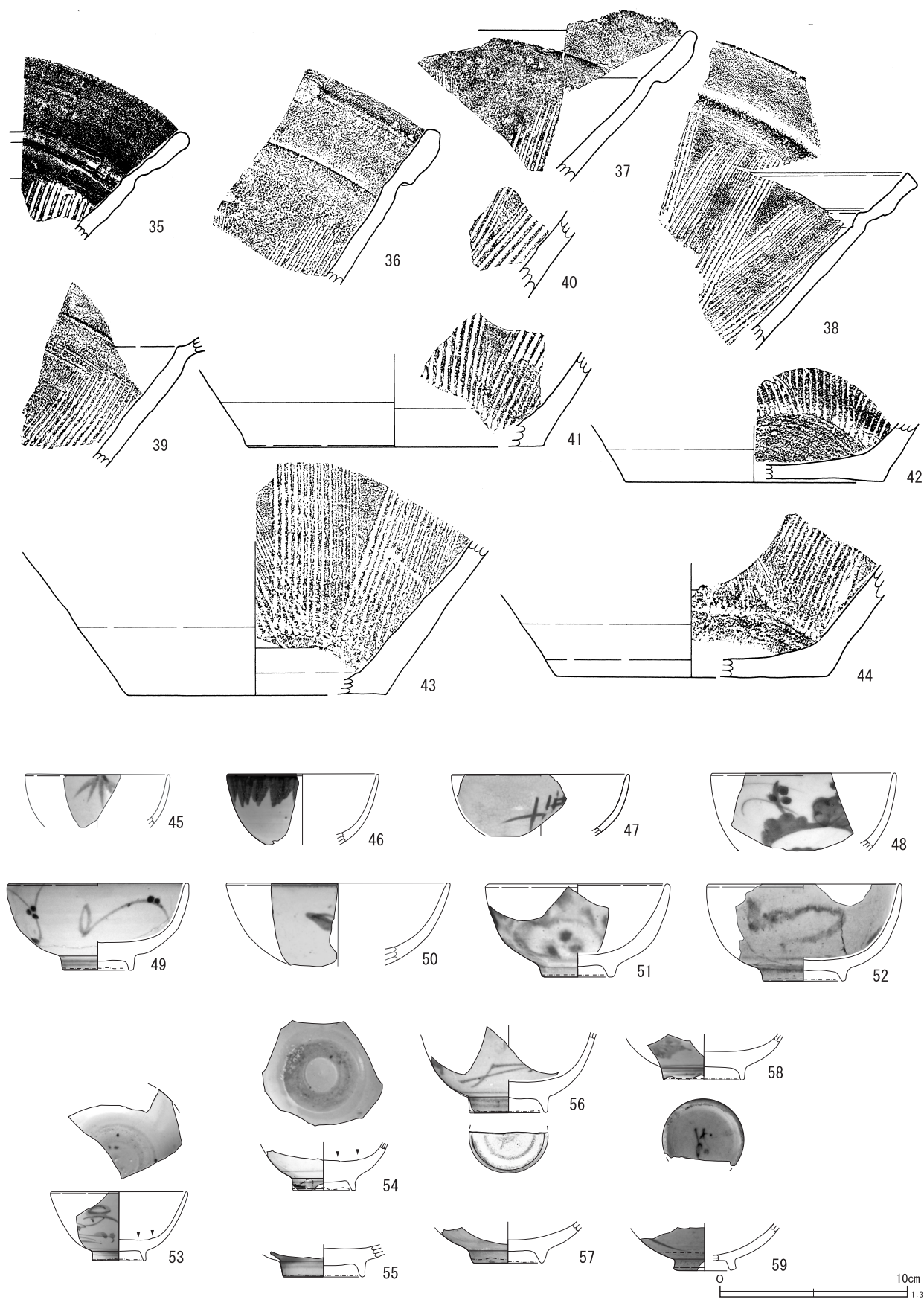
SK 2-31



SK 2-71

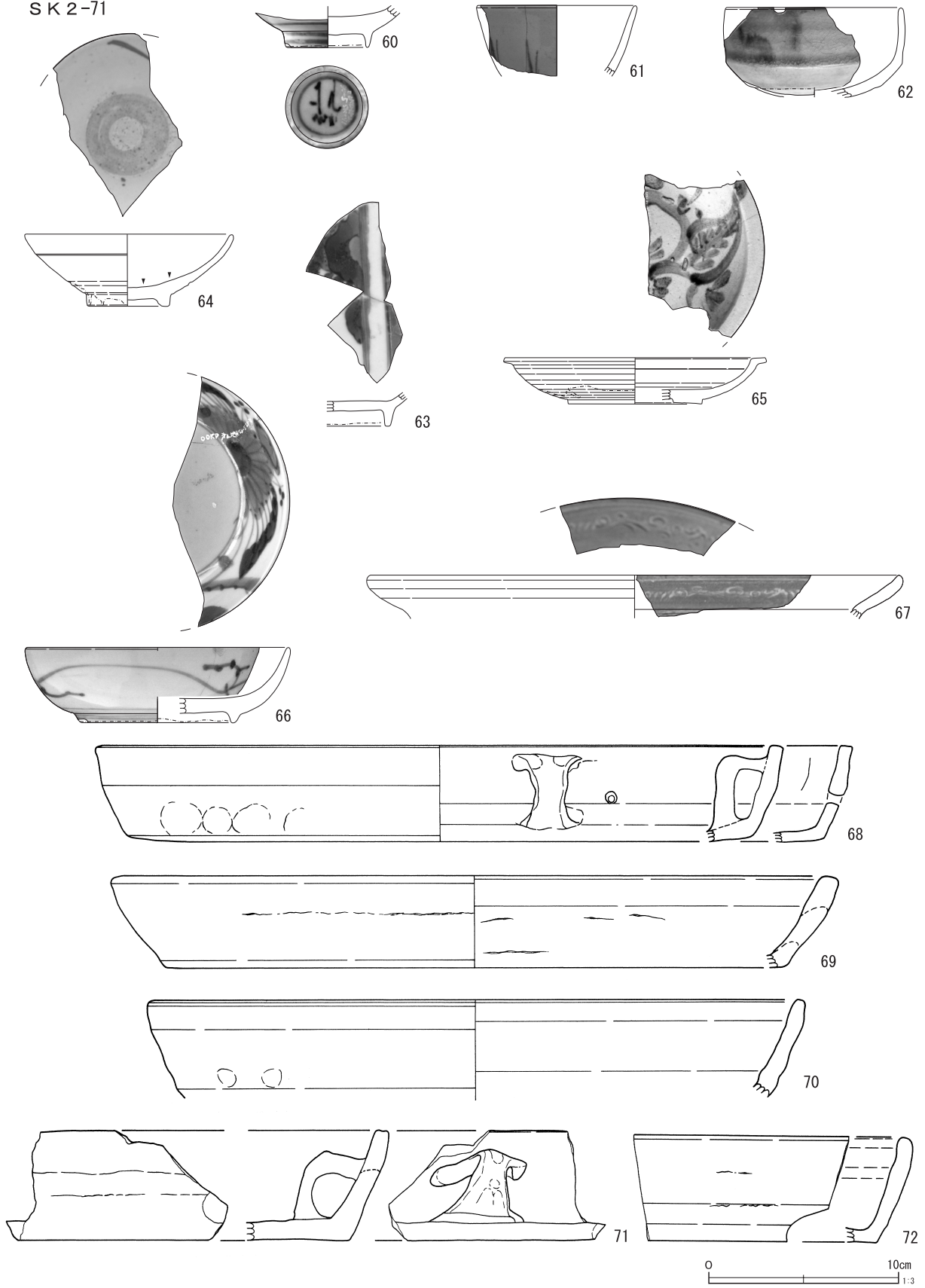


第165図 土壙出土遺物 (1)



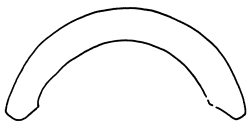
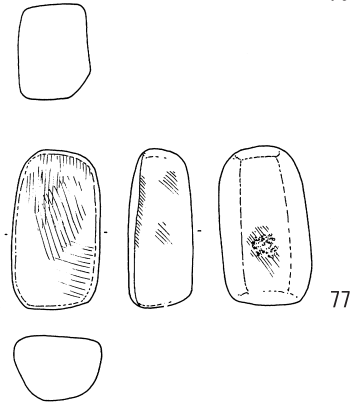
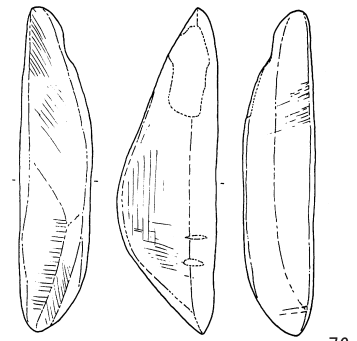
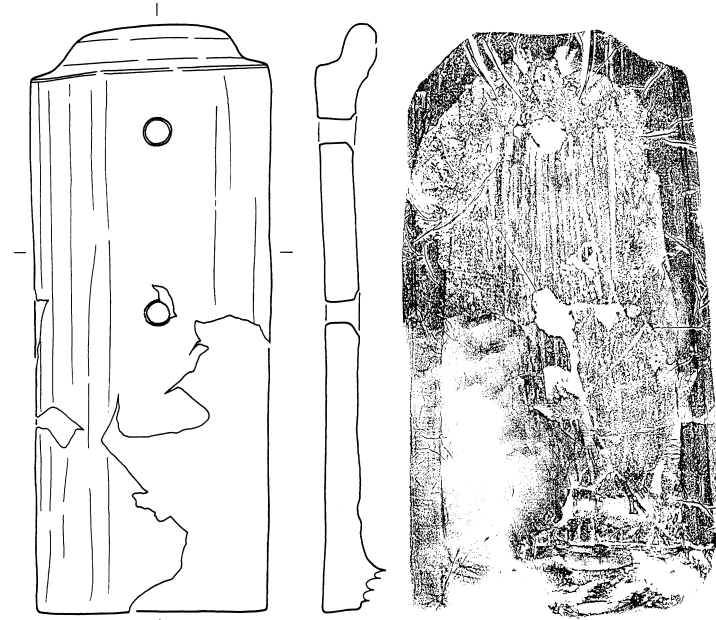
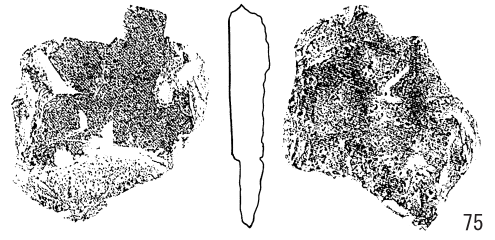
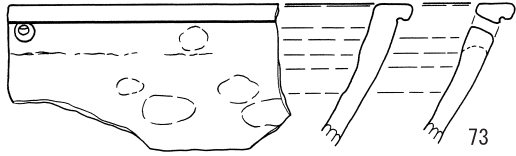
第166图 土壙出土遺物(2)

SK 2-71



第167図 土壙出土遺物(3)

SK 2-71

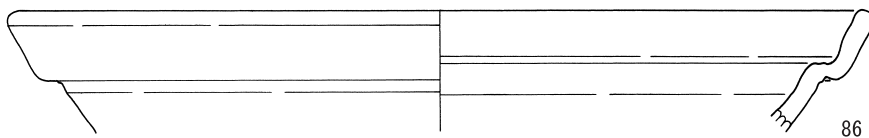
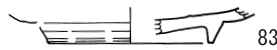
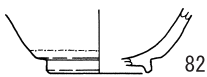
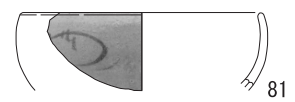
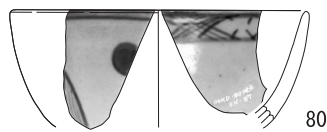
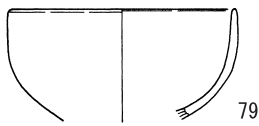


0 10cm
1:4

SK 2-85



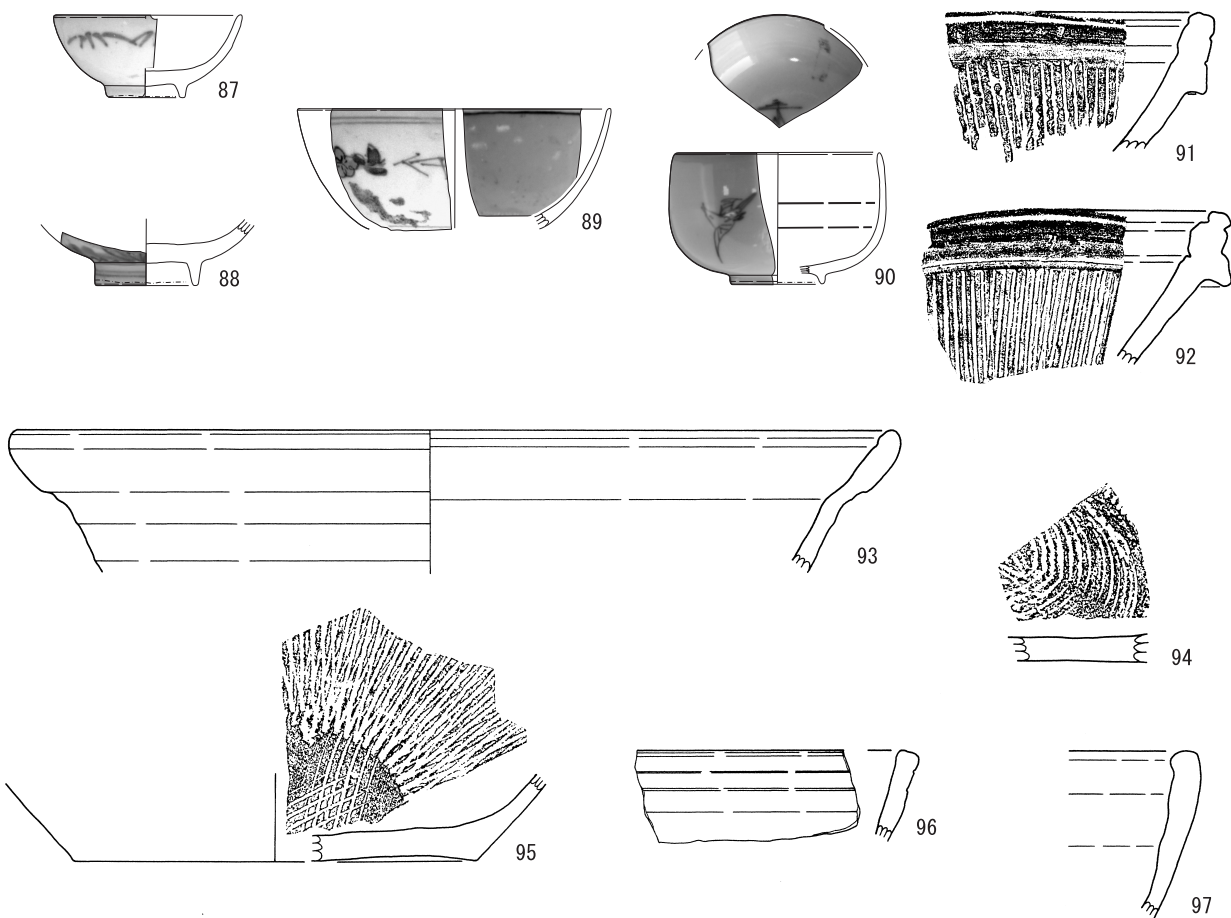
SK 2-87



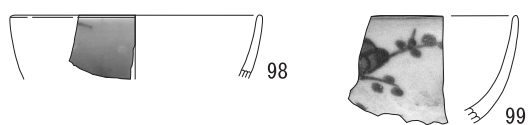
0 10cm
1:3

第168図 土壙出土遺物(4)

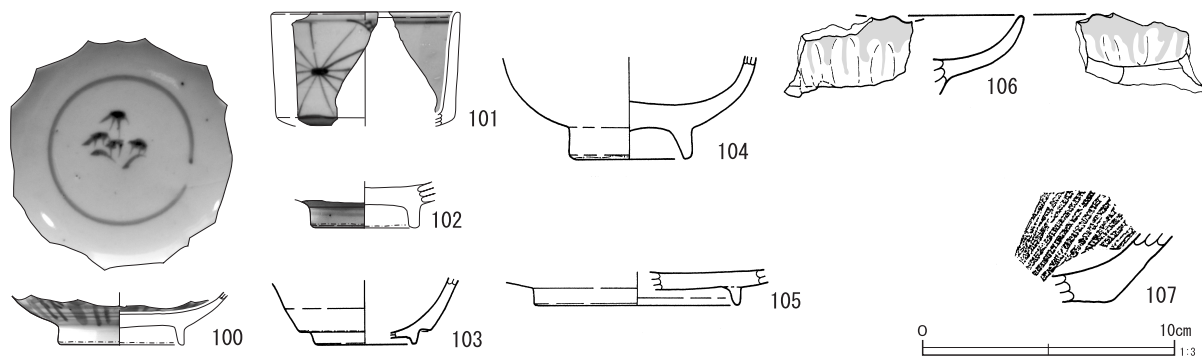
S K 2-90



S K 2-91



S E 2-1



第169図 土壇・井戸跡出土遺物

第14表 土壇・井戸跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	SK 2-15	陶器	碗	信楽	15		3.4	[4.5]	灰黄 緻密	良好	灰釉 銅緑釉	轆轤	削り出し高台		緑釉流し掛け 18C
2	SK 2-15	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5		3.0	[10.9]	灰白 緻密	良好	鉄釉	轆轤	三足		18C前か
3	SK 2-15	陶器か	徳利	瀬戸・美濃	10		7.6	[7.0]	灰 緻密	良好	鉄釉	轆轤			鉄釉 ベこかん徳利 19C
4	SK 2-15	陶器	碗	瀬戸・美濃	10	(9.8)		[2.5]	灰白	良好	灰釉	轆轤			胎土中に空隙 外面に鉄絵
5	SK 2-15	土器	土錘		25	最大径(3.7cm)最大高 (5.4cm)孔径(1.6cm)					灰褐	普通			
6	SK 2-19	陶器	皿	瀬戸・美濃	10		(6.6)	[1.4]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み高台跡 18C前～中
7	SK 2-20	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			[2.6]	灰白	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み高台跡 18C
8	SK 2-24	陶器	皿	瀬戸・美濃	30	(14.8)	(7.8)	3.3	灰黄 緻密	良好	灰釉	轆轤 型打	削り出し高台		見込み目跡 32弁か 菊皿 17C前半
9	SK 2-26	陶器	香炉	瀬戸・美濃	10			[3.6]	灰白	良好	灰釉	轆轤			貫入多 18C初
10	SK 2-31	陶器	小坏	瀬戸・美濃	10	(7.6)		[2.4]	灰白	良好	鉄釉	轆轤			見込み目跡 17C後
11	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(8.6)		[3.3]	灰白	良好	灰釉	轆轤	貫入多		18C
12	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	50	(9.1)	3.5	5.3	灰白	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多	灰釉 緑釉 笹文	緑釉の大部分剥落 畳付砂粒付着 18C後半
13	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	30	(9.4)		[4.6]	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	貫入多		19Cか
14	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(9.1)		[4.3]	灰 緻密	良好	灰釉	轆轤	轆轤目比較的 顕著		18Cか
15	SK 2-71	陶器	碗	京・信楽か	5		(3.1)	[1.1]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C
16	SK 2-71	陶器	碗	京・信楽	30		3.6	[5.5]	灰白 緻密	普通	鉄釉 透明釉	轆轤	削り出し高台		19Cか
17	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	85		3.5	[3.7]	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台		見込み擦痕顕著 18Cか
18	SK 2-71	陶器	碗	京・信楽	80		3.6	[2.5]	灰白 緻密	普通	灰釉	轆轤	付け高台か		二次的被熱か 18Cか
19	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃か	85		4.2	[1.6]	灰白 緻密	良好	鉄釉 銅緑釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		銚茶碗か 見込み砂目跡(1ヶ所) 19C
20	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	80		4.8	[2.2]	灰 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		二次的被熱 17C
21	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	60	(8.1)	3.6	4.6	浅黄 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多	鉄絵	せんじ 見込み円錐ピン跡3ヶ所 18C後～19C初
22	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	70		3.0	[1.8]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C
23	SK 2-71	陶器	碗	京・信楽か	10	(9.9)		[3.9]	灰白	普通	灰釉	轆轤	貫入多		貫入多 19Cか
24	SK 2-71	磁器	碗	肥前	30		(4.0)	[2.5]	灰白 緻密	良好	白磁	轆轤	削り出し高台	見込み蛇目釉 剥ぎ	17C後～18C前か
25	SK 2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	5		(4.3)	[2.3]	灰白 砂粒	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		高台に砂粒付着 見込みに銘か 染付あり 18C～19C
26	SK 2-71	陶器	皿	肥前	5	(11.4)		[2.5]	灰白 緻密	良好	銅緑釉 透明釉	轆轤	外貫入多		17C末～18C初
27	SK 2-71	陶器	皿	瀬戸・美濃	40		(7.0)	[2.0]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C
28	SK 2-71	磁器	皿	肥前	70		3.7	[2.5]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 高台内砂粒 見込み蛇目釉 剥ぎ		釉剥ぎ部分に高台跡と砂粒 18Cか
29	SK 2-71	陶器	皿	瀬戸・美濃	90		4.8	[1.4]	灰白 緻密	普通	灰釉	轆轤	付け高台 内 面貫入多		17C中葉か
30	SK 2-71	磁器	坏	肥前	10		2.7	[1.1]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台内砂粒付着 19Cか
31	SK 2-71	陶器	仏飯具	瀬戸・美濃	65	(6.8)	3.9	[5.1]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	貫入多		18後～19中葉
32	SK 2-71	陶器	瓶か	瀬戸・美濃			(9.8)	[3.5]	鈍い黄橙 緻密	良好	鉄釉	轆轤			
33	SK 2-71	陶器	徳利	瀬戸・美濃	30	2.6		[12.2]	灰白 緻密	良好	鉄釉	轆轤			18～19C
34	SK 2-71	陶器	鉢	瀬戸・美濃	50		(9.4)	[2.7]	浅黄	良好	鉄釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		見込み円錐ピン跡1ヶ所 片口 鉢か 18C中葉
35	SK 2-71	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	10			(5.8)	鈍い黄橙	普通	鉄釉	轆轤			卸目10本/条 19C前
36	SK 2-71	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			(8.0)	灰褐 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤			卸目11本/条 卸目の磨滅は見 られない 18後～19前
37	SK 2-71	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	10			(8.0)	灰黄	普通	鉄釉	轆轤			卸目の磨滅は見られない 18C 後～19C前

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
38	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	10			[9.5]	褐灰 砂粒	普通	鉄釉	轆轤			卸目15本/条 左回転で施文 卸目の磨減少 18C後～19C前 か
39	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	5			[7.2]	灰黄 砂粒	普通	鉄釉	轆轤か			卸目14本/条 部分的に卸目磨 減 18後～19前
40	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	5			[4.7]	灰褐 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤か			部分的に卸目剥離
41	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	10		(15.6)	[5.0]	灰黄 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤			見込み玉子トナ跡1カ所
42	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	30		(13.8)	[3.0]	灰黄 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤	底部回転糸切 り離し 焼跡 1カ所		卸目10～11本/条 左回転で施 文 卸目内のみ釉残存 19Cか
43	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	30		(13.8)	[8.2]	灰黄	普通	鉄釉	轆轤	底部回転糸切 り離し		卸目13本/条 見込み玉子トナ 跡1カ所 卸目磨減 18C
44	SK2-71	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	20		(14.4)	[8.0]	灰黄 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤	底部回転糸切 り離し		卸目16本/条か 左回転で施文 卸目磨減 19Cか
45	SK2-71	磁器	碗	肥前	5	(7.6)		[2.9]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		竹葉文	18C前～中か
46	SK2-71	磁器	碗	肥前	30	(8.3)		[3.8]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		雨降り文	18C
47	SK2-71	陶器	碗	京・信楽か	20	(9.4)		[3.4]	灰白微砂粒	良好	灰釉	轆轤	貫入多	鉄絵	18C後か
48	SK2-71	磁器	碗	肥前	10	(9.8)		[4.2]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		松/梅文	18C前～中
49	SK2-71	磁器	碗	肥前	55	(9.6)	(7.8)	4.7	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 轆轤目顕著	草花文	高台内砂粒付着 高台内銘 18 C前
50	SK2-71	磁器	碗	肥前	5	(12.0)		[4.5]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		高台際一重 圏線	18C前～中
51	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	60	(9.7)	3.8	5.0	褐灰	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台 貫入多	草花文	18C後～19C中葉
52	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	50	(10.4)	4.4	5.2	灰黄	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台 貫入多	草花文か	高台内ヒビ割れ 18C後～19C 中葉
53	SK2-71	磁器	碗	肥前	20	(10.8)	(4.2)	5.5	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 見込み蛇目 釉剥ぎ	草花文か	くらわんか碗 17C末～18C中 釉剥ぎ部分と畳付に砂粒付着
54	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(3.3)	[2.6]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 見込み蛇目 釉剥ぎ	高台脇一重 圏線 高台際二 重圏線	17C後～18C前 釉剥ぎ部分砂 粒付着
55	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(4.2)	[1.7]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		畳付砂粒付着 18C
56	SK2-71	磁器	碗	肥前	25		(4.2)	[4.4]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	折枝文か	高台内禍「福」二次的被熱 18 C前～中
57	SK2-71	陶器	碗	瀬戸・美濃	10			[3.6]	灰褐微砂粒	普通	透明釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C後～19C中葉
58	SK2-71	磁器	碗	肥前	60		(4.4)	[2.4]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	蕨文	くらわんか碗 高台内銘 高台 砂粒付着 18C前
59	SK2-71	陶器	碗	京・信楽	5		(3.4)	[2.5]	灰白微砂粒	普通	灰釉	轆轤	削り出し高台	鉄絵	18C後
60	SK2-71	磁器	碗	肥前	80		(4.4)	[202]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台内崩れ「大明年製」か
61	SK2-71	陶器	碗	京・信楽	10	(8.6)		[3.8]	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	貫入多	鉄絵	小杉碗 19C前半
62	SK2-71	磁器	碗	瀬戸・美濃	30	(9.2)		[4.9]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	貫入多	呉須・鉄釉流 し掛け	せんじ 18C中～後
63	SK2-71	磁器	皿	肥前				[1.7]	灰白 緻密	良好	灰釉		付け高台か	高台際二重 圏線	17C中～後 角皿
64	SK2-71	磁器	皿	肥前	25	(11.0)	4.4	4.9	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 見込み蛇目 釉剥ぎ	鉄絵	18C中～後
65	SK2-71	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(27.6)	(14.0)	4.6	灰白	良好	灰釉 呉須 鉄釉		石皿		18C末～19C
66	SK2-71	磁器	皿	肥前	30	(14.0)	(8.0)	4.0	白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	唐草文・草花 文	外面見込み目跡 唐草文高台内 一重圏線 草花文二重圏線 17 C末～18C初
67	SK2-71	陶器	鉢	肥前 唐津	5	(28.0)		[2.3]	鈍い赤褐 緻密	良好	透明釉 白化粧土	轆轤			三島 17C後～18C前
68	SK2-71	土器	焙烙		10	(36.0)	(33.0)	5.0	褐灰	普通					外面に煤付着 孔径0.4cm穿孔 1カ所
69	SK2-71	土器	焙烙		10	(36.6)	(32.1)	4.8	褐灰	普通					外面に煤付着
70	SK2-71	土器	焙烙		10			[5.0]	褐灰	普通					外面に煤付着 一部指頭圧痕
71	SK2-71	土器	焙烙		5			[5.8]	褐	普通					外面に煤付着
72	SK2-71	土器	焙烙		10			[5.4]	黒褐 緻密	普通					外面に煤付着

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
73	SK 2-71	土器	焙烙		5			[5.6]	黒褐	普通					外面に煤付着 指頭圧痕多 孔1ヶ
74	SK 2-71	瓦	丸瓦		70	長さ31.4cm 幅2.7cm 高35.9cm 厚さ1.7cm 孔径1.8cm 玉縁径2.5cm			やや砂質	普通					
75	SK 2-71	石製品	板碑			縦9.5×横7.5	[8.7]		片岩 暗緑						
76	SK 2-71	石製品	砥石			長さ12.8cm 幅2.9cm 厚さ3.8cm									重さ131.2g 凝灰岩
77	SK 2-71	石製品	不明			長さ6.2cm 幅3.6cm 厚さ2.6cm									重さ86.8g 安山岩
78	SK 2-85	土器	かわらけ		5			[0.7]	橙 緻密	普通		轆轤	回転糸切り		底部穿孔1ヶ所 孔径0.2cm
79	SK 2-87	陶器	碗		10	(9.0)		[4.3]	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤			貫入多 18C
80	SK 2-87	磁器	碗	肥前	5				灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		外口縁一重圈線	18C前～中
81	SK 2-87	磁器	碗	京・信楽	5	(9.5)		[3.1]	灰白	良好	灰釉	轆轤		鉄絵	貫入多 18C
82	SK 2-87	陶器	碗	瀬戸・美濃	15		(4.0)	(2.5)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		貫入多
83	SK 2-87	陶器	皿	瀬戸・美濃	10		(5.6)	(2.1)	灰黄	普通	鉄灰釉	轆轤			17C
84	SK 2-87	磁器	紅皿	瀬戸・美濃	25	(4.0)		[1.3]	灰白	良好		型打			白磁 貝形 19C
85	SK 2-87	陶器	香炉	瀬戸・美濃	40	(6.2)	4.3	[4.3]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			三足の内1ヶ所が部分的に遺存 砂粒微量 19C
86	SK 2-87	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5	(33.0)		[4.7]	浅黄 砂粒	良好	鉄釉	轆轤			18C末
87	SK 2-90	磁器	小坏	肥前	95	7.4	3.0	3.3	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	草篋文	凹あり 畳付砂粒付着 18C
88	SK 2-90	磁器	碗	肥前	25		4.0	[2.4]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台砂粒付着多 17C後か
89	SK 2-90	磁器	碗	肥前	10	(12.6)		[4.9]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			18C前～中
90	SK 2-90	磁器	碗	肥前か	25	(8.2)	(3.4)	5.3	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		18C末以降
91	SK 2-90	陶器	播鉢	堺か	5			[5.3]	明 赤褐	良好	焼き締め				卸目7本/条 卸目は明瞭で摩減少 18C中～後
92	SK 2-90	陶器	播鉢	堺か	5			[5.0]	鈍い赤褐	良好	焼き締め	轆轤か			卸目7本/条 卸目は明瞭で摩減少 18C中～後
93	SK 2-90	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5	(36.0)		[5.7]	鈍い黄橙	普通	鉄釉	轆轤			19C前
94	SK 2-90	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			[1.1]	灰黄 微砂粒	普通	錆釉	轆轤			18C
95	SK 2-90	陶器	播鉢	堺	20		(16.0)	[3.4]	鈍い 赤褐	良好	焼き締め	輪積み	見込・底部焼台跡		卸目7本/条左回転で施文 卸目鮮明 18Cか
96	SK 2-90	土器	焙烙		5			[3.4]	鈍い 褐	普通		轆轤			砂粒少
97	SK 2-90	土器	焙烙か		5			[6.6]	橙	普通		輪積か			
98	SK 2-91	磁器	碗	肥前	5	(10.1)		[2.5]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		草花文	18C前～中か
99	SK 2-91	磁器	碗	肥前	10			[4.3]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		草花文	18C前～中
100	SE 2-1	磁器	碗	瀬戸・美濃	90		5.0	[2.0]	灰白	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台		19C前半
101	SE 2-1	磁器	碗	瀬戸・美濃か	5	(7.3)		[4.6]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		氷裂地菊花繋ぎ文	筒形煎茶碗 19C前～中
102	SE 2-1	磁器	碗	肥前系	50		(4.0)	[1.6]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		畳付砂粒付着 18C代か
103	SE 2-1	陶器	碗	京・信楽	20		(4.0)	[2.5]	灰白	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C末～19C初
104	SE 2-1	陶器	鉢	京・信楽			4.4	[4.0]	浅黄 緻密	普通	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		貫入多 17C末～18C初か
105	SE 2-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	5		(8.0)	[1.9]	灰白 緻密	良好	長石釉	轆轤	付け高台 貫入多		見込み円錐ピン跡 二次的被熱 17C
106	SE 2-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	10			[3.1]	浅黄	良好	灰釉・銅緑釉	轆轤 型打ち	付高台か		菊皿 銅緑釉流し掛け 17C後半
107	SE 2-1	陶器	播鉢		5			[3.7]	緻密砂粒 やや多	普通	焼締め	輪積みか			砂粒やや多 卸目6本/条か 卸目やや磨耗

検出し得た長さは19.4m、幅は1.7～2.8m、深さは0.4mを測り、方位はN-50°-Eを指す。区画溝の可能性が高く、位置関係から第2-3号溝跡と同一の溝跡と考えられる。

遺物は、焙烙の小破片が1点出土した。

第2-2号溝跡 (第173図)

N6・E6、E7、F6グリッドに位置する。東西共に調査区外に続く。第8-147号土壌と重複しているが、新旧関係は不明である。また、第2-1号溝跡とセット関係か、新旧関係等は不明で

ある。

検出し得た長さは7.8m、幅は2.3～2.8m、深さは0.4mを測る。方位は概ねN-50°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状である。断面形は皿状であるが、断面形状から掘り返しの結果と考えられる。

第2-3号溝跡または、第2-4号溝跡と共に、第2-1号掘立柱建物跡を取り込んだ、家敷地の区画溝の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第2-3号溝跡 (第170図17～22)

N6・B6、C6、C7グリッドに位置する。

SK2-90、106～108、110、112、122、および多数のピットと重複するが、新旧関係については不明である。南側は調査区外に延びる。北側については、攪乱の先には認められない。

検出された長さは12.0m、幅は1.6～2.0m、深さは0.32mを測り、方位は概ねN-28°-Wを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状で、断面形は底面が平坦な逆台形である。

位置関係から、第2-1号溝跡と同一の溝跡の可能性が考えられる。本遺構の性格としては、第2-1号掘立柱建物跡を擁する、家敷地に伴う区画溝であると推定される。

遺物は出土しなかった。

第2-4号溝跡 (第170・171図、第177・178図)

M6・I8、I9、J9、J10、M7・I1、I2、J1、J2、N6・A9、A10、A11、B8、B9グリッドに位置する。

3本の溝跡を合わせて、第2-4号溝跡とした。第2-13・14号溝跡と共に、区画溝として機能していたと推定される。その際に、第2-5・9～11号溝跡との関連性や新旧関係は不明である。また、数多くの遺構と重複しているが、これら遺構群との新旧関係は不明である。

南東から北西に走る2本の溝跡の内、西側の溝跡は、第2-3号柵列跡と重複していることから、第2-1号掘立柱建物跡を取り込む家敷地とは別

時期に機能していたと考えられる。

3条の溝跡について、個別に記述していく。

南東から北西に走る2本の溝跡の内、西側の溝跡は、長さは19.6m、幅は1.7～2.9m、深さは0.24mを測り、方位は概ねN-35°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状で、断面は皿状である。第2-15号溝跡とした溝跡との関連は不明である。

調査時点において、別遺構と判断して遺構番号を振ったが、同一遺構の可能性は否定できない。

東側の溝跡は、北側部分は第2-5号溝跡と重複している。南側部分は、調査区外に延びる。長さは30.7m、幅は1.8～2.8m、深さは0.28mを測り、方位は概ねN-38°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状で、断面は皿状である。第2-15号溝跡と同一遺構の可能性は否定できない。

北東へ走る溝跡は、東側は調査区外に延びるが、西側では土壌群と接している。溝跡は土壌群で途絶えるのか、北側に曲がるのか不明であるが、土壌群の西側には、東西に走る溝跡が確認されず、後者の可能性が高いと思われる。

遺物は25点出土した。瀬戸・美濃系の遺物はいずれも陶器で、碗・皿・播鉢である。肥前系はいずれも磁器で小坏と碗である。その他の産地では堺や丹波と思われる播鉢などがある。煙管が、部分的ではあるが出土しているのが、特徴の1つとして挙げられる。

第2-5号溝跡 (第170・171図、第178図27～37)

M6・H8、I7、I8、J6、J7、J8、N6・A6、A7グリッドに位置する。

西側は調査区外に延びる。東側については、この地点で終わっているのか、第2-14号溝跡と関連するのか不明である。他遺構との関連や新旧関係についても不明であるが、位置関係や方位からみて第2-1号掘立柱建物跡や第1～5号柵列跡との関連性が高いと考えられる。第2-5号溝跡と判断した範囲の規模は、長さ34.5m、幅2.2～2.6m、深さ1.12mを測り、方位はN-39°-Eを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状で、断面形は葉研堀状を呈する。

出土した遺物は10点である。陶器の碗は瀬戸・美濃系、磁器の碗は肥前系である。サルをかたどった土人形(36)が出土したが、頭部は検出されなかった。

第2-6号溝跡(第173図)

M6・G4、G5、G6グリッドに位置する。

東側が一部分攪乱を受けているが、東西とも調査区外に延びる。他遺構との重複関係はない。

全長16.3m、幅1.5~2.3m、深さ0.3mを測り、方位はN-68°-Eを指す。

溝の性格及び機能は不明である。

平面形は、幅にやや振幅があるがほぼ直線状で、断面形は段を有する皿状である。断面形からみて、掘り返しが行われた結果と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第2-7号溝跡(第170・171図、第178図38~43)

M6・H6、H7、I5、I6グリッドに位置する。

第2-7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びる。東側は南に向けてほぼ直角に屈曲している。

検出された範囲内において、直線部分の長さは19.7m、屈曲部分も含めた全長は23.0m、幅1.7~2.7m、深さ0.24mを測る。直線部分の方位は概ねN-63°-Eを指す。

平面形は直線状、断面形は段を有する皿状である。断面形から観て、掘り返しが行われた結果と考えられる。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系の皿と思われる陶器が2点出土した(38・39)。

第2-8号溝跡(第170図)

M6・I6、I7グリッドに位置する。

第2-7・9号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。両端部共に他遺構と重複している。

検出された範囲内において、全長7.2m、幅0.5~0.8m、深さ0.1mを測る。方位は概ねN-60°-Wを指す。平面形はやや湾曲する直線状、断面形は皿状である。第2地点の他の溝跡と方位が異なっている。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-9号溝跡(第170・171図)

M6・I6、I7、J6、J7グリッドに位置する。

第2-8・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。南に向かってほぼ直角に屈曲する。耕作等の削平により溝跡が浅くなり両端が途切れている可能性が高い。

検出された範囲内において、全長22.0m、幅0.6~1.2m、深さ0.2mを測る。方位はN-44°-EとN-38°-Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-10号溝跡(第170・171図、第178図40)

M6・H8、I7、I8、J6、J7グリッドに位置する。

第2-9・11号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長30.5m、幅0.5~1.7m、深さ0.3mを測る。方位はN-46°-EとN-38°-Wを指す。平面形はやや蛇行する直線状、断面形は浅いロート状である。断面形から観て、掘り返しの可能性が考えられる。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、京・信楽系の陶器碗1点(40)が出土した。

第2-11号溝跡(第171図・第178図41~43)

M6・G9、G10、H8、H9、I8グリッドに位置する。

第2-5・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は、南に向かってほぼ直角に屈曲

して、第2-5号溝跡に重複した部分で終わっており、対岸には延びていない。東側は浅くなり、収束している。

検出された範囲内において、全長29.8m、幅0.8~1.1m、深さ0.1mを測る。方位はN-45°-EとN-42°-Wを指す。平面形は、幅に振幅のある直線からなる鍵の手状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の碗・皿と、焙烙が各1点ずつ出土した。

第2-12号溝跡 (第171図、第179図44~46)

M6・G9、H9、H10、I10、M7・I1、J1グリッドに位置する。

第2-4・13・14号溝跡と重複するが、共伴関係・新旧関係ともに不明である。但し、第2-4・13号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。北側は、第2-14号溝跡、南側は第2-4号溝跡に、重複または合流した部分で終わっている。

検出された範囲内において、全長28.0m、幅1.5~3.4m、深さ0.2mを測る。方位はN-37°-Wを指す。平面形は、幅に振幅のある直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の播鉢と、肥前系の磁器碗、およびかわらけが各1点ずつ出土した。

他に、瀬戸・美濃系の陶器皿1点、肥前系の磁器皿1点の小破片が検出されている。

第2-13号溝跡 (第171図)

M6・H10、I9、I10、M7・H1グリッドに位置する。

第2-4号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。但し、本溝跡は、第2-4・12・14号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。西側は、第2-4号溝跡に、重複または合流している。東側は調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長18.6m、幅1.3~2.0m、深さ0.2mを測る。方位はN-48°-Eを指す。平面形は幅に振幅のある直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系の陶器皿が1点、肥前系の磁器の小破片が出土している。

第2-14号溝跡 (第171図、第179図47~49)

M6・G9、G10、H9、H10グリッドに位置する。

第2-5・12・15号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。但し、本溝跡は、第2-4・12・15号溝跡とは、位置関係や規模から推して、共伴関係をもつ可能性は考えられる。西側は、第2-5・12号溝跡に、重複または合流している。東側は、第2-12号溝跡を跨ぎ調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長20.0m、幅0.7~2.2m、深さ0.3mを測る。方位はN-45°-Eを指す。平面形は、直線状で断面形は碗状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、図化したのは陶器3点で、瀬戸・美濃系の志野菊皿(47)、肥前系の碗(48)、そして丹波系の播鉢(49)が各1点である。

他に、瀬戸・美濃系の陶器碗1点、肥前系の磁器碗2点、堺系と思われる陶器の播鉢1点の小破片が出土している。

第2-15号溝跡 (第1717図、第179図50~61)

M6・H8、H9、I8、I9、J8グリッドに位置する。

第2-4・5・14号溝跡と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。第2-15号溝跡の西側は、第2-4号溝跡に、重複または合流している。東側は、第5-14号溝跡に重複または合流している。

検出された範囲内において、全長15.0m、幅1.6~2.2m、深さ0.4mを測る。方位はN-25°-Eを

指す。平面形は湾曲のある直線状で、断面形は底面がやや窪む逆台形である。

溝の性格及び機能は不明である。

出土した遺物は、瀬戸・美濃系では陶器の碗・皿・播鉢・徳利、肥前系では磁器の小坏・碗、丹波系と堺系の陶器の播鉢などである。

他に、瀬戸・美濃系陶器の碗5点・皿1点、肥前系の磁器碗9点の小破片が出土している。

第2-16号溝跡 (第172図)

M5・G10、H10、M6・F2、F3、G1、G2グリッドに位置する。

第2-23号溝跡、第2-95号土壇と重複するが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側および北側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長34.0m、幅0.4~1.2m、深さ0.3mを測る。方位はN-63°-Eを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、瀬戸・美濃系陶器の碗3点・播鉢2点の小破片が出土している。

第2-17号溝跡 (第170図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。

第2-85・87号土壇、第2-4号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長9.7m、幅0.3~0.5m、深さ0.1mを測る。方位はN-31°-Wを指す。平面形はやや湾曲をもつ直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-18号溝跡 (第170図、第179図62~66)

M6・J8、N6・A8グリッドに位置する。

第2-15・17・19号溝跡、第2-87・100号土壇のほか、幾つかのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側は第2-22号溝跡、南側は第2-4号溝跡に接した位置で終わっている。

検出された範囲内において、全長11.0m、幅1.2~3.8m、深さ0.4mを測る。方位は概ねN-8°-Wを指す。平面形はやや湾曲をもつ直線状で、断面形は開きの大きな葉研堀に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、陶磁器が5点出土した(62~66)。瀬戸・美濃系は陶器の徳利と播鉢、肥前系は磁器の碗と瓶である。63は、畳付に鉄漿が施されている。

第2-19号溝跡 (第170図)

M6・J7・J8グリッドに位置する。

第2-15・18号溝跡および4つのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長3.8m、幅0.6~0.8m、深さ0.16mを測る。方位はN-36°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-20号溝跡 (第170図)

N6・A6グリッドに位置する。

第2-5号溝跡、第2-2号井戸跡および1つのピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側は調査区外に続く。

検出された範囲内において、全長6.3m、幅0.8~1.0m、深さ0.16mを測る。方位はN-26°-Eを指す。平面形は直線状で、断面形は逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-21号溝跡 (第170図)

N6・B6、C6グリッドに位置する。

第2-113~115号土壇、およびピットと重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。南側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長12.0m、幅0.25~0.6mを測る。方位はN-29°-Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-22号溝跡 (第170図)

M6・J7グリッドに位置する。

第2-5・15号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。西側は調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長1.0m、幅1.4~1.6m、深さ0.3mを測る。方位はN-45°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第2-23号溝跡 (第172図)

M6・F3、G3、G4グリッドに位置する。

第2-16号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側と東側は、調査区外に延びる。

検出された範囲内において、全長13.0m、幅1.3~1.8m、深さ0.3mを測る。方位はN-36°-Wを指す。平面形は直線状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-1号溝跡 (第176図)

N5・B8、B9、C9、D9、D10、E10グリッドに位置する。

第3-17号土壇と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。北側と東側は調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長36.3m、幅0.4~0.7m、深さ0.2mを測る。方位はN-30°-Wを指す。平面形は直線状で、断面形は浅いU字形である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-2号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2、H2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかの

よう平行している。本遺構は、第3-3号溝跡を切っている。東側は、調査区外に延びている。西側は、南側に屈曲して途切れる。

検出された範囲内において、全長17.0m、幅0.6~2.8m、深さ0.2~0.56mを測る。方位はN-70°-Eと方位はN-10°-Wを指す。平面形は、直線に延びる溝跡が「く」字状に曲がっている。断面形は、レンズ状もしくは逆台形に近い。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は、第3-2~4号溝跡を合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭(寛永通宝)1点が検出された。67は、内野山産と思われる陶器碗である。見込みの蛇の目釉剥ぎされた部分には、目跡が認められる。68は、肥前系の磁器碗であるが、高台内にも一重圈線が施されている。

第3-3号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2、H2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかのように平行している。本遺構は、第3-2・4号溝跡に切られている。溝の西側部分が、調査区境界線外にあるため、形状や規模についての詳細は不明である。東側と西側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長34.1m、幅2.0~2.8m、深さ0.4~0.72mを測る。方位は全体像が不明なため、計測できなかった。平面形については、直線的に延びる溝跡が、クランク状に曲がっている。断面形はレンズ状もしくは逆台形に近い形状を呈している。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が高いと思われる。

遺物は、第3-2~4号溝跡と合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭(寛永通宝)1点が検出された。

第3-4号溝跡 (第174図、第180図67~71)

M5・F2、F3、G2グリッドに位置する。

第3-2~4号溝跡は、南北方向に寄り添うかの

よう平行している。本遺構は、第3-3号溝跡を切っている。東側は、調査区外に続く。西側は途切れている。

検出された範囲内において、全長12.0m、幅0.7~1.2m、深さ0.2~0.56mを測る。方位はN-67°-Eを指す。平面形は直線状で、断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から、根切り溝の可能性が高いと考えられる。

遺物は、第3-2~4号溝跡と合わせて、陶磁器3点、砥石1点、古銭（寛永通宝）1点が検出された。

第3-5号溝跡（第174図、第180図67~71）

M5・G2、H1、H2、I1グリッドに位置する。

第3-2・3・6・13・14号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長32.0m、幅0.4~0.7m、深さ0.4mを測る。方位は全体像が不明なため、計測できなかった。平面形は、直線的な部分と、湾曲する部分からなる。第3-8・13号溝跡と一連の溝跡であるかは不明である。断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-6号溝跡（第174図、第180図67~71）

M5・H1、I1、I2グリッドに位置する。

第3-3・5・13・14号溝跡と重複しているが、共伴関係の有無・新旧関係ともに不明である。

検出された範囲内において、全長22.1m、幅0.3~0.7m、深さ0.16~0.24mを測る。方位は計測できなかった。平面形は釣り針状、断面形はU字状に近い。

本溝跡は、規模や形状から根切り溝の可能性が高い。

遺物は出土しなかった。

第3-7号溝跡（第174図）

M5・H1グリッドに位置する。

第3-6号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。西側と東側ともに途切れている。

検出された範囲内において、全長7.3m、幅0.3~0.4m、深さ0.1mを測る。方位はN-34°-EとN-69°-Wを指す。平面形はL字状で、断面形は皿状・レンズ状を呈している。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-8号溝跡（第174図、第180図72~74）

M5・J1、N5・A1、A2グリッドに位置する。

第3-13号溝跡に切られている。本溝跡の北側が何処まで延びるのか、第3-3号溝跡と繋がるのか不明である。南側は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長16.5m、幅0.6~1.3m、深さ0.4~0.56mを測る。方位はN-15°-Wを指す。平面形は直線状、断面形U字状である。

本溝跡は、規模・形状・出土遺物などから推して、家敷地を区画する溝跡であるとの可能性を考えられる。

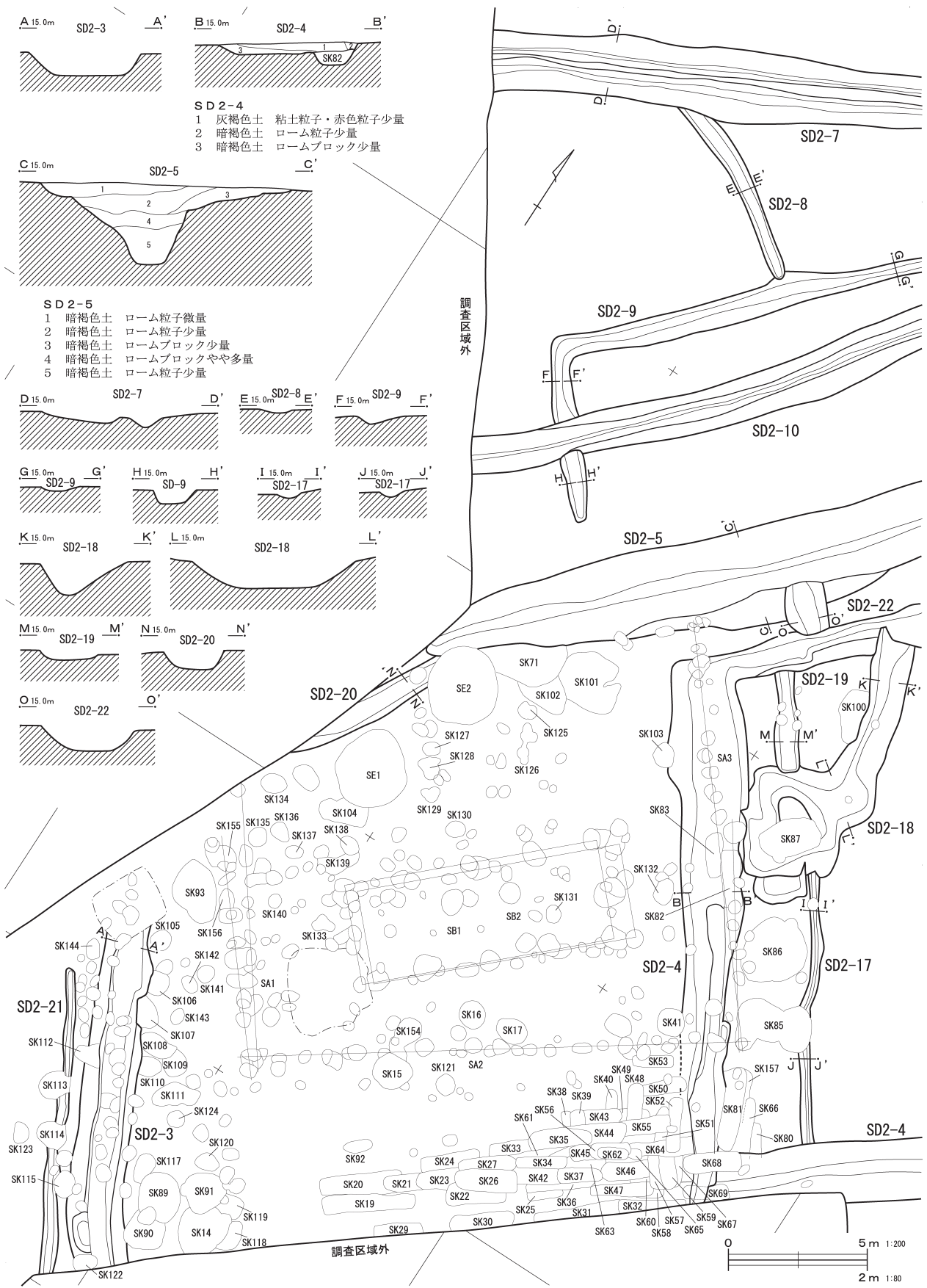
遺物は、陶磁器類が3点出土した。72は、肥前系の磁器碗である。73・74は瀬戸・美濃系の陶器で、前者はいわゆる天目茶碗である。後者は志野の菊皿である。

第3-9号溝跡（第175図）

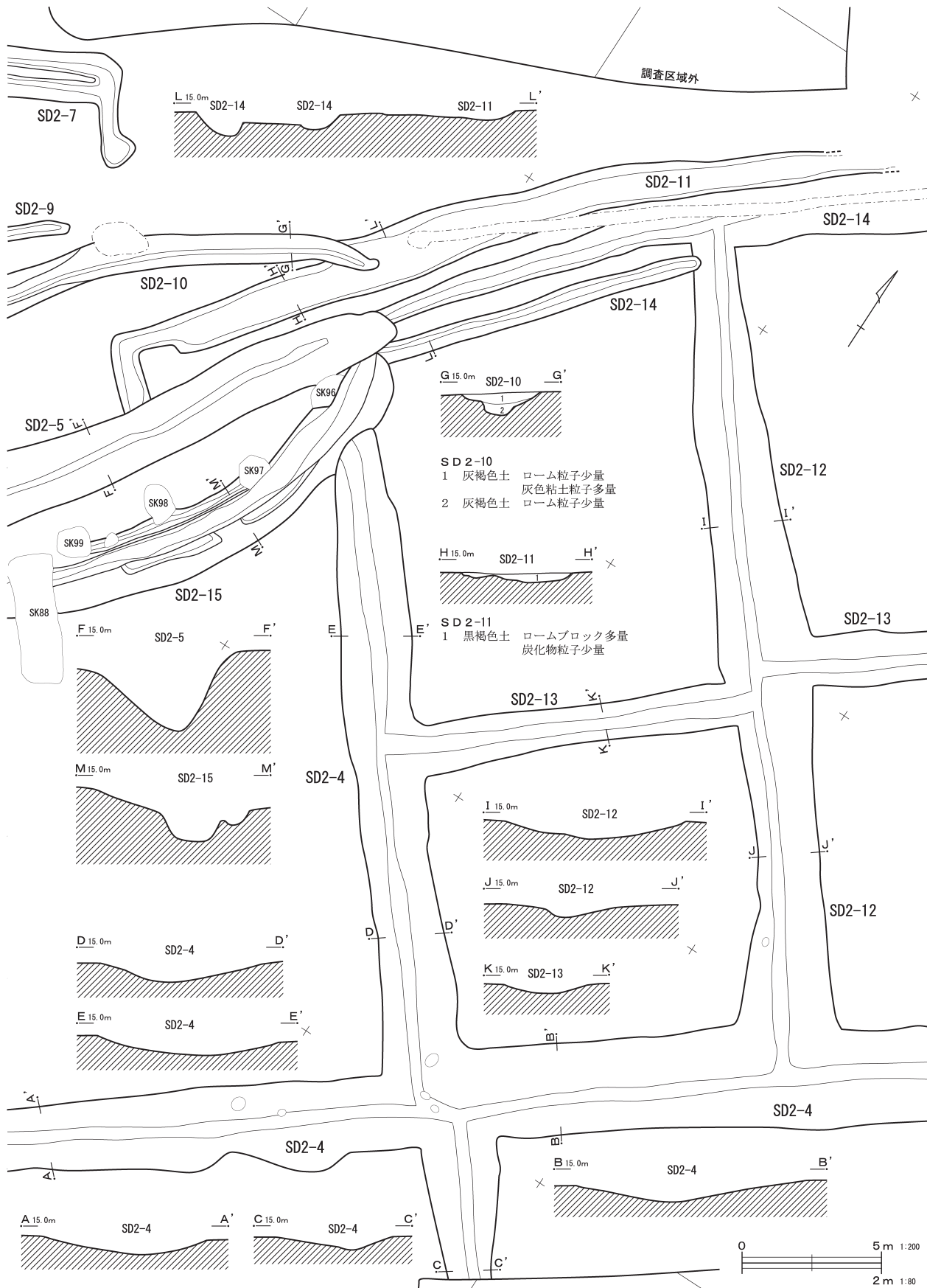
N5・A3、A4、B3、B4、C4グリッドに位置する。

本遺構の北側部分では、東西方向に走る溝跡と重複しており、一連の屈曲する溝跡であると判断した。このことから、第3-10a・10b号溝跡とも、一連の遺構の可能性も考えられる。

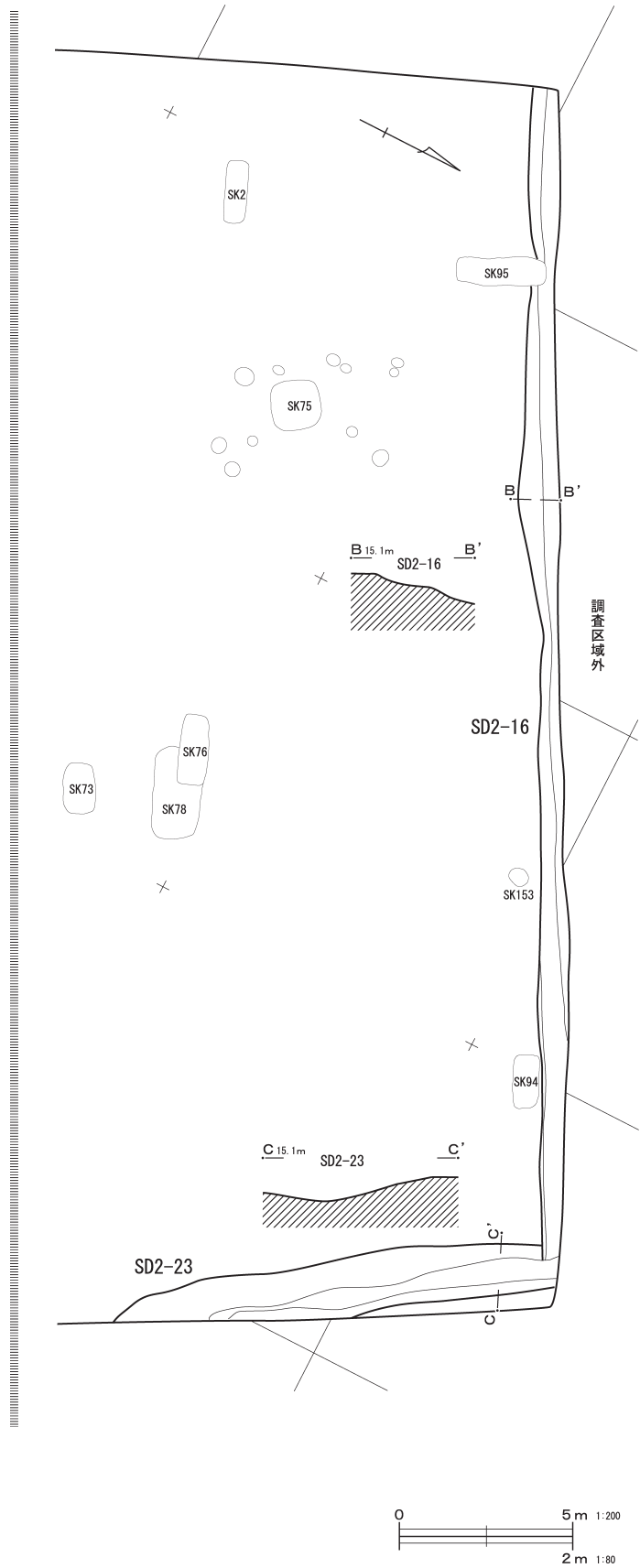
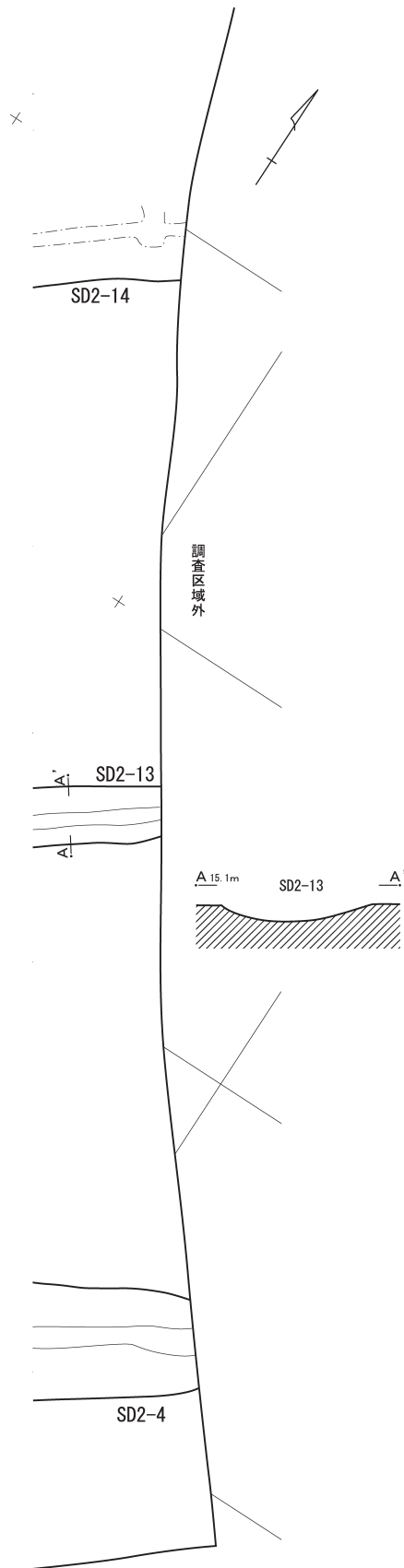
西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に続いている可能性がある。検出された範囲内において、全長23.75m、幅0.6~1.5m、深さ0.6mを測る。方位はN-69°-E



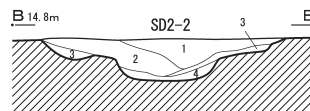
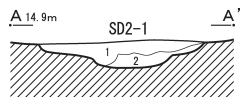
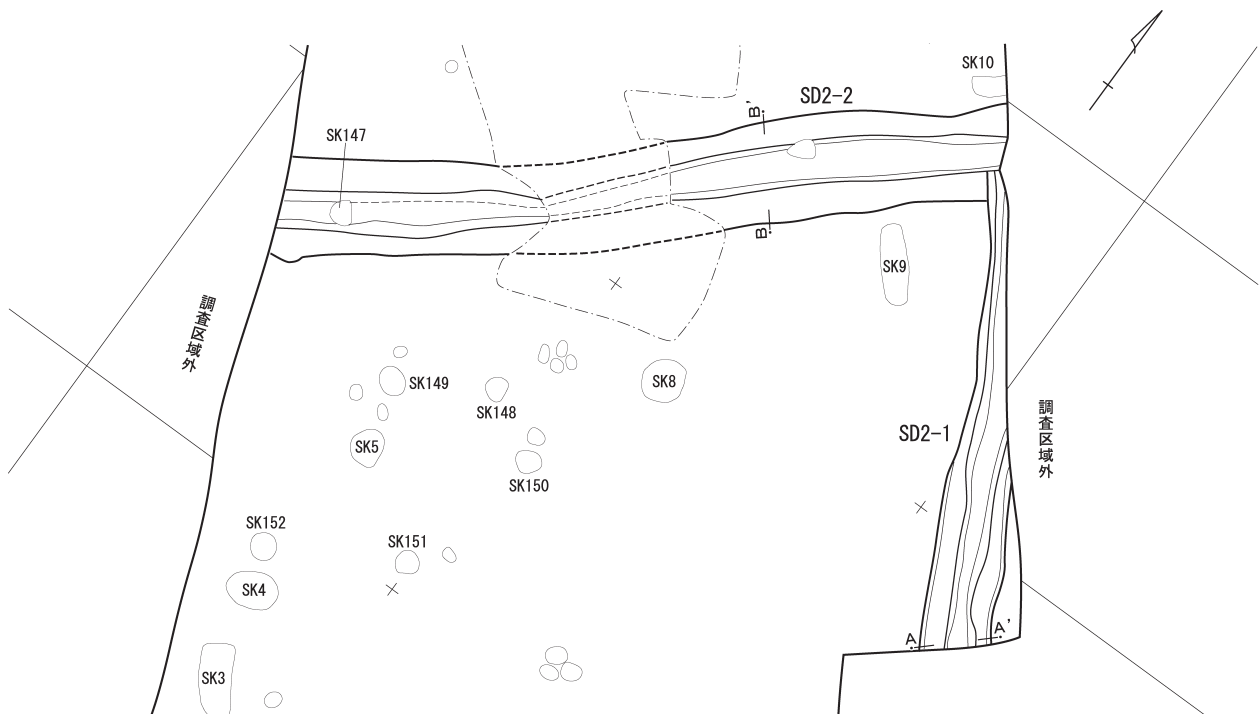
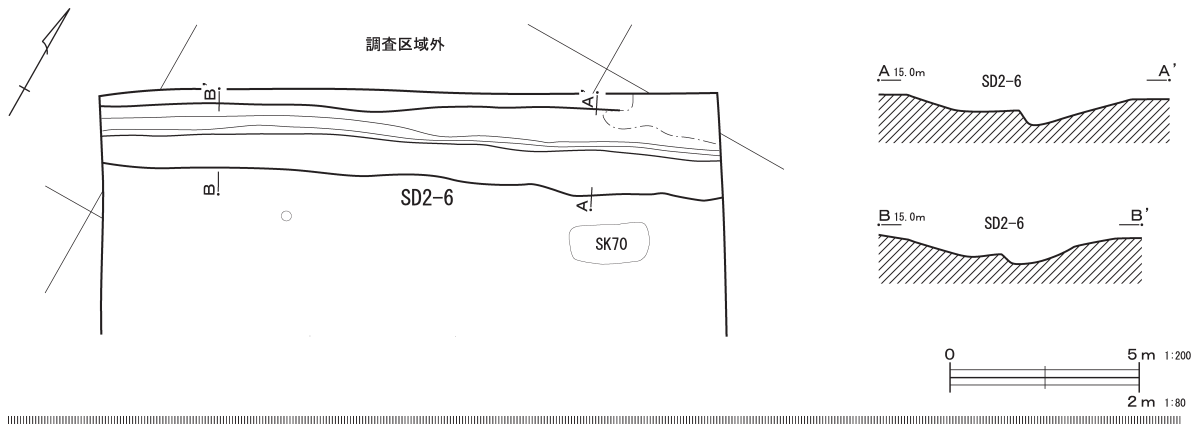
第170図 溝跡 (1)



第171図 溝跡(2)



第172図 溝跡 (3)

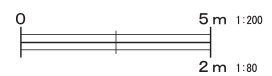


SD2-1

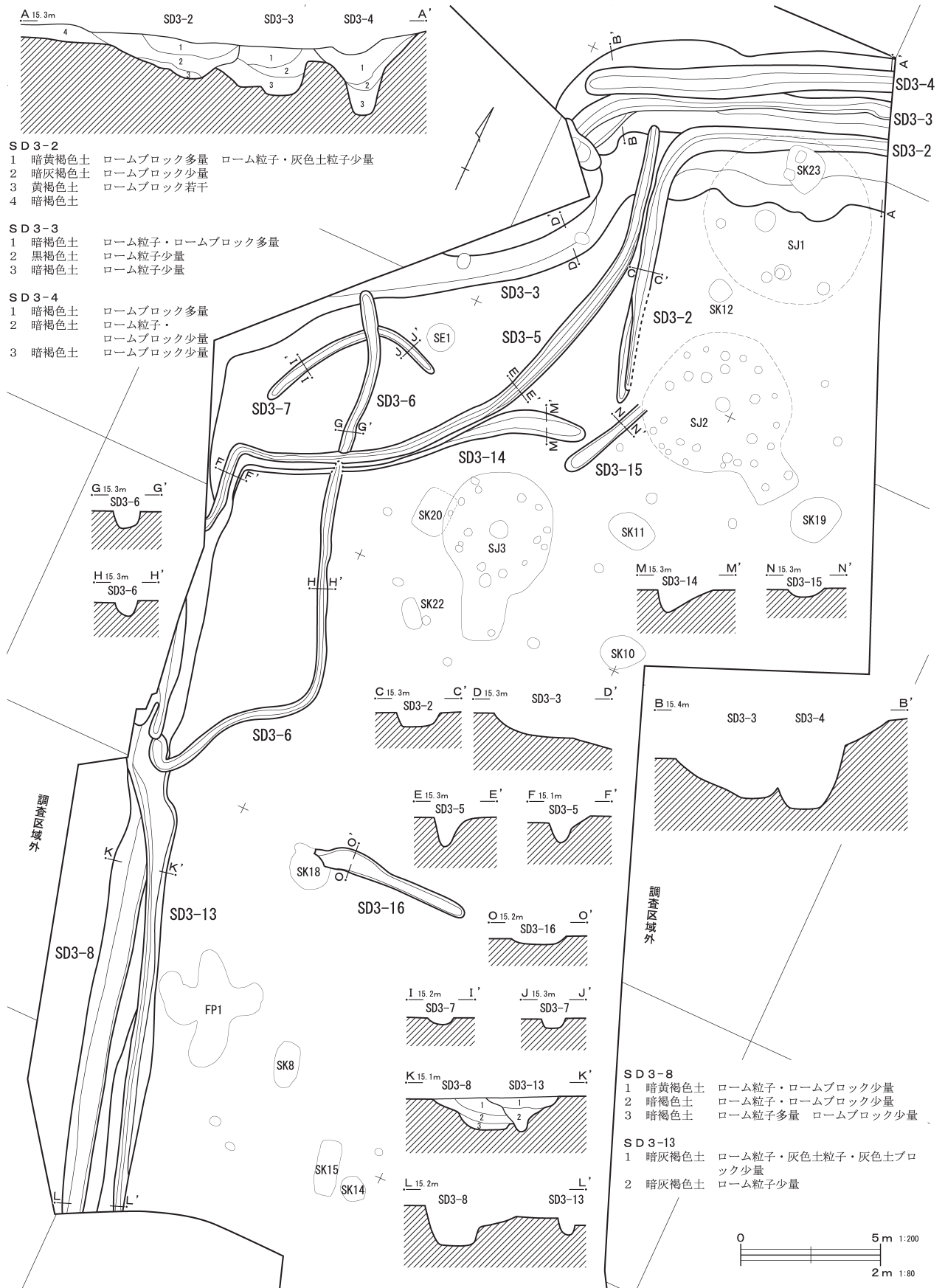
- 1 灰黄色土 ロームブロック多量 粘土粒子少量
- 2 黄褐色土 ロームを主体

SD2-2

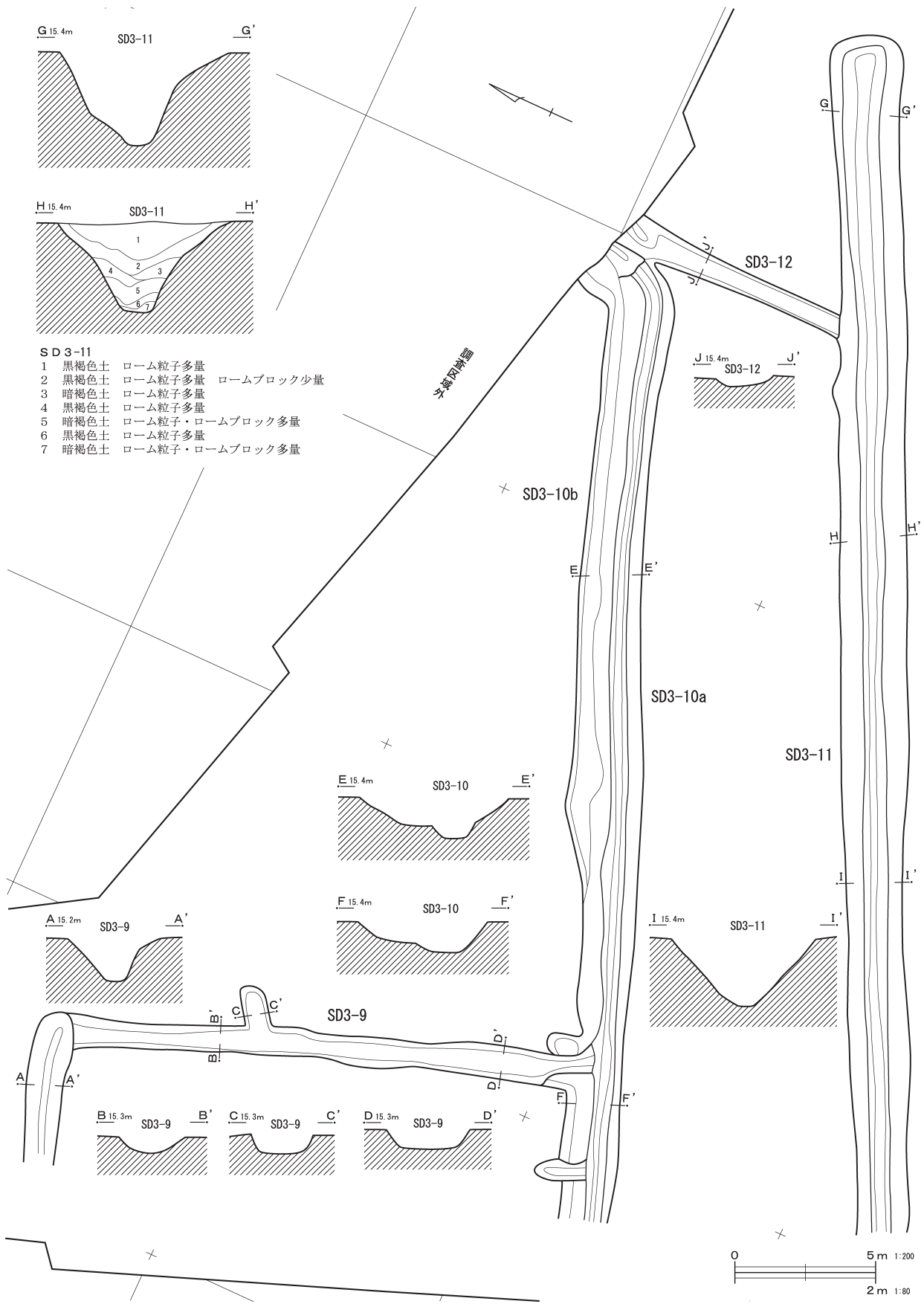
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量
- 2 暗褐色土 ロームブロックやや多量
- 3 黄褐色土 ロームを主体 ロームブロック少量
- 4 黒褐色土 暗色帯(VII~IX層)由来のブロック若干



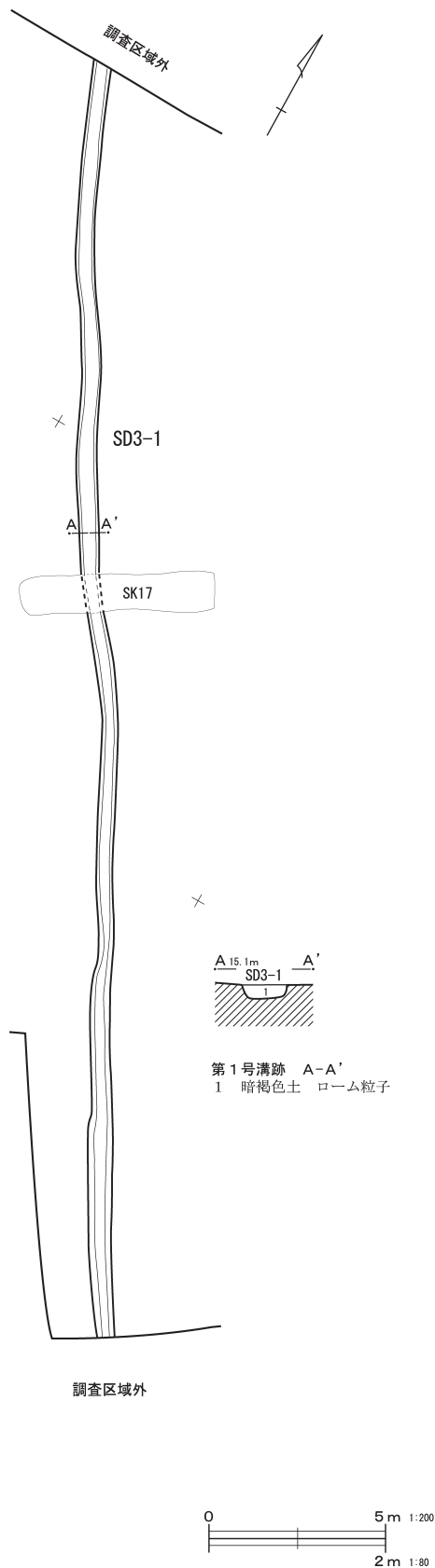
第173図 溝跡(4)



第174図 溝跡 (5)



第175図 溝跡 (6)



第176図 溝跡 (7)

とN-21°-Wを指す。平面形はL字状、断面形は逆台形もしくは碗状である。

本溝跡の規模・形状からみて、家敷地を区画する溝跡の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-10号溝跡 (第175図)

N5・A6、B4、B5、B6、C3、C4グリッドに位置する。

第3-10号溝跡は、断面形からみて最低でも、1度は掘り返しが行われた溝跡であると考えられる。第3-9号溝跡と重複、もしくは合流しており、一連の遺構の可能性が考えられる。

西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に続いている可能性がある。また東側部分では、北方向に屈曲しながら調査区外に続いていく。

検出された範囲内において、全長35.0m、第3-10a号溝跡と第3-10b号溝跡を合わせた幅1.5~2.8m、深さ0.6mを測る。直線部分の方位は、N-68°-Eを指す。この直線部分の方位は7.5mの距離にある第3-11号溝跡の方位N-65°-Eに近いといえる。なお、屈曲する部分の方位は、第3-12号溝跡の方位にも近いと思われるが、関連性があるかは不明である。

調査区外の形状が不明であるため、全体の平面形は特定できない。断面形がレンズ状の溝跡2条が並んだ状態である。

本溝跡の規模・形状からみて、家敷地を区画する溝跡の可能性を考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-11号溝跡 (第175図)

N5・B7、B8、C4、C5、C6、C7、D4グリッドに位置する。

第3-12号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

西側部分は、途切れているかのような表現となっているが、調査区外に延びる可能性が高い。

東側部分は、途切れている。

検出された範囲内において、全長42.6m、幅1.8~2.7m、深さ1.0mを測る。直線部分の方位は、N-65°-Eを指す。この直線部分の方位は7.5mの距離にある第3-10号溝跡の方位N-68°-Eに近いといえる。

平面形は直線状、断面形はV字状もしくは箱薬研状である。

本溝跡は、規模・形状からみて、家敷地を区画する溝の可能性を考えられる。

遺物は出土しなかった。

第3-12号溝跡 (第175図)

N5・A6、B6、B7グリッドに位置する。

第3-10・11号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

西側部分は、調査区外に延びている。東側部分は、第3-12号溝跡以東ではみられない。

検出された範囲内において、全長8.0m、幅0.7~0.8m、深さ0.1mを測る。方位は、N-0°-Eを指す。この方位は、第3-10号溝跡の屈曲する溝跡とも近いと思われるが、関連性があるかは不明である。

平面形は直線状、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-13号溝跡 (第174図)

M5・I1、J1、J2、N5・A1、A2グリッドに位置する。

第3-5・6・8号溝跡と重複する。この内、第3-8号溝跡を切っているが、その他の溝跡については、同一遺構であるか、関連性をもつのか等々、いずれも不明である。南側部分は、調査区外に延びている。

検出された範囲内において、全長18.0m、幅0.

4~1.6m、深さ0.5mを測る。方位は、N-17°-Wを指す。平面形は直線状、断面形は皿状である。

本溝跡は、規模・形状などから推して、家敷地を区画する溝跡である可能性が想定できる。

遺物は出土しなかった。

第3-14号溝跡 (第174図)

M5・H2グリッドに位置する。

第3-5・6号溝跡と重複するが、関連性及び新旧関係は不明である。東側部分は途切れている。

検出された範囲内において、全長9.8m、幅0.6~0.9m、深さ0.3mを測る。方位は、強いて表現するならば、N-64°-Eとなる。平面形はやや湾曲する直線状、断面形はV字状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-15号溝跡 (第174図)

M5・H2グリッドに位置する。

検出された範囲内において、全長3.5m、幅0.4~0.6m、深さ0.1mを測る。方位は、N-25°-Eを指す。平面形は直線状、断面形は皿状である。

溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

第3-16号溝跡 (第174図)

M5・I2、J2グリッドに位置する。

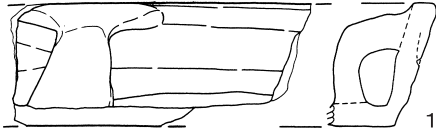
第3-18号土壇と重複するが、新旧関係は不明である。土壇の西側には、溝跡は検出されなかった。東側は途切れている。近在の遺構との関連については、不明であるといわざるを得ない。

検出された範囲内において、全長5.8m、幅0.5~0.8m、深さ0.1mを測る。方位は、N-0°-Eを指す。平面形はやや膨らみを有する直線状、断面形は皿状である。

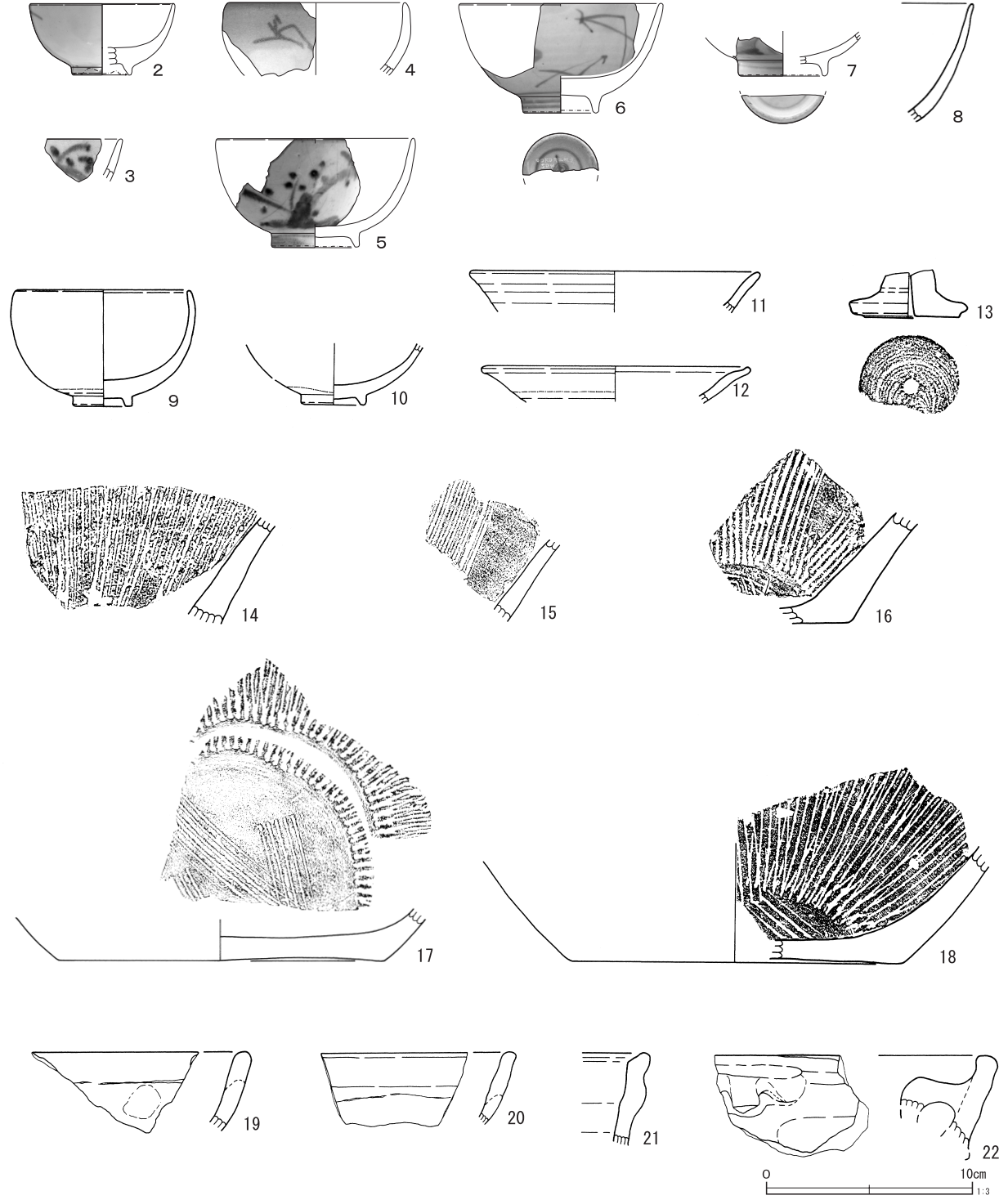
溝の性格及び機能は不明である。

遺物は出土しなかった。

SD 2-1

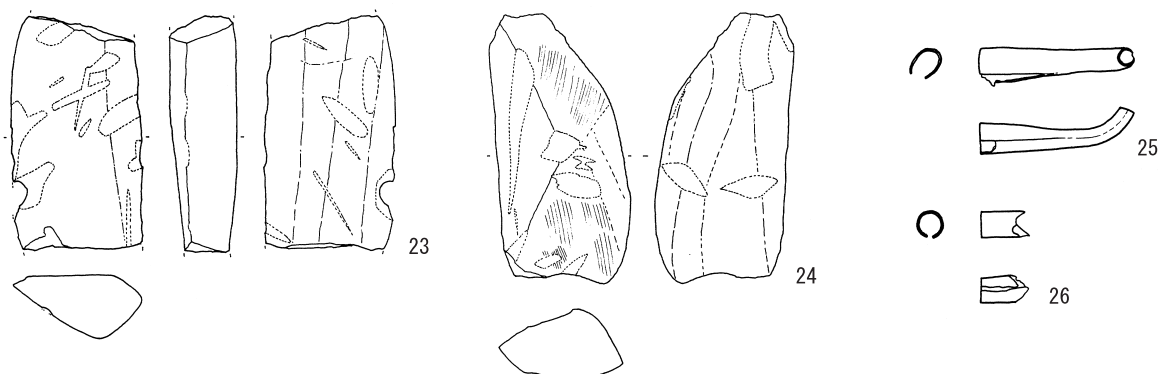


SD 2-4

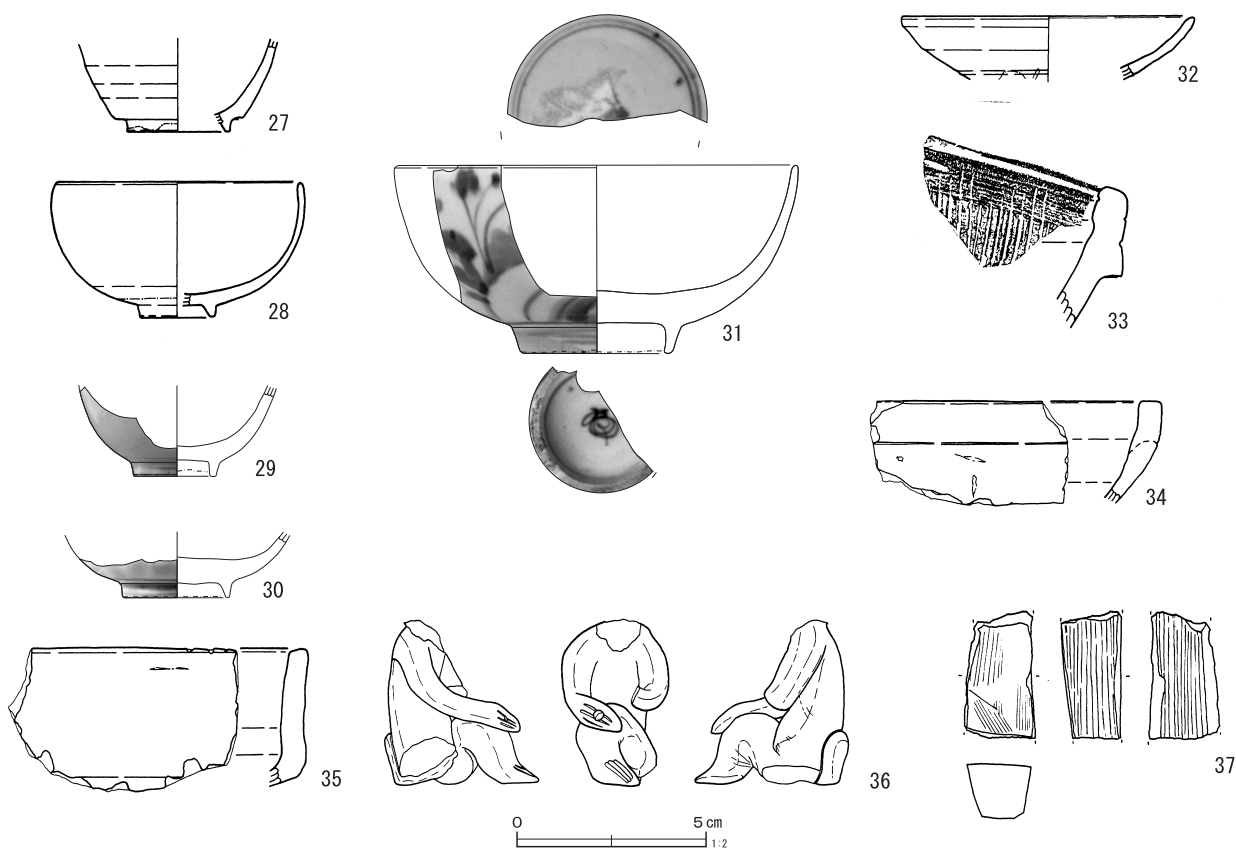


第177図 溝跡出土遺物(1)

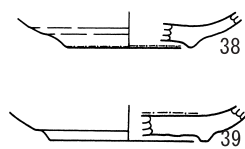
SD 2-4



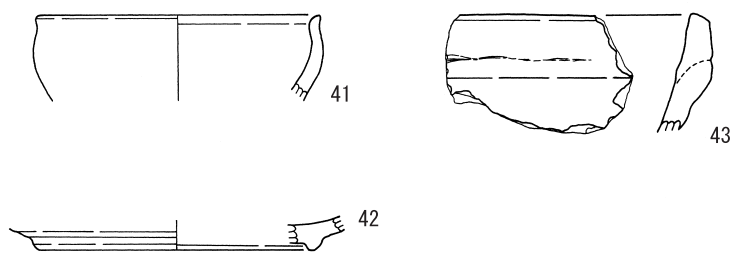
SD 2-5



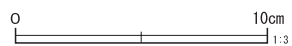
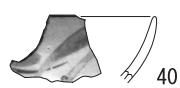
SD 2-7



SD 2-11

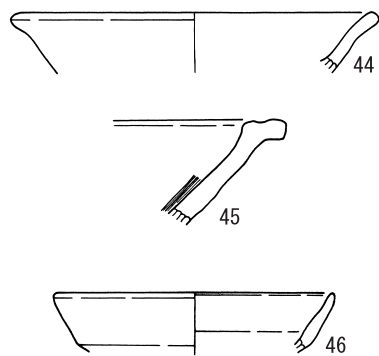


SD 2-10

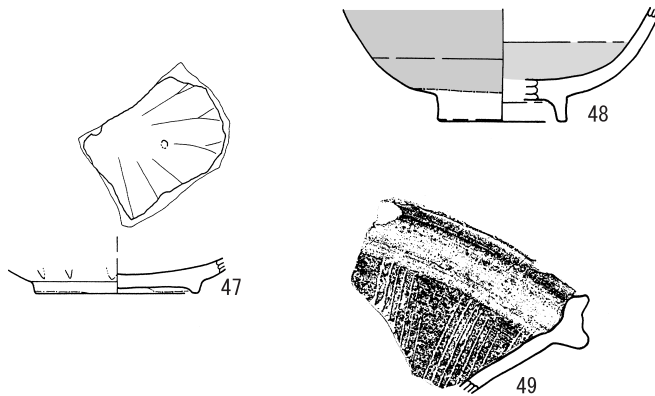


第178図 溝跡出土遺物(2)

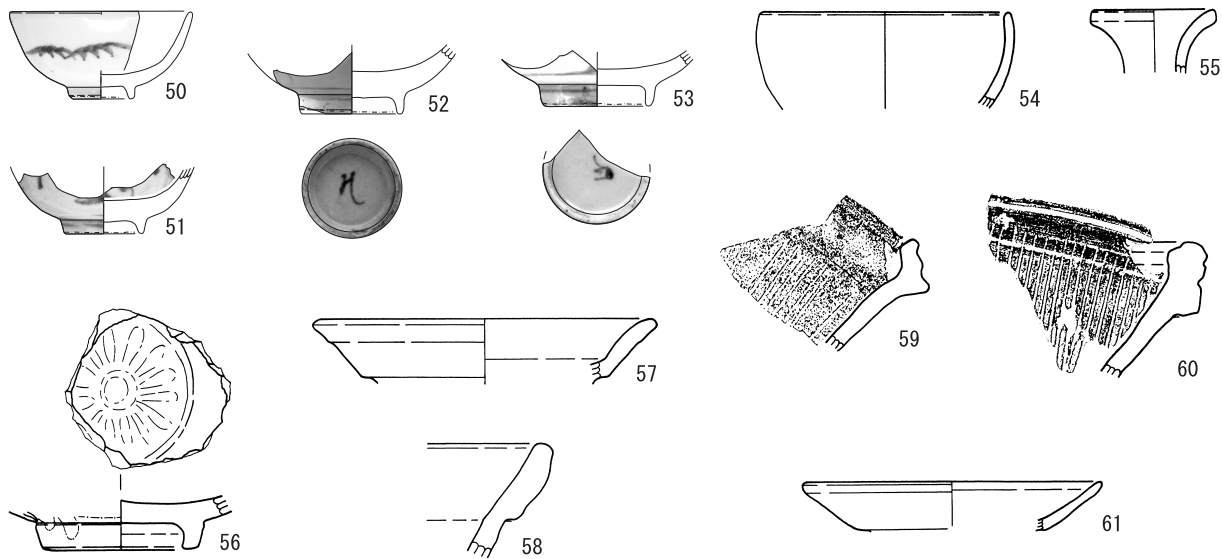
SD 2-12



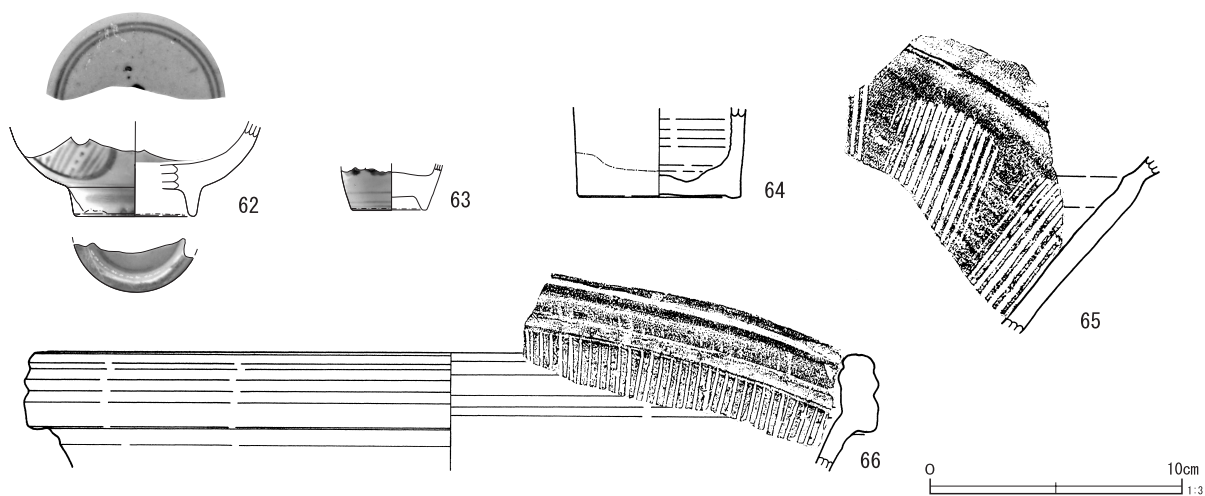
SD 2-14



SD 2-15

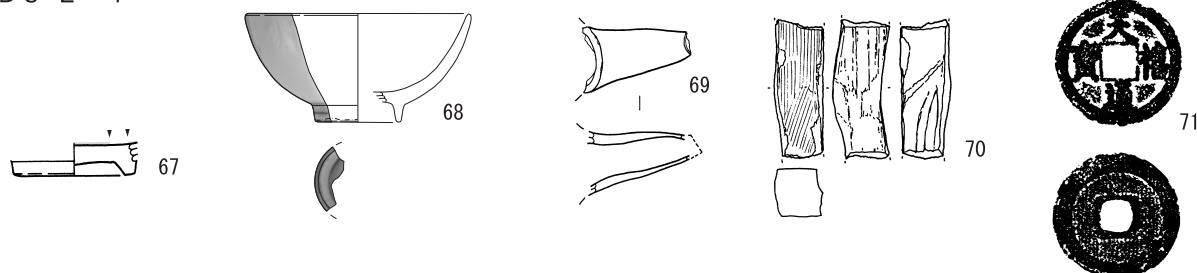


SD 2-18

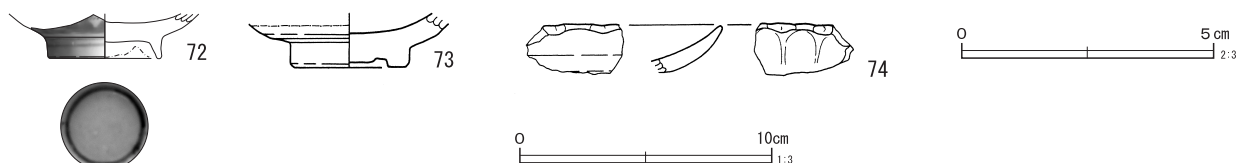


第179図 溝跡出土遺物 (3)

SD 3-2~4



SD 3-8



第180図 溝跡出土遺物(4)

第15表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴特	文様	備考
1	SD 2-1	土器	焙烙		5			4.9	にぶい橙緻密	普通					煤付着少
2	SD 2-4	磁器	小坏	肥前	50	(17.0)	(2.8)	3.5	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	笹文	見込み 砂粒付着 18C
3	SD 2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	5			[2.1]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	貫入多	梅樹文	18C後葉~19C中葉
4	SD 2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃か	5	(8.6)		[3.6]	灰白 緻密	良好	灰釉か	轆轤	貫入多	鉄絵	18C後葉~19C中葉
5	SD 2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(9.6)	(4.2)	5.3	灰黄緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多	梅樹	19C前半か
6	SD 2-4	磁器	碗	肥前	30	(9.8)	(3.7)	[5.4]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	貫入多	高台内渦「福」	くらわんか碗 18C中~後
7	SD 2-4	磁器	碗	肥前	5		(4.2)	[2.2]	白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重圈線	18C前~中か
8	SD 2-4	磁器	碗	肥前	10			[6.2]	白 緻密	良好	青磁釉	轆轤			青磁 17C後半
9	SD 2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(8.4)	(2.8)	5.5	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C後半
10	SD 2-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	35		(2.2)	[3.0]	淡黄緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		18C後半か
11	SD 2-4	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(13.7)		[2.0]	灰 緻密	良好	灰釉	轆轤			17C
12	SD 2-4	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.6)		[1.7]	灰白	良好	灰釉	轆轤	貫入多		17C
13	SD 2-4	土器	柔燭か		75		5.6	[2.4]	にぶい橙	普通		轆轤			仏餉具 微砂粒か
14	SD 2-4	陶器	挿鉢	丹波	5				にぶい橙緻密	普通	錆釉				卸目7本/条か 砂粒多
15	SD 2-4	陶器	挿鉢	瀬戸・美濃	5			[4.2]	灰白 緻密	普通	釉	轆轤			微砂粒
16	SD 2-4	陶器	挿鉢	瀬戸・美濃	5			[5.2]	灰白	普通	鉄釉	轆轤			卸目11本/条か 18C後半~19C後半 卸目磨滅少
17	SD 2-4	陶器	挿鉢	堺	25		(15.8)	[1.5]	にぶい赤褐	普通	焼き締め	輪積みか	底部焼台痕		卸目7本/条 18C代か
18	SD 2-4	土器	挿鉢	丹波	20		(16.0)	[5.8]	明褐色	良好	焼き締め	輪積み			卸目10本/条 卸目やや磨滅 18C代か
19	SD 2-4	土器	焙烙		5			[3.8]	灰白 緻密微細	普通					雲母微量 外面煤付着
20	SD 2-4	土器	焙烙		5			[3.5]	緻密	普通					雲母少 外面煤付着
21	SD 2-4	土器	焙烙		5			[4.5]	灰白 緻密	普通					外面煤付着
22	SD 2-4	土器	焙烙		5			[4.5]	褐灰	普通					砂粒微量 外面煤付着
23	SD 2-4	石製品	砥石			長さ(9.20)cm 幅5.96cm 厚さ2.48cm 重さ146.0g									
24	SD 2-4	石製品	砥石			長さ10.36cm 幅4.97cm 厚さ2.79cm 重さ137.0g									
25	SD 2-4	金属製品	煙管(雁首)		95	A6.1cm B1.7cm D1.1cm D'1.2cm									「火皿」欠損 小口一部欠損 緑錆

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
26	SD2-4	金属製品	煙管(雁首)		70	A1.9cm	B1.1cm	D1.0cm	重量1.0g		銅合金				小口のみ残存 緑錆
27	SD2-5	陶器	碗	京・信楽	10		(4.0)	(3.7)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		18C末~19C初
28	SD2-5	陶器	碗	瀬戸・美濃か	10	(9.6)	(3.0)	(5.3)	灰白	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 貫入多(細)		18C後半
29	SD2-5	磁器	碗	肥前	50		3.2	(3.5)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		18C
30	SD2-5	磁器	碗	肥前	90		4.0	(2.5)	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台		畳付に砂粒付着 18C前~中
31	SD2-5	磁器	碗	肥前	20	(15.8)	(5.8)	7.5	灰白 緻密 微砂粒	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面草文 高台内柄「福」見込銘	畳付に砂粒付着 18C前~中
32	SD2-5	磁器	皿	肥前	20	(11.5)		(2.5)	灰白 緻密	良好	長石釉	轆轤			17C代か
33	SD2-5	陶器	播鉢	堺か	5			(5.5)	赤褐	良好	焼き締め	輪積みみか			御目7本/条 非常に明瞭 18C中~後半
34	SD2-5	土器	焙烙		5			(4.0)	黄灰 緻密	普通					外面煤付着
35	SD2-5	土器	焙烙		10			(5.5)	浅黄 緻密	普通					外面煤付着少
36	SD2-5	土製品	土人形(猿)	不明	90	現存樽4.4cm 奥行4.0cm 最大幅2.8cm			橙 やや砂質	普通	素焼き				頭部欠損
37	SD2-5	石製品	砥石			長さ(4.91)cm	幅2.50cm	厚さ2.15cm	重さ43.4g		安山岩				
38	SD2-7	陶器	皿か	瀬戸・美濃	15		(4.8)	(1.3)	黄灰 緻密	良好	鉄釉	轆轤	削り出し高台		18C代
39	SD2-7	陶器	皿か	瀬戸・美濃	10		(6.3)	(1.4)	黄灰 緻密	普通	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台内輪トナ跡 砂粒微量 18C代
40	SD2-10	陶器	碗	京・信楽	5			(2.7)	灰白	良好	灰釉・銅緑釉・鉄釉具須	轆轤	貫入多		18C中
41	SD2-11	陶器	碗	瀬戸・美濃	15	(11.0)		(3.4)	灰白 緻密	良好	鉄釉(淡い)	轆轤			天目茶碗 17C後半か
42	SD2-11	陶器	鉢	瀬戸・美濃	5		(10.5)	(1.4)	灰白 緻密	良好	長石釉	轆轤	削り出し高台		17C初
43	SD2-11	土器	焙烙		5			(4.5)	黄灰 緻密	普通					砂粒微量 外面煤付着
44	SD2-12	陶器	碗	肥前	10	(13.9)		(2.4)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	貫入多		18C代か
45	SD2-12	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			(4.1)	灰白礫少	普通	鉄釉	轆轤			17C前半か
46	SD2-12	土器	かわらけ		5	(10.9)		(2.4)	橙 緻密	普通		轆轤			
47	SD2-14	陶器	皿	瀬戸・美濃	40		(6.3)	(1.4)		良好	長石釉	轆轤型打	削り出し高台 貫入多		志野菊皿 見込み円錐ピン跡 灯明皿に転用か 17C初
48	SD2-14	陶器	碗	肥前			(4.4)	(4.4)	灰白 緻密	良好	銅緑釉 透明釉	轆轤	削り出し高台		17C後半~18C前半
49	SD2-14	陶器	播鉢	丹波	10			(4.0)	灰白 緻密	普通	錆釉	轆轤			御目7本/条 17C後半~18C中葉か
50	SD2-15	磁器	小坏	肥前	45	(7.3)	(2.4)	3.5	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	笹文 具須	18C後半
51	SD2-15	磁器	碗	肥前	90		3.0	(2.5)	白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		畳付砂粒付着 見込み目跡 18C前~中
52	SD2-15	磁器	碗	肥前	45		4.0	(2.7)	白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台内銘 畳付砂粒付着 18C前~中
53	SD2-15	磁器	碗	肥前	10		(4.1)	(2.2)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台脇一重圈線 高台際二重圈線	高台内砂粒付着 18C 高台内銘
54	SD2-15	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(9.8)		(3.8)	灰白 緻密	良好	長石釉	轆轤	貫入多		17C後半~18C中葉か
55	SD2-15	陶器	徳利	瀬戸・美濃	20	(4.7)		(2.5)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			
56	SD2-15	陶器	皿	瀬戸・美濃	60		(6.0)	(1.9)	浅黄	良好	灰釉	型打	付け高台	花卉13	菊皿 17C後半か
57	SD2-15	陶器	皿か	瀬戸・美濃	10	(13.0)		(2.6)	乳白 緻密	普通	灰釉	轆轤			17C後半か
58	SD2-15	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			(4.5)	にぶい褐	普通	鉄釉	轆轤			19C前半
59	SD2-15	陶器	播鉢	丹波	5			(3.9)	灰黄褐	普通	鉄釉	轆轤		御目6本/条	17C後半~18C中葉か
60	SD2-15	陶器	播鉢	堺か	5			(5.3)	にぶい赤褐	良好	焼き締め	轆轤			御目7本/条 左回転で施文 18C中~後
61	SD2-15	土器	かわらけ		10	(11.6)		(2.4)	鈍い黄橙 緻密	普通		轆轤			
62	SD2-18	磁器	碗	肥前	40		(4.8)	(3.8)	灰白	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	見込み目跡	18C前~中

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
63	SD2-18	磁器	瓶	肥前	95		4.3	[2.7]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重圈線	畳付けに鉄漿付着 18Cか
64	SD2-18	陶器	徳利	瀬戸・美濃	50		(6.4)	[3.5]	灰 緻密	良好	灰釉	轆轤			砂粒微量 19C
65	SD2-18	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			[7.2]	浅黄	普通	鉄釉	轆轤			卸目12本/条 摩減少19C前半
66	SD2-18	陶器	播鉢	堺か	10	(32.0)		[4.5]	にぶい橙	普通	焼き締め				卸目8本/条 鮮明で磨減なし 18C中～後半
67	SD3-2~4	陶器	碗か	肥前	75		(4.8)	[1.3]	灰白	良好	銅緑釉	轆轤	削り出し高台 見込目跡		見込蛇の目釉剥ぎ 17C後半 ～18C前半
68	SD3-2~4	磁器	碗	瀬戸・美濃	25	(9.0)	(3.4)	4.4	灰白	良好	透明釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重圈線	19C前～中
69	SD3-2~4	陶器	土瓶	京・信楽か	5	1.0		4.0	浅黄	良好	透明釉				18C代か
70	SD3-2~4	石製品	砥石			長さ5.5cm 幅2.0cm 厚さ1.9cm 重さ34.8g									
71	SD3-2~4	古銭	寛永通寶												
72	SD3-8	磁器	碗	肥前	90		4.2	[2.2]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重圈線	高台に砂粒付着 17C後半
73	SD3-8	陶器	碗	瀬戸・美濃	10		4.4	[2.1]	浅黄	良好	鉄釉	轆轤	削り出し高台		天目碗 18C代か
74	SD3-8	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			[1.9]	灰黄	普通	長石釉	轆轤 型打ち			菊皿 貫入多 17C前半

(6) ピット (第181～185区)

ピットは268基検出された。ピットは、第2-1
～5号柵列に囲まれた範囲と、その西側の第2-3

号溝跡に沿って密集する。それ以外の地域は散漫
な分布であった。

第16表 ピット計測表

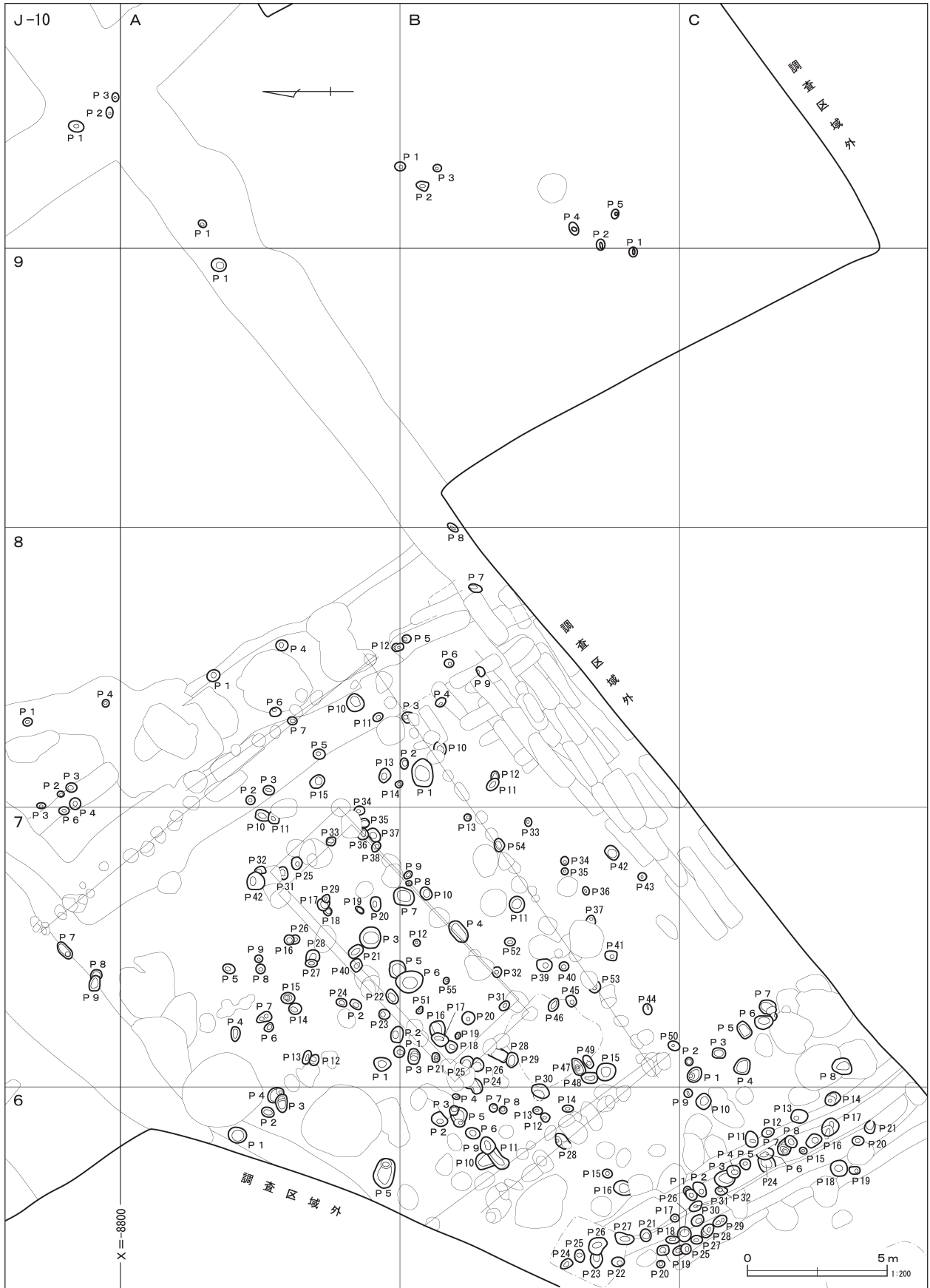
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
3	M5・G2	1	0.33	—	0.17	2	M6・I1	6	0.35	0.33	0.25
3	M5・G2	4	0.57	0.46	0.17	2	M6・I1	7	0.24	0.21	0.14
3	M5・H2	1	0.24	0.24	0.12	2	M6・I1	8	0.27	0.22	0.22
3	M5・H2	2	0.45	0.38	0.15	2	M6・I1	9	0.43	0.40	0.26
3	M5・H2	3	0.32	0.30	0.11	2	M6・I1	10	0.44	0.37	0.17
3	M5・H2	4	0.33	0.26	0.18	2	M6・I1	11	0.46	0.42	0.27
3	M5・I2	1	0.35	0.27	0.10	2	M6・G5	1	0.25	0.25	0.11
3	M5・I2	2	0.33	0.30	0.19	2	N6・D5	1	0.40	0.34	0.13
3	M5・I2	3	0.30	0.28	0.10	2	N6・D5	2	0.39	0.38	0.12
3	M5・I2	5	0.40	0.38	0.15	2	N6・D5	3	0.58	0.56	0.24
3	M5・J2	1	0.40	0.38	0.19	2	N6・D5	4	0.56	0.46	0.37
3	M5・J2	2	0.43	0.40	0.20	2	N6・E5	1	0.44	0.42	0.41
3	M5・J2	3	0.33	0.30	0.16	2	N6・E5	2	0.54	0.36	0.23
3	N5・A2	1	0.40	0.37	0.24	2	M6・H6	1	0.44	0.34	0.23
3	N5・A2	2	0.33	0.30	0.22	2	N6・A6	1	2.10	0.32	0.15
3	M5・G3	2	0.28	0.28	0.10	2	N6・A6	2	0.60	0.58	1.43
3	M5・G3	3	0.31	0.30	0.16	2	N6・A6	3	0.62	0.44	0.25
3	M5・H3	1	0.35	0.34	0.16	2	N6・A6	4	0.54	0.48	0.33
2	M6・I1	1	0.43	0.43	0.17	2	N6・A6	5	1.06	0.76	0.71
2	M6・I1	2	0.24	0.23	0.18	2	N6・B6	2	0.56	—	0.38
2	M6・I1	3	0.22	0.22	0.18	2	N6・B6	3	0.36	0.32	0.44
2	M6・I1	4	0.33	0.18	0.19	2	N6・B6	4	0.24	0.16	0.22
2	M6・I1	5	0.28	0.24	0.21	2	N6・B6	5	—	0.43	0.63

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6・B 6	6	0.44	0.38	0.17
2	N 6・B 6	7	0.26	0.22	0.22
2	N 6・B 6	8	0.28	0.26	0.22
2	N 6・B 6	9	0.68	0.50	0.31
2	N 6・B 6	10	—	0.62	0.20
2	N 6・B 6	11	—	0.28	0.22
2	N 6・B 6	12	0.32	0.28	0.18
2	N 6・B 6	13	0.30	0.22	0.26
2	N 6・B 6	14	0.42	0.30	0.15
2	N 6・B 6	15	0.36	0.36	0.11
2	N 6・B 6	16	—	0.50	0.16
2	N 6・B 6	17	0.32	0.30	0.20
2	N 6・B 6	18	0.54	0.30	0.22
2	N 6・B 6	19	0.48	0.44	0.32
2	N 6・B 6	20	0.28	0.26	0.31
2	N 6・B 6	21	0.42	0.42	0.37
2	N 6・B 6	22	0.30	0.28	0.39
2	N 6・B 6	23	—	0.44	0.31
2	N 6・B 6	24	0.44	0.26	0.44
2	N 6・B 6	25	0.48	0.40	0.58
2	N 6・B 6	26	0.64	0.50	0.72
2	N 6・B 6	27	0.64	0.44	0.32
2	N 6・B 6	28	—	0.42	0.51
2	N 6・C 6	1	0.60	—	0.54
2	N 6・C 6	2	0.58	0.46	0.78
2	N 6・C 6	3	—	0.60	0.34
2	N 6・C 6	4	0.46	0.38	0.67
2	N 6・C 6	5	0.40	0.32	0.36
2	N 6・C 6	6	0.66	0.42	0.56
2	N 6・C 6	7	—	0.52	0.44
2	N 6・C 6	8	0.48	0.39	0.54
2	N 6・C 6	9	0.26	0.24	0.17
2	N 6・C 6	10	0.58	0.54	0.26
2	N 6・C 6	11	0.66	0.42	0.94
2	N 6・C 6	12	0.40	0.34	0.42
2	N 6・C 6	13	0.56	0.56	0.92
2	N 6・C 6	14	0.57	0.44	1.01
2	N 6・C 6	15	0.22	0.19	0.22
2	N 6・C 6	16	0.56	0.40	0.53
2	N 6・C 6	17	0.64	0.57	0.64
2	N 6・C 6	18	0.60	0.56	0.16
2	N 6・C 6	19	0.35	0.32	0.31
2	N 6・C 6	20	0.38	0.35	0.12
2	N 6・C 6	21	—	0.37	0.39

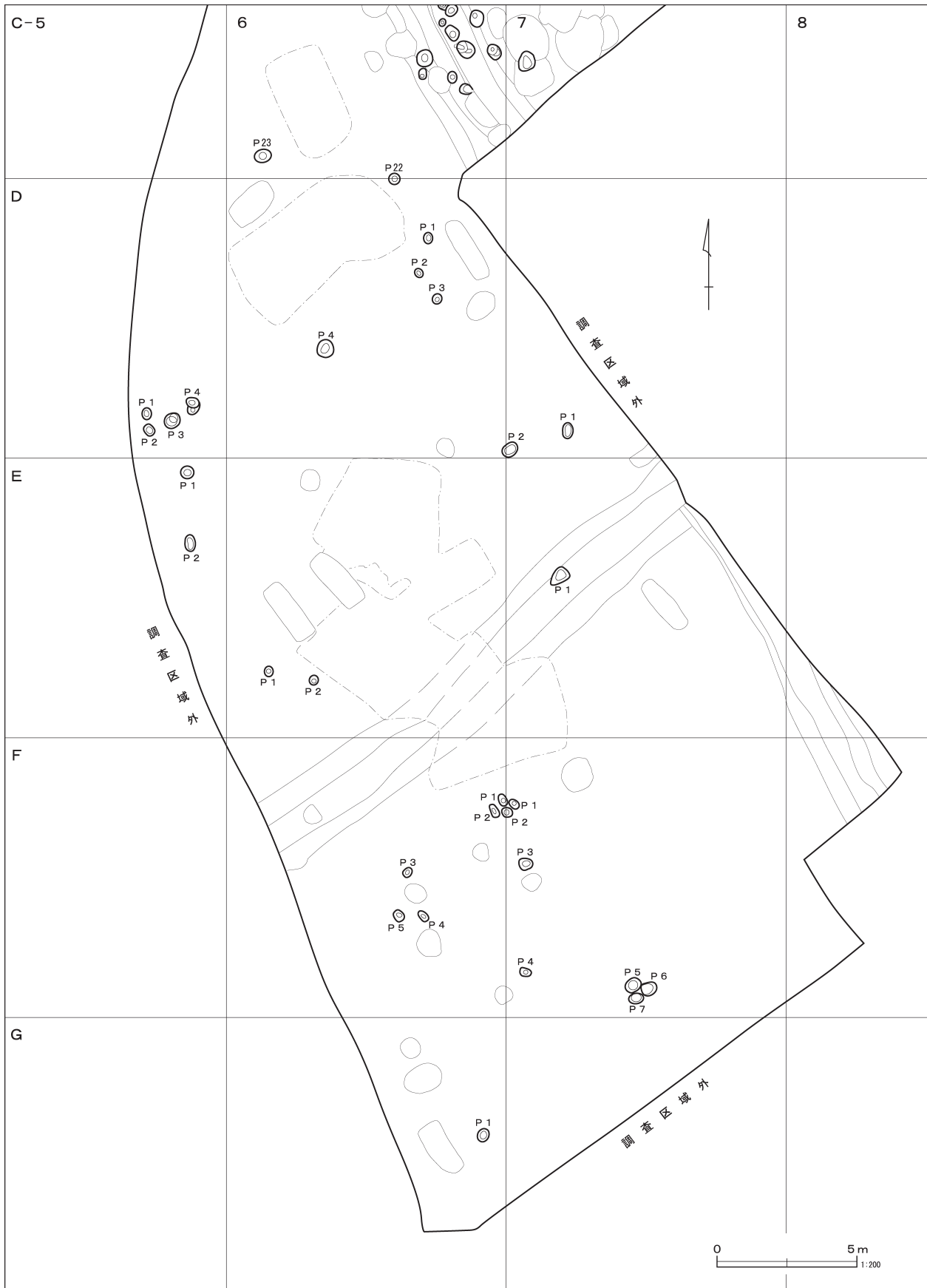
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6・C 6	22	0.39	0.36	0.33
2	N 6・C 6	23	0.56	0.50	0.21
2	N 6・C 6	24	—	0.62	0.24
2	N 6・C 6	25	0.64	0.32	0.25
2	N 6・C 6	26	0.46	0.38	0.15
2	N 6・C 6	27	0.34	0.39	0.27
2	N 6・C 6	28	0.53	0.33	0.39
2	N 6・C 6	29	0.52	0.35	0.24
2	N 6・C 6	30	0.46	0.34	0.27
2	N 6・C 6	31	0.48	0.34	0.84
2	N 6・C 6	32	0.41	0.30	0.31
2	N 6・D 6	1	0.34	0.34	0.18
2	N 6・D 6	2	0.35	0.26	0.20
2	N 6・D 6	3	0.34	0.30	0.24
2	N 6・D 6	4	0.58	0.56	0.33
2	N 6・E 6	1	0.30	0.24	0.48
2	N 6・E 6	2	0.30	0.24	0.36
2	N 6・F 6	1	0.46	0.26	0.72
2	N 6・F 6	2	0.52	0.30	0.60
2	N 6・F 6	3	0.33	0.30	0.37
2	N 6・F 6	4	0.42	0.29	0.37
2	N 6・F 6	5	0.41	0.40	0.41
2	N 6・G 6	1	0.44	0.40	0.12
2	M 6・J 7	3	0.24	0.24	0.05
2	M 6・J 7	4	0.34	0.34	0.18
2	M 6・J 7	6	0.40	0.28	0.20
2	M 6・J 7	7	0.68	0.28	0.26
2	M 6・J 7	8	0.56	0.44	0.25
2	M 6・J 7	9	0.44	—	0.19
2	N 6・A 7	1	0.54	0.44	0.17
2	N 6・A 7	2	0.44	0.28	0.38
2	N 6・A 7	3	0.76	0.76	0.49
2	N 6・A 7	4	0.54	0.34	0.39
2	N 6・A 7	5	0.44	0.36	0.36
2	N 6・A 7	6	0.32	0.26	0.17
2	N 6・A 7	7	0.56	0.38	0.31
2	N 6・A 7	8	0.32	0.32	0.24
2	N 6・A 7	9	0.34	0.26	0.32
2	N 6・A 7	10	0.44	0.34	0.23
2	N 6・A 7	11	0.34	0.28	0.35
2	N 6・A 7	12	0.40	0.38	0.21
2	N 6・A 7	13	0.46	0.28	0.36
2	N 6・A 7	14	0.46	0.38	0.28
2	N 6・A 7	15	0.44	0.40	0.26

第2・3地点

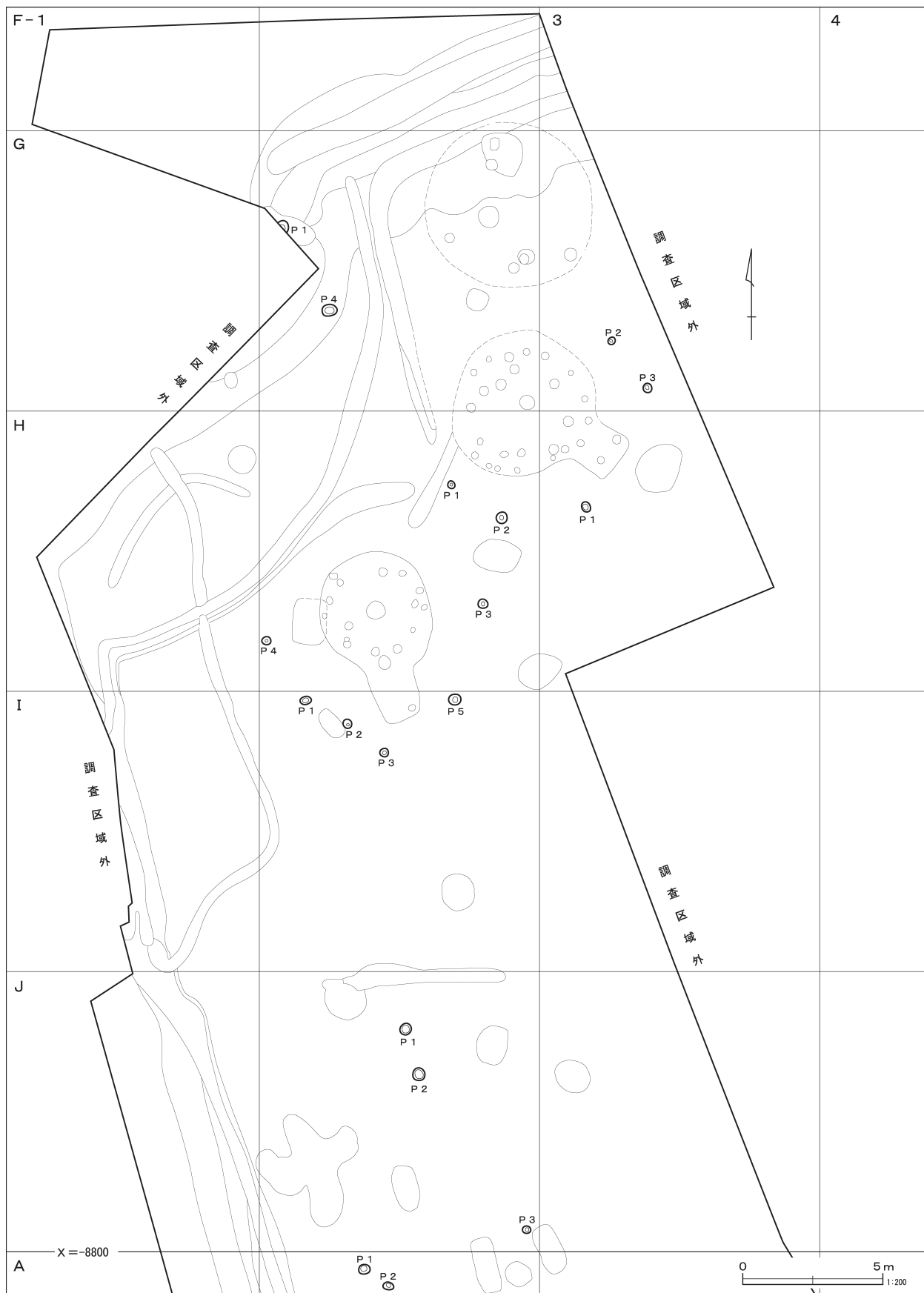
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6・A 7	16	0.34	0.32	0.29	2	N 6・B 7	24	—	0.44	0.02
2	N 6・A 7	17	0.42	—	0.38	2	N 6・B 7	25	0.46	—	0.60
2	N 6・A 7	18	0.28	—	0.16	2	N 6・B 7	26	0.44	—	0.55
2	N 6・A 7	19	0.34	0.18	0.13	2	N 6・B 7	28	—	0.40	0.40
2	N 6・A 7	20	0.50	0.36	0.29	2	N 6・B 7	29	0.52	0.42	0.66
2	N 6・A 7	21	0.58	0.38	0.31	2	N 6・B 7	30	0.64	0.46	0.62
2	N 6・A 7	22	0.52	0.38	0.25	2	N 6・B 7	31	0.40	0.28	0.48
2	N 6・A 7	23	0.52	0.34	0.20	2	N 6・B 7	32	0.36	0.32	0.16
2	N 6・A 7	24	0.38	0.28	0.27	2	N 6・B 7	33	0.30	0.28	0.18
2	N 6・A 7	25	0.44	0.38	0.34	2	N 6・B 7	34	0.30	0.26	0.28
2	N 6・A 7	26	0.30	—	0.22	2	N 6・B 7	35	0.20	0.18	0.09
2	N 6・A 7	27	0.44	0.28	0.51	2	N 6・B 7	36	0.28	0.28	0.21
2	N 6・A 7	28	0.48	—	0.26	2	N 6・B 7	37	0.34	0.24	0.16
2	N 6・A 7	29	0.28	0.26	0.38	2	N 6・B 7	39	0.54	0.44	0.77
2	N 6・A 7	31	0.44	—	0.21	2	N 6・B 7	40	0.34	0.32	0.41
2	N 6・A 7	32	0.38	—	0.20	2	N 6・B 7	41	0.50	0.36	0.45
2	N 6・A 7	33	0.32	0.30	0.33	2	N 6・B 7	42	0.64	0.42	0.14
2	N 6・A 7	34	0.36	0.32	0.16	2	N 6・B 7	43	0.26	0.22	0.15
2	N 6・A 7	35	0.34	—	0.27	2	N 6・B 7	44	0.36	0.30	0.27
2	N 6・A 7	36	0.38	—	0.36	2	N 6・B 7	45	0.42	0.32	0.30
2	N 6・A 7	37	0.56	0.36	0.34	2	N 6・B 7	46	0.44	0.34	0.44
2	N 6・A 7	38	0.38	0.28	0.51	2	N 6・B 7	47	0.65	0.34	0.44
2	N 6・A 7	40	0.42	0.38	0.29	2	N 6・B 7	48	0.60	0.43	0.27
2	N 6・A 7	42	0.64	0.64	0.68	2	N 6・B 7	49	0.46	0.30	0.34
2	N 6・B 7	1	0.42	0.42	0.34	2	N 6・B 7	50	0.43	0.32	0.33
2	N 6・B 7	2	0.60	0.46	0.64	2	N 6・B 7	51	0.27	0.21	0.27
2	N 6・B 7	3	0.56	0.38	0.53	2	N 6・B 7	52	0.37	0.31	0.16
2	N 6・B 7	4	0.88	0.56	0.40	2	N 6・B 7	53	0.42	—	0.41
2	N 6・B 7	5	0.62	0.56	0.10	2	N 6・B 7	54	0.44	0.34	0.42
2	N 6・B 7	6	0.92	0.74	0.42	2	N 6・B 7	55	0.24	0.24	0.25
2	N 6・B 7	7	0.76	0.62	0.21	2	N 6・C 7	1	0.56	0.46	0.24
2	N 6・B 7	8	0.22	0.18	0.27	2	N 6・C 7	2	0.32	0.30	0.22
2	N 6・B 7	9	0.32	0.24	0.32	2	N 6・C 7	3	0.50	0.42	0.43
2	N 6・B 7	10	0.44	0.42	0.32	2	N 6・C 7	4	0.59	0.50	0.23
2	N 6・B 7	11	0.56	0.54	0.46	2	N 6・C 7	5	0.52	0.36	0.32
2	N 6・B 7	12	0.24	0.24	0.40	2	N 6・C 7	6	0.63	0.45	0.44
2	N 6・B 7	13	0.24	0.22	0.15	2	N 6・C 7	7	0.83	0.50	0.72
2	N 6・B 7	15	0.66	0.64	0.23	2	N 6・C 7	8	0.72	0.57	0.31
2	N 6・B 7	16	0.54	—	0.35	2	N 6・D 7	1	0.56	0.36	0.14
2	N 6・B 7	17	0.56	0.44	0.55	2	N 6・D 7	2	0.58	0.43	0.19
2	N 6・B 7	18	0.44	0.40	0.41	2	N 6・E 7	1	0.63	0.46	0.32
2	N 6・B 7	19	0.24	0.18	0.10	2	N 6・F 7	1	0.42	0.38	1.01
2	N 6・B 7	20	0.46	0.46	0.46	2	N 6・F 7	2	0.39	0.34	0.70
2	N 6・B 7	21	0.34	0.28	0.53	2	N 6・F 7	3	0.56	0.46	0.31



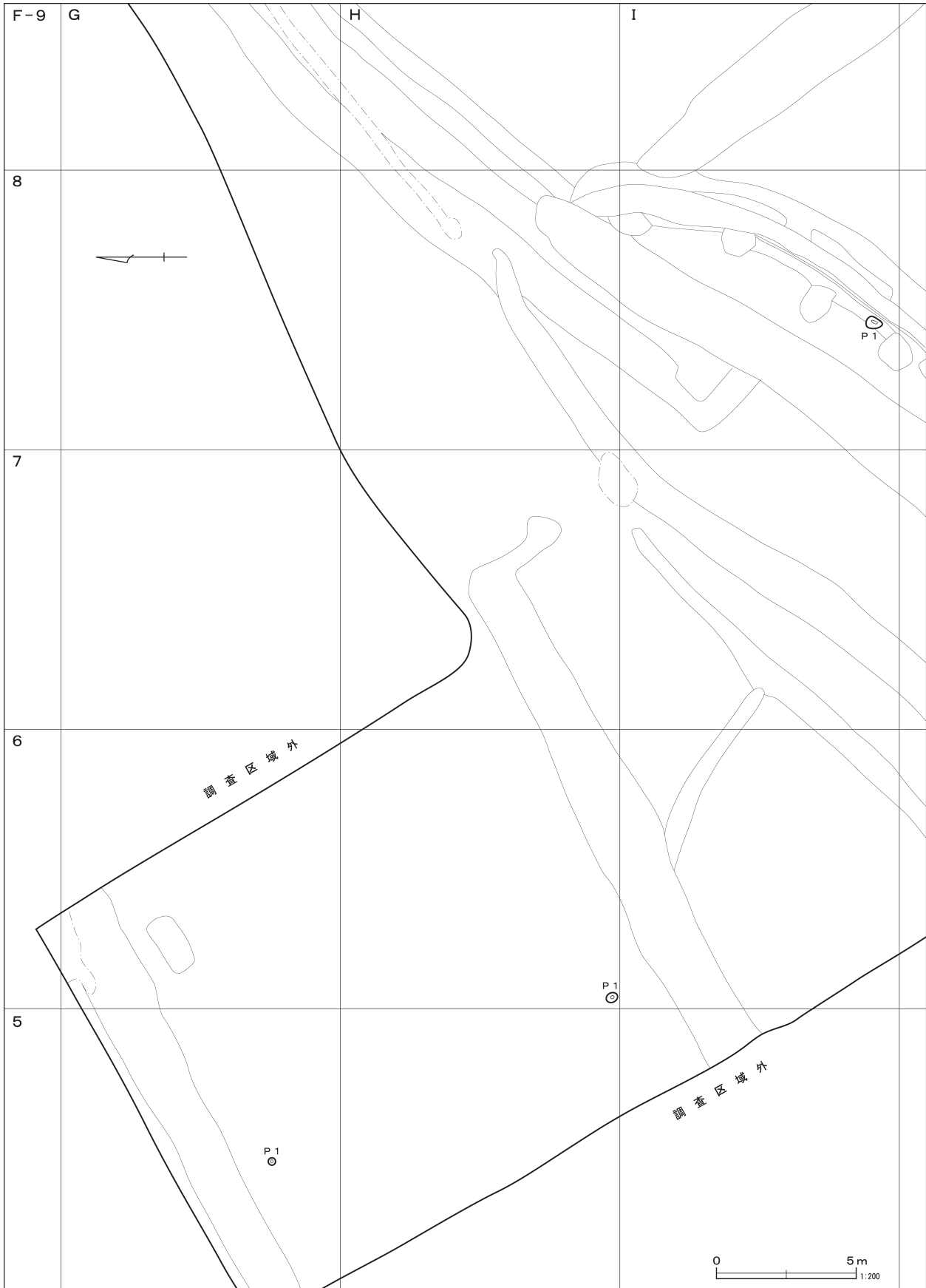
第181図 ピット (1)



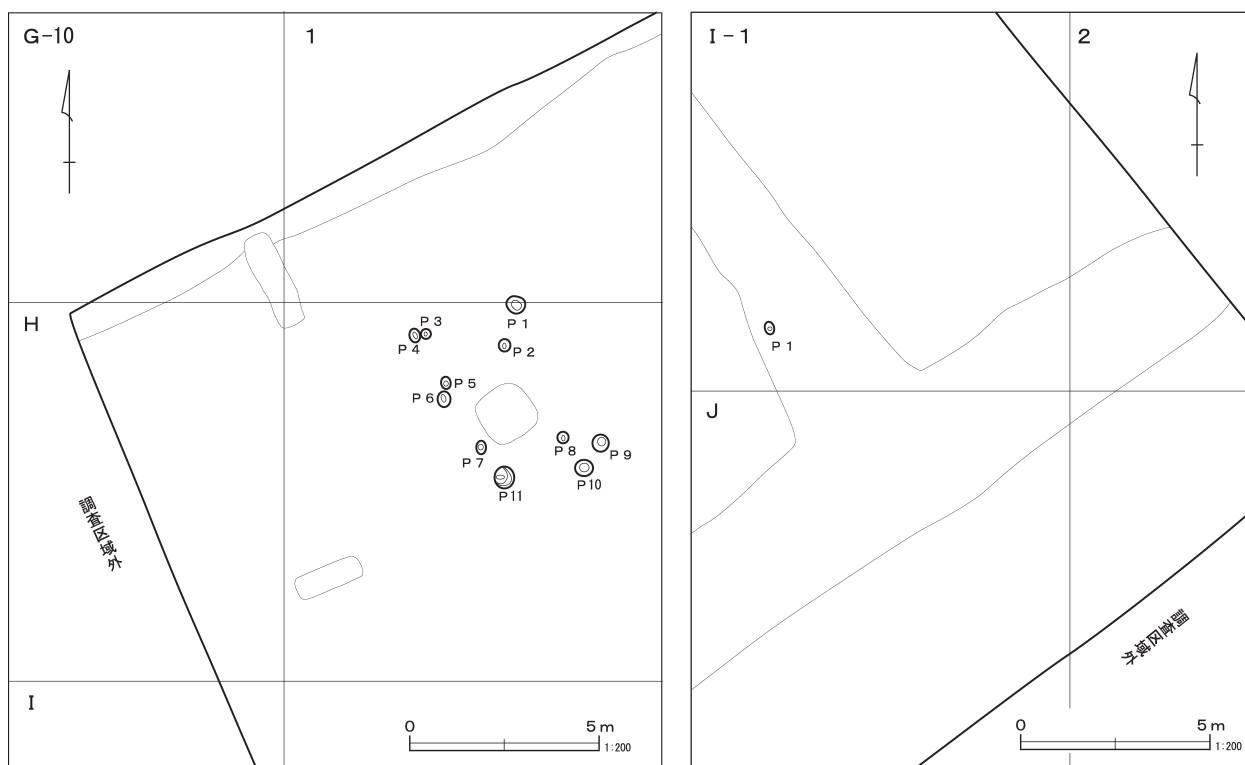
第182図 ピット (2)



第183図 ピット (3)



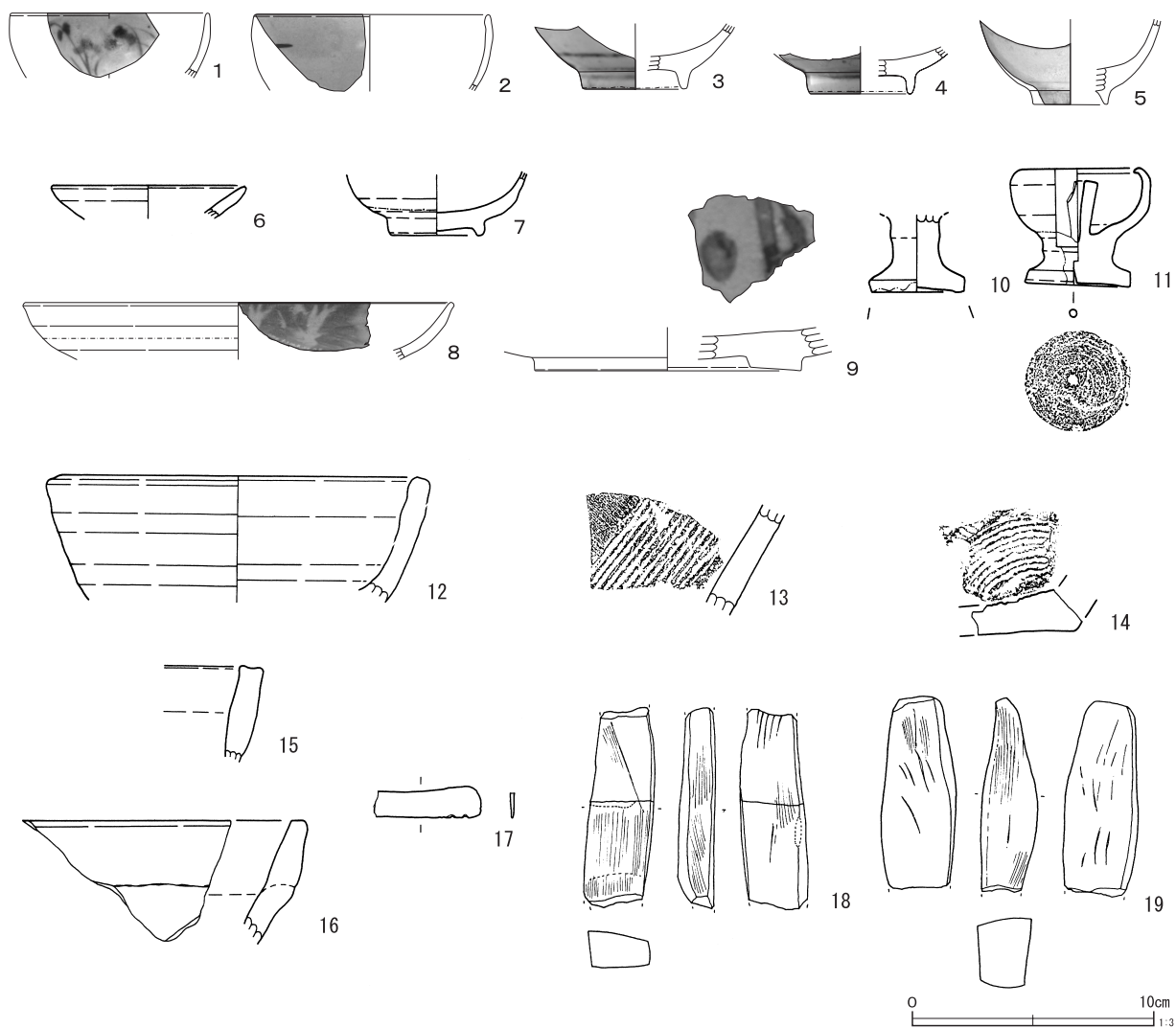
第184図 ピット（4）



第185図 ピット (5)

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6 ・ F 7	4	0.38	0.29	0.13
2	N 6 ・ F 7	5	0.57	0.48	0.25
2	N 6 ・ F 7	6	0.56	0.52	0.16
2	N 6 ・ F 7	7	0.50	0.38	0.24
2	M 6 ・ I 8	1	0.56	0.32	0.26
2	M 6 ・ J 8	1	0.30	0.28	0.69
2	M 6 ・ J 8	2	0.26	0.24	0.34
2	M 6 ・ J 8	3	0.34	0.30	0.25
2	M 6 ・ J 8	4	0.30	0.26	0.32
2	N 6 ・ A 8	1	0.46	0.42	0.26
2	N 6 ・ A 8	2	0.32	0.30	0.50
2	N 6 ・ A 8	3	0.40	0.34	0.42
2	N 6 ・ A 8	4	0.36	0.36	0.29
2	N 6 ・ A 8	5	0.40	0.38	0.33
2	N 6 ・ A 8	6	0.40	0.32	0.13
2	N 6 ・ A 8	7	0.28	0.24	0.38
2	N 6 ・ A 8	10	0.54	0.52	0.20
2	N 6 ・ A 8	11	0.32	0.24	0.10
2	N 6 ・ A 8	12	0.30	0.22	0.11
2	N 6 ・ A 8	13	0.56	0.44	0.77
2	N 6 ・ A 8	14	0.24	0.24	0.05
2	N 6 ・ A 8	15	0.50	0.40	0.03
2	N 6 ・ B 8	1	0.93	0.76	0.62
2	N 6 ・ B 8	2	0.34	0.30	0.30

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
2	N 6 ・ B 8	3	0.38	0.38	0.24
2	N 6 ・ B 8	4	0.40	0.29	0.66
2	N 6 ・ B 8	5	0.32	0.29	0.21
2	N 6 ・ B 8	6	0.31	0.30	0.52
2	N 6 ・ B 8	7	0.50	0.28	0.21
2	N 6 ・ B 8	8	0.41	0.24	0.76
2	N 6 ・ B 8	9	0.38	0.26	0.42
2	N 6 ・ B 8	10	0.46	—	0.22
2	N 6 ・ B 8	11	0.54	0.30	0.54
2	N 6 ・ B 8	12	—	0.25	0.28
2	N 6 ・ A 9	1	0.50	0.46	0.36
2	N 6 ・ B 9	1	0.31	0.14	0.23
2	N 6 ・ B 9	2	0.37	0.31	0.29
2	M 6 ・ J 10	1	0.46	0.38	0.71
2	M 6 ・ J 10	2	0.34	0.30	0.18
2	M 6 ・ J 10	3	0.24	0.18	0.22
2	N 6 ・ A 10	1	0.28	0.24	0.40
2	N 6 ・ B 10	1	0.31	0.27	0.22
2	N 6 ・ B 10	2	0.41	0.34	0.32
2	N 6 ・ B 10	3	0.27	0.25	0.18
2	N 6 ・ B 10	4	0.44	0.33	0.14
2	N 6 ・ B 10	5	0.28	0.24	0.25
2	M 7 ・ I 1	1	0.24	0.22	0.40



第186図 グリッド出土遺物

第17表 グリッド出土遺物観察表

番号	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の特徴	文様	備考
1	磁器	碗	肥前	15	(8.2)		(2.7)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		草文	二次的被熱か 18C前~中
2	陶器	碗	京・信楽	10	(9.8)		(3.3)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	鉄絵	貫入多	18C
3	磁器	碗	肥前	40		(4.4)	(2.8)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		高台内に砂粒付着 18C前~中
4	磁器	碗	肥前	30		(4.2)	(2.0)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	貫入多	18C
5	磁器	碗	肥前	20		(3.1)	(3.5)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		二次的被熱か 18C
6	土器	かわらけ		5	(7.9)		(1.4)	にぶい橙	普通		轆轤			
7	陶器	碗	瀬戸・美濃	80		3.8	2.5	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	貫入多	18C
8	陶器	皿	肥前	5	(18.0)		(2.4)	にぶい赤褐	良好	透明釉 白化粧土	轆轤			内面打刷毛目 17C末~18C前半
9	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			(1.2)	灰白 微砂粒	普通	灰釉・透明 呉須・鉄釉	轆轤	削り出し高台	貫入多	石皿 19C前半
10	磁器	仏飯具か		85		3.8	(3.2)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			19C前半
11	陶器	乗燭	瀬戸・美濃	95	4.8	4.3	4.8	灰白 緻密	良好	鉄釉	轆轤	貼付		たんころ 底部に軸孔孔径0.3cm 18C末~19C初
12	土器	碗		40	(14.8)		(5.1)	橙 緻密	普通		轆轤			砂粒微量 火入れか
13	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			(4.5)	灰白 緻密	良好	錆釉				卸目磨減 18C
14	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			(1.7)	黄橙 微砂粒	普通	錆釉	轆轤			卸目磨減 18C

番号	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 特微	文様	備考
15	土器	焙烙		5			[3.9]	灰褐	普通					
16	土器	焙烙		5			[5.0]	灰黄 緻密	普通					スス付着
17	鉄製品	小柄			A 4.4cm B 1.3cm C 0.2cm 重さ3.9g								緑錆	
18	石製品	砥石			長さ(7.92)cm 幅2.55cm 厚さ1.51cm 重さ48.8g 安山岩									
19	石製品	砥石			長さ(7.72)cm 幅2.26cm 厚さ2.98cm 重さ72.8g 安山岩									

VI 第4・6地点の遺構と遺物

1. 概要

第4・6地点は遺跡範囲の北西部、一般国道16号バイパスの北側に位置している。発掘調査は、第4地点は第2次調査、第6地点は第3次調査である。大木戸遺跡の範囲は南北約480m、東西約580mと広く、標高は東側が高く西側に向かって緩やかに低くなっている。調査区の西側は、滝沼川との標高差が約3～4mあり、そのまま荒川に向かって低地が広がっている。

北側の谷は、現在埼玉栄高校の校舎とグラウンドになっている。谷を挟んで台地は、駱駝の瘤のように西側と東側で北側に張り出している。第4・6地点はその西側の張出部分に当たる。

発掘調査前の状況は、陸田と畑地であった。

旧石器時代は、第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）で第4・6地点に隣接する地点で石器集中が検出されており、本調査区においても、検出される可能性が高いと想定した。調査の結果、石器集中1箇所が検出されたが、出土点数が少なく、定型的な石器が出土しなかったため、所属時期等の細かい検討はできなかった。

縄文時代は、第4地点を中心に後世の遺構覆土中から土器片等が多数出土した。遺構は住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土壇35基が検出された。住居跡は、遺存状態は悪く柱穴のみの検出であった。掘立柱建物跡は、柱穴の覆土が暗褐色土を呈し、近世の掘立柱建物跡とは区別された。

第6地点は、住居跡3軒が検出されたが炉跡のみで、遺物は殆ど出土しなかった。

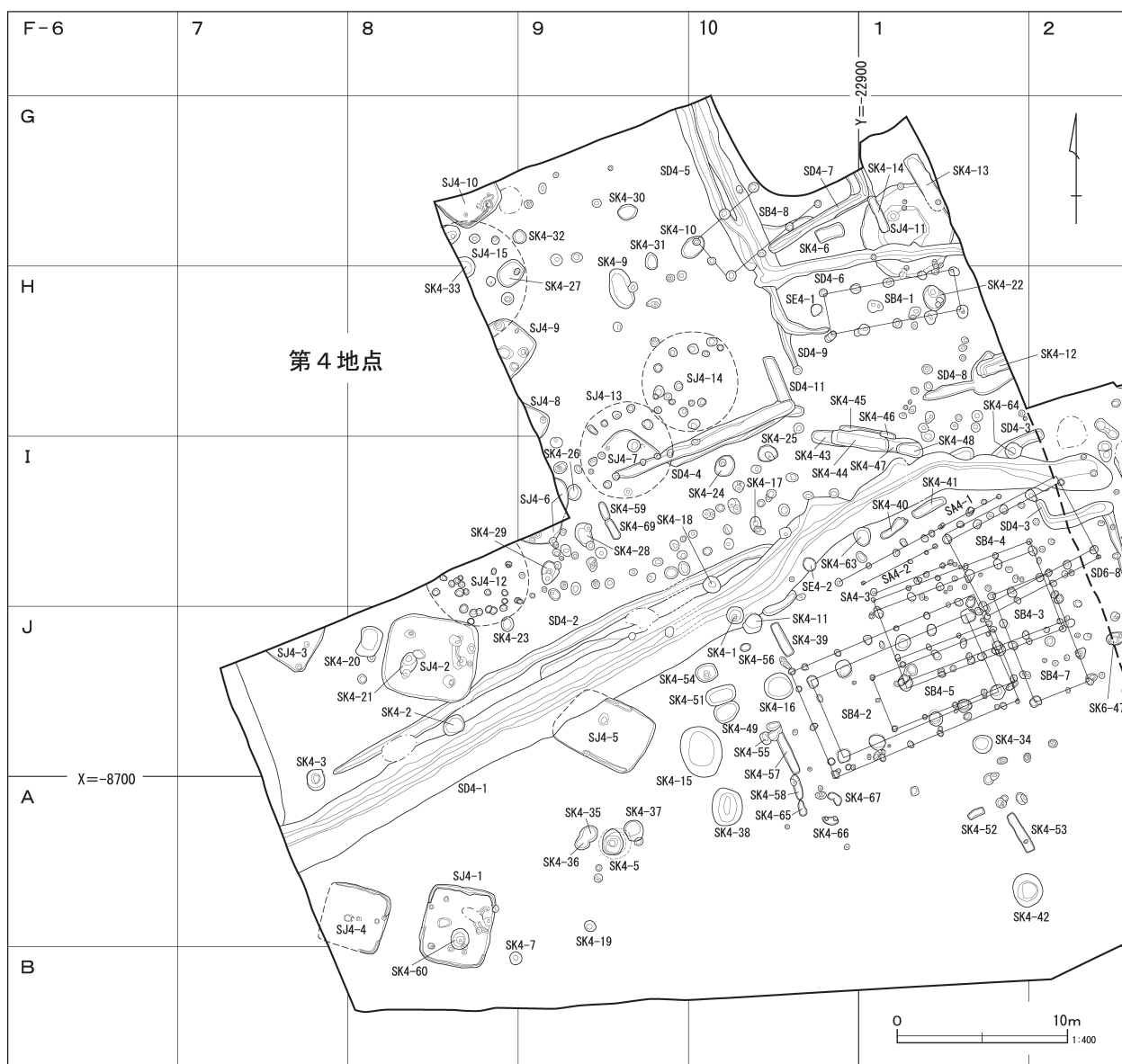
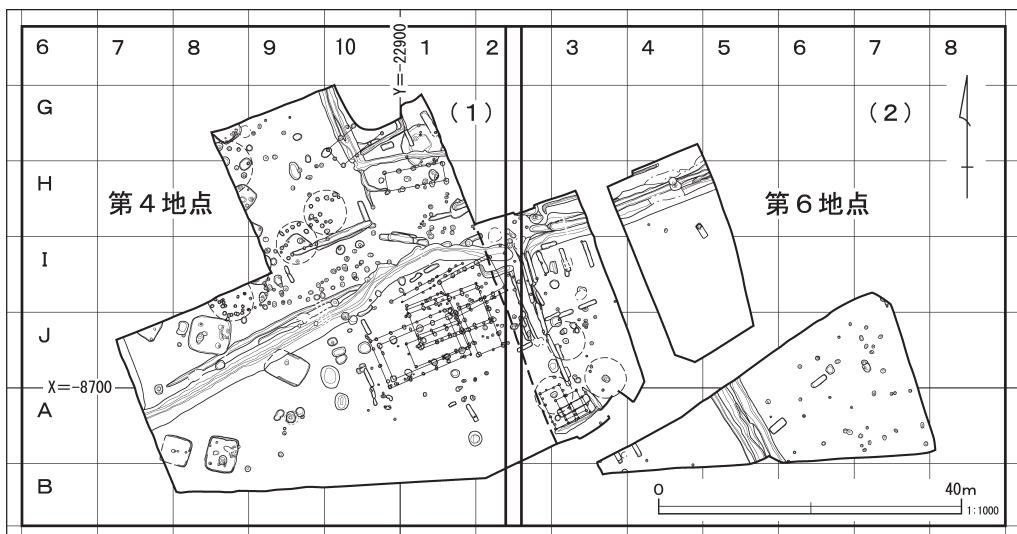
土壇は第4-3・10・19・31・37号土壇から完形に近い土器が出土している。

弥生時代は、第4地点から住居跡が11軒検出された。住居跡は調査区の西側に密集し、第6地点からは弥生時代の住居跡は確認されなかった。しかし、第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）で、第6地点の南側部分から住居跡1軒が検出されており、住居跡のまとまりが幾つかあった可能性が高い。

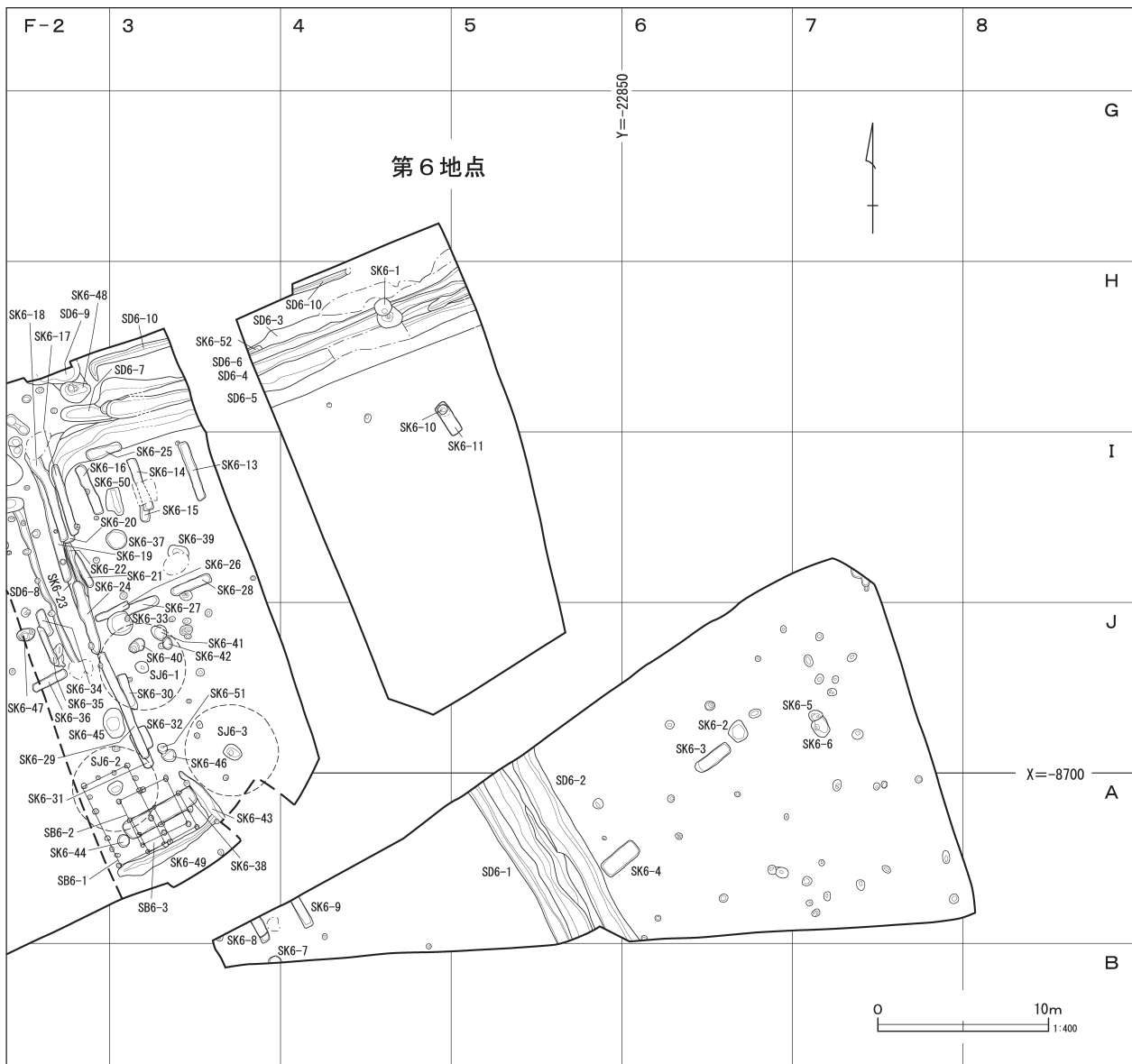
住居跡は、調査区外に延びるものや、後世の溝跡等によって一部壊されているものが多く、完全に調査できたのは2軒のみである。住居跡の形状は、コーナーがやや丸くなる方形及び長方形で4本柱が基本であったと思われる。貯蔵穴は、東壁に位置するのが第4-1・2号住居跡、南東に位置するのが第4-10号住居跡である。また、壁面に近くから入り口部敷設に関連すると考えられる、小穴が検出されたのは、第4-1・2・4・6・9・10号住居跡である。その内、第4-1・2・10号住居跡は貯蔵穴の近くにあり、蓋然性が高いと思われるが、第4-6号住居跡に関しては、他の住居跡と主軸方位が異なり、検討の必要がある。

近世は、第1・5・7地点と同じく、台地の張出部を切り取るように、溝跡が東西方向に掘られている。

掘立柱建物跡群は、東西方向に走る大溝がくの字状に曲がる部分に位置し、何回かの建て替えが行われていたことが窺える。柵列が伴っている。



第187图 第4・6地点全体图(1)



第188图 第4・6地点全体图(2)

2. 旧石器時代

旧石器時代の調査は、東西ラインを意識して、2×2mの小グリッドを調査区の北側に2箇所、南側に4箇所設定し、ローム層を掘り下げ調査を行った。

その結果、L6・J1、M6・A1、A2グリッドから石器集中1箇所を検出した。

ローム層の堆積状況は、ほぼ平坦である。第III層のソフトローム化は第V層第1暗色帯上部まで達しているが、第IV層はブロック状に確認することができる。第VI層を確認することができた。大木戸遺跡で第VI層の分離が可能な地点は少なく、最も標準層位に対比できる地点である。第2暗色帯は上下に分離することができた。

第4-1 石器集中 (第190図、第192図)

遺物はM6・A1グリッドを主体にM6・A2、

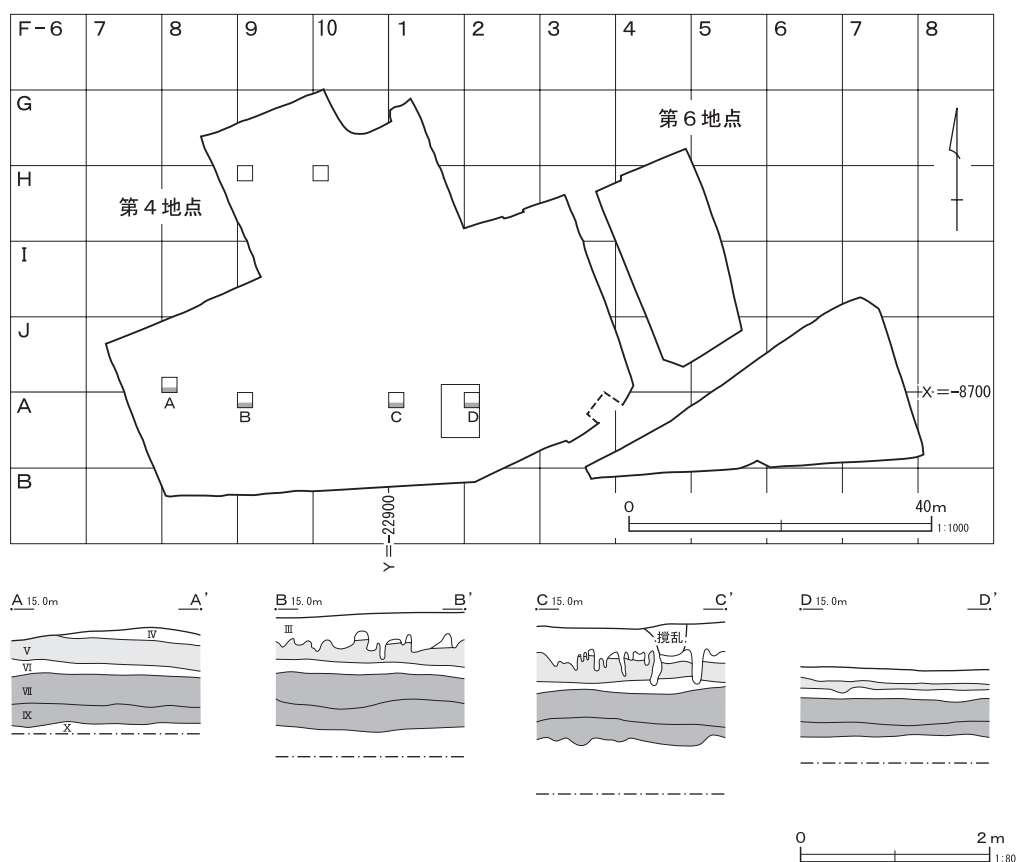
L6・J1グリッドにかけて、南北4.5m、東西3.5mの範囲に散漫に分布している。

石器点数は17点で、器種組成は搔・削器2点、石核1点、剥片4点、碎片9点である。石器石材は黒耀石が主体で10点、60%を占め、ガラス質黒色安山岩、硬質頁岩等が使われている。

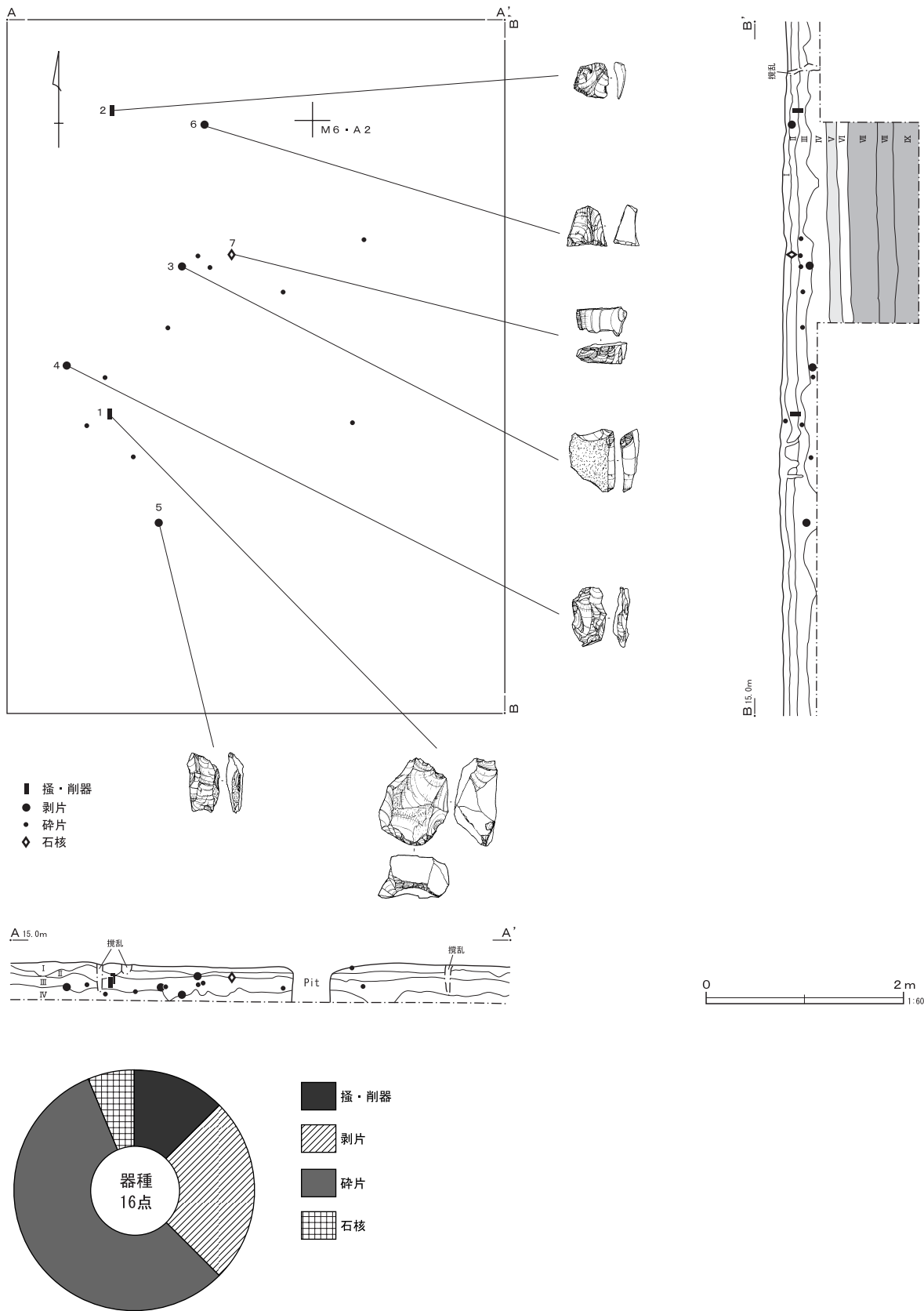
石器の出土層位は第III層から第IV層上面にかけてである。定型石器は少なく時期を特定できる資料は少ないが、1の硬質頁岩の搔器からナイフ形石器以降の、旧石器時代終末期の石器群と思われる。

出土石器 (第192図)

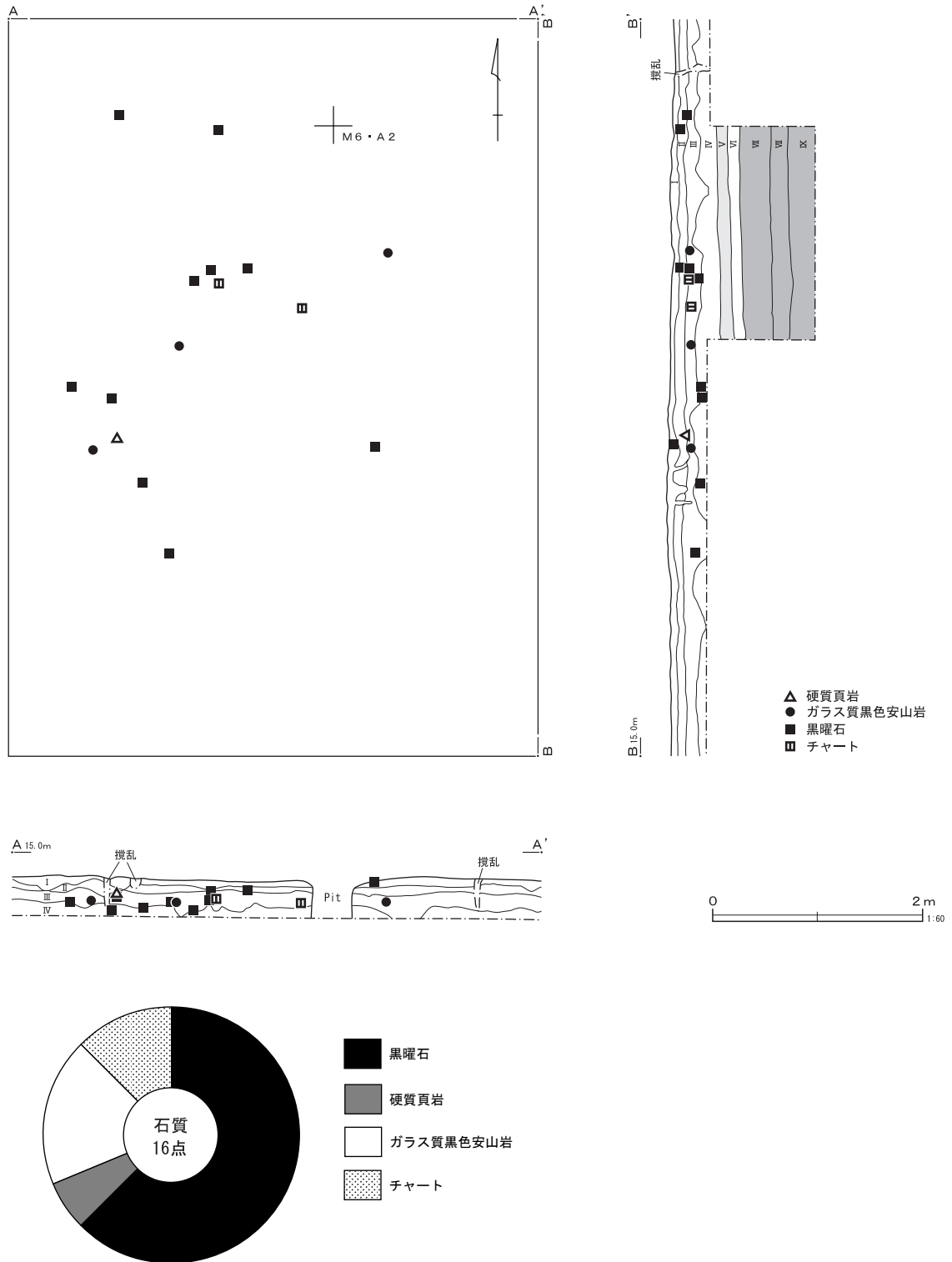
1は搔器である。外形は楕円形を呈し、横断面は台形である。刃部は下端を円形状に、比較的細かい剥離加工が施され、下面からは丸盤状に緩やかに湾曲している。石器石材は、暗灰黄色に縞状



第189図 第4・6地点旧石器調査区



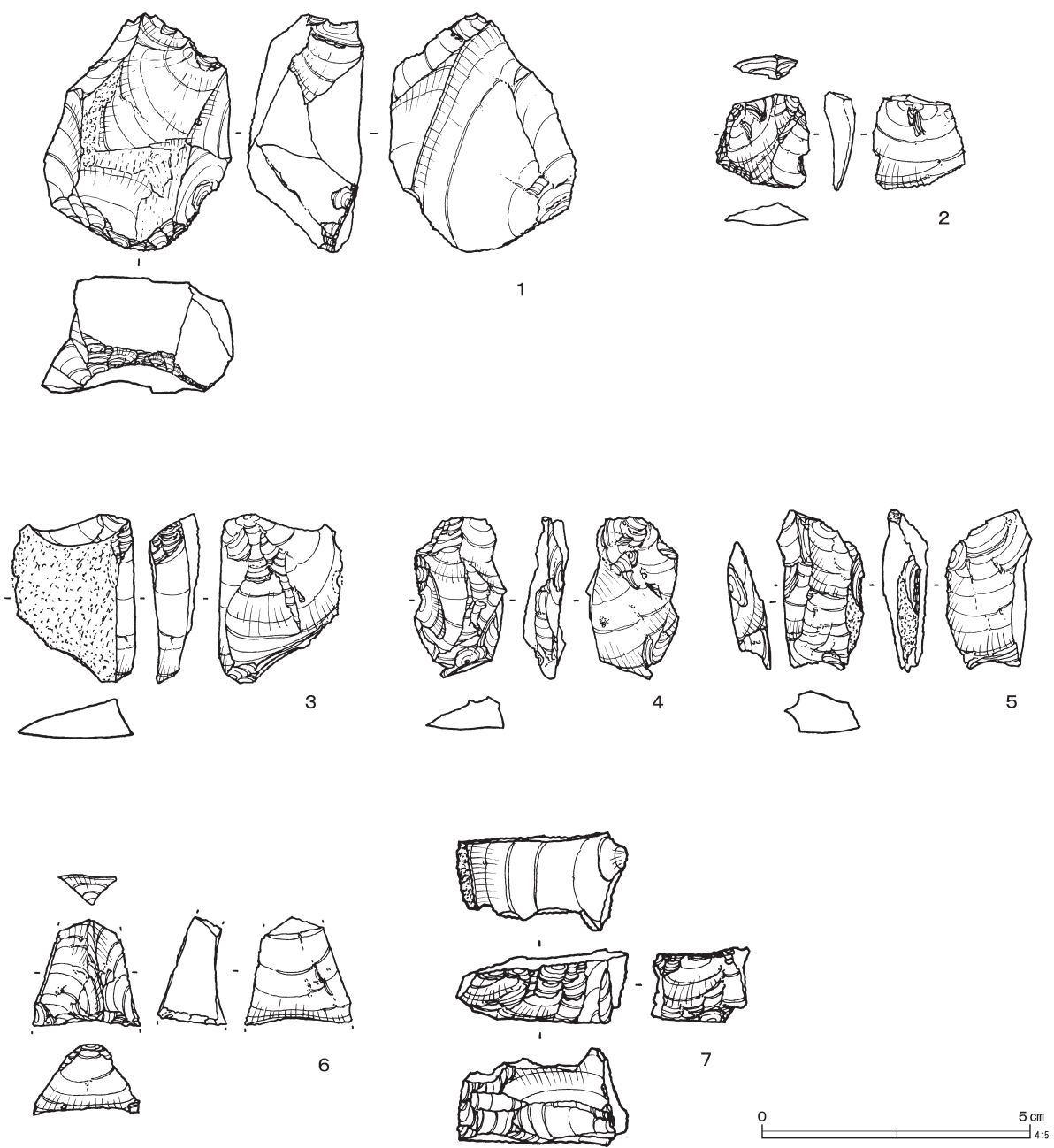
第190图 第4-1号石器集中(1)



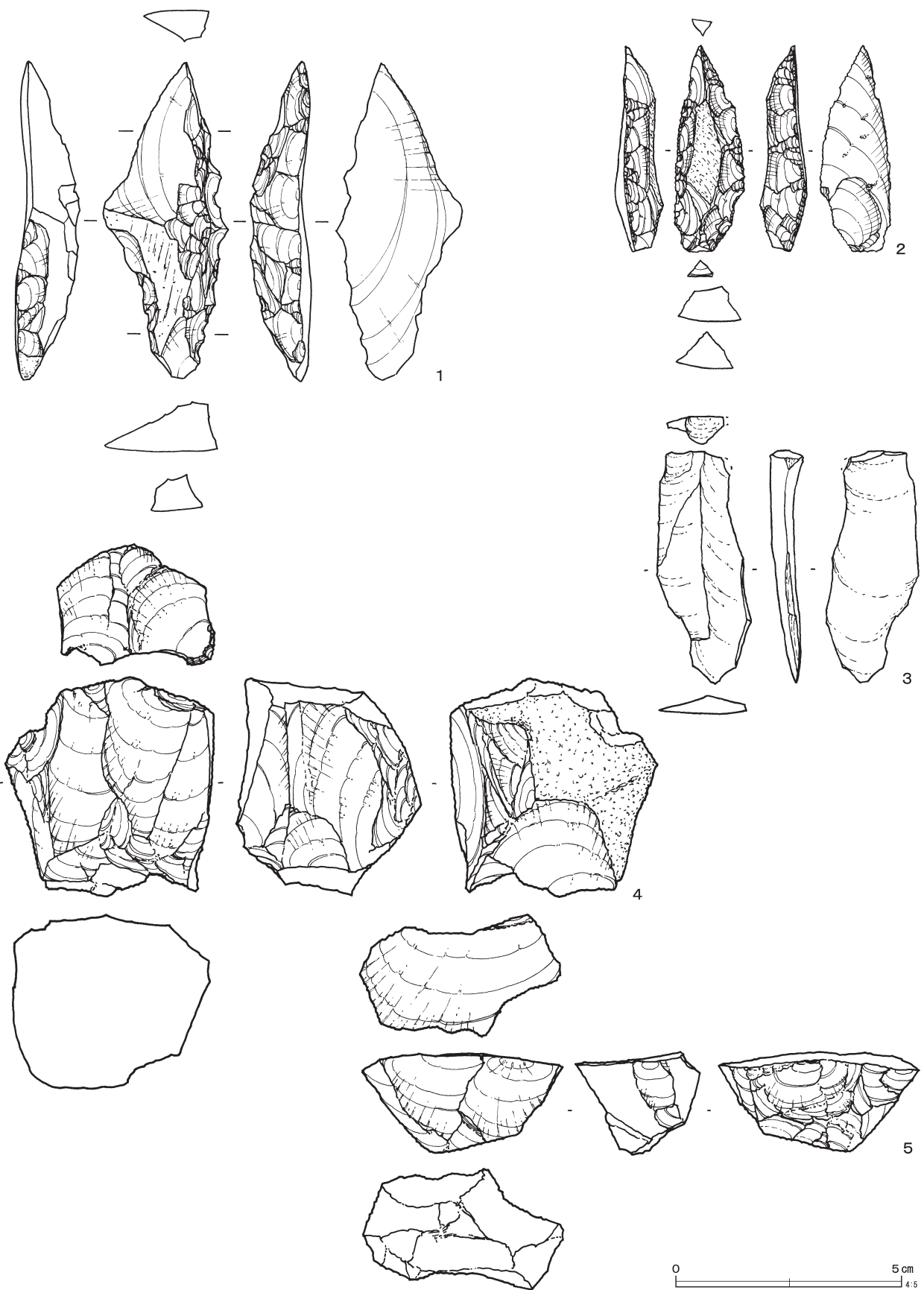
第191図 第4-1号石器集中(2)

に浅黄色が入る硬質頁岩が用いられている。石器の素材は厚手剥片であるが、正面及び側面の剥離面の状況から、石核利用の搔器と考えられる。正面の剥離面と右側面の剥離面が新しく前後関係は

明らかでないが、左側面を打面に、右側縁を作業面にする小口状の石核を意図していたと思われるが、思うような剥離は取れなかったようで、打面から1cm未満のところステップフレーキングを



第192图 第4-1号石器集中出土遗物



第193図 グリッド出土石器

おこし石核としては諦め、搔器へ加工したと思われる。

2は小形横広剥片の一端に細かい調整加工が施されおり、削器として分類した。打面が厚く端部はフィンジを起こしている。

3～6は黒耀石の剥片である。3は正面に大きく自然面を残している。4と5は打面が潰れており、6は上半部を欠損している。いずれも剥片剥離の時点での破損と思われる、形状の整った剥片は作出されていなかったと思われる。

7は小形の石核と考えられる。上面の剥離面は凹面で、そこを打面に正面を作業面とし小形の剥片を何枚か剥がしている。

グリッド出土石器 (第193図)

1はナイフ形石器である。外形は切出状を呈し、素材は厚手横長剥片を右位に用いており、右刃である。横断面は、上半部は直角三角形直角、基部付近は台形状である。

右側縁の調整加工は、基端から先端まで急角度の規格的剥離が施されており、基部中央部で一部

対向剥離が施されている。側刃縁は右側縁よりひと回り小さい規格的剥離が施されている。

2は角錐状石器である。外形は両側縁が弧状を描き、細身で先端が鋭利な先端状を呈する。素材剥片は基部右側を打面とした厚手の剥片が用いられ、正面中央部に自然面を大きく残している。調整加工は両側縁とも急角度の規格的剥離で打面を除去し、横断面も台形状にしている。石器石材は良質の黒耀石が使われている。

3は縦長剥片である。風化が進んでおり細部は不明である。第6地点から出土した。

4・5はガラス質黒色安山岩の石核である。4は上面を単打面とし、正面の作業面の状況から幅広い縦長剥片を作出していたと思われる。5は分割面を打面とし、側縁から小形の幅広剥片を作出していたと思われる。石核の単独資料で、旧石器時代か縄文時代か判別は難しいが、第1次調査区でガラス質黒色安山岩を用いた旧石器時代の石器群が検出されており、何らかの関連性が想定される。

第18表 第4-1号石器集中・グリッド出土石器観察表

No.	遺構名	グリッド	遺物番号	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	図版No.
1	4-1石器集中	M6・A1	17	2.96	8.00	14.61	III	搔器	硬質頁岩	4.39	3.34	1.81	29.10	192-1
2	4-1石器集中	M6・A1	3	9.92	8.00	14.57	III	削器	黒耀石	1.75	1.70	0.55	1.20	192-2
3	4-1石器集中	M6・A1	5	1.48	8.71	14.47	III	剥片	黒耀石	3.15	2.40	0.85	4.90	192-3
4	4-1石器集中	M6・A1	13	2.50	7.57	14.45	III	剥片	黒耀石	1.70	1.70	0.70	3.40	192-4
5	4-1石器集中	M6・A1	19	4.05	8.50	14.52	III	剥片	黒耀石	2.85	(1.55)	0.80	3.70	192-5
6	4-1石器集中	M6・A1	2	0.05	8.93	14.64	III	剥片	黒耀石	(1.80)	(2.00)	1.25	3.30	192-6
7	4-1石器集中	M6・A1	8	1.37	9.22	14.64	III	石核	黒耀石	2.50	1.40	0.95	3.70	192-7
8	4-1石器集中	M6・A1	6	1.38	8.87	14.56	III	碎片	黒耀石	2.25	1.50	0.50	1.30	
9	4-1石器集中	M6・A1	7	1.49	8.99	14.56	III	碎片	チャート	(2.00)	0.90	0.35	0.60	
10	4-1石器集中	M6・A1	9	1.73	9.72	14.53	III	碎片	チャート	(2.05)	0.95	0.65	1.30	
11	4-1石器集中	M6・A1	10	1.20	0.53	14.55	III	碎片	ガラス質黒色安山岩	2.30	1.40	0.30	0.70	
12	4-1石器集中	M6・A1	14	2.60	7.95	14.44	III	碎片	黒耀石	1.70	1.70	0.30	0.40	
13	4-1石器集中	M6・A1	15	2.11	8.57	14.53	III	碎片	ガラス質黒色安山岩	2.50	1.10	0.75	1.50	
14	4-1石器集中	M6・A1	16	3.08	7.78	14.55	III	碎片	ガラス質黒色安山岩	1.00	1.50	0.70	0.60	
15	4-1石器集中	M6・A1	18	3.40	8.25	14.48	III	碎片	黒耀石	1.05	2.10	0.85	1.00	
16	4-1石器集中	M6・A1	20	3.03	0.42	14.72	III	碎片	黒耀石	1.90	1.60	0.65	1.40	
17		L6・J5	30					ナイフ形石器	黒色頁岩	6.97	2.61	1.05	14.10	193-1
18	SD1							角錐状石器	黒耀石	4.55	1.55	1.05	6.00	193-2
19		L6・J4	2					剥片	黒色頁岩	5.15	2.10	0.70	4.90	193-3
20	SD1							石核	ガラス質黒色安山岩	4.80	4.60	4.15	114.30	193-4
21	SD1							石核	ガラス質黒色安山岩	2.20	4.45	2.80	22.70	193-5

3. 縄文時代

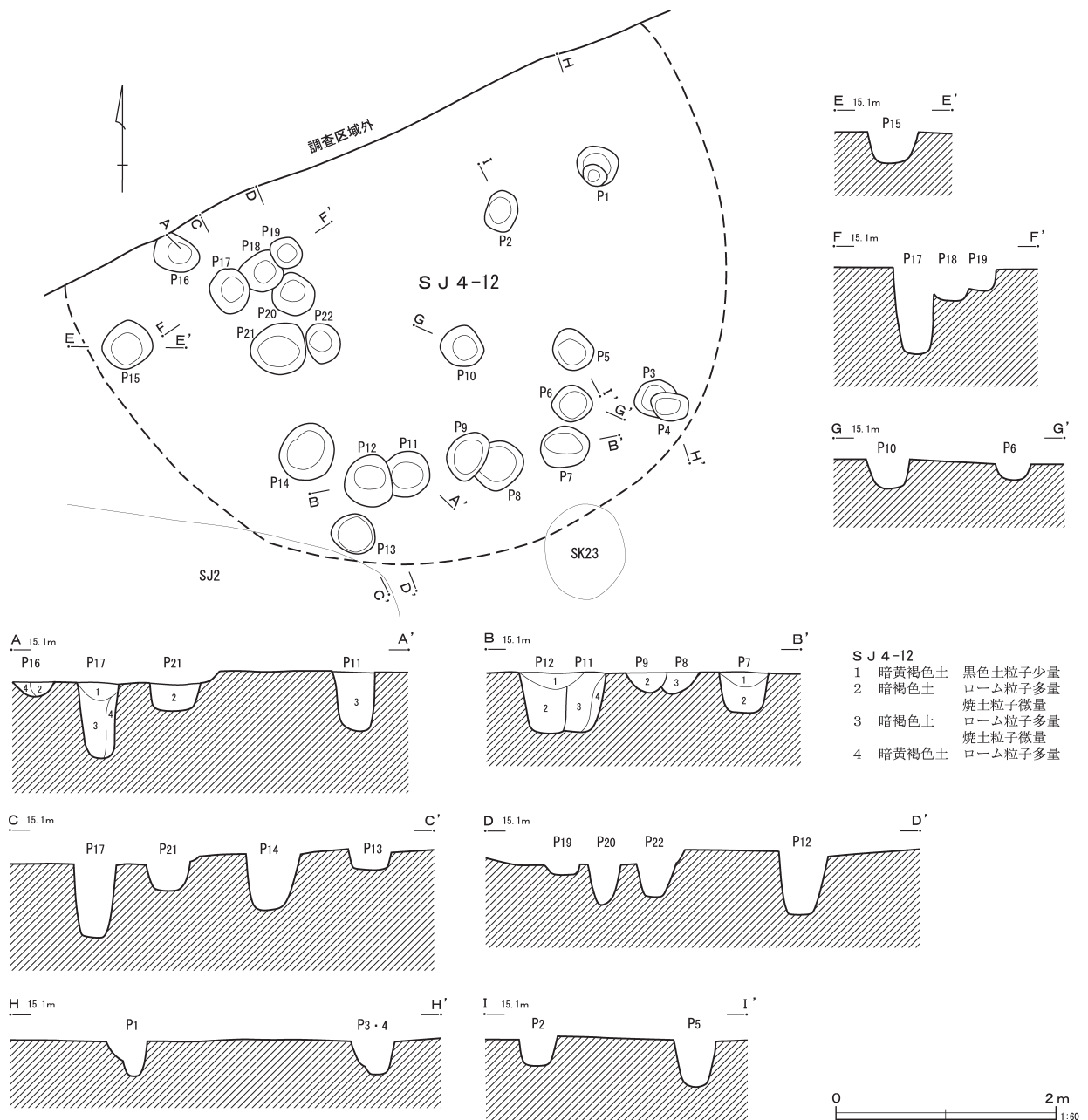
第4・6地点からは、縄文時代後期の住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土壇35基、縄文時代の集石土壇1基が検出された。

遺構の多くは調査区の北西側で検出され、その周辺の弥生時代の遺構や、近世の第4-1号溝跡内からも、縄文時代後期の遺物が多量に検出されていることから、縄文時代の遺構の範囲は第4地点の北西方向に続いていると考えられる。

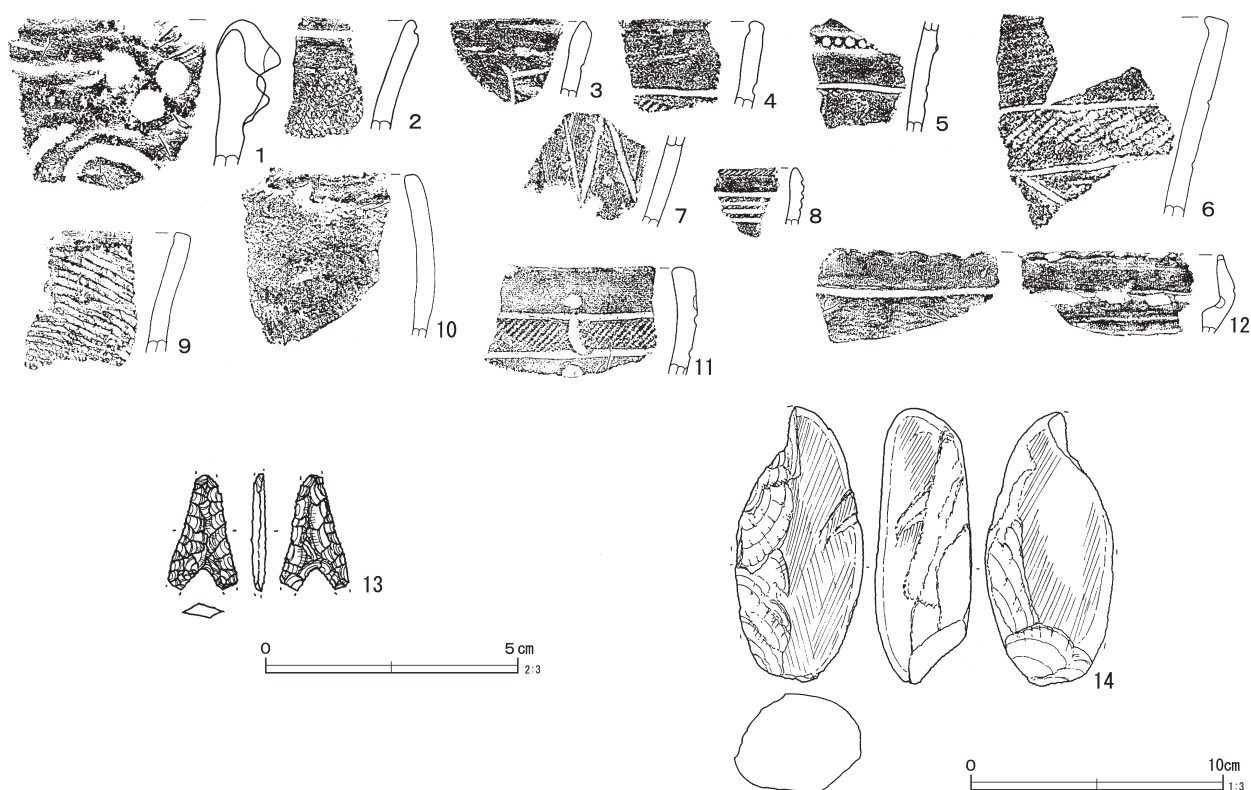
(1) 住居跡

第4-12号住居跡 (第194・195図)

L5・I8、9、J8グリッドに位置する。住居跡の北側3分の1程度が、調査区域外となり検出されなかった。住居跡の南側の一部で、弥生時代の第4-2号住居跡、第4-23号土壇と重複している。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は出土した遺物の時期から柄鏡形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。



第194図 第4-12号住居跡



第195図 第4-12号住居跡出土遺物

ピットの配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径5.90m、短径3.90mを測る。

ピットは、22本が検出された。深さはP 1 = 0.30m、P 2 = 0.25m、P 3 = 0.22m、P 4 = 0.30m、P 5 = 0.43m、P 6 = 0.14m、P 7 = 0.35m、P 8 = 0.20m、P 9 = 0.20m、P 10 = 0.27m、P 11 = 0.54m、P 12 = 0.55m、P 13 = 0.15m、P 14 = 0.55m、P 15 = 0.28m、P 16 = 0.13m、P 17 = 0.67m、P 18 = 0.18m、P 19 = 0.10m、P 20 = 0.35m、P 21 = 0.25m、P 22 = 0.30mである。

遺物は縄文土器、石器が出土している(第195図1～14)。

土器は後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B1式が出土した。

1～3は堀之内1式の深鉢形土器である。1は口縁部に1条沈線、円文を施し、体部は地文縄文上に沈線文を施す。2も口縁部に1条沈線を施し、

沈線下に縄文を施す。3は沈線文を施す。

4～6は朝顔形の深鉢形土器である。4、6は口縁部に隆帯を施さない。5は横位の隆帯を巡らせた口縁部近くの破片である。堀之内2式。

7は格子目文を施す深鉢形土器の胴部破片である。加曾利B1式である。

8、11は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に並行沈線を施す。加曾利B1式である。

9は器面全体に縄文、10は無文の深鉢形土器である。9・10は堀之内式と思われる。

12は浅鉢形土器で、口縁部を小波状とし、外面に横線が巡り内面に円文を施す。加曾利B1式である。

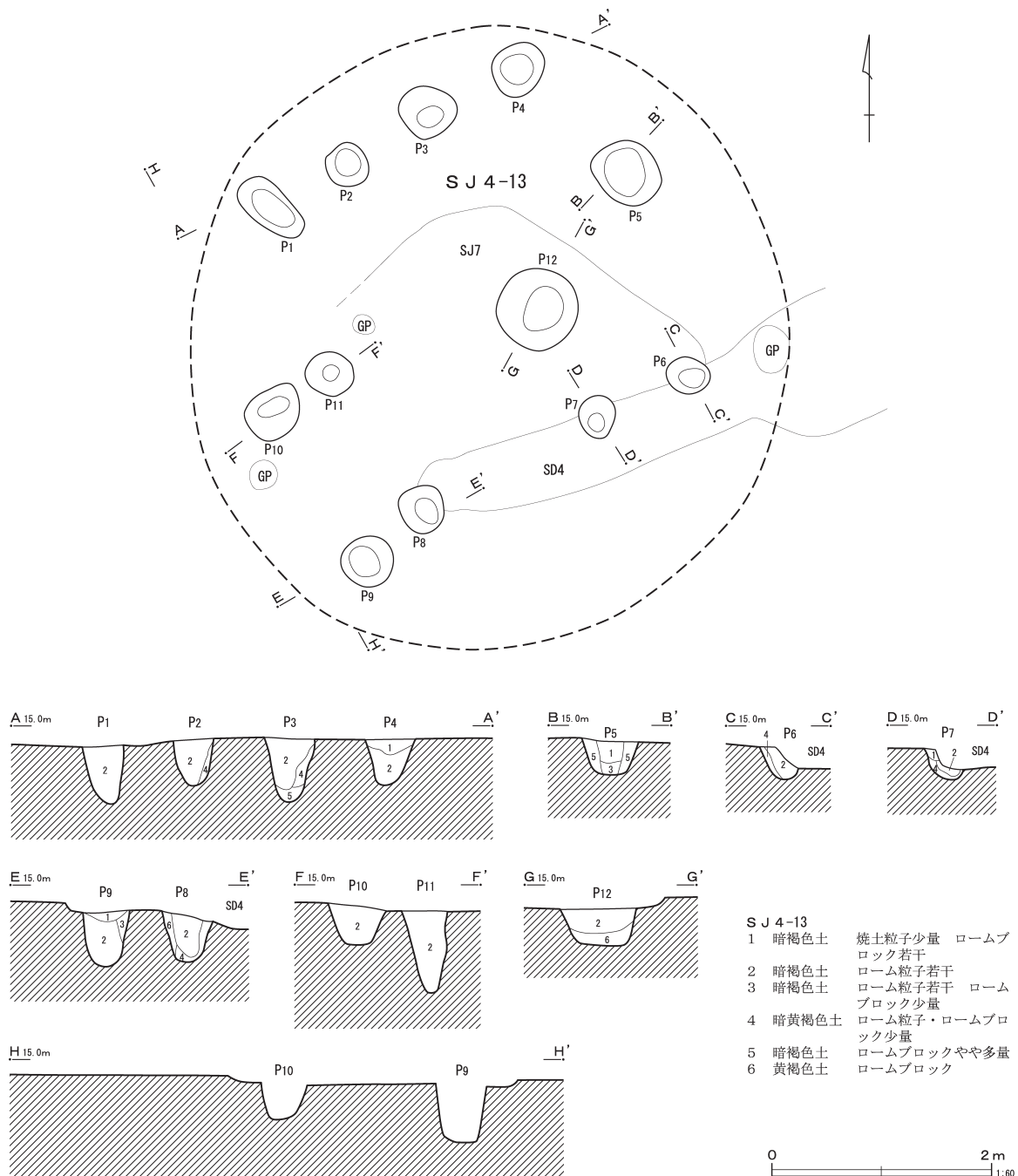
13・14は出土した石器である。13は無茎の石鎌で、基部には逆V字状に大きく抉りが入っている。14は敲石である。石器の周縁部分に敲打痕が認められる。

第4-13号住居跡 (第196・197図)

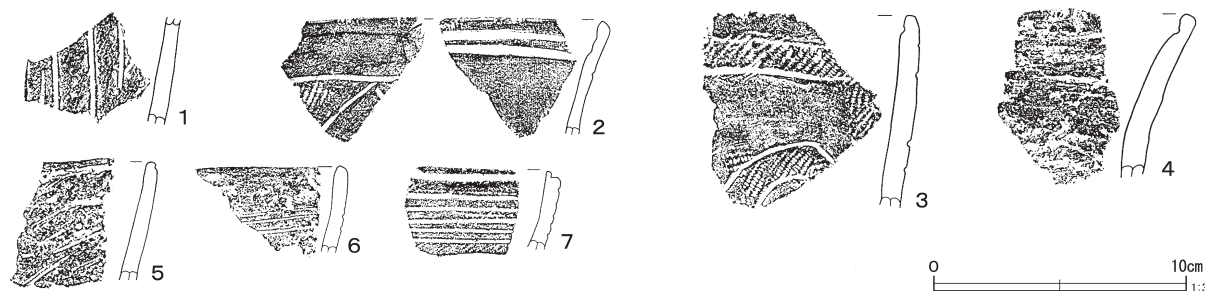
L5・H、I9グリッドに位置する。北東部分で第4-14号住居跡と接している。また弥生時代の第4-7号住居跡と大きく重複し、住居跡内南側には、近世の第4-4号溝跡が東西方向に横断している。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は、出土した遺物の時期から柄鏡

形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。ピットの配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径5.70m、短径5.55mを測る。

ピットは、12本が検出された。深さはP1=0.55m、P2=0.43m、P3=0.57m、P4=0.39m、P5=0.30m、P6=0.31m、P7=0.28m、



第196図 第4-13号住居跡



第197図 第4-13号住居跡出土遺物

P 8 = 0.50m、P 9 = 0.55m、P 10 = 0.35m、P 11 = 0.75m、P 12 = 0.38mである。

遺物は縄文時代後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B 1式土器が出土している（第197図1～7）。

1は沈線文を施した深鉢形土器の胴部破片である。堀之内1式と思われる。

2は朝顔形の深鉢形土器で、沈線内に縄文を充填施文する。口縁部内面に2条の沈線が巡る。3は直立気味にたちあがる形態の深鉢形土器である。沈線間に縄文を充填施文する。体部には曲線的なモチーフを施す。4は口縁部が外反する形態の深鉢形土器である。無文である。2～4は堀之内2式である。

5は擦痕、6は櫛歯状工具による文様を施す深鉢形土器である。堀之内式と思われる。

7は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に多条の並行沈線を施す。縄文を施文する。加曾利B 1式である。

第4-14号住居跡（第198・199図）

L 5・H 9、10グリッドに位置する。住居跡の南西側には、第4-13号住居跡が接して検出されている。掘り込みは確認されず、ピットのみが検出された。平面形は出土した遺物の時期から柄鏡形と考えられるが、張出部分は確認できなかった。

ピットの配置から主体部分は円形と推定され

る。推定される主体部の規模は、長径5.85m、短径5.65mを測る。

ピットは、15本が検出された。深さはP 1 = 0.20m、P 2 = 1.05m、P 3 = 0.63m、P 4 = 0.40m、P 5 = 0.49m、P 6 = 0.15m、P 7 = 0.60m、P 8 = 0.48m、P 9 = 0.47m、P 10 = 0.90m、P 11 = 0.45m、P 12 = 0.20m、P 13 = 0.39m、P 14 = 0.44m、P 15 = 0.27mである。

出土遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内式が出土している（第199図1～8）。

1は深鉢形土器の口縁部破片で、3条の沈線下に縄文を施す。2は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

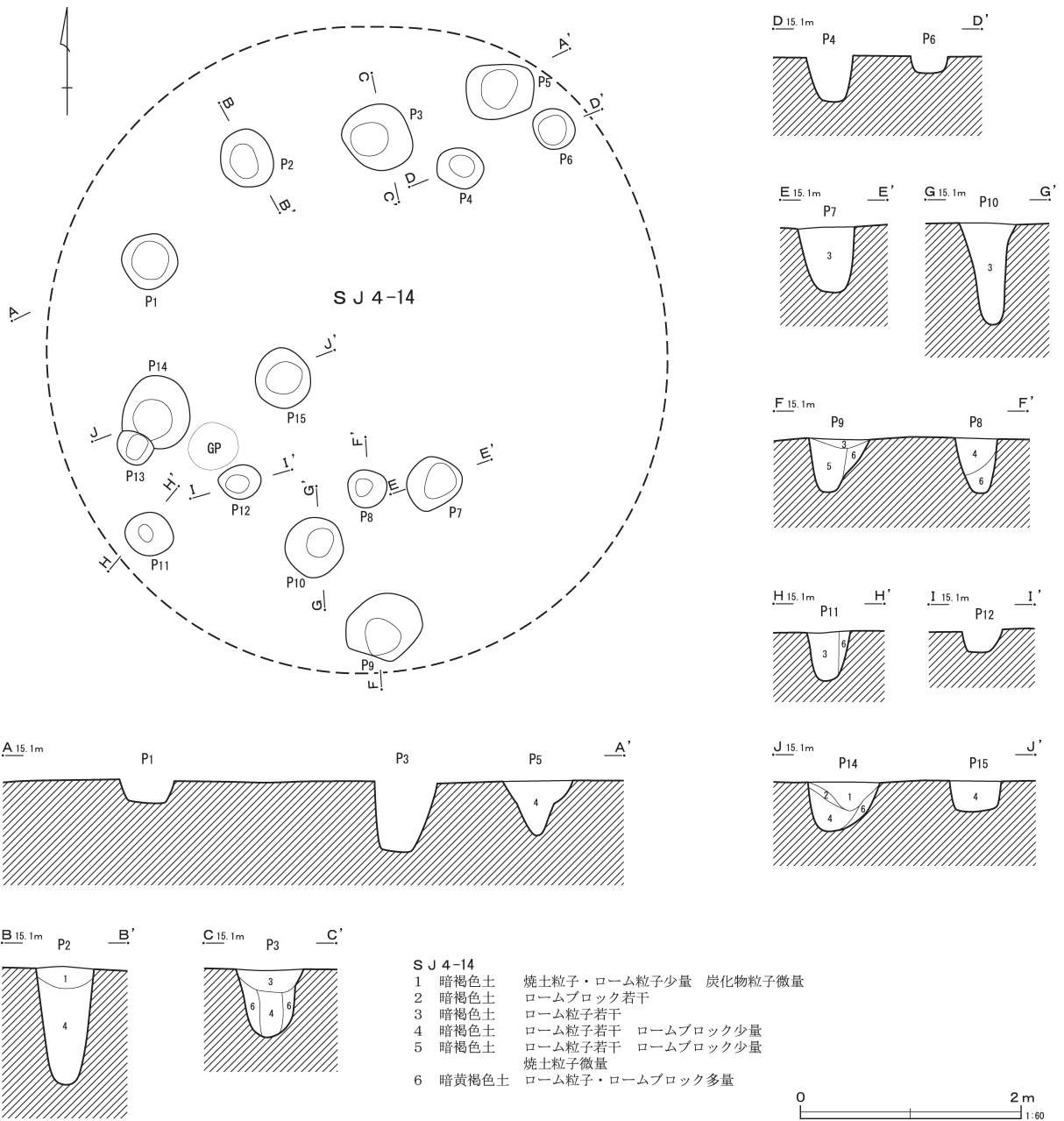
3～7は朝顔形の深鉢形土器である。

3～6は口縁部の破片である。3は口縁部に隆帯を施さない土器で、体部には沈線間に縄文を充填施文する。内面に1条の沈線が巡る。4は口縁部に隆帯が巡り、突起・8の字状貼付を施す。突起内面には渦巻文を施す。体部には2条沈線間に縄文を充填施文する。5は口縁部に隆帯、内面に1条の沈線が巡り、体部には沈線間に縄文を充填施文する。6は突起部の破片である。楕円形の文様を施す。

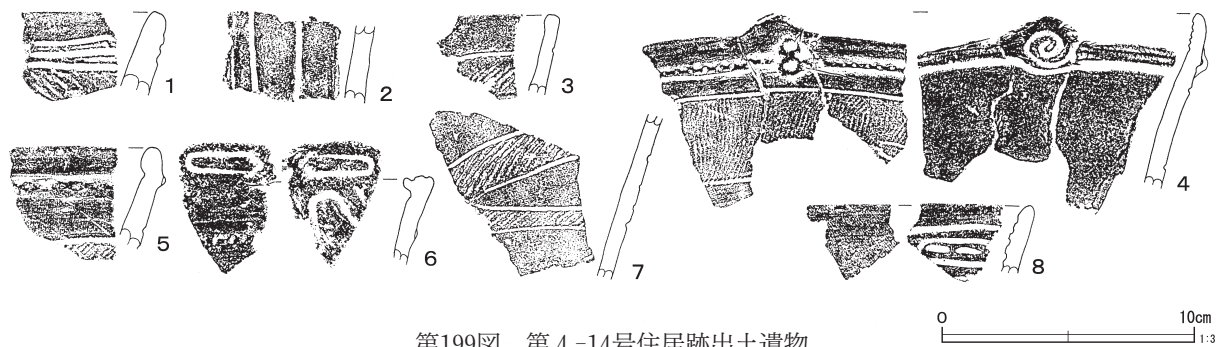
7は胴部破片である。横線・斜沈線間に縄文を充填施文する。

8は内面に横線・点列を施す。

1・2は堀之内1式、3～8は堀之内2式と思われる。



第198図 第4-14号住居跡



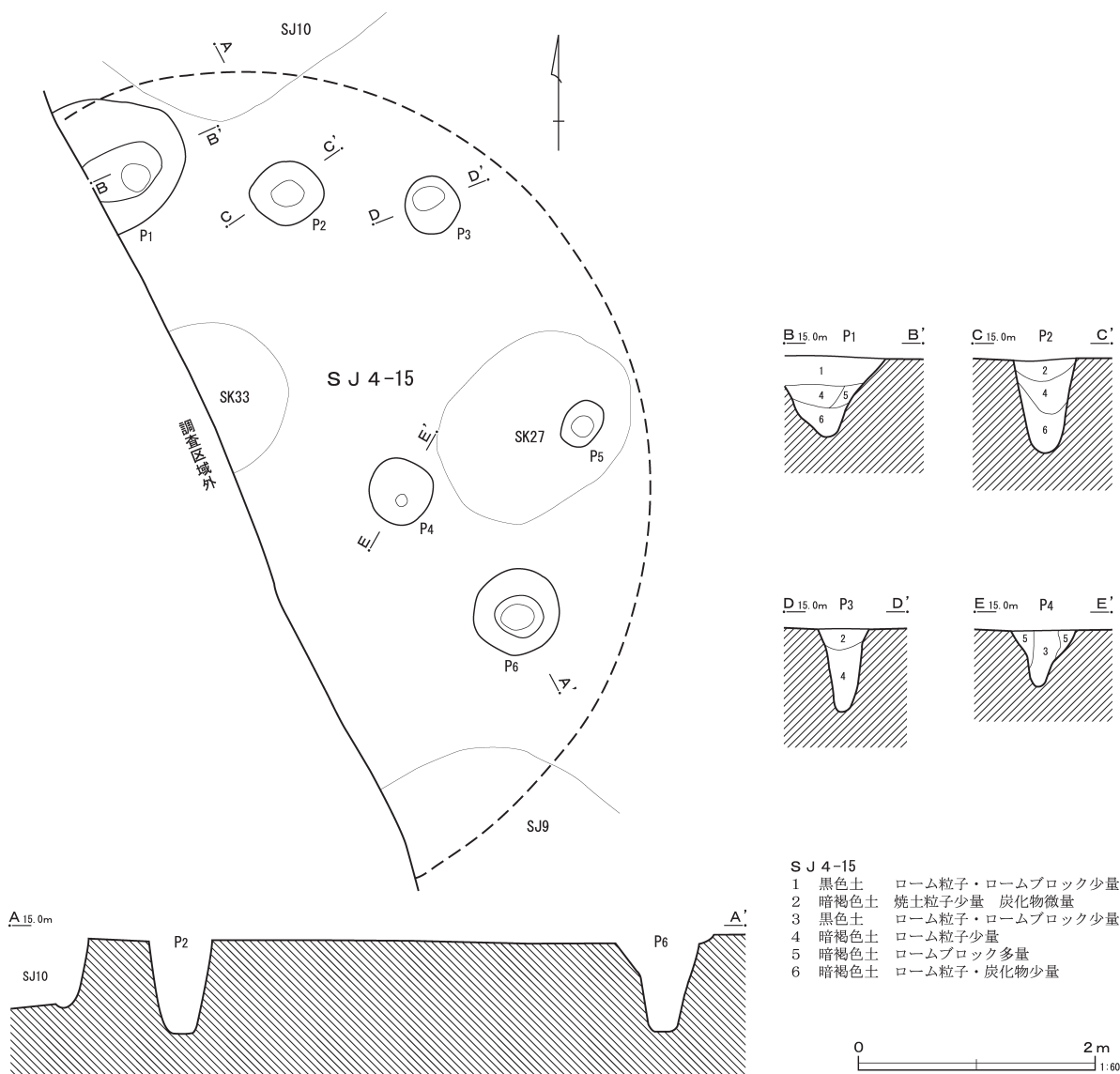
第199図 第4-14号住居跡出土遺物

第4-15号住居跡 (第200・201図)

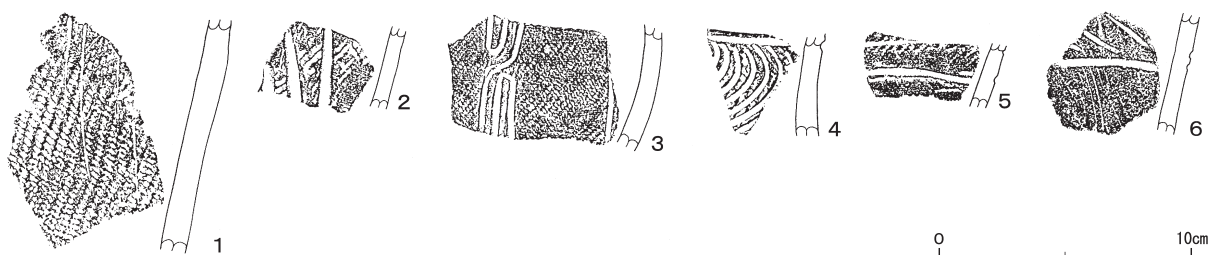
L5・G8、9、H8、9グリッドに位置する。住居跡の西側半分は、調査区域外のため確認することができなかった。また住居跡の北側の一部が弥生時代の住居跡である第4-10号住居跡、南側

の一部が第4-9号住居跡と重複している。住居跡内からは、第4-27、33号土壌が重複して検出された。

平面形は出土した遺物の時期から柄鏡形と考えられるが張出部分は確認できなかった。ピットの



第200図 第4-15号住居跡



第201図 第4-15号住居跡出土遺物

配置から主体部分は円形と推定される。推定される主体部の規模は、長径7.05m、短径3.50mを測る。

ピットは、6本が検出された。深さはP 1=0.67m、P 2=0.80m、P 3=0.73m、P 4=0.50m、P 5=1.18m、P 6=0.75mである。

遺物は縄文時代後期前葉の堀之内内式が出土している（第201図1～6）。

1は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

2～4は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。2は直線的に推移する胴部の破片で、縦位の沈線を施す。3は丸みを帯びた形態の胴部破片で、縦位の沈線を蛇行させながらモチーフを施す。4は横線下に多条の曲線的な沈線を施す。

5・6は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。縄文を施文する。

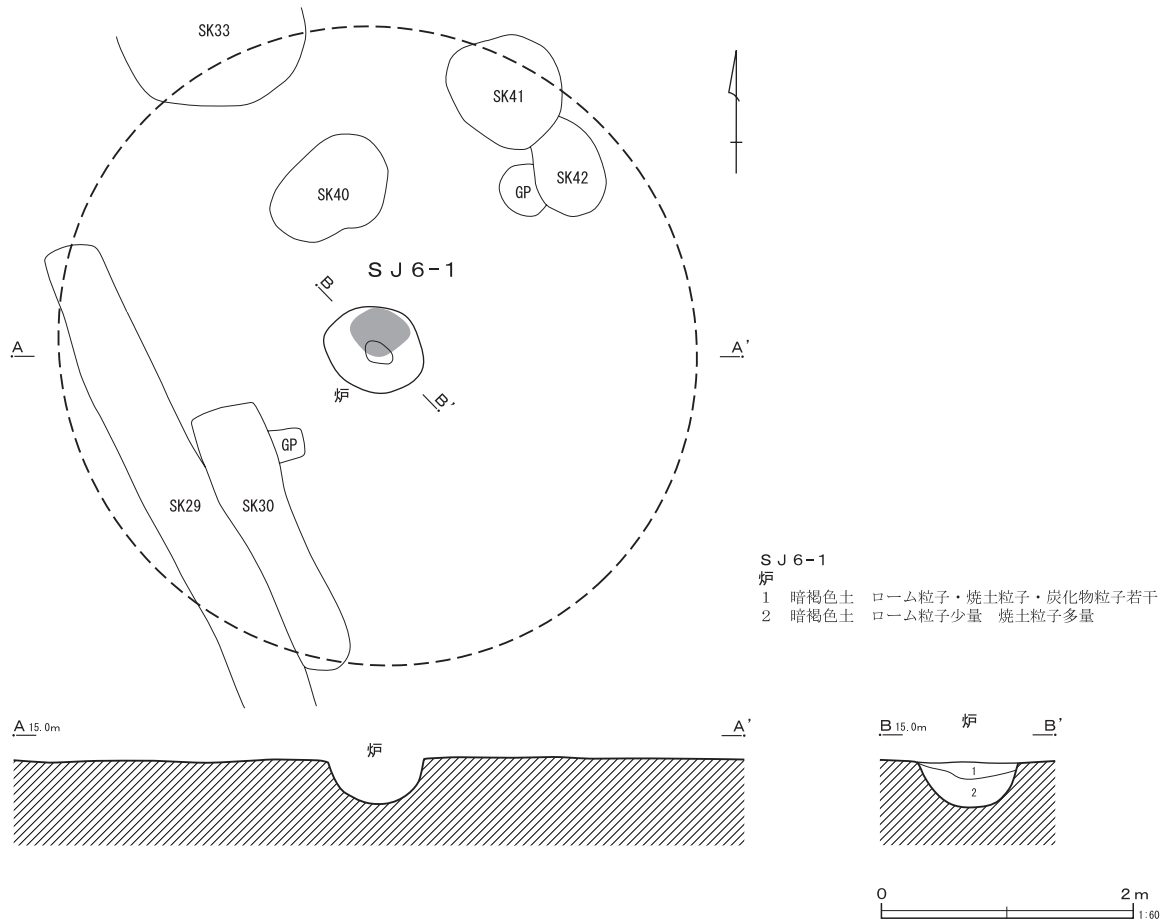
1～4は堀之内1式、5・6は堀之内2式と思われる。

第6-1号住居跡（第202図）

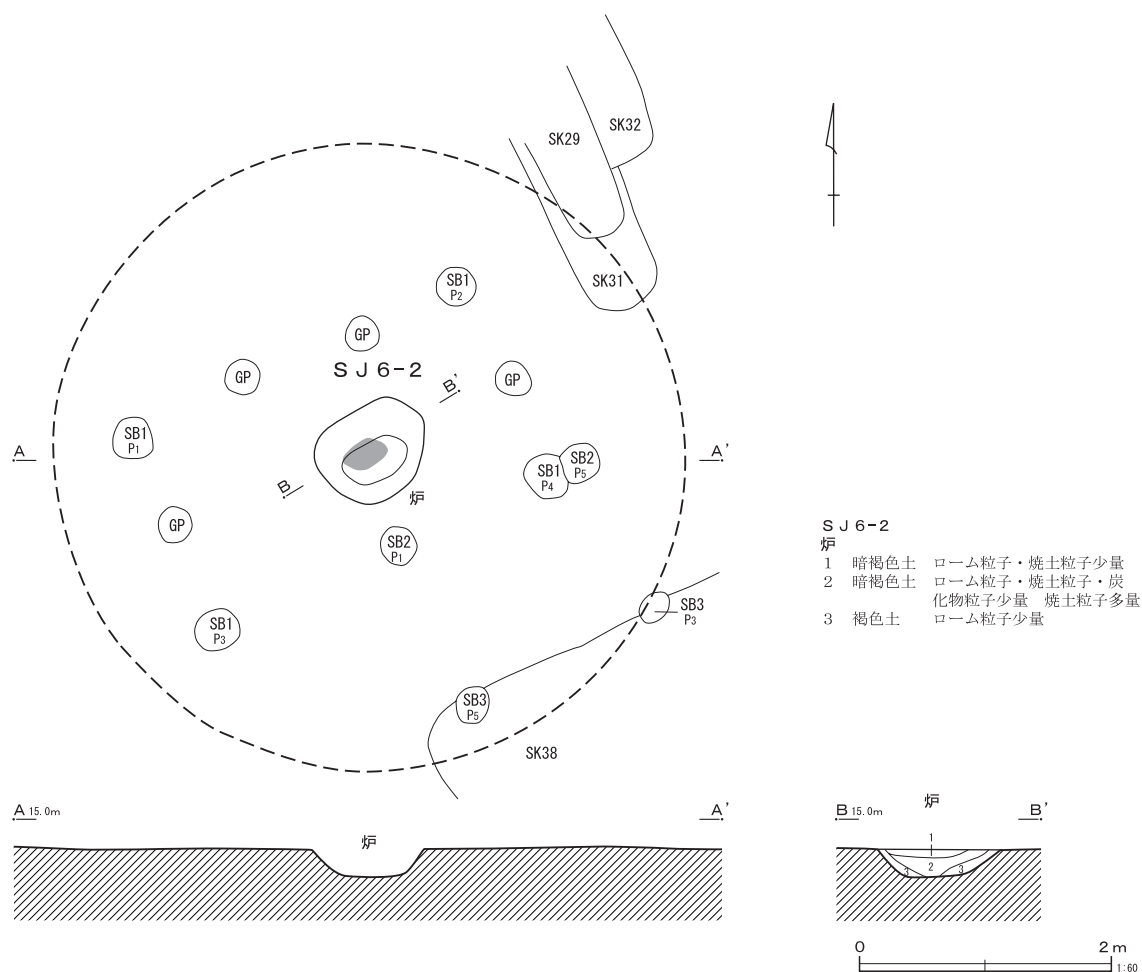
L 6・J 2、3グリッドに位置する。

住居跡は縄文時代以降の、複数の土壇やグリッドピット、溝跡と重複しており、炉跡のみが検出され、掘り込みや住居跡に伴うピットなどは検出することができなかった。炉跡からは遺物は検出されなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。

炉跡からは、多量に焼土が検出されている。炉跡の規模は、長径0.80m、短径0.70m、深さ0.35mを測る。



第202図 第6-1号住居跡



第203図 第6-2号住居跡

第6-2号住居跡 (第203図)

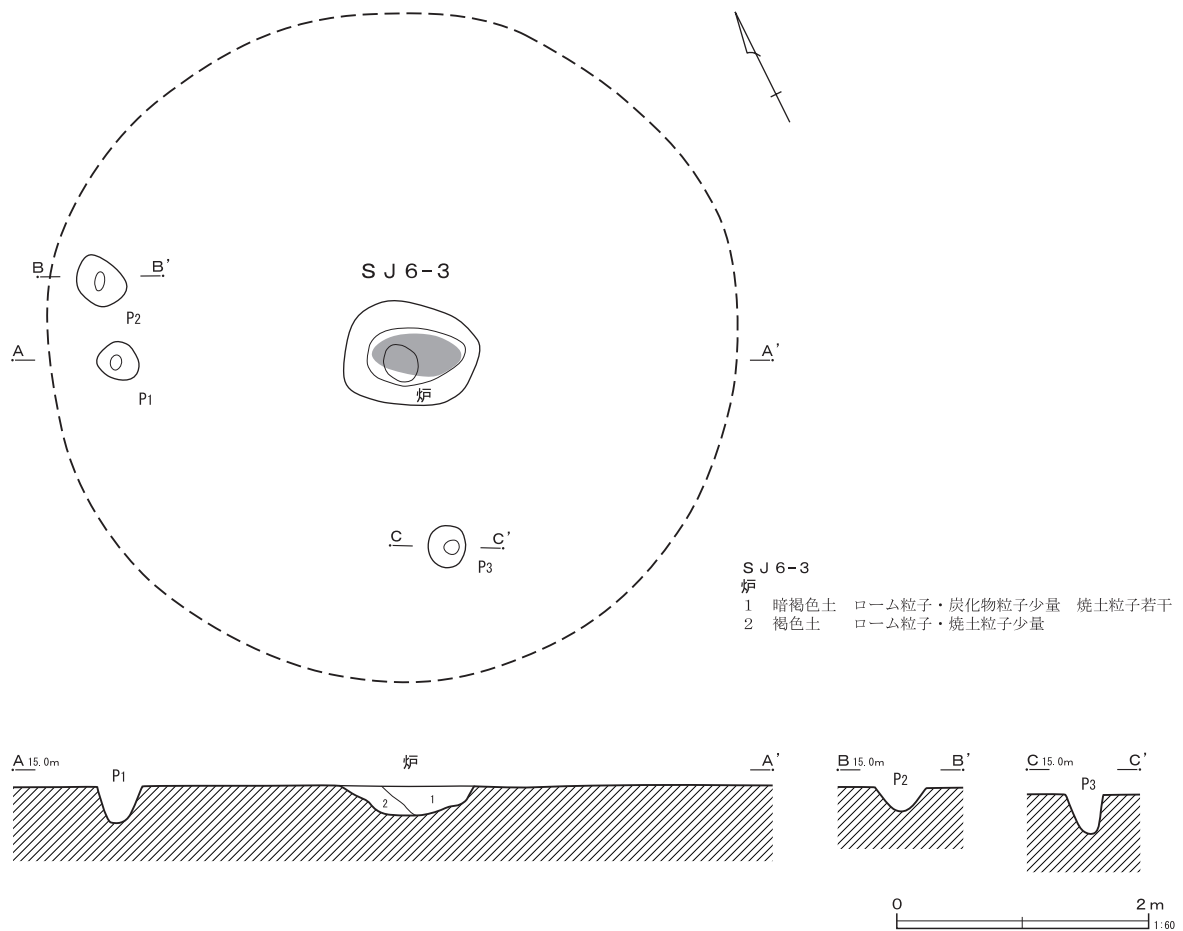
L6・J2、3、M6・A2、3グリッドに、位置する。住居跡は縄文時代以降の複数の掘立柱建物跡や土壇、ピットなどと重複し、炉跡は検出することができたが、掘り込みやピットなどは確認することができなかった。炉跡からは遺物は出土しなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。

炉跡内からは、多量に焼土が検出されている。炉跡の規模は、長径0.90m、短径0.75m、深さ0.20mを測る。

第6-3号住居跡 (第204図)

L6・J3、M6・A3グリッドに位置する。住居跡に伴う遺物は検出されなかったが、周辺からは縄文時代後期の遺物が出土していることから、後期の住居跡と考えられる。また掘り込みは確認することができなかった。検出された炉跡とピットの配置から、推定される主体部の規模は、径5.50mを測る。

炉跡は、主体部の中央付近に位置するものと思われ、規模は長径1.50m、短径0.80m、深さ0.25mを測る。ピットは、3本が検出された。深さはP1=0.30m、P2=0.20m、P3=0.30mである。



第204図 第6-3号住居跡

(2) 掘立柱建物跡

第6-8号掘立柱建物跡 (第205図)

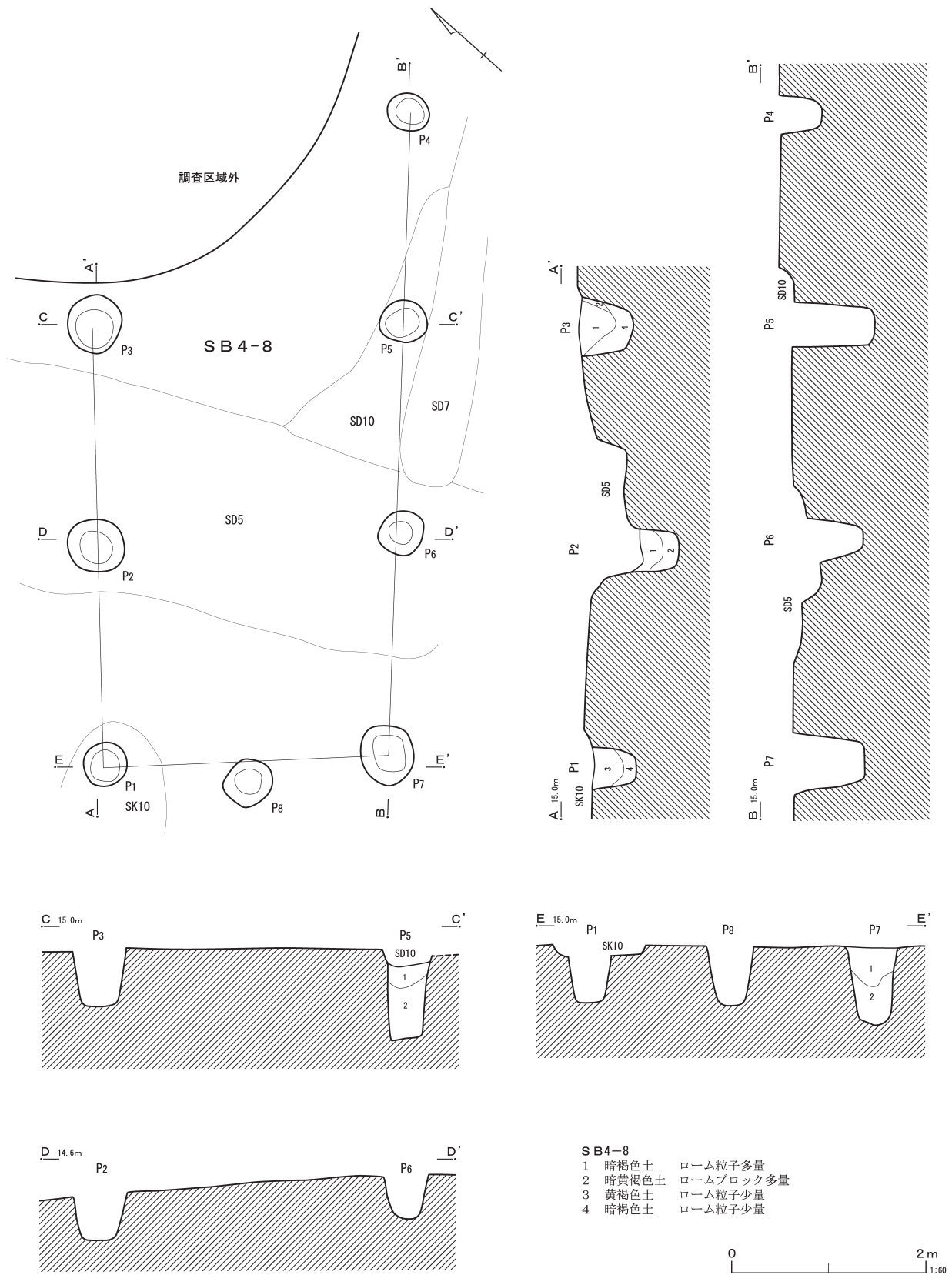
L 6・G10、H10グリッドに位置する。周辺からは近世の掘立柱建物跡も検出されているが、他の遺構との切り合い関係や、ピット内の覆土が他の縄文時代の遺構の覆土と同様であったことなどから、縄文時代の掘立柱建物跡とした。

ピットは8本検出されたが、東側が調査区域外となり、建物跡の全容は不明である。ピットは長方形に並んでおり、長軸方向のP 4とP 7のピットを中心を結んだ距離は、6.75m、短軸方向のP 1とP 7のピットを中心を結んだ距離は、3.00mである。建物跡の長軸方向を主軸とすれば、

N-48°-Eである。

検出されたピットの平面形はほぼ円形をしている。各ピットの規模は、P 1は長径0.45m、短径0.45m、深さ0.43mである。P 2は長径0.58m、短径0.53m、深さ0.90mである。P 3は長径0.60m、短径0.55m、深さ0.58mである。P 4は長径0.43m、短径0.38m、深さ0.43mである。P 5は長径0.48m、短径0.43m、深さ0.85mである。P 6は長径0.45m、短径0.45m、深さ0.46mである。P 7は長径0.62m、短径0.55m、深さ0.80mである。P 8は長径0.51m、短径0.50m、深さ0.60mである。

遺物は出土しなかった。



第205図 第6-8掘立柱建物跡

(2) 土壇

第4-1号土壇 (第206図・第210図1・2)

L5・J10グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は円形で、長径1.05m、短径1.00m、深さは1.30mである。

遺物は縄文土器が少量出土した。第210図1・2は深鉢形土器の胴部破片である。1は地文縄文上に沈線を施す。2は沈線のみを施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-2号土壇 (第206図・第210図3～6)

L5・J8グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径1.04m、深さは0.47mである。

第210図3～6は出土した遺物である。3・4は深鉢形土器の口縁部である。3は地文縄文上に円文、曲線的な沈線文を施す。4は外反する口縁部破片である。1条沈線が巡り、沈線以下を無文とする。5・6は深鉢形土器の胴部破片である。5は地文縄文上に沈線を施す。6は櫛歯状工具による文様を施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-3号土壇 (第206図・第210図7・8、25)

L5・J7、M5・A7グリッドに位置する。垂直に深く掘り込まれた土壇で、底面中央はピット状に浅く掘り込まれている。平面形は楕円形で、長径1.18m、短径は1.00m、深さは1.98mである。底面のピットの深さ0.21mである。

第210図7・8、25は出土した遺物である。7は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。沈線間に縄文を充填施文する。8は丸みを帯びた胴部破片。曲線的な沈線を施し、沈線間に縄文を充填施文する。25は口縁部から底部まで残存する深鉢形土器である。胴部は緩く丸みを帯び、屈曲して口縁部が外傾して立ち上がる形態の土器である。括れ部に横位の隆帯、8の字状の貼付文を施す。底部には網代痕を残す。残存度は80パーセントである。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-5号土壇 (第206図・第210図9～18)

M5・A9グリッドに位置する。フラスコ状となる土壇で、底面の中央にはピット状の掘り込みが確認された。長径1.50m、短径1.21m、深さ1.78mである。ピットの深さは0.60mである。

第210図9～18は出土した遺物である。9～12は深鉢形土器の口縁部破片である。9は口縁部に横線と刺突を施す。10・11は口縁部に円文を巡らせ、円文下に斜沈線を施す。12は沈線文を施す。

13～16は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。17は屈曲し無文の口頸部を有する深鉢形土器である。括れ部から胴部にかけての破片で、地文縄文上に渦巻文を施す。18は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-7号土壇 (第206図)

M5・B8、B9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.75m、短径0.68、深さは0.45mである。

第4-9号土壇 (第206図・第210図19～23)

L5・H9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.45m、短径1.34m、深さ0.27mである。

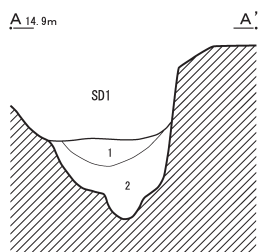
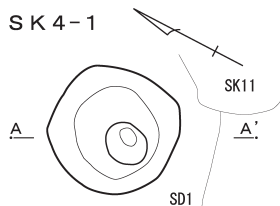
第210図19～23は出土した遺物である。19・20は深鉢形土器の口縁部破片である。内面に1条沈線が巡る。胴部がゆるく張る形態の深鉢形土器と思われる。21・22は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。23は体部で丸みを帯びて口縁部が内湾気味に立ち上がる形態の鉢形土器である。口辺部に並行沈線を施す。

19～22は縄文時代後期前葉の堀之内2式、23は後期中葉の加曾利B1式である。

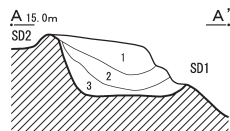
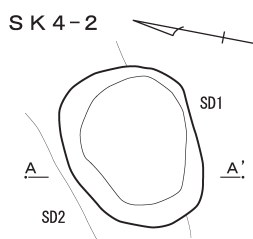
第4-10号土壇 (第206図・第210図24・26)

L5・G9、H10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.55m、短径1.05m、深さ0.15mである。

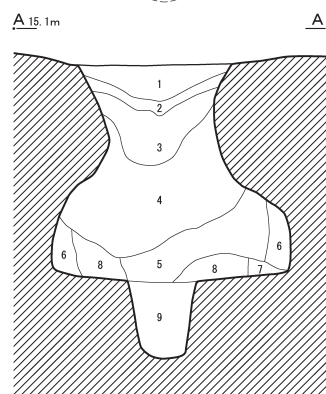
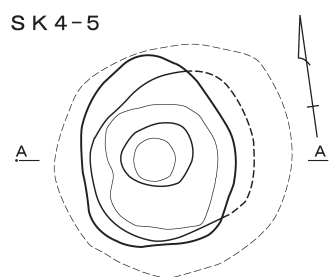
第210図24・26は出土した土器である。24は深鉢



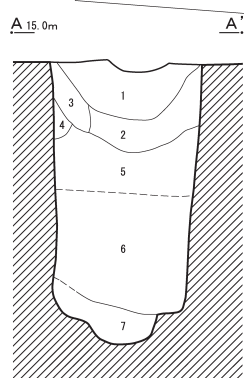
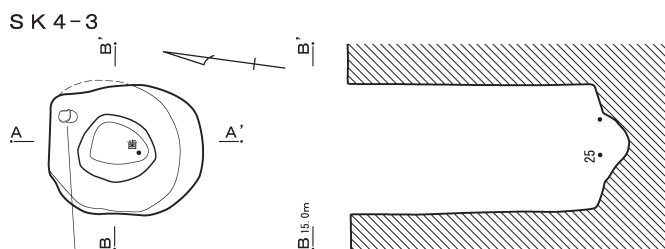
- SK 4-1**
 1 暗褐色土 ローム粒子多量
炭化物粒子少量
 2 黒褐色土 ローム粒子少量



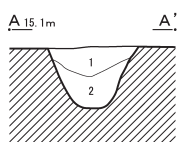
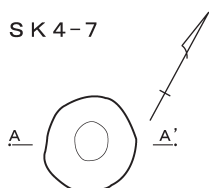
- SK 4-2**
 1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子多量
焼土粒子微量
 2 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子少量
 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック
・炭化物 粒子少量



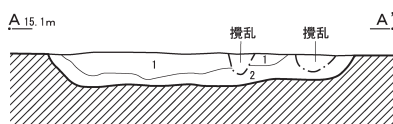
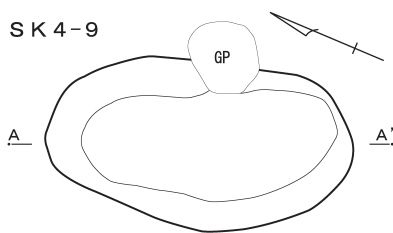
- SK 4-5**
 1 暗褐色土 ローム粒子若干 焼土粒子少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子若干
焼土粒子少量
 3 暗褐色土 ローム粒子若干 焼土粒子・ロ
ームブロック少量
 4 暗黄褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物
粒子多量
 5 灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物
粒子多量
 6 黄褐色土 ロームブロック多量
 7 灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子・灰白色
土粒子多量 炭化物粒子少量
 8 暗赤褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭
化物粒子少量
 9 暗灰褐色土 ローム粒子・灰白色土粒子多量
焼土粒子・炭化物粒子少量



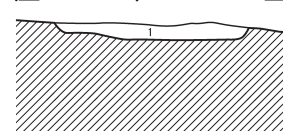
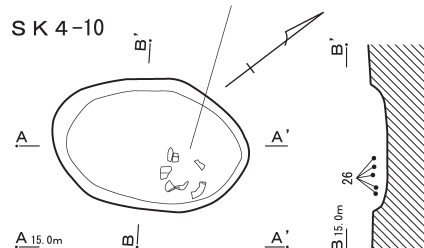
- SK 4-3**
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子多量
 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子若干
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
 4 暗黄褐色土 暗色帯(第VII~IV層)ブロック多量
 5 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 6 灰黄褐色土 ロームブロック・炭化物多量
 7 灰褐色土 ローム粒子・炭化物多量



- SK 4-7**
 1 茶褐色土 ローム粒子・焼
土粒子少量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量



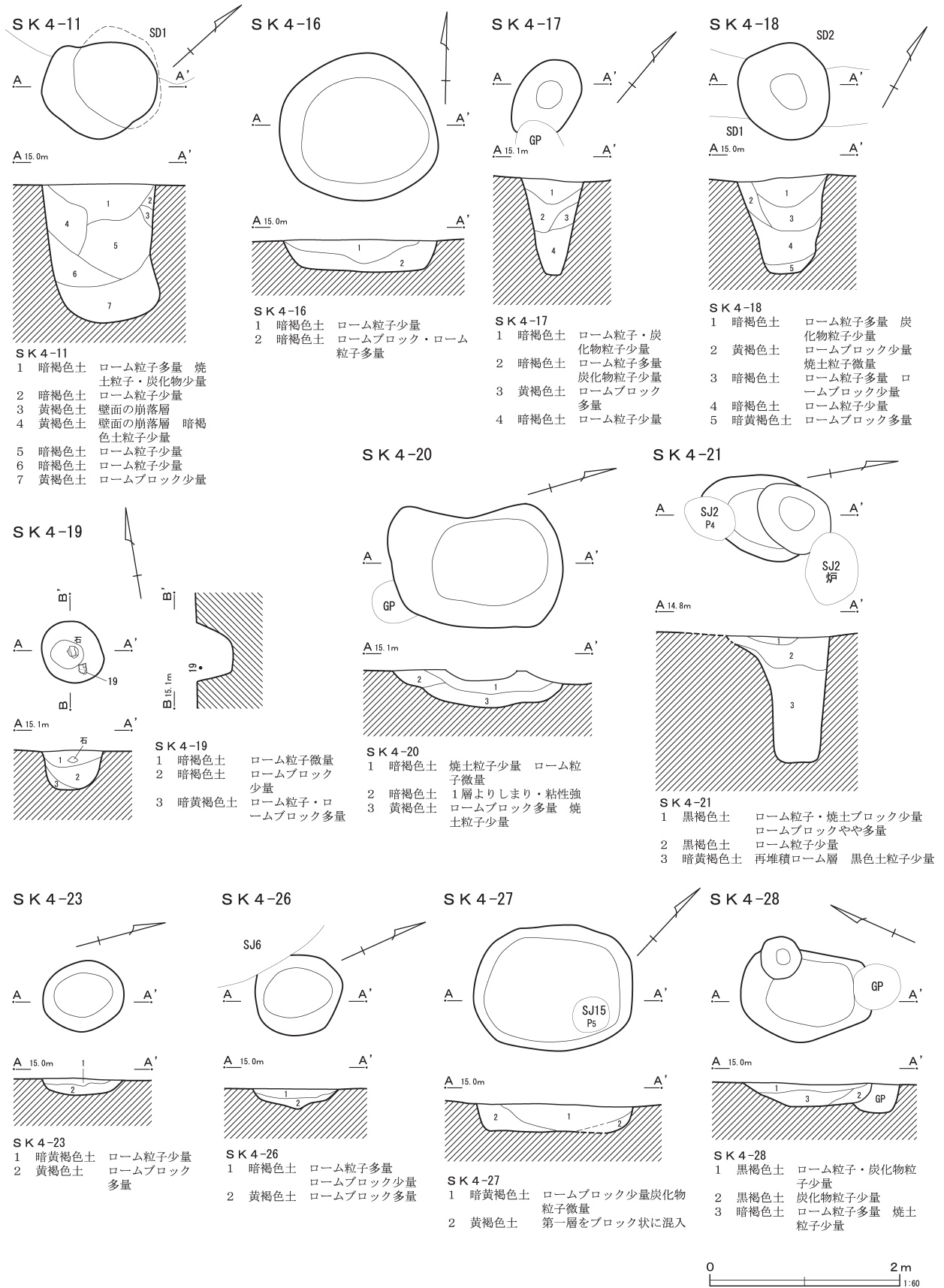
- SK 4-9**
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック若干



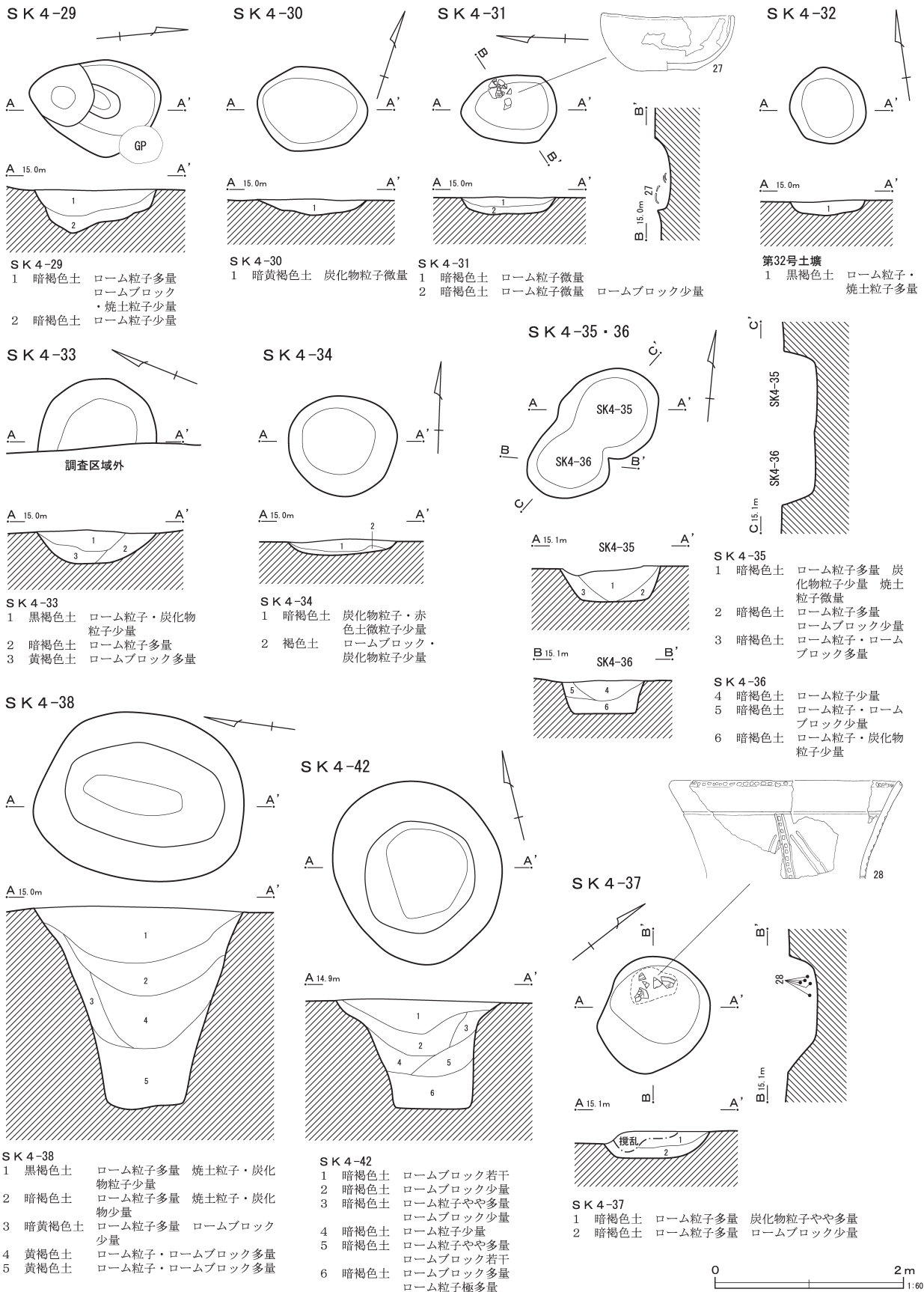
- SK 4-10**
 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量



第206図 土壌 (1)



第207図 土壙 (2)



第208図 土壌 (3)

形土器の胴部破片である。縦位に沈線間の点列を垂下させ、斜沈線を施す。地文に縄文を施す。縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

26は口縁部から胴部まで残存する深鉢形土器である。胴部がはり、頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がる形態の深鉢形土器である。括れ部直下に隆帯を2条巡らせ、8の字状の貼付文でつないでいる。口縁部には小突起を付し、幅広の口頸部に隆帯が垂下する。残存度は50パーセント。口縁部内面に1条の沈線が巡る。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-11号土壙 (第207図・第211図1・2)

L5・J10グリッドに位置する。第4-1号溝と重複する。平面形は楕円形で、長径1.23m、短径は1.00m、深さは1.46mである。

第211図1・2は出土した土器である。1は朝顔形の深鉢形土器の口縁部である。2は地文縄文上に横線と斜沈線を連続的に施す深鉢形土器である。縄文時代後期前葉の堀之内2式と思われる。

第4-16号土壙 (第207図・第211図3・4)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.66m、短径1.53m、深さ0.32mである。

第211図3・4は出土した土器である。3は内面に横線を施す深鉢形土器の口縁部破片である。細沈線を施す。4は深鉢形土器の胴部破片である。地文縄文上に横線を施す。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内2式と思われる。

第4-17号土壙 (第207図・第211図5)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.93、短径0.62m、深さは1.00mである。

第211図5は出土した朝顔形深鉢形土器の口縁部破片である。横位の隆帯、8の字状貼付文を施す。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

第4-18号土壙 (第207図・第211図6~15)

L5・I10グリッドに位置する。第4-1・2号

溝と重複する。平面形は円形で、残存する長径1.00m、短径0.96m、深さ1.03mである。

第211図6~15は出土した土器である。6は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部内面に1条の沈線が巡る。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。7~11、14・15は地文縄文上に沈線文、12・13は縄文のみを施す深鉢形土器の胴部破片である。いずれも縄文時代後期前葉の堀之内式である。

第4-19号土壙 (第207図・第211図16~19)

M5・A9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.70m、短径0.63m、深さ0.41mである。

第211図16~19は出土した土器である。16は丸みを帯びた鉢形土器の口縁部である。17は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。18は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。19は深鉢形土器の無文の底部で、堀ノ内式。17は縄文時代後期前葉の堀之内1式、18は堀之内2式、16は後期中葉の加曾利B1式である。

第4-20号土壙 (第207図・第211図20~22)

L5・J8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.82m、短径1.17m、深さ0.40mである。

第211図20~22は出土した土器である。20は深鉢形土器の口縁部破片である。小突起を施す。口縁部内面に1条の沈線が巡る。20は沈線、21は縄文のみを施す深鉢形土器の胴部破片である。20は縄文時代後期前葉の堀之内2式、21・22は堀之内式である。

第4-21号土壙 (第207図・第211図23~38)

L5・J8グリッドに位置する。第4-2号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.40m、短径0.85m、深さ1.34mである。

第211図23~38は出土した遺物である。23は口縁部に2条の沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。24・25は地文縄文上に沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片である。26~29は器面全体に縄

文のみを施す深鉢形土器である。30・31は口縁部内面に1条沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。30は沈線文を施す。32は朝顔形深鉢形土器の胴部破片である。隆帯が巡り、沈線間に縄文を充填施文する。33は胴部破片である。並行沈線、曲線的な沈線を2条一組で施す。34～37は格子目文を施す深鉢形土器である。34は口縁部破片で、口唇部に刺突を施す。口辺部に1条沈線が巡り、横線以下に格子目文を施す。35～37は胴部破片である。

23～32は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、23～25は堀之内1式、30～32は堀之内2式である。33～37は後期中葉の加曾利B1式である。

38は定角式の磨製石斧である。刃部を欠損もので、残存する器面は丁寧に磨かれている。

第4-23号土壙 (第207図)

L5・J8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.85m、短径0.75m、深さ0.18mである。

第4-26号土壙 (第207図)

L5・I9グリッドに位置する。第4-6号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.88m、短径0.87m、深さ0.20mである。

第4-27号土壙 (第207図・第211図39)

L5・G8、H8グリッドに位置する。第4-15号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.70m、短径1.31m、深さ0.30mである。

第211図39は口縁部が内湾して立ち上がる鉢形土器の口縁部破片。沈線間に縄文を充填施文する。縄文時代後期中葉の加曾利B2式である。

第4-28号土壙 (第207図・第211図40～43)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.33m、短径0.97m、深さ0.25mである。

第211図40～43は出土した遺物である。40は口縁部内面に1条沈線が巡る深鉢形土器の口縁部破片である。41は胴部がはる形態の深鉢形土器の胴

部破片。沈線間に縄文を充填施文する。42は器面全体に櫛歯状工具による文様を施す深鉢形土器の胴部破片である。43は並行沈線を施す鉢形土器の胴部破片である。縄文を充填施文する。

40～42は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、40・41は堀之内2式である。43は後期中葉の加曾利B1式である。

第4-29号土壙 (第208図・第211図44～46)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.39m、短径0.96m、深さ0.40mである。

第211図44、46は出土した土器である。44は沈線を施した深鉢形土器の胴部破片である。45は注口土器の胴部破片である。46は縄文のみを器面全体に施す深鉢形土器の胴部破片である。

44、46は縄文時代後期前葉の堀之内式であり、45は加曾利B1式と思われる。

第4-30号土壙 (第208図)

L5・G9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.16m、短径0.88m、深さ0.17mである。

第4-31号土壙 (第208・210図27)

L5・G9、H9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.71m、深さ0.17mである。

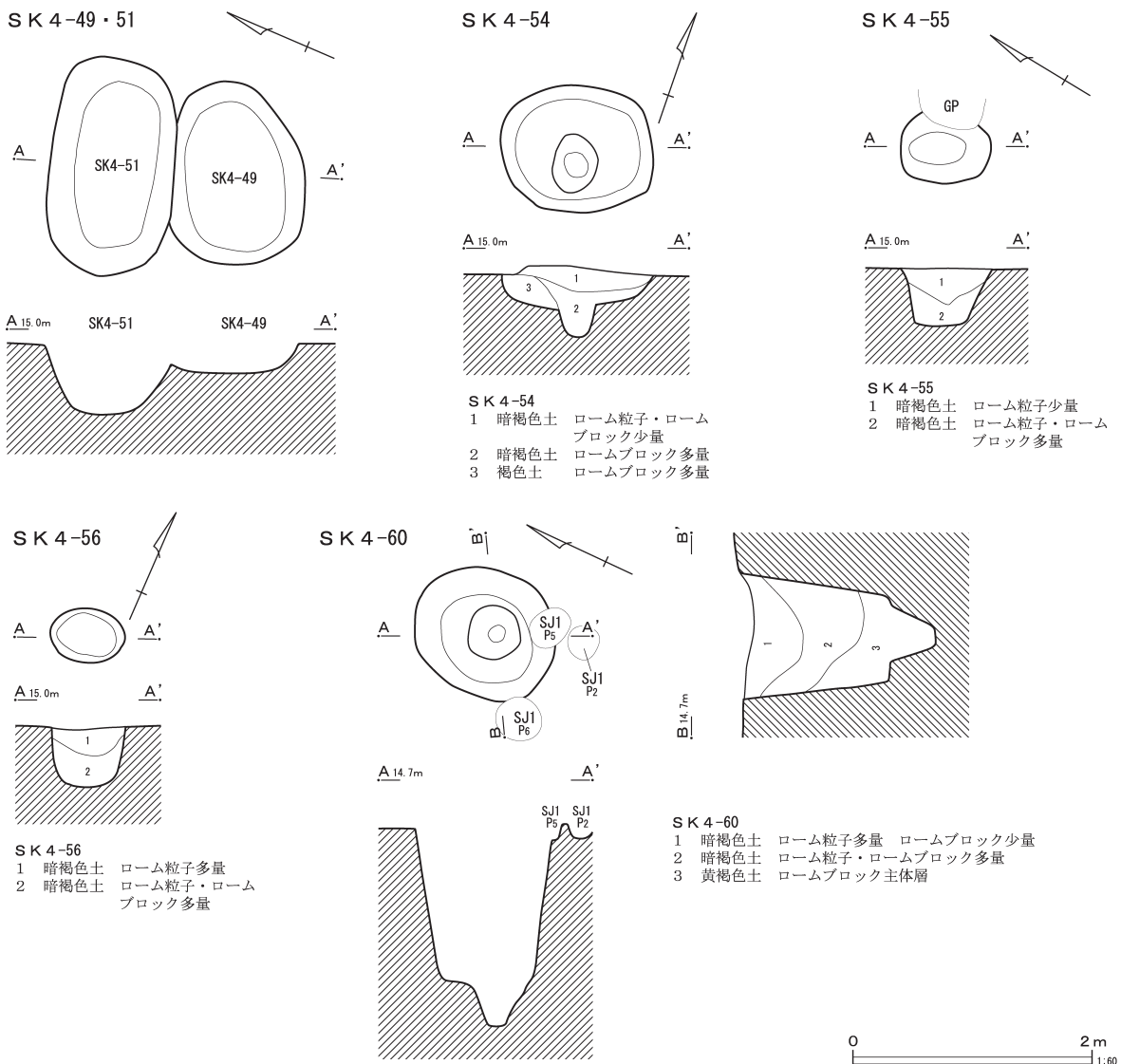
第210図27は出土した無文の浅鉢である。やや丸みを帯びた体部で、口縁部は直立気味に立ち上がる形態の土器である。底部には網代痕を残す。残存度は70パーセントである。堀之内2式と思われる。

第4-32号土壙 (第208図)

L5・G8、G9グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径0.81m、短径0.80m、深さ0.16mである。

第4-33号土壙 (第208図・第211図47)

L5・G8、H8グリッドに位置する。第4-15号住居跡と重複する。西側部分が調査区域外のた



第209図 土壌（4）

め検出されなかったため、平面形は不明である。残存する長径1.22m、短径0.74m、深さ0.31mである。第211図47は出土した土器で、沈線と縄文を施す深鉢形土器の胴部破片。縄文時代後期前葉の堀之内式である。

第4-34号土壌（第208図）

L6・J1グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.15m、短径1.08m、深さ0.16mである。

第4-35号土壌（第208図・第211図48）

M5・A9グリッドに位置する。第4-36号土壌

と重複するため平面形は不明である。残存する長径1.01m、短径0.97m、深さは0.39mである。

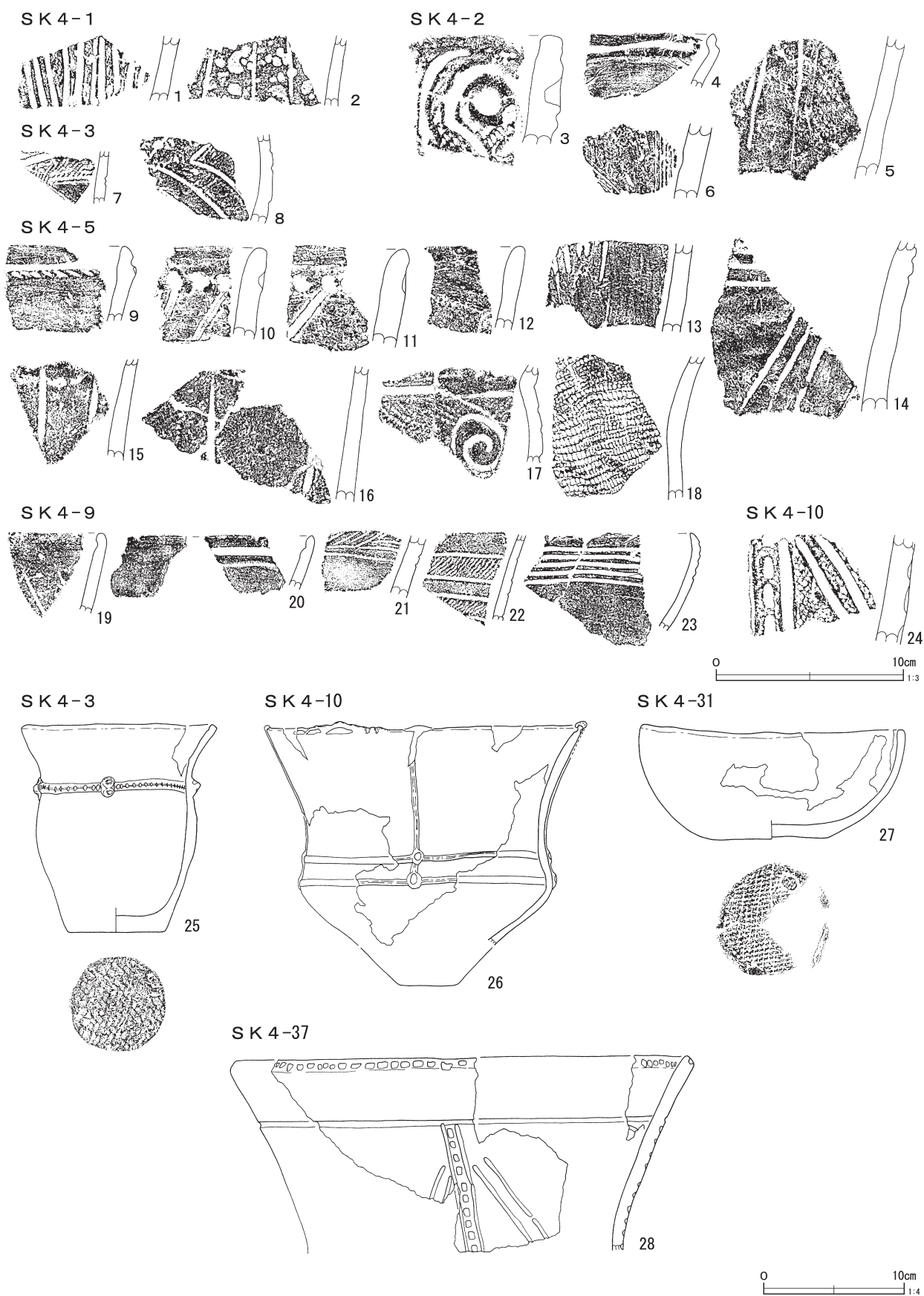
第211図48は出土した深鉢形土器の胴部破片である。縦位に沈線と点列を垂下させており、斜沈線でつないでいる。縄文時代後期前葉の堀之内1式である。

第4-36号土壌（第208図）

M5・A9グリッドに位置する。残存する長径0.81m、短径0.78m、深さ0.36mである。

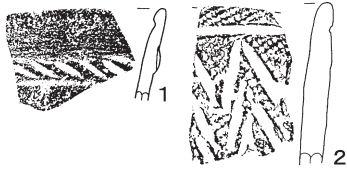
第4-37号土壌（第208図・第210図28・第211図49）

M5・A9グリッドに位置する。平面形は楕円

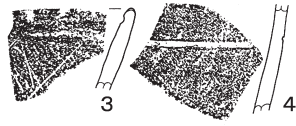


第210図 土壙出土遺物(1)

SK 4-11



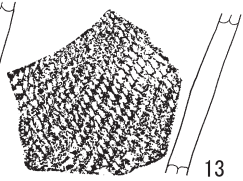
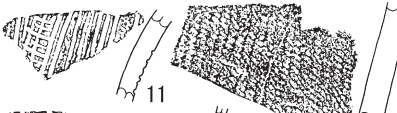
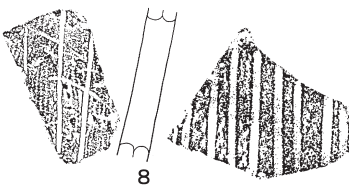
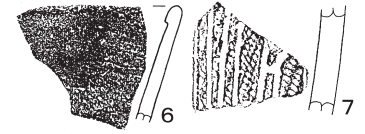
SK 4-16



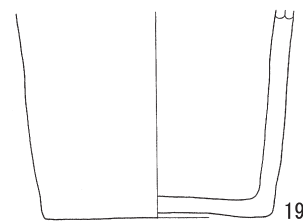
SK 4-17



SK 4-18



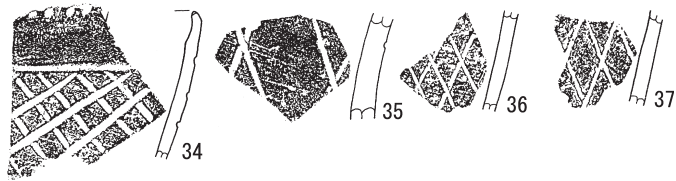
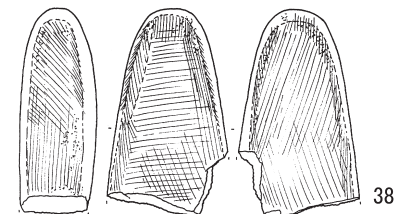
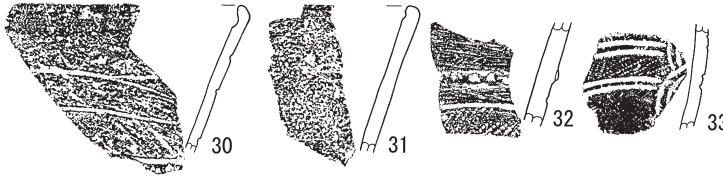
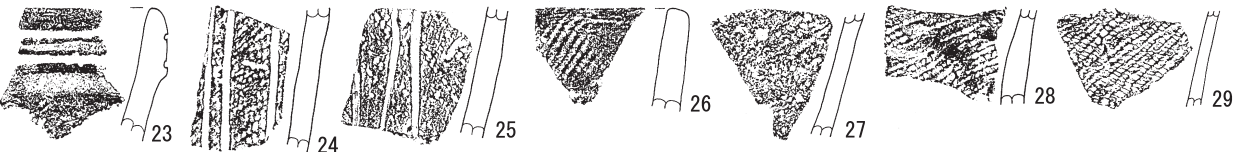
SK 4-19



SK 4-20



SK 4-21



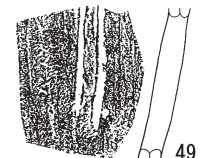
SK 4-27



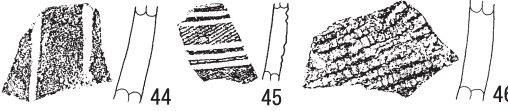
SK 4-28



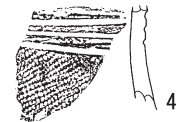
SK 4-37



SK 4-29



SK 4-33

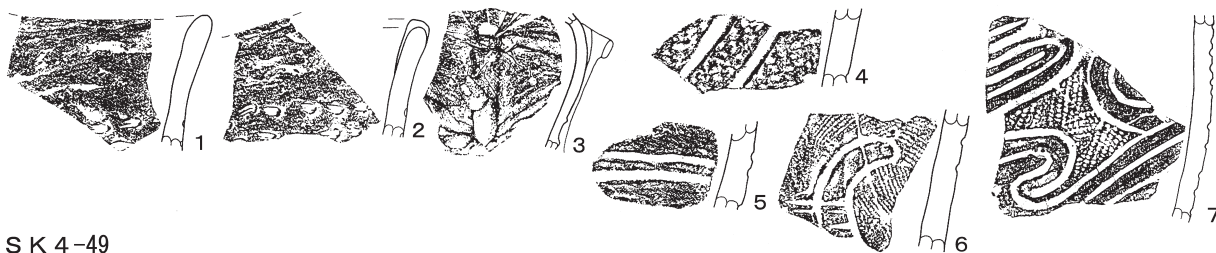


SK 4-35

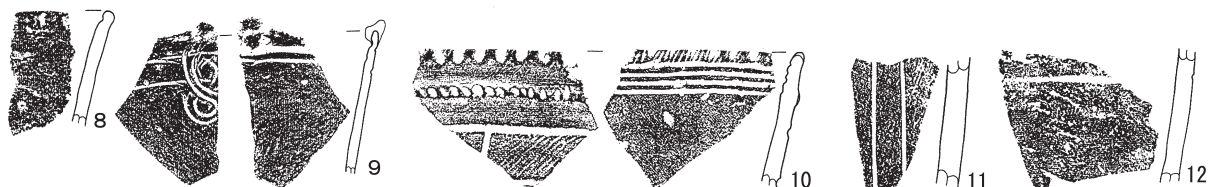


第211図 土壇出土遺物(2)

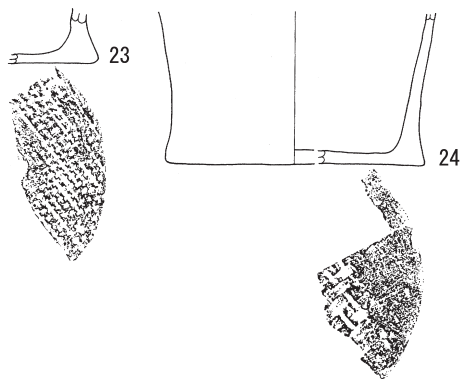
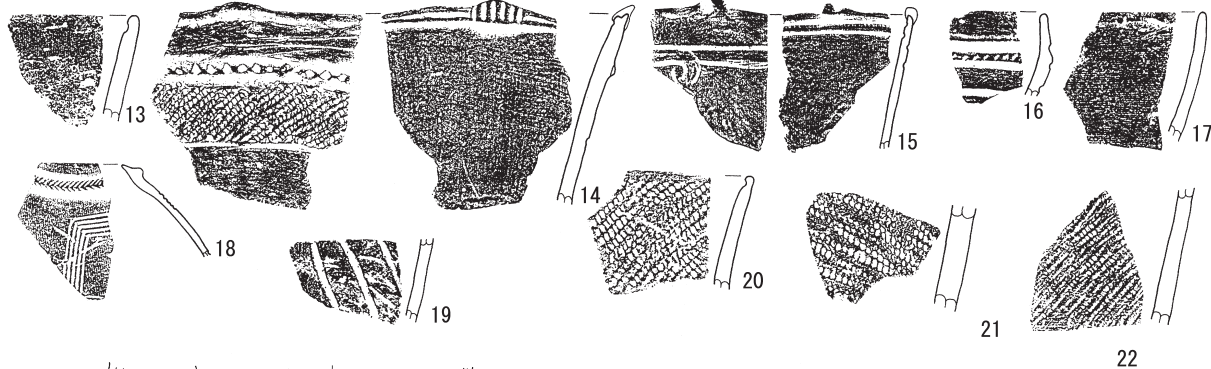
SK 4-42



SK 4-49



SK 4-51



SK 4-54



SK 4-15



第212図 土壙出土遺物(3)・集石土壙出土遺物

形で、長径1.23m、短径1.08m、深さ0.31mである。

第210図28、第211図49は出土した土器である。第210図28は口縁部が外反気味に立ち上がる形態の深鉢形土器である。口縁部に点文が巡る。口辺部に一定の無文部をおいて、横線をめぐらせる。横線下に縦位に沈線間の点列を垂下させ、斜沈線を施す。残存度は10パーセントである。堀之内式である。

第211図49は沈線文を施す深鉢形土器の胴部下半の破片である。堀之内式である。

第4-38号土壙(第208図)

M5・A10グリッドに位置する。土壙は漏斗状に深く掘り込まれている。平面形は楕円形で、長径2.23m、短径1.81m、深さ2.12mである。

第4-42号土壙(第208・第212図1~7)

M6・A1、A2グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.95m、短径1.81m、深さ1.15

mである。

第212図1～7は出土した土器である。1・2は深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部は波状の構成をとり、無文の口縁部の下に隆帯が巡る。3は瓢形の形態の土器で、微隆起によって文様を施す。4は地文縄文上に沈線文、5は沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片。6・7は沈線によって曲線的な文様を施し縄文を充填施文した深鉢形土器の胴部破片である。1～5は縄文時代後期前葉の堀之内1式、6・7は堀之内2式と思われる。

第4-49号土壙 (第209図・第212図8～12)

L5・J10グリッドに位置する。第4-51号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.53m、短径1.18m、深さは0.26mである。

第212図8～12は出土した土器である。8は口縁部内面に1条の沈線が巡る深鉢形土器である。9は朝顔形の深鉢形土器で、突起を施す。突起下に8の字状に沈線を施す。内面には2条の沈線が巡る。10は直線的に立ち上がる形態の深鉢形土器で、口縁部に隆帯を施す。隆帯下に並行沈線、区切り沈線を施し、沈線間に縄文を充填施文する。口唇部には刺突と刻みを施す。11・12は深鉢形土器の胴部破片で沈線を施す。

8～12は縄文時代後期前葉の堀之内1式であり、8～10は堀之内2式である。

第4-51号土壙 (第209図・第212図13～24)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈で、長径1.82m、短径1.05m、深さ0.61mである。

第212図13～24は出土した土器である。13は口縁部内面に1条の沈線が巡る深鉢形土器である。14は朝顔形の深鉢形土器で、口縁部に横位の隆帯が巡り、隆帯と横線間に縄文を充填施文する。突起を施す。15は口縁部が直線的に立ち上がる形態の深鉢形土器である。突起を施す。体部には並行沈線と弧線を施す。16は体部で丸みを帯び、口縁

部が内湾気味に立ち上がる形態をした鉢形土器の口縁部破片である。口縁部の沈線間に刻みを施す。17は無文の鉢形土器である。器面は研磨されている。18は注口土器の口縁部破片である。刻み、集合沈線を施す。19は沈線を施す深鉢形土器の胴部破片である。20～22は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。23・24は底部の破片である。網代痕を残している。

13～24は縄文時代後期前葉の堀之内1式から後期中葉の加曾利B1式を含んでいる。13～15は堀之内2式、16～18は加曾利B1式である。20～24は堀之内2式もしくは加曾利B1式である。

第4-54号土壙 (第209図・第212図25・26)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円で、長径1.30m、短径1.07m、深さ0.54mである。

第212図25・26は出土した土器である。25は格子目状の沈線を施す深鉢形土器の胴部破片である。26は器面全体に縄文を施す深鉢形土器の胴部破片である。

25は縄文時代後期中葉の加曾利B1式、26は後期前葉の堀之内1式と思われる。

第4-55号土壙 (第209図)

L5・J10グリッドに位置する。グリッドピットと重複する。平面形は楕円形で、残存する長径0.76m、短径0.60m、深さ0.48mである。

第4-56号土壙 (第209図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.63m、短径0.45m、深さ0.47mである。

第4-60号土壙 (第209図)

M5・A8グリッドに位置する。第4-1号住居跡と重複する。土壙はほぼ垂直に深く掘り込まれ、底面にはピット状の掘り込みが検出された。平面形はほぼ円形で、長径1.23m、短径1.06m、深さ1.36mである。底面のピット状掘り込みの深さ0.36mである。

(3) 集石土壌

第4-15号土壌 (第213図・第212図27)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.50m、短径は1.20m、深さは0.35mである。焼礫は最大で10cm程度、焼礫の総重量は3770.7gである。

第212図27は朝顔形の深鉢形土器の胴部破片である。沈線間に縄文を充填施文する。縄文時代後期前葉の堀之内2式である。

(4) グリッド出土遺物

グリッドから出土した遺物には縄文土器・土製品・石器がある。

出土土器 (第214図～221図)

縄文土器は前期から後期中葉の土器が認められる。前期・中期の土器は少数であり、後期前葉の堀之内1式、堀之内2式、後期中葉の加曾利B1式がややまとまって出土しており、少数ながら加曾利B2式の出土もある。

第1類 (第215図1・2)

縄文時代前期の土器を一括する。

第215図1は諸磯b式である。口縁部に沿って竹管文を施す。2は前期末の土器で単節LRの結節縄文を施す。

第2類 (第215図3～6、第216図29・30)

縄文時代中期の土器を一括する。

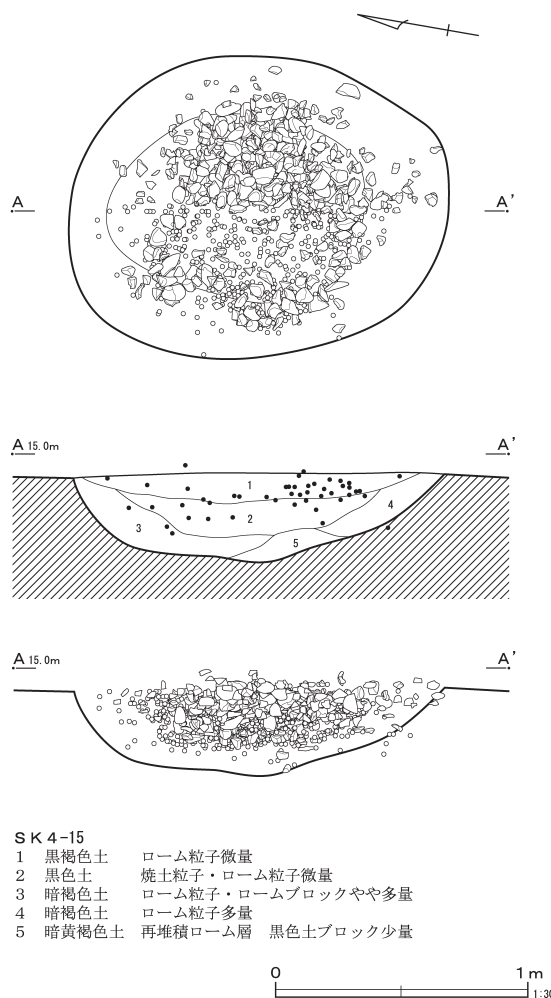
第215図3・4は中期前半の阿玉台式である。3は波状口縁の破片である。3・4ともに弧状の隆帯を貼付する。胎土に雲母を含む。

第215図5・6、第216図29・30は中期後半加曾利E式のキャリパー形深鉢形土器。5は口縁部。隆帯下に単節RLの縄文を施文する。6は頸部付近の破片で単節RLを施す。胴部には懸垂文を施す。29・30は胴部破片である。

第3類 (第214図1・第215図7～32)

縄文時代後期前葉の堀之内式のうち、沈線のみが認められる土器を一括する。

S K 4-15



第213図 集石土壌

第214図1は括れ部を有し、胴部がやや強くはる形態の深鉢形土器である。突起を施す。多条の縦位沈線や弧状の沈線を施す。胴部下半を欠損する。残存度は20パーセントである。堀之内式。

第215図7～15は括れ部で強く屈曲し、口辺部が外反して立ち上がる形態の深鉢形土器である。いずれも堀之内1式である。括れ部以下の胴部には縄文を施す土器があり、第4類に含まれている可能性がある。7は突起を施す。8・9は2条の沈線間に点文を施す。10も突起を施す。11～15は口縁部に1条の沈線が巡る。

第215図16～32は胴部でゆるく括れる形態の深鉢形土器である。口辺部から体部にかけて、直線

的なモチーフ、曲線的なモチーフを施す。称名寺式の形態・文様の系統を引く土器であり、16～22、28～32は堀之内1式、23～27は堀之内2式と思われる。

16は2条の沈線を口縁部に施す。17は沈線間に円文を施す。18は円文、19～22は沈線を口縁部に施す。23～27は口縁部内面に1条の沈線が巡る。28～32は胴部の破片である。28～30は縦位、斜位の沈線、31・32は曲線的な沈線を施す。

第4類 (第215図33～49、第216図1～28・31～42)

縄文時代後期前葉の堀之内式のうち、地文縄文を施す深鉢形土器を一括する。第215図33～47、第216図1～13は堀之内1式、第215図48・49は堀之内2式と思われる。

第215図33～49、第216図1～12は朝顔形深鉢形土器および括れを有する深鉢形土器である。

33～36は突起部の破片。33は隆帯を施す。37～47は口縁部に1条の沈線が巡り、沈線以下に文様を施す。48には口縁部の沈線がなく、49は口辺部に2条の沈線を施す。第216図1～11は口縁部に沿って沈線を施す。12・13は円文を施す。

第216図14～28、31～42は縄文施文の深鉢形土器胴部破片である。14・15・16は区画内に縄文を充填施文する。16、21～25は曲線的な文様、17・18は横線、19・20、26は蕨手状のモチーフを地文縄文上に施す。28、31～42も地文縄文上に沈線を

施す。36～42は斜沈線・横線を地文縄文上に施す。

第216図43は口縁部破片で地文縄文上の一部に沈線が認められる。

第216図44～49は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。44～47は口縁部、48・49は胴部破片である。

第5類 (第217図1～51)

いわゆる朝顔形の形態をした堀之内2式の深鉢形土器とそれに類する土器を一括する。

第217図1～13は口辺部に隆帯を施さない土器である。1・2は地文縄文上に2条一組の沈線を施文する。第217図14～36は朝顔形深鉢形土器のうち口辺部に隆帯を施す土器である。15～28は口縁部内面に1条の沈線を施す。29～35は口縁部内面に2条以上の沈線を施す土器である。

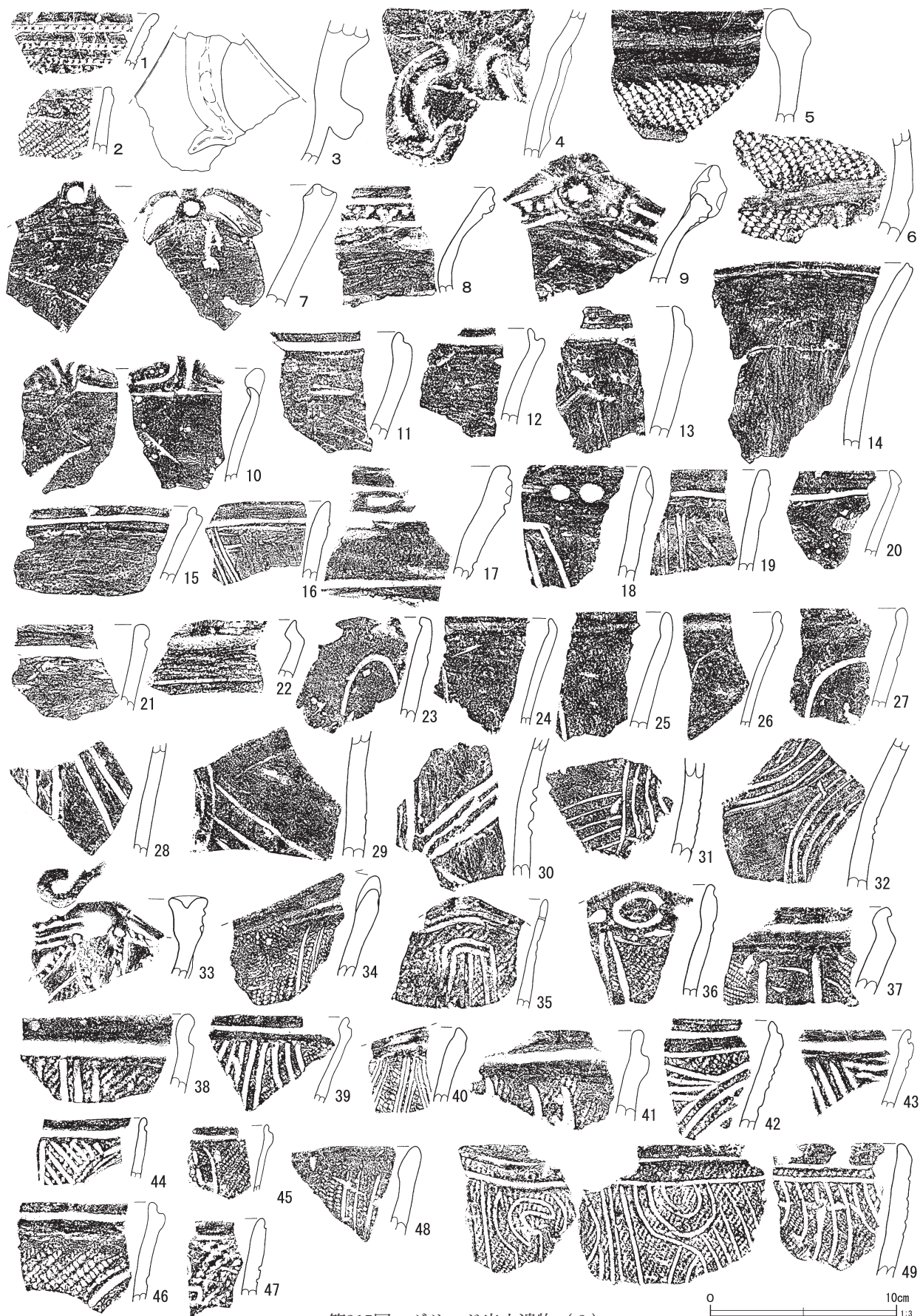
第217図36は隆帯以下に格子目文を施す。口縁部内面には1条の沈線を施す。

第217図37・38は胴部が張る形態の土器。37は隆帯、貼付文を括れ部に施し、胴部には沈線間に縄文を充填施文したモチーフを施す。口縁部内面には多条の沈線文と刻み等を施す。38も隆帯を施し、口縁部内面に2条の沈線が巡る。

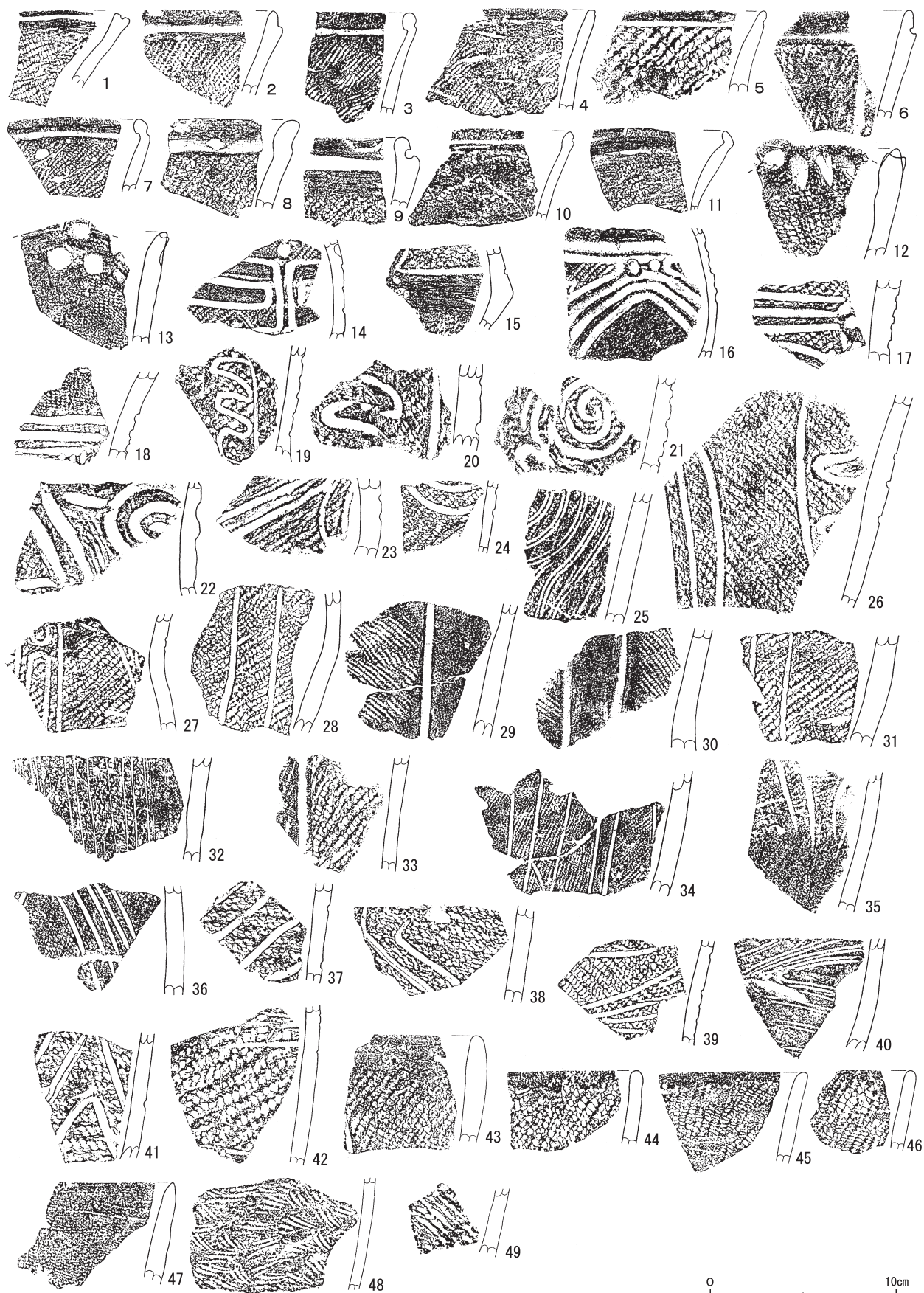
第217図39は隆帯下に縄文帯を施す第217図40～43は口辺部に2条の隆帯を施す土器である。40、42は口縁部内面に2条の沈線、41、43は1条の沈線が巡る。第217図44～46は隆帯以下に縄文を施文する。44・45は1条の沈線、46は4条の沈



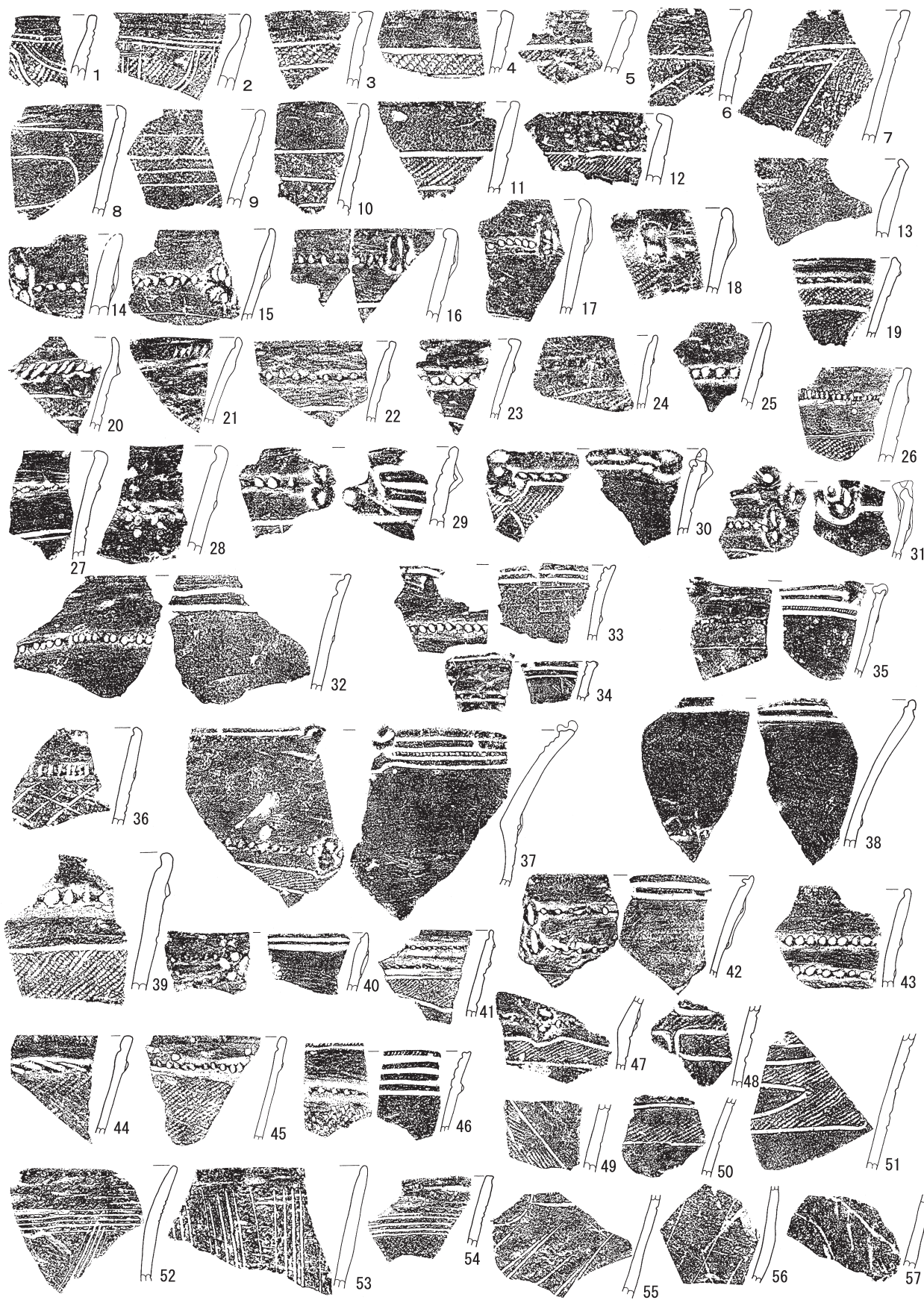
第214図 グリッド出土遺物 (1)



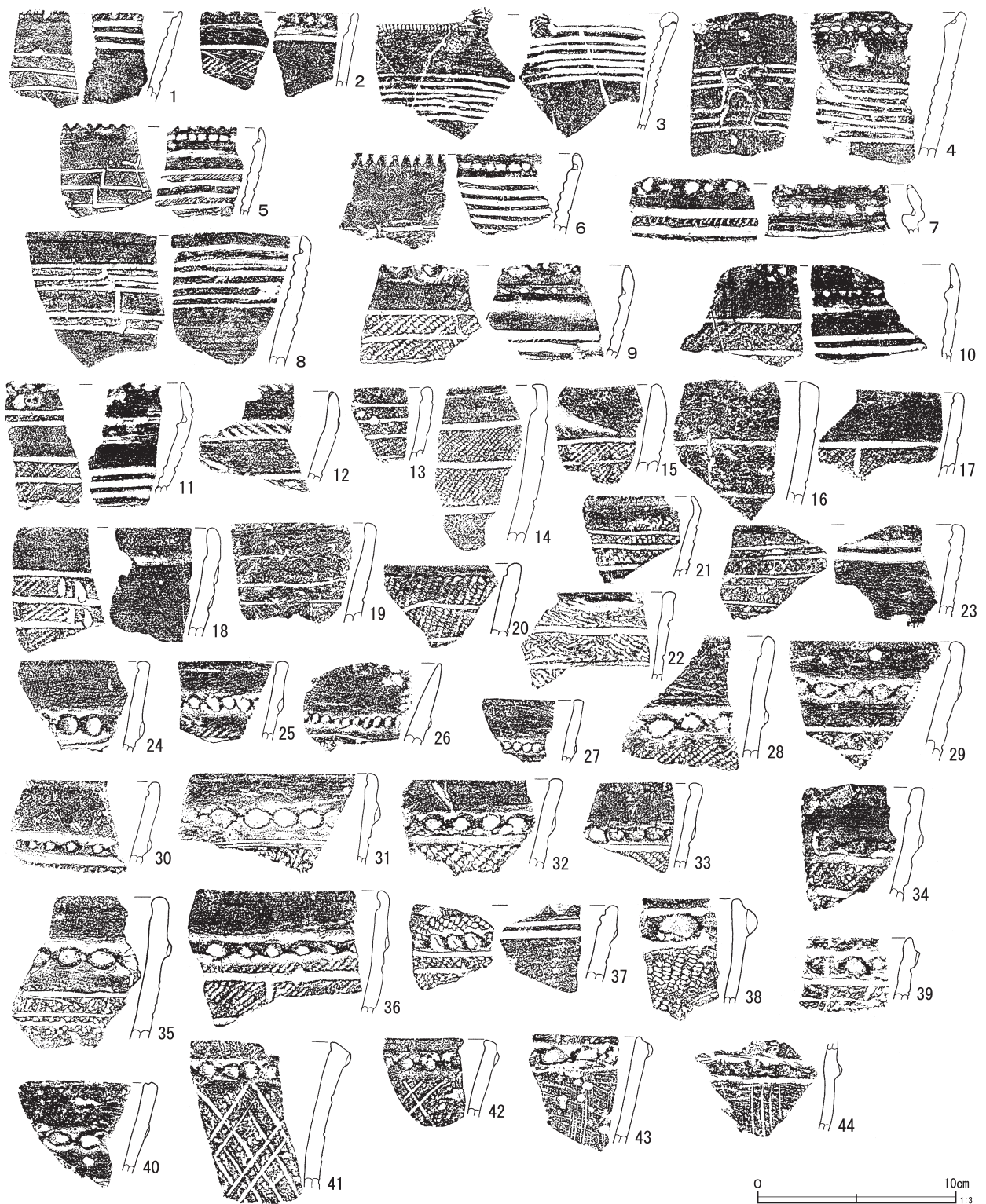
第215図 グリッド出土遺物 (2)



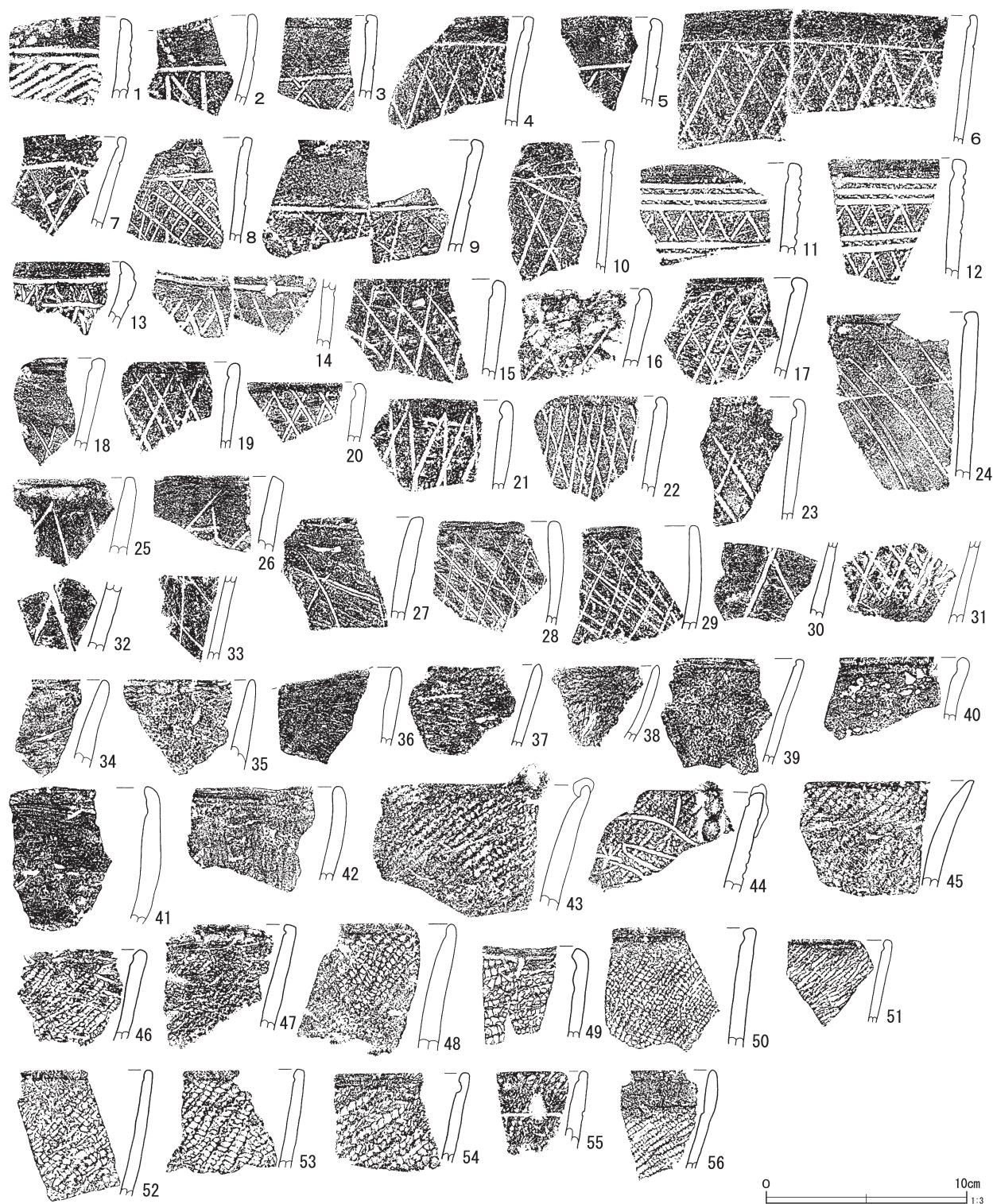
第216図 グリッド出土遺物 (3)



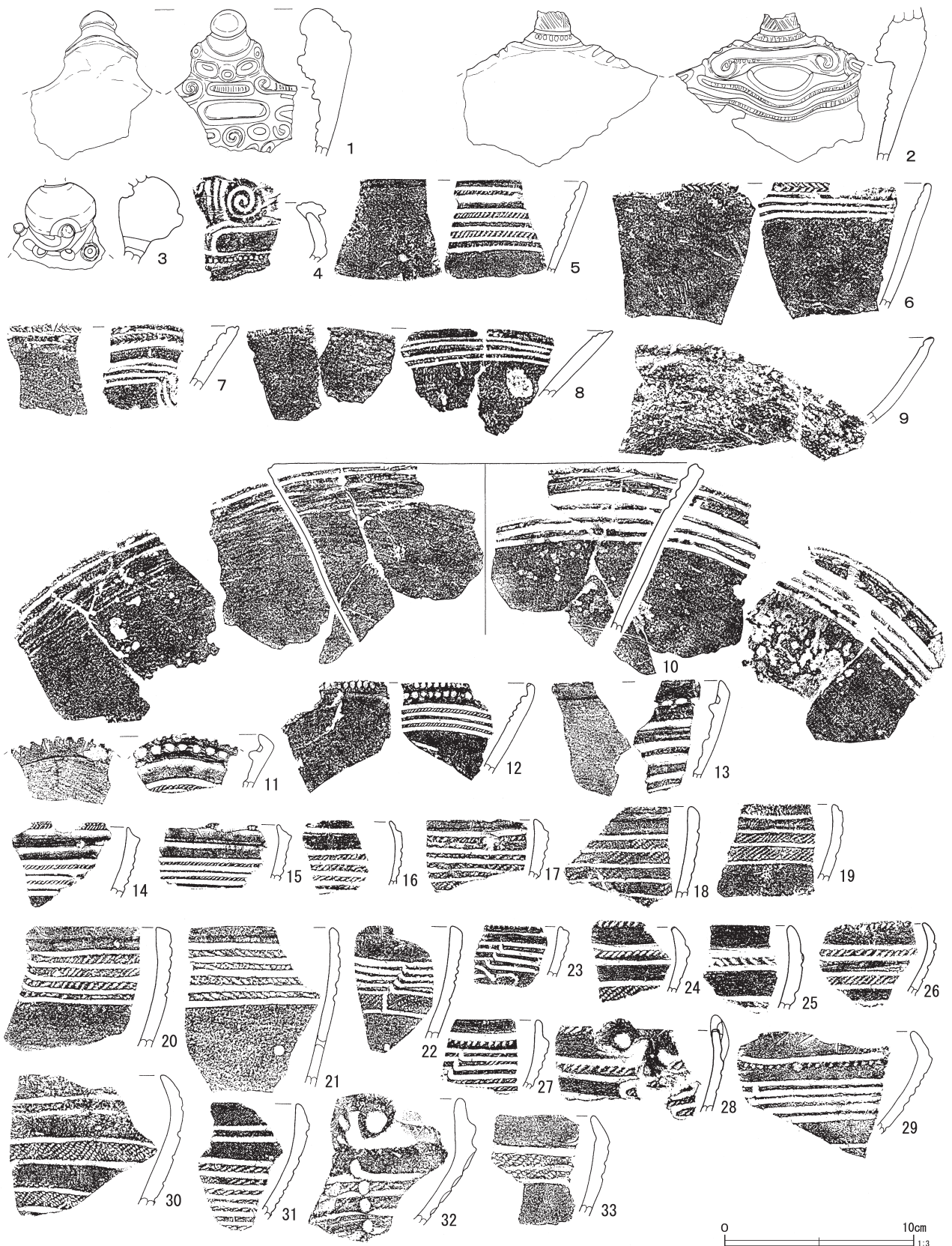
第217図 グリッド出土遺物(4)



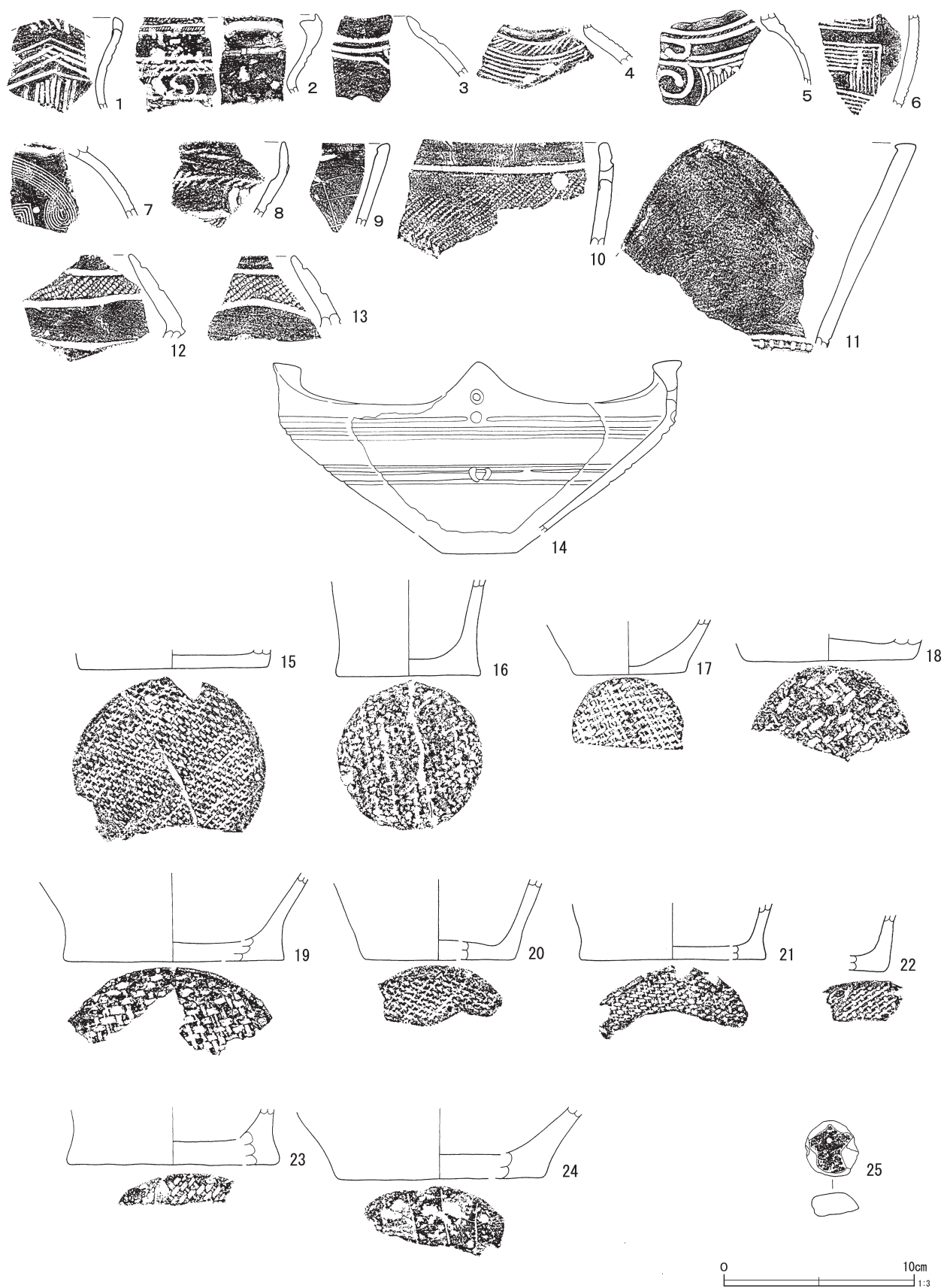
第218図 グリッド出土遺物 (5)



第219図 グリッド出土遺物（6）



第220図 グリッド出土遺物 (7)



第221図 グリッド出土遺物（8）

線を口縁部内面に施す。第217図47～51は胴部の破片である。充填縄文による文様を施す。

第6類 (第217図52～57)

後期前葉の土器群のうち縄文を施文せず、櫛歯状工具による文様、細沈線による文様を施す土器を一括する。52～54は櫛歯状工具による文様、55～57は細沈線を斜位に施す。いずれも堀之内式と思われる。

第7類 (第218図1～23)

縄文時代後期中葉の土器のうち、並行する沈線を施す深鉢形土器を一括する。ほとんどが加曾利B1式である。

1～11は内文を施す。1～3、5～7、9、11・12は口唇部に刻みを施す。また、2、4～7、9～11は口縁部内面に円文が巡る。

12は口縁部に沈線間の刻みが巡る。13～23は内文をもたない土器で、19～23はやや粗雑な平行沈線である。17は区切り沈線を施す。18は()状に沈線を加える。

第8類 (第218図24～44)

縄文時代後期中葉、加曾利B1式の紐線文土器を一括する。

24～36は紐線文の上部に一定の無文部を設けているもの。紐線より下位には並行沈線を施す。36には区切り沈線が見られる。37は地文縄文上に紐線文を貼付する。紐線文以下に41・42は格子目文、43は櫛歯状工具による文様を施す。44は胴部破片である。櫛歯状工具による文様を施す。

第9類 (第219図1～56)

縄文時代後期前葉から後期中葉の格子目文土器、無文土器、器面全体に縄文を施文する土器を一括する。

1～31は斜沈線・格子目文を施す。1～14は口縁部に横線が巡り、横線以下に斜沈線、格子目文を施す。11・12は口縁部に3条の横線、格子目文上にも2条の沈線を施す。15～29は斜沈線・格子目文のみを施す。30～33は胴部破片である。

34～42は無文の深鉢形土器である。43～56は器面全体に縄文を施す深鉢形土器である。

第10類 (第220図1～33)

縄文時代後期前葉から中葉の堀之内2式・加曾利B1式の浅鉢形土器、鉢形土器を一括する。

1～8、10は体部から口縁部へ直線的に移行する形態の土器である。1～4は突起部の破片である。いずれも内文の並行沈線や刻みを施す。

11～13は加曾利B1式の浅鉢形土器で、体部にやや丸みを帯びた形態である。口縁部内面に円文が巡る。内文の並行沈線間には刻みを施す。

14～33は体部で丸みをおびて、内湾気味に口縁部へ移行する鉢形土器である。

第11類 (第221図1～7)

縄文時代後期前葉から中葉の堀之内2式から加曾利B1式の注口土器を一括する。1～3は口縁部、4・5、7は胴部上半、6は胴部の破片である。

第12類 (第221図8～14)

後期中葉の加曾利B2式を一括する。各種の土器を含んでいる。

8は口縁部が内傾して立ち上がる形態の深鉢形土器である。主文様には()状の沈線を施す。9は口縁部が外傾して立ち上がる形態の深鉢形土器である。沈線文を施す。10は口縁部が内湾する形態の土器で、横線以下に縄文を施文する。11は無文の波状口縁土器である。体部に沈線間の点文を施す。12・13はソロバン玉形の鉢形土器である。14は波状4単位構成の浅鉢形土器である。円孔、並行沈線、円文、()状の沈線などを施す。残存度は10パーセントである。

第13類 (第221図15～24)

底部を一括する。いずれも底面に圧痕が認められる。

出土土製品 (第221図25)

第221図25は土製円盤である。土器片を利用している。

出土石器 (第222～224図)**石鏃** (第222図1～4)

1～4は無茎の石鏃である。1・2、4の基部には抉りが入る。3は欠損のため不明である。

1は基部の表裏面に研磨面が認められるもので、局部磨製石鏃と考えられる。沈線間に縄文を充填施文する。

石錐 (第222図5・6)

5は素材である剝片の形状を利用して、最小限の剝離を施して先端部を作り出している。6は石核の端部を利用して石錐として使用しているものである。

搔器 (第222図7)

7は裏面には加工が施されず、表面にのみに剝離を加えているものである。刃部は丸みを帯び、肉厚な基部は断面が三角形となっている。

剝片 (第222図8・9)

8は横長、9は縦長の剝片で、それぞれ2次加工が施されている。

石核 (第222図10)

10は、使用後に廃棄された残核であると考えられる。

磨製石斧 (第222図11～17)

11・12は小型の定角式の磨製石斧である。11は器面全体に丁寧な磨きを加えられるが、裏面の中央には敲打痕が大きく残存している。

13～17は、欠損や再加工のため全体の形状が明瞭ではない。13は基部の破損後、側縁に細加工が施されている。14は敲石として再利用されたものと考えられ、側縁や基部に敲打痕が認められる。15は刃部の欠損後に、再加工が施されている。16・17は基部のみが残存するものである。

打製石斧 (第222図18～20、第223図21～23)

18以外は、側縁中央に大きく抉りの入るいわゆる分銅形の打製石斧である。18は基部のみが残存するもので、側縁は直線的にやや開くいわゆる撥形の打製石斧であると考えられる。

礫器 (第223図24～26)

24は裏面に大きく原礫面を残すもので、器面は被熱のため赤化している。25・26は楕円形状の自然礫の端部のみに、粗い剝離を加えているものである。

敲石 (第223図27～32)

棒状のものを一括した。いずれも端部に敲打痕が認められる。29は平坦な割れ口の面を使用している。32は表裏面の中央部に、敲打による浅い凹みが認められる。

凹石 (第223図33図)

33は表裏面と、右側面の中央部に敲打による浅い凹みが認められる。

磨石 (第224図34～43)

平坦な表裏面や、面を持つ側縁部を磨面として使用するものである。34は側縁に面取り状に敲打が加えられるもので、敲石としても使用されたものである。表面はやや赤化している。36は表面が赤化しており、被熱のため破碎したものと考えられる。40は破損した下端面が磨耗し、その後敲打が加えられている。

軽石 (第224図44・45)

44は扁平な板状に加工を施しているものである。45は厚みを持つが、表裏面と側面は平坦に加工が施されている。

砥石 (第224図46)

46は表面に幅広い浅い凹みが認められるもので、使用によって凹んだものと考えられる。

石皿 (第224図47)

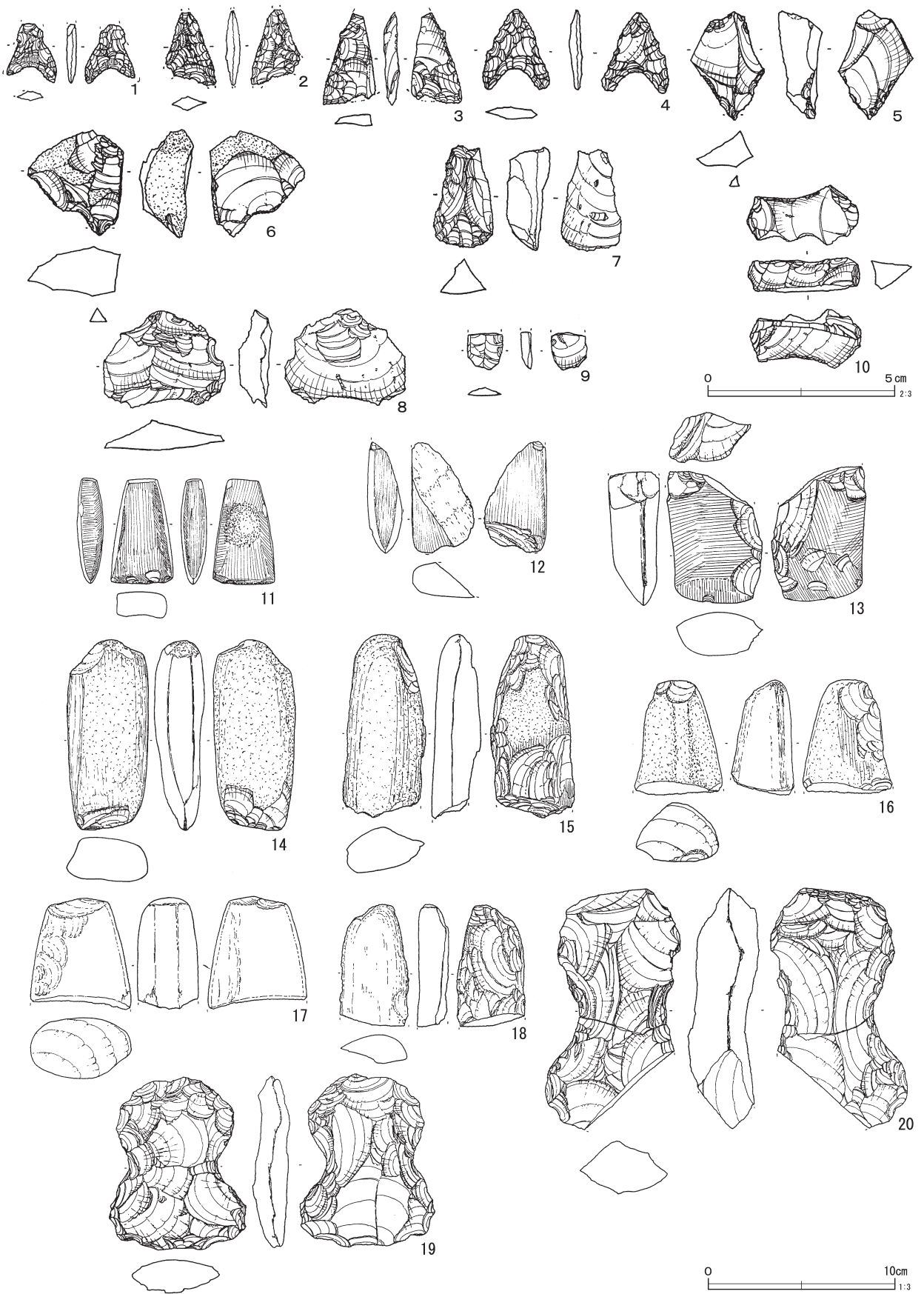
47は石皿の破片で、縁を有するものである。

石錘 (第224図48・49)

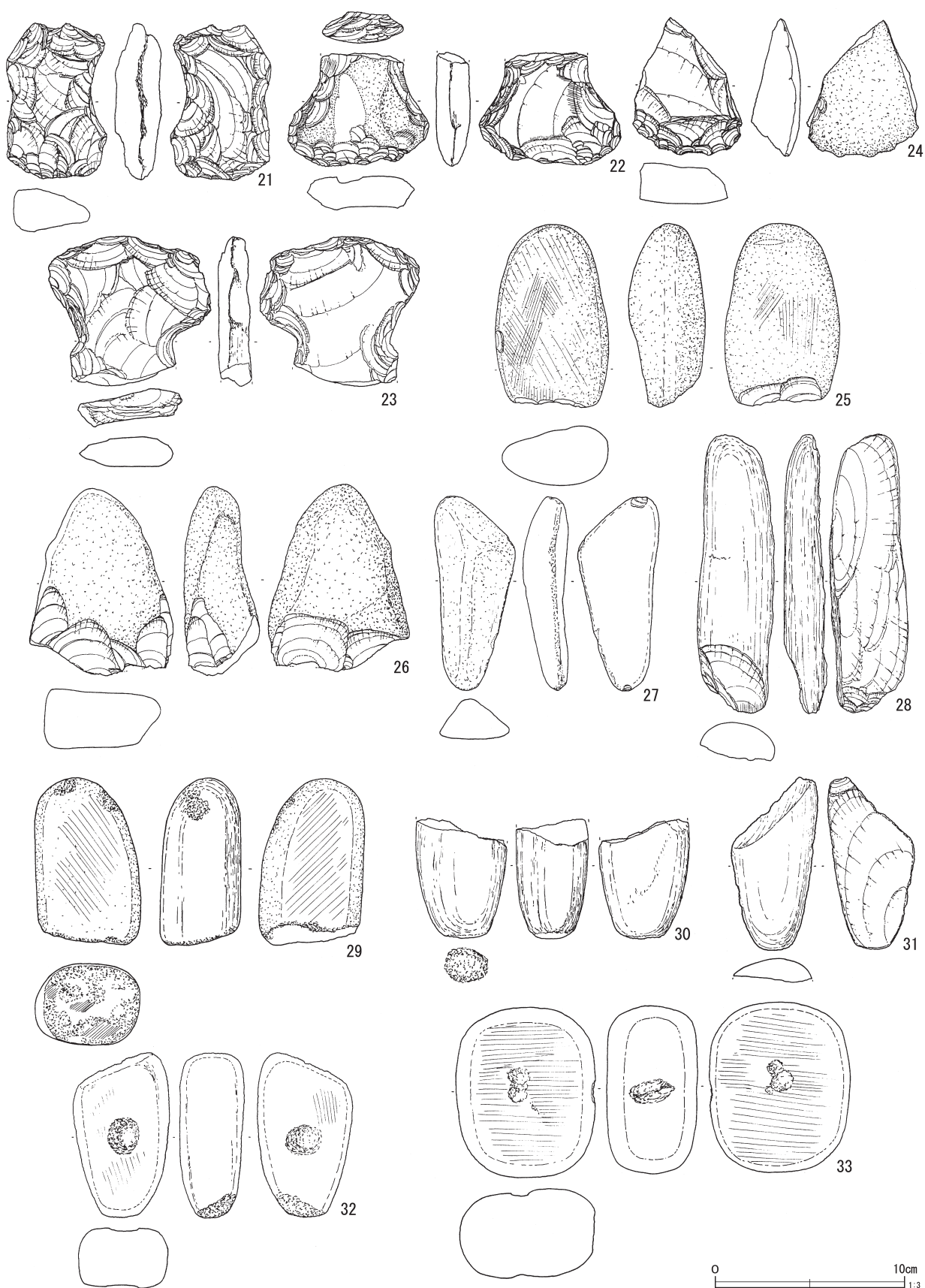
48・49は、扁平な楕円形状の石材の両端に、浅い抉りを入れて使用したのと考えられる。

石棒 (第224図50)

50は基部の破片である。表裏面は平坦に磨かれ、断面は扁平な形状となっていることから、石剣である可能性も考えられる。



第222図 グリッド出土遺物 (9)



第223図 グリッド出土遺物 (10)



第224図 グリッド出土遺物 (11)

第19表 出土石器観察表

図版No	出土遺構	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第195図13	第4-12号住居跡	石鏃	チャート	(2.30)	(1.40)	0.35	0.7	
第195図14	第4-12号住居跡	敲石	砂岩	(10.90)	(5.05)	3.85	259.2	
第211図38	第4-21号土壇	磨製石斧	砂岩	(8.15)	4.70	3.00	219.2	
第222図1	グリッド	石鏃	黒曜石	1.60	1.35	0.30	0.5	
第222図2	M6・A1	石鏃	珪質頁岩	1.95	1.30	0.45	0.8	
第222図3	グリッド	石鏃	黒曜石	1.95	1.40	0.45	1.0	
第222図4	グリッド	石鏃	チャート	2.15	1.80	0.40	0.8	
第222図5	グリッド	石錐	黒曜石	2.95	1.95	1.20	3.8	
第222図6	グリッド	石錐	黒曜石	2.85	2.55	1.45	8.2	
第222図7	L6・J1	搔器	チャート	2.75	1.55	1.15	4.2	
第222図8	M5・A8、A9	剝片	黒曜石	2.65	3.25	0.90	5.6	
第222図9	グリッド	剝片	黒曜石	(0.90)	0.95	0.30	0.3	
第222図10	L5・G8	石核	黒曜石	1.60	3.00	0.90	3.2	
第222図11	L5・J10	磨製石斧	砂岩	5.60	3.30	1.40	42.6	
第222図12	グリッド	磨製石斧	砂岩	(5.90)	3.30	1.90	38.9	
第222図13	試掘トレンチ	磨製石斧	砂岩	7.10	5.05	2.75	134.8	
第222図14	L6・T1	磨製石斧	緑泥片岩	10.10	4.35	3.15	213.5	
第222図15	L5・J10	磨製石斧	緑泥片岩	(9.70)	4.90	2.15	131.1	
第222図16	グリッド	磨製石斧	砂岩	(6.05)	(4.70)	(3.30)	104.1	
第222図17	グリッド	磨製石斧	砂岩	(5.95)	(5.30)	(3.25)	165.4	
第222図18	L6・J1	打製石斧	緑泥片岩	(6.50)	3.70	1.60	59.2	
第222図19	L5・J8	打製石斧	ホルンフェルス	9.20	7.20	2.05	138.2	
第222図20	L6・J2	打製石斧	ホルンフェルス	(12.70)	(7.30)	3.85	296.7	
第223図21	L5・I10	打製石斧	ホルンフェルス	8.20	5.25	2.45	119.4	
第223図22	グリッド	打製石斧	頁岩	(5.90)	7.35	1.75	100.1	
第223図23	L5・I10	打製石斧	ホルンフェルス	7.85	8.40	1.75	153.4	
第223図24	グリッド	礫器	砂岩	7.25	5.80	2.55	119.8	
第223図25	グリッド	礫器	砂岩	9.55	6.95	4.00	305.7	
第223図26	グリッド	礫器	黒色頁岩	9.85	7.45	3.90	343.9	
第223図27	グリッド	敲石	砂岩	10.15	4.25	2.45	109.5	
第223図28	グリッド	敲石	緑泥片岩	14.60	4.10	(3.25)	176.8	
第223図29	グリッド	敲石		8.65	5.50	4.25	320.8	
第223図30	グリッド	敲石	安山岩	(6.30)	4.80	3.80	140.4	
第223図31	グリッド	敲石	安山岩	9.05	4.55	(1.54)	73.6	
第223図32	グリッド	敲石	安山岩	8.65	5.05	3.30	213.8	
第223図33	グリッド	凹石	安山岩	8.95	7.35	4.85	499.0	
第224図34	グリッド	磨石	砂岩	(7.15)	(6.35)	(3.25)	136.1	
第224図35	グリッド	磨石	花崗岩	(5.90)	(4.50)	(3.15)	92.8	
第224図36	グリッド	磨石	砂岩	(6.30)	(7.65)	(4.95)	237.0	
第224図37	グリッド	磨石	安山岩	(4.15)	(4.35)	(4.35)	107.9	
第224図38	L5・J9	磨石	閃緑岩	9.00	4.95	4.40	355.2	
第224図39	グリッド	磨石	安山岩	(6.10)	(5.55)	(3.00)	180.7	
第224図40	L6・J1	磨石	閃緑岩	8.80	5.40	3.70	293.7	
第224図41	グリッド	磨石	安山岩	(5.20)	(5.65)	(3.02)	106.1	
第224図42	グリッド	磨石	安山岩	(7.40)	(5.20)	(4.25)	223.5	
第224図43	グリッド	磨石	安山岩	(6.25)	(4.55)	3.35	140.0	
第224図44	グリッド	軽石	軽石	5.05	3.55	1.87	4.1	
第224図45	グリッド	軽石	軽石	6.55	5.80	4.49	39.4	
第224図46	グリッド	砥石	砂岩	10.25	8.20	3.49	419.2	
第224図47	グリッド	石皿	安山岩	(12.80)	(7.35)	(5.60)	667.8	
第224図48	グリッド	石錘	黒色頁岩	5.35	7.10	1.65	88.3	
第224図49	グリッド	石錘	緑泥片岩	5.80	8.00	1.00	75.2	
第224図50	グリッド	石棒	片岩	(9.00)	3.60	2.25	140.5	

4. 弥生時代

大木戸遺跡の弥生時代の遺構・遺物は、第4地点にまとまっており、住居跡が11軒検出された。他の調査区からは弥生時代の遺構・遺物は検出されておらず、集落範囲は比較的狭と考えられる。

住居跡の分布は調査区西側に偏り、東側に隣接する第6地点では、当該期の遺構はまったく検出されなかった。今回の調査で、集落の範囲は南北約50m、東西は約40m程度の範囲に密集している。しかし、第1次調査では第6地点の南側部分で、当該期の住居跡が1軒検出されている。今回の調査した密集部とはやや離れており、別に幾つかの住居跡のまとまりがある可能性がある。

(1) 住居跡

今回の調査で住居跡は11軒検出されたが、全体が調査できたのは4軒のみで、他は住居跡の半分以上が調査区外となるため、遺物は少なく住居の規模や主軸方位等が把握できなかった。また、全体が調査区に入った住居跡でも、遺存状況が良好なものは少なかった。その中で、第4-2号住居跡は一括廃棄されたと思われる、完形に近い土器がまとまって出土した。他の、第4-1号住居跡は攪乱が一部床面まで達しており、覆土の多くが攪乱されている為、遺物は殆ど検出されなかった。第4-4号住居跡は耕作等によって、西側が削平されていた。また、第4-5号住居跡は北西側が第4-1号溝跡によって壊され、住居跡の規模等は不明である。第4-11号住居跡は、掘り方面で検出され僅かに炉跡が残ったが、殆ど削平されていたため、詳細は不明である。

第4-1号住居跡 (第225図)

M5・A8、B8グリッドに位置する。

平面形は、横長の長方形を呈し四隅はやや丸くなる。長軸4.7m、短軸4.0m、確認面からの深さは0.5mである。主軸方位はN-12.5°-Eを指す。

住居跡の覆土に攪乱が多く入っており、遺物は

殆ど検出されなかった。

貯蔵穴は東壁のやや北側に寄った地点から検出され、長径0.52m、短径0.47mの楕円形で深さは床面から0.22mである。貯蔵穴を囲むように幅0.35m、現状の高さ0.03mの盛土状の高まりが、C字状に囲んでいる。

入り口に伴うと思われるP4は貯蔵穴の南側から見つかっている。ピットは6箇所検出されたが、P1とP3とP2・5が支柱穴と考えられ、4本柱の住居跡であったと思われる。P1は北西の柱穴で深さは0.2mである。P3は南西の柱穴で、深さは0.4mで柱痕が観察された。P2・5は南東の柱穴で隣接して2基検出された、深さはP2が0.22m、P5が0.28mと他の柱穴とあまり変わらず、立て替え等の可能性がある。北東の柱穴は攪乱によって検出できなかった。P6とP7は柱穴間に位置し、支柱穴としては不自然である。P6は深さ0.18mで覆土はP2と共通するが、P7は0.1mと浅い。

炉跡は西側寄りの中央に位置する。長径0.8m、短径0.55mの楕円形を呈し焼土粒子、炭化物が多く検出された。

壁溝は北側と南側にコ字状にめぐり、入り口から貯蔵穴付近は、掘られていなかった。

第4-2号住居跡 (第226~230図)

L5・J8グリッドに位置する。

柱穴の新旧関係から、第4-2号住居跡は2時期の建て替えが行われたことが明らかになった。

平面形は、隅丸長方形である。長軸5.4m、短軸4.9m、確認面からの深さは0.4mである。主軸方位はN-80°-Wを指す。

遺構の遺存状態は良好で、覆土上面に一部攪乱が見られるだけである。

貯蔵穴は東壁のやや北側に寄った地点から検出され、長径0.6m、短径0.48mの楕円形で深さは床面から0.28mで、小形の無頸壺が完全な形で出土

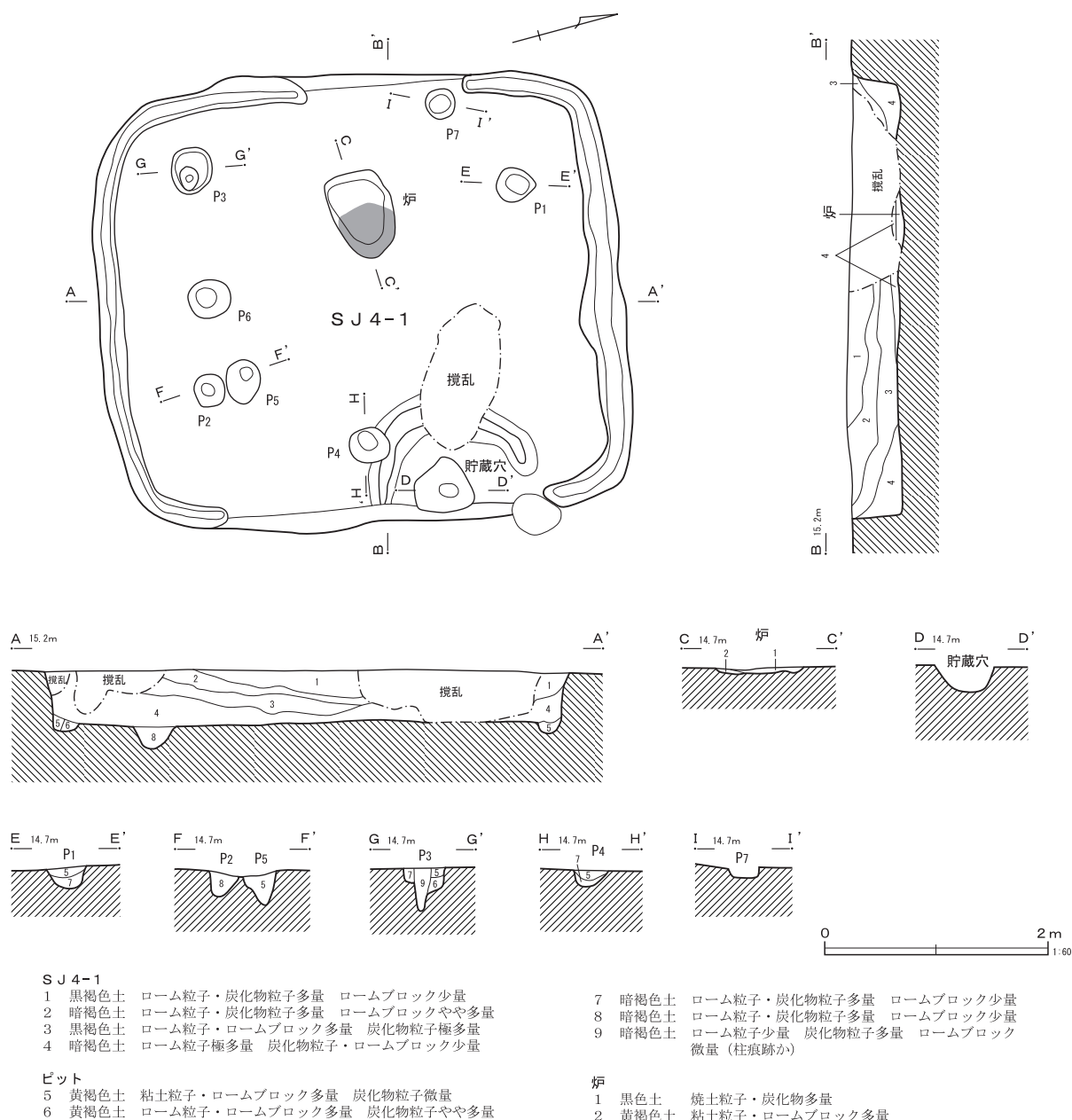
した。貯蔵穴を囲むように幅0.38m、現状の高さ0.1mの盛土状の高まりがC字状に囲んでいる。

入り口に伴うと思われるピットが2基（P5・P6）貯蔵穴の南側に並んでいた。P5は深さ0.35m、P6は深さ0.1mである。支柱穴は新段階(第226図)が4箇所検出された。P1は北東で深さ0.45m、P2は北東で深さ0.65m、P3は南東で深さ0.66m、P4は南西で深さ0.53mである。

古段階のP1は深さ0.45m、P2は深さ0.6m、P3は深さ0.62m、P4は深さ0.54mである。

炉跡は西側にやや寄った中央に位置する。長径0.78m、短径0.55mの楕円形を呈し、深さは0.2mである。覆土の上層は、焼土粒子、炭化物が多く検出され、下層は被熱ロームである。壁溝は検出されなかった。

遺物は完形に近いものがまとまっており、一括



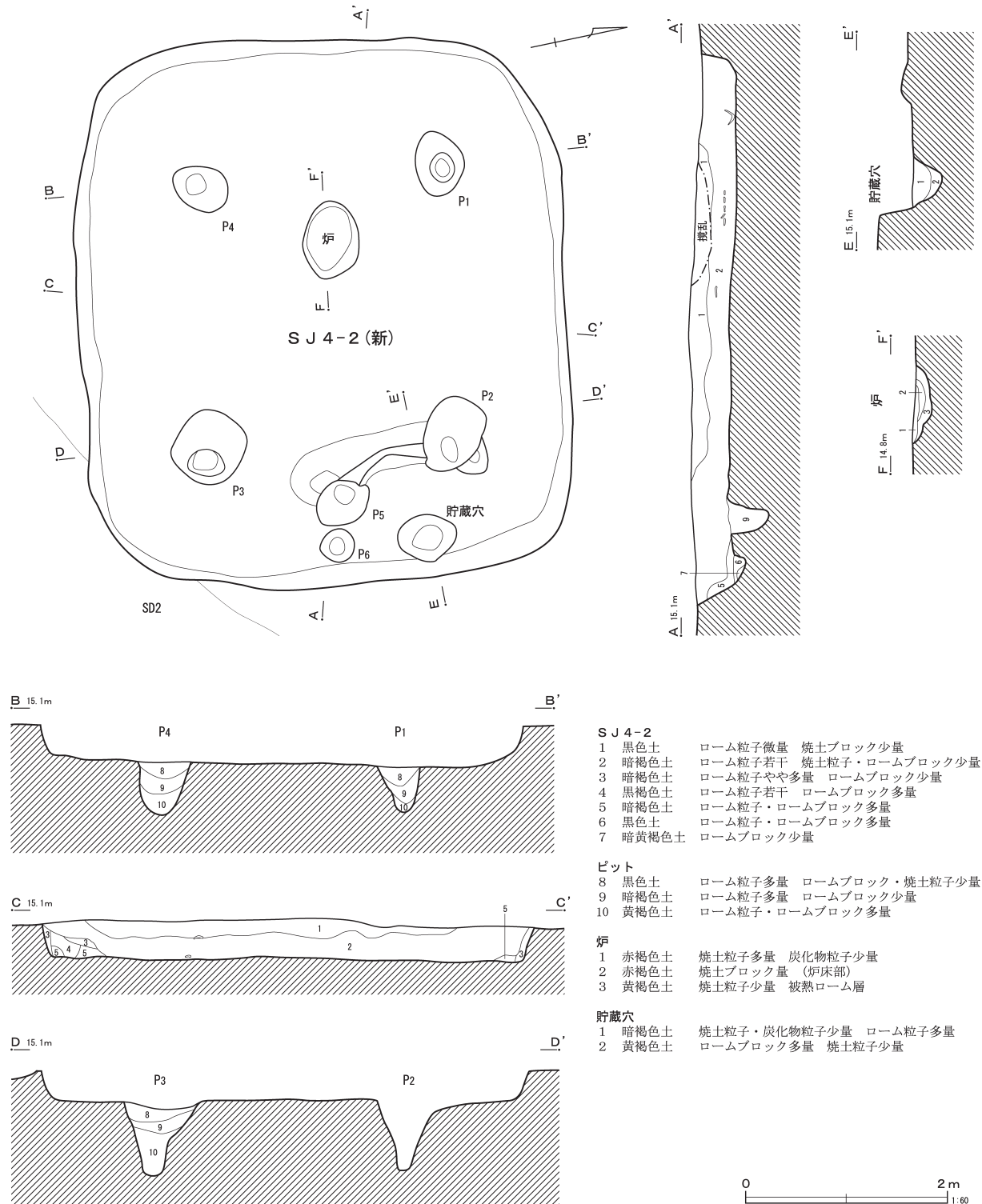
第225図 第4-1号住居跡

廃棄された状態で検出された。出土状況は2つのまとまりが見られる。

一つは、西側のほぼ中央部に位置する。9の大形の壺が口縁を上にして潰れた状態で出土した。

それを中心に壺（2・3・5）が取り囲むように出土し、その外周をほぼ完形に近い台付甕（16・19・13）が囲んでいる。

一方のまとまりは、北東部のコーナー付近から

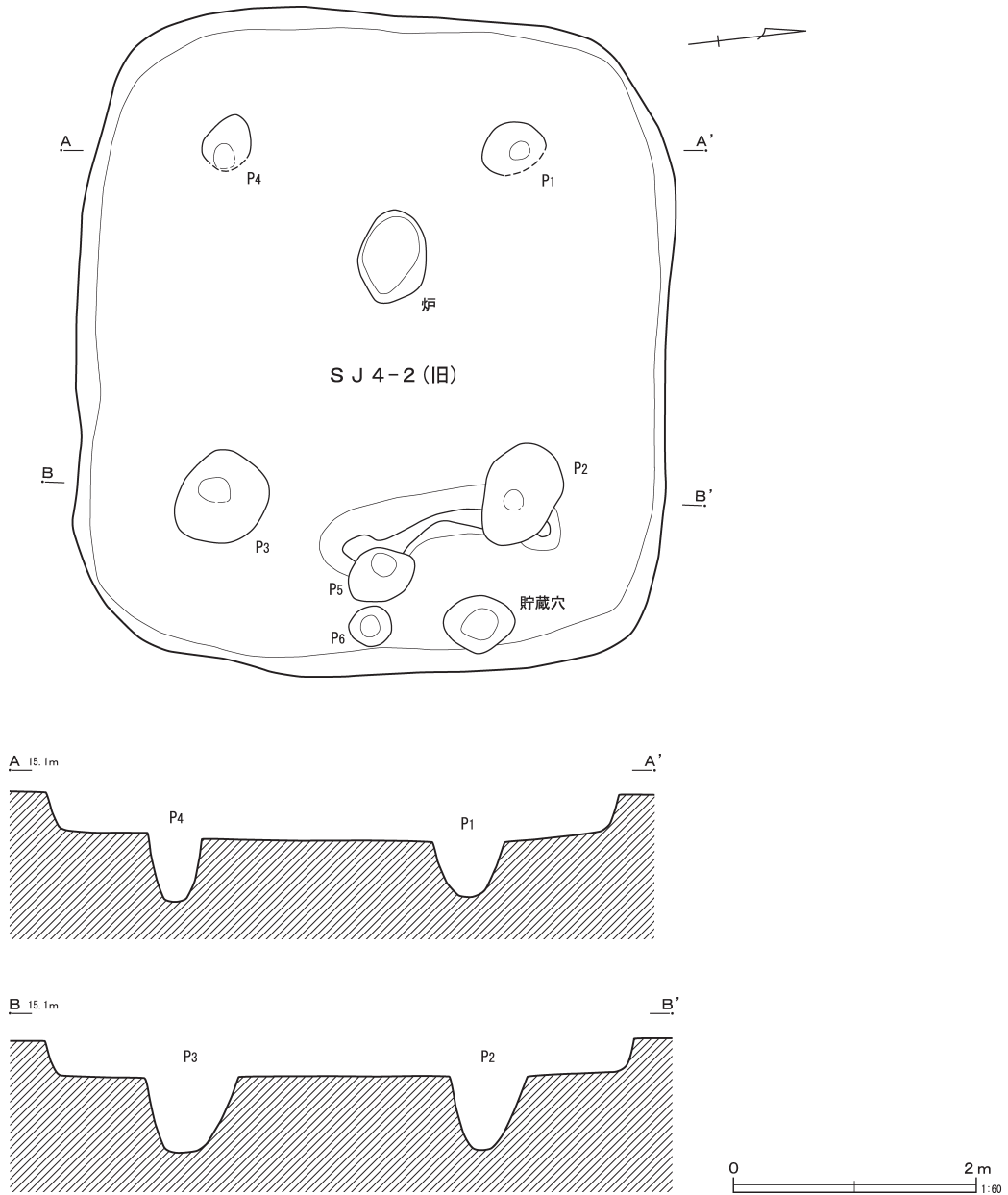


第226図 第4-2号住居跡(1)

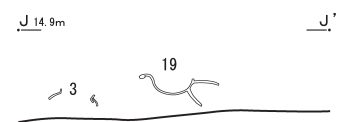
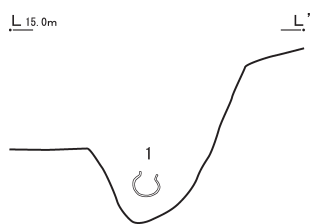
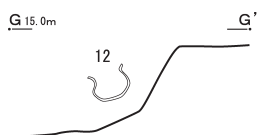
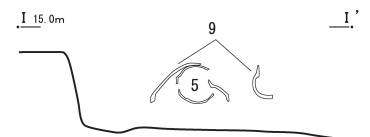
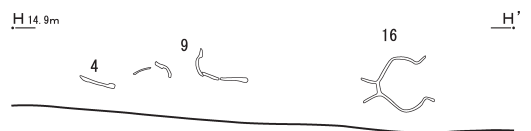
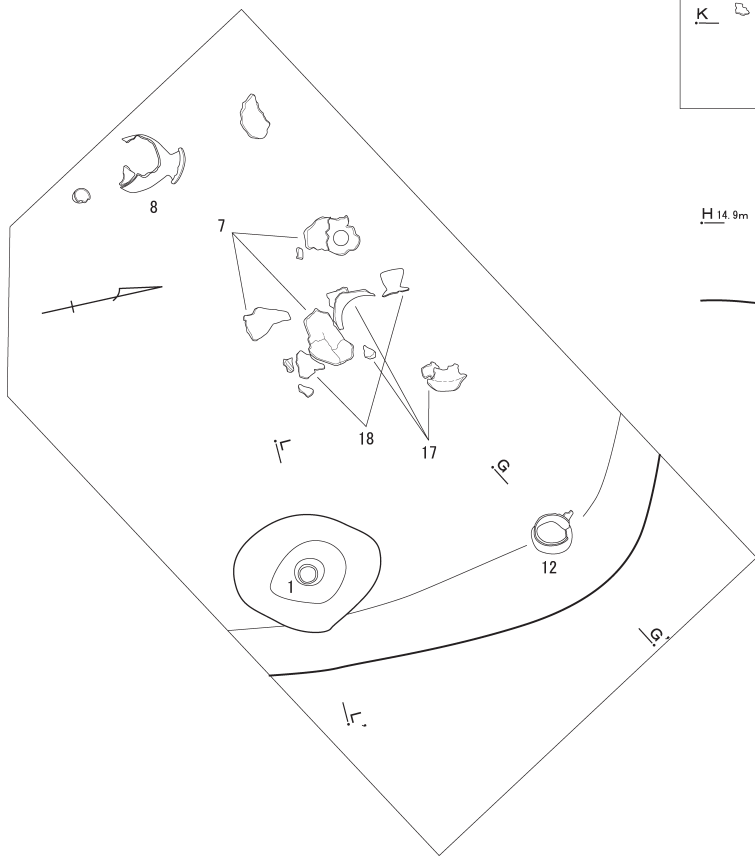
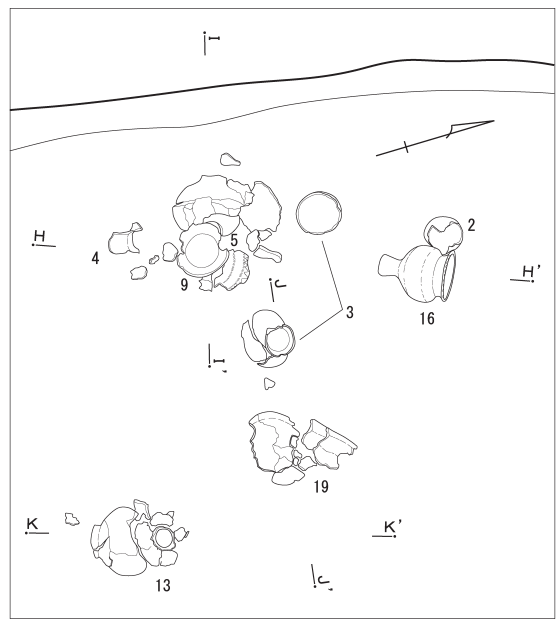
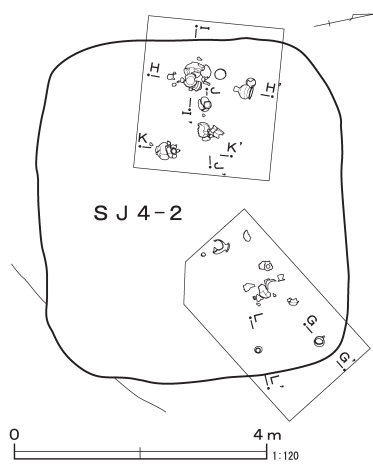
出土し、貯蔵穴が近くにある。壺（7・8）、台付甕（12・17・18）が出土している。12は壁面近くから出土している。17・18は残存率が低く20～

30%程度である。

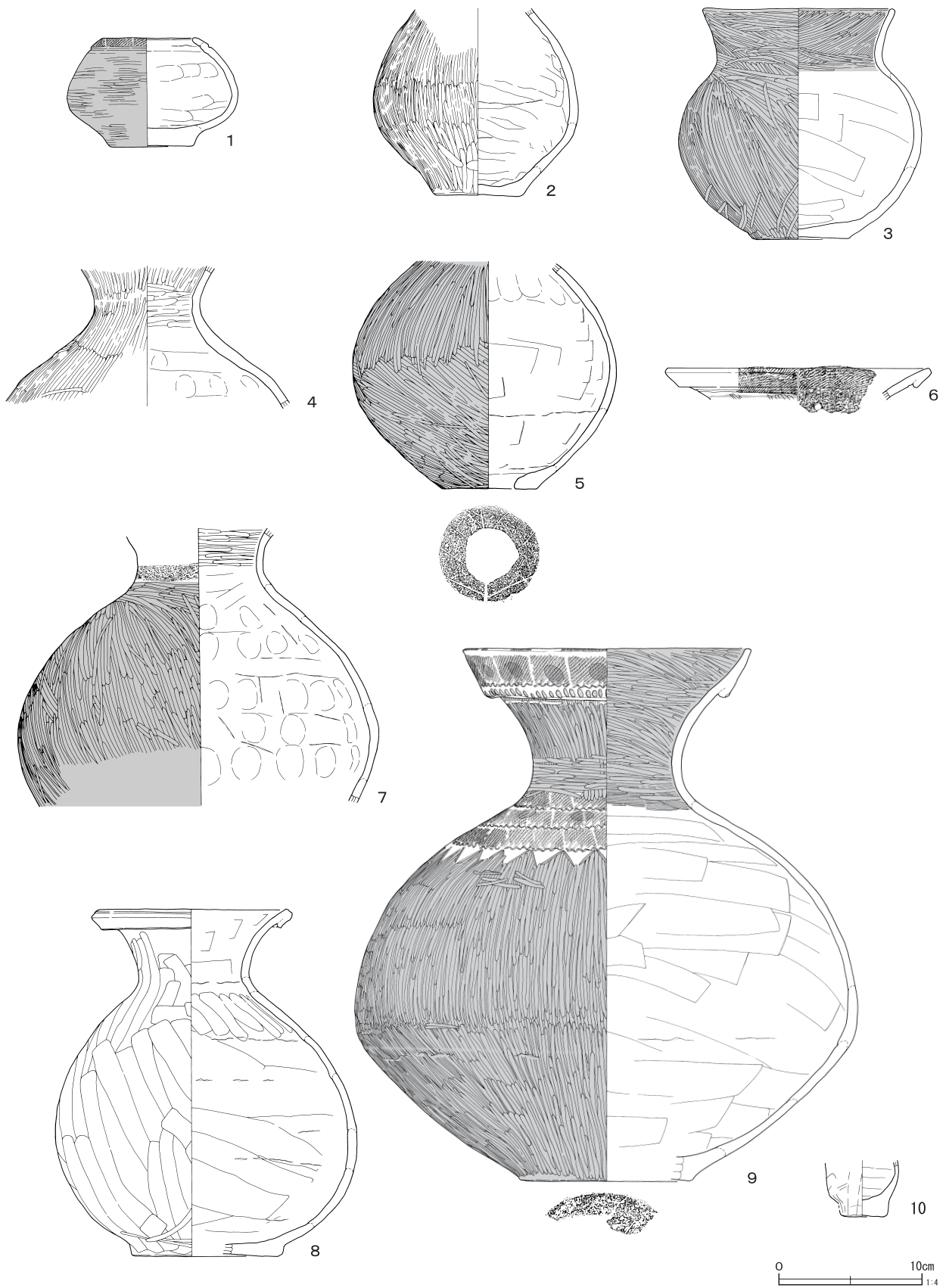
貯蔵穴中から、1の小形無頸壺がほぼ完形の状態で出土している。



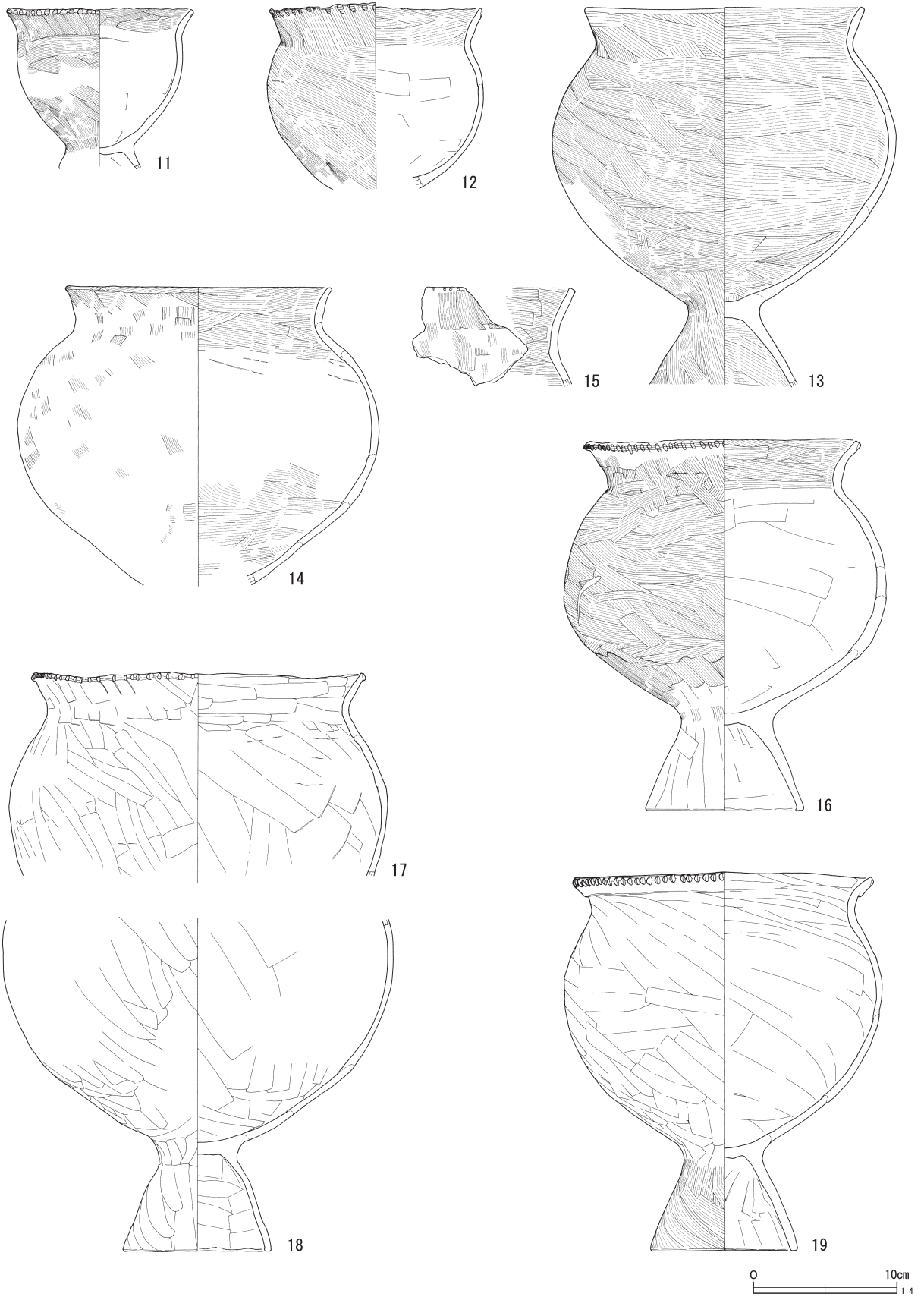
第227図 第4-2号住居跡(2)



第228图 第4-2号住居跡遺物分布図



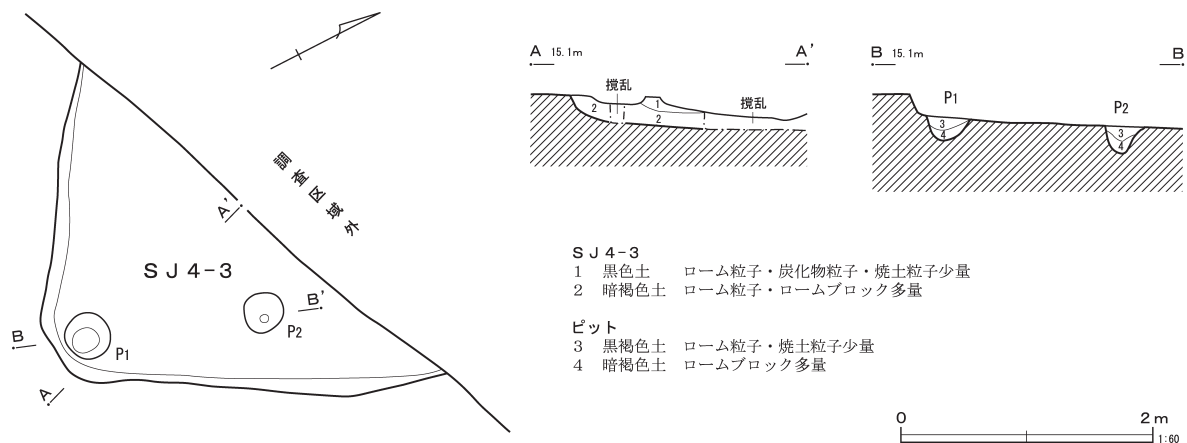
第229图 第4-2号住居跡出土遺物(1)



第230图 第4-2号住居跡出土遺物(2)

第20表 第4-2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	無頸壺	100	6.4	6.0	7.5	石・砂・白	普通	赤彩
2	壺	75		6.0	[13.0]	雲・石・砂・白	良好	赤彩か
3	壺	95	13.0	6.7	16.1	赤・白	良好	赤彩
4	壺	20			[9.8]	白	普通	
5	壺	95		6.6	[15.7]	長・白	普通	赤彩、底部木葉痕・穿孔
6	壺	5	(18.3)		[2.1]	石・砂・白	普通	赤彩
7	壺	70			[19.2]	白	普通	赤彩
8	壺	85	13.5	(10.5)	24.1	砂・赤・白	普通	
9	壺	40	20.0	(11.8)	37.3	角・白・黒	良好	赤彩・底部木葉痕
10	手捏	85		(2.8)	[3.9]	赤・白	普通	赤彩か
11	台付甕	70	12.6	(5.0)	[11.1]	砂・白	普通	
12	甕 台付か	80	14.5		[13.0]	赤・白・黒	普通	
13	台付甕	80	(19.0)		[26.4]	石・赤・黒	良好	
14	甕	85	(18.2)		[20.8]	長・砂・赤	普通	
15	甕	5			[6.9]	黒	普通	
16	台付甕	100	18.6	11.0	25.8	石・赤	普通	
17	甕	30	(23.0)		[14.1]	砂・赤・白	良好	
18	台付甕	20		10.2	[23.2]	角・白・黒	良好	
19	台付甕	80	20.5	10.2	26.3	赤・白	普通	



第231図 第4-3号住居跡

第4-3号住居跡 (第231図)

L5・J7グリッドに位置する。住居跡は南側コーナーのみの検出で、北側は調査区外となる。

平面形は方形になると思われるが、全体は把握できない。規模は不明で深さは確認面からの0.28mである。

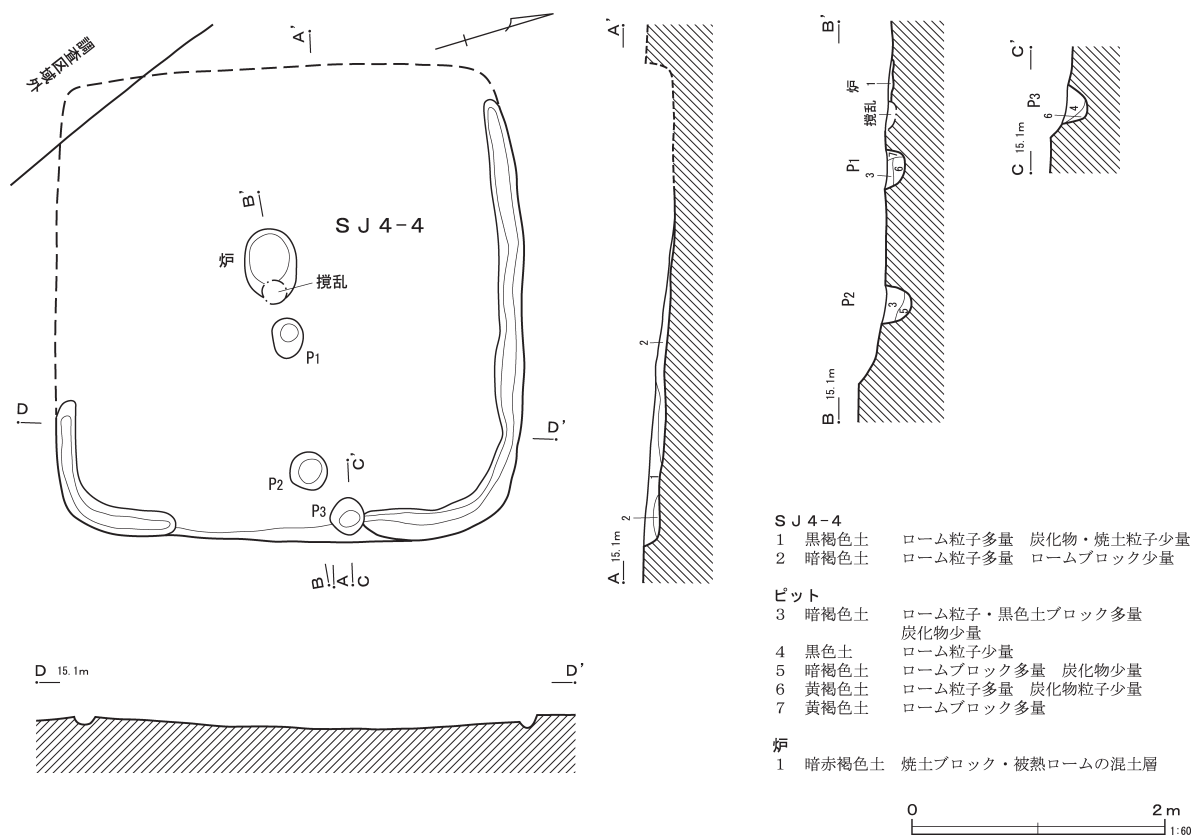
住居跡に伴う施設はピット2箇所のみであった。P1はコーナー部にあり性格は不明である。P2は支柱穴の可能性があり。深さはP1が0.19m、P2が0.21mで覆土は共通する。

第4-4号住居跡 (第232図)

M5・A7、A8、B8グリッドに位置する。

平面形は、隅丸方形になると思われるが、南西部は耕作等により壁溝まで削平されており、遺構の遺存状況は良好ではなかった。大きさは、現況で一辺が約3.5mである。確認面からの深さは、西側の最も残りの良いところで0.08mを測る。主軸方位はN-73°-Wを指す。

ピットは、南東の壁際から炉跡に向けて3箇所確認された。P2とP3は東側の壁溝が切れると



第232図 第4-4号住居跡

ころに位置し、入り口施設に関連するものと思われる。深さはP 2が0.22m、P 3が0.20mである。P 1は炉跡の東側に近く、深さは0.15mである。炉跡は焼土ブロックが確認された。周溝はピットと炉跡のラインを挟んでコ字状に廻ると思われるが、上記したように南西側が削片されているため不明である。

第4-5号住居跡 (第233~235図)

L 5・J 9グリッドに位置する。

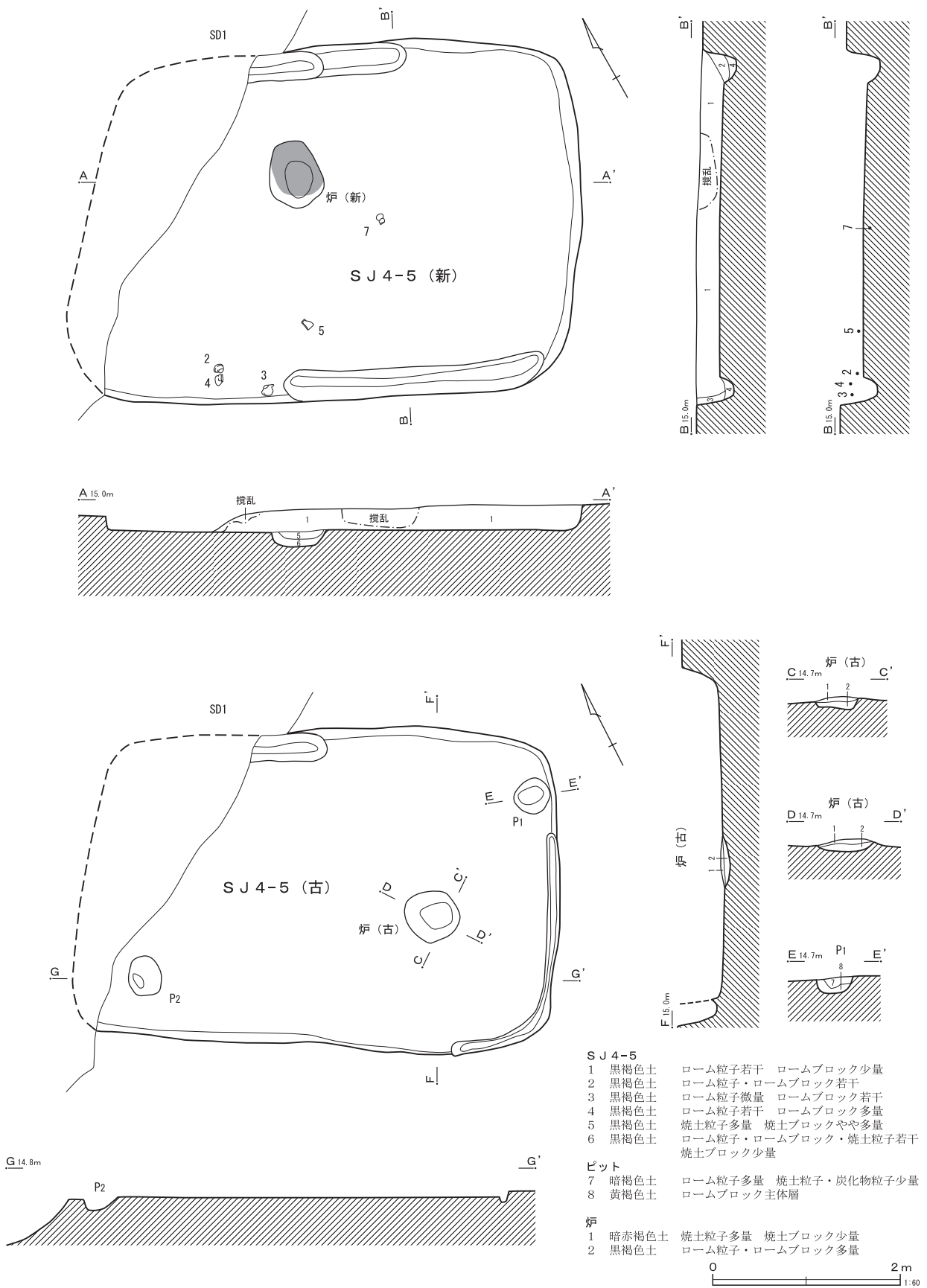
北西側は第4-1号溝跡によって壊されている。住居跡は、貼床と炉跡の状況から、新旧2面が確認された。

第4-5号住居跡(新)の平面形は、炉跡の位置から長方形を呈すると思われる。長軸は現況で5.0m、短軸は3.8m、確認面からの深さは0.3mである。住居跡の主軸はN-63°-Wを指す。

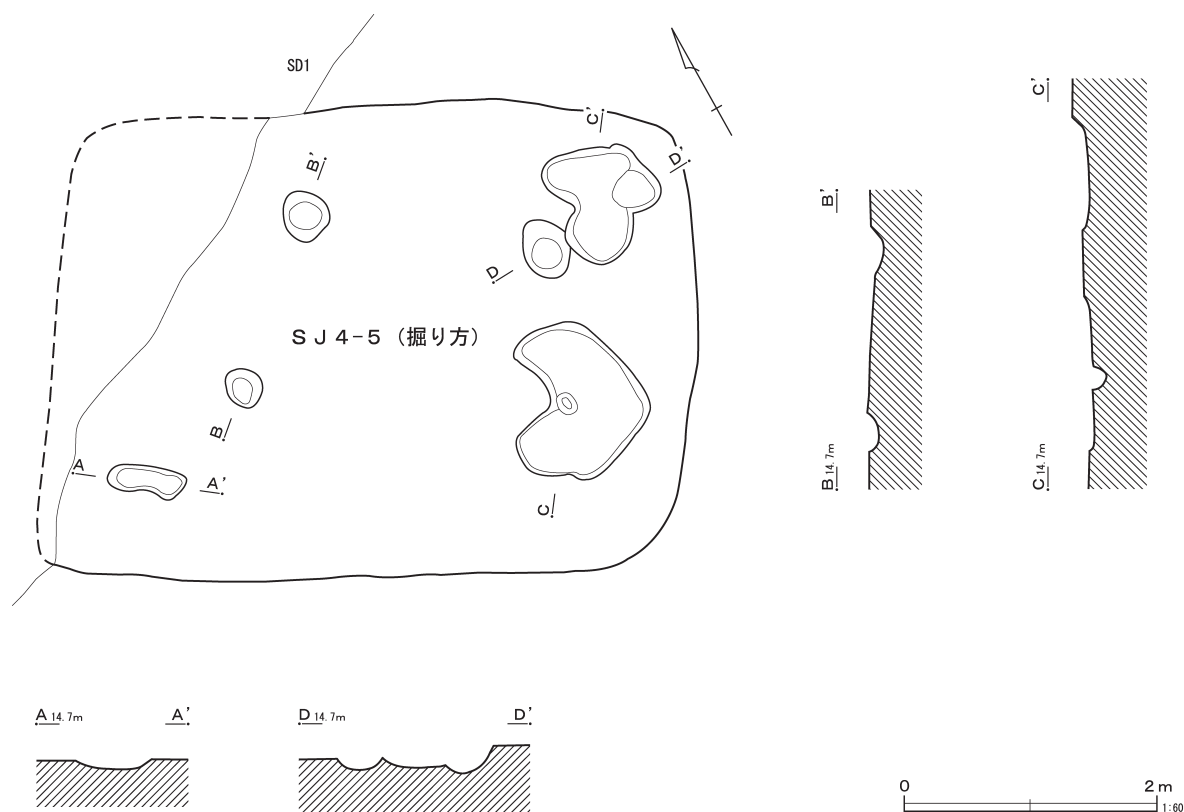
炉跡は北側に偏り、南から2m北から1mの場所に位置している。支柱穴は検出されなかった。壁溝は東壁の一部と、南壁の東側から検出された。周溝の幅は0.3m、深さは0.4mである。

遺物は、炉跡の南側に瓢形壺(7)がほぼ完全な形で出土した。胴部には穿孔が施されている。南東壁近くからまとまって出土した、ほぼ完形の小形壺(2)である。

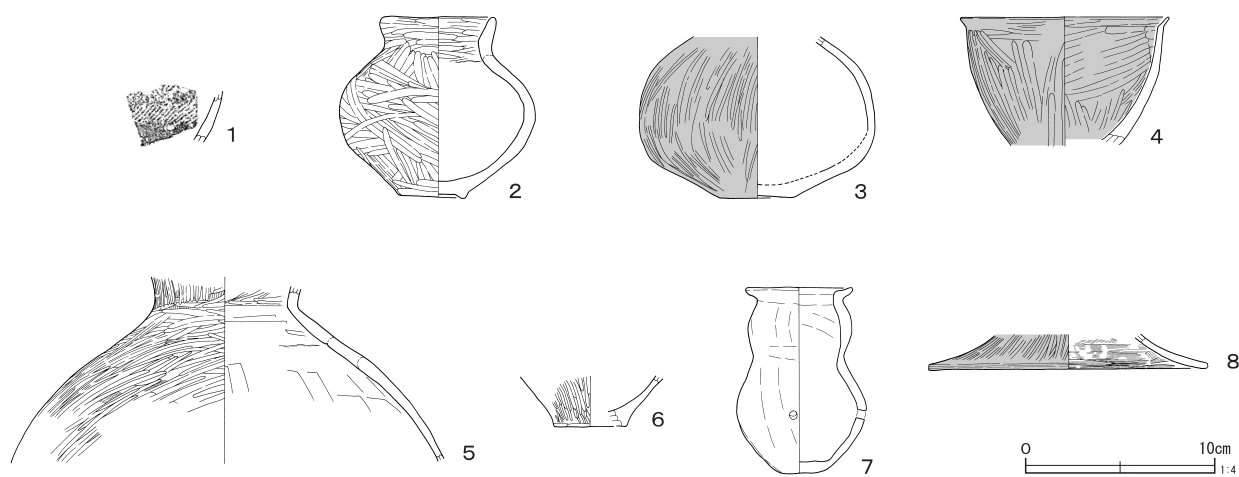
第4-5号住居跡(古)の平面形は、新段階の住居跡より一回り小さく、長軸は現況で5.0m、短軸は3.4mである。炉跡は東側に偏り、住居の主軸はN-63°-Wを指す。ピットは北東と南西の対角線上に2箇所検出された。P 1は深さ0.15m、P 2は深さ0.1mである。周溝の幅は0.15m、深さは0.3mである。



第233図 第4-5号住居跡 (1)



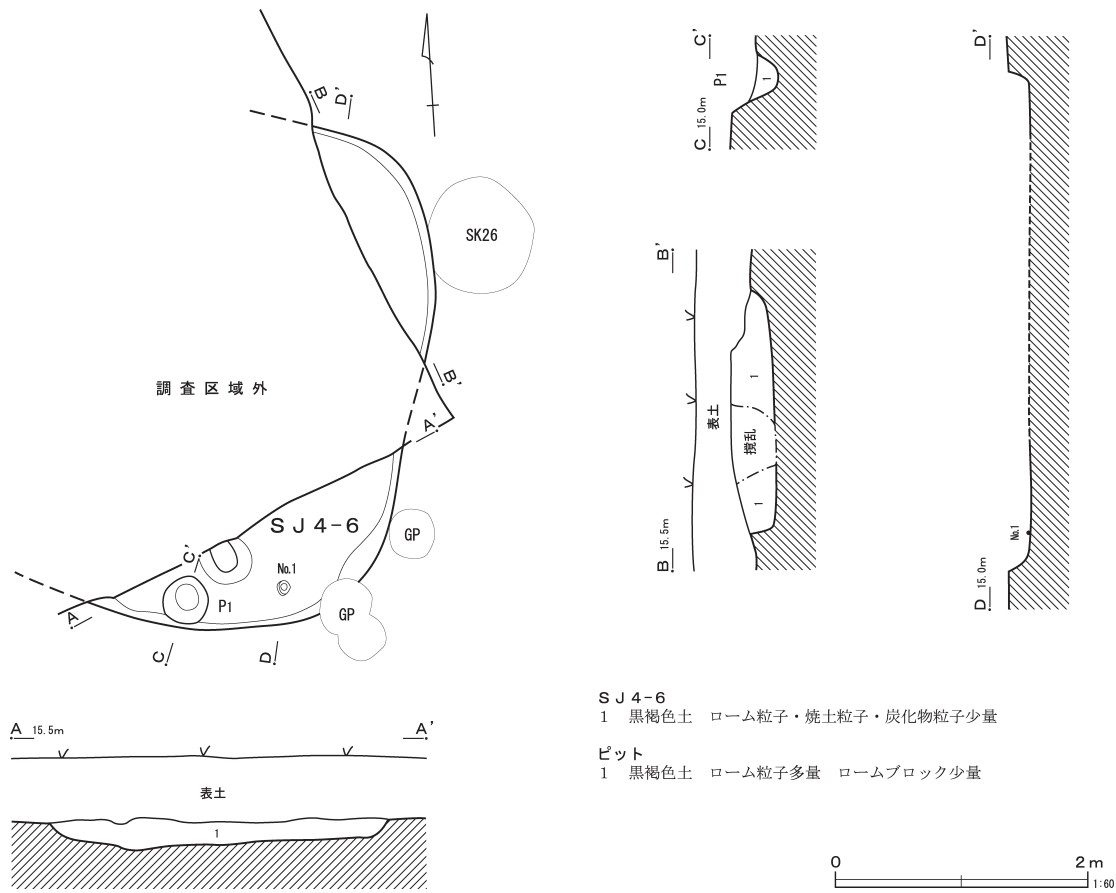
第234図 第4-5号住居跡(2)



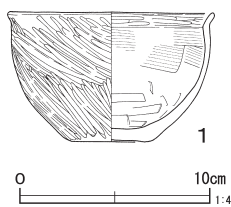
第235図 第4-5号住居跡出土遺物

第21表 第4-5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	5			[2.8]	長・白	普通	赤彩
2	小型壺	95	5.7	3.5	9.6	角・白	普通	
3	壺か埴	50		(3.8)	[8.5]	白	普通	赤彩
4	鉢	30	(10.9)		[6.7]	赤・白	良好	赤彩
5	壺	35			[9.9]	角・赤・白	普通	
6	壺	5			[2.7]	白	普通	
7	壺	95	5.5	2.0	9.8	角・白	良好	
8	高坏	20		(14.8)	[1.8]	角・白・黒	良好	赤彩



第236図 第4-6号住居跡



第237図 第4-6号住居跡出土遺物

第4-6号住居跡 (第236・237図)

L5・I9グリッドに位置する。調査区の西側コーナーにかかるため、住居跡の北東部と南東部の一部が調査された。

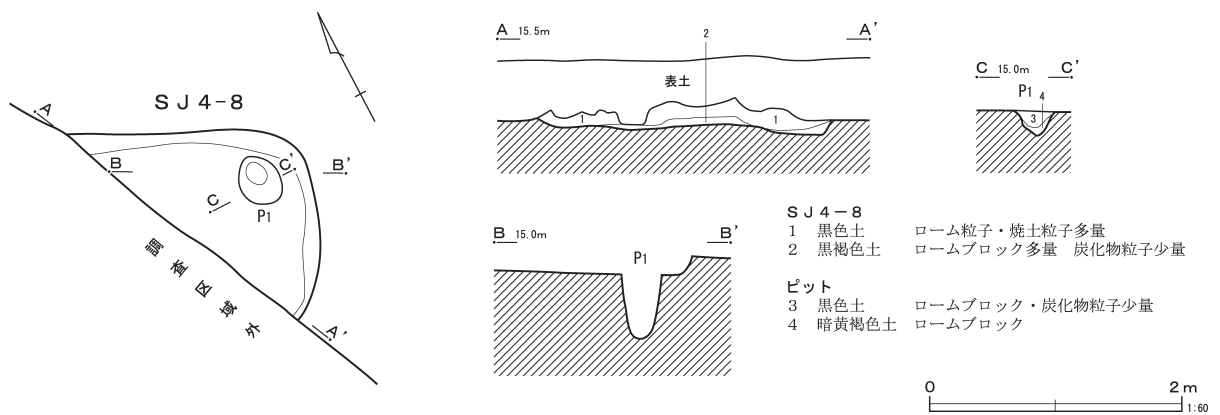
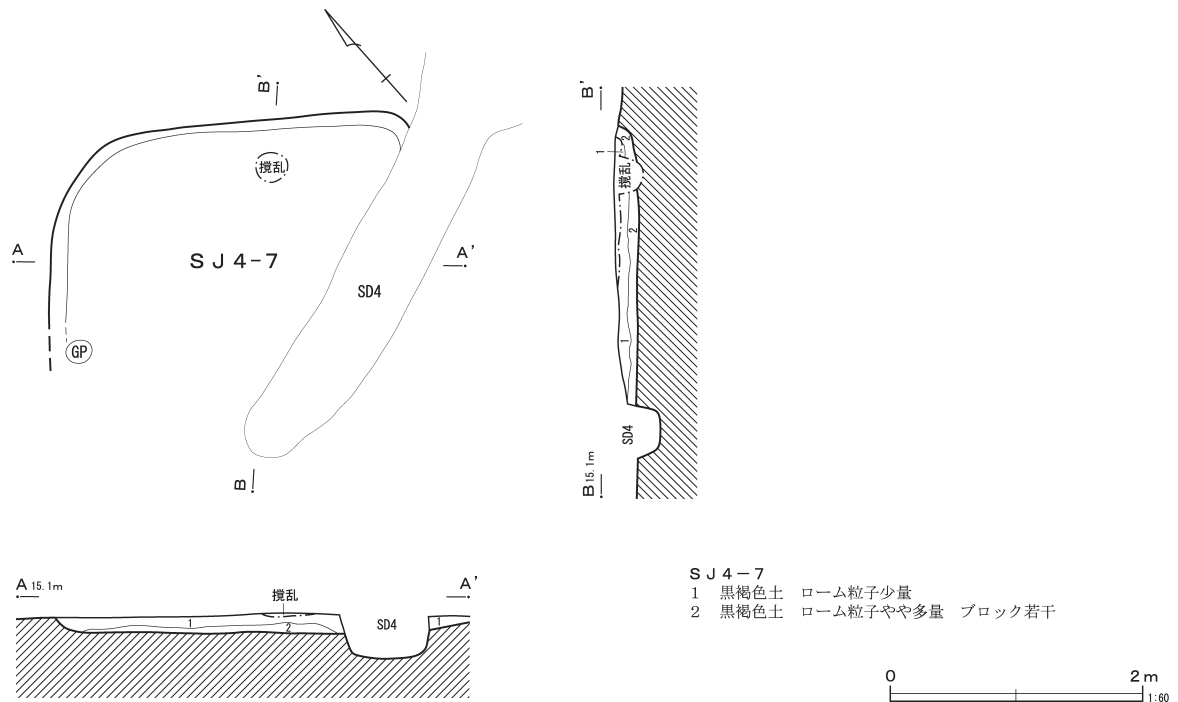
平面形は隅丸方形を呈し、南北の長さは4.1m、

東西は不明である。支柱穴は調査範囲の関係から検出されなかったが、ピットは南壁近くから1箇所検出された。P1の深さ0.17mである。ピットの北側に、高さ0.08mの盛土状の高まりが僅かに確認された。盛土状の高まりは貯蔵穴を囲む場合が多いため、P1の西側に貯蔵穴があると考えられる。また、P1が入り口部に関連するピットと考えると、住居の主軸方位はN-15°-Eを指すと考えられる。

遺物は、P1東側の床直から鉢1個体が出土した。残存率は60%あり、形状の分かる状態で出土した。色調はにぶい黄橙である。

第22表 第4-6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	鉢	60	(10.7)	4.0	6.8	白・黒	普通	



第238図 第4-7・8号住居跡

第4-7号住居跡 (第238図)

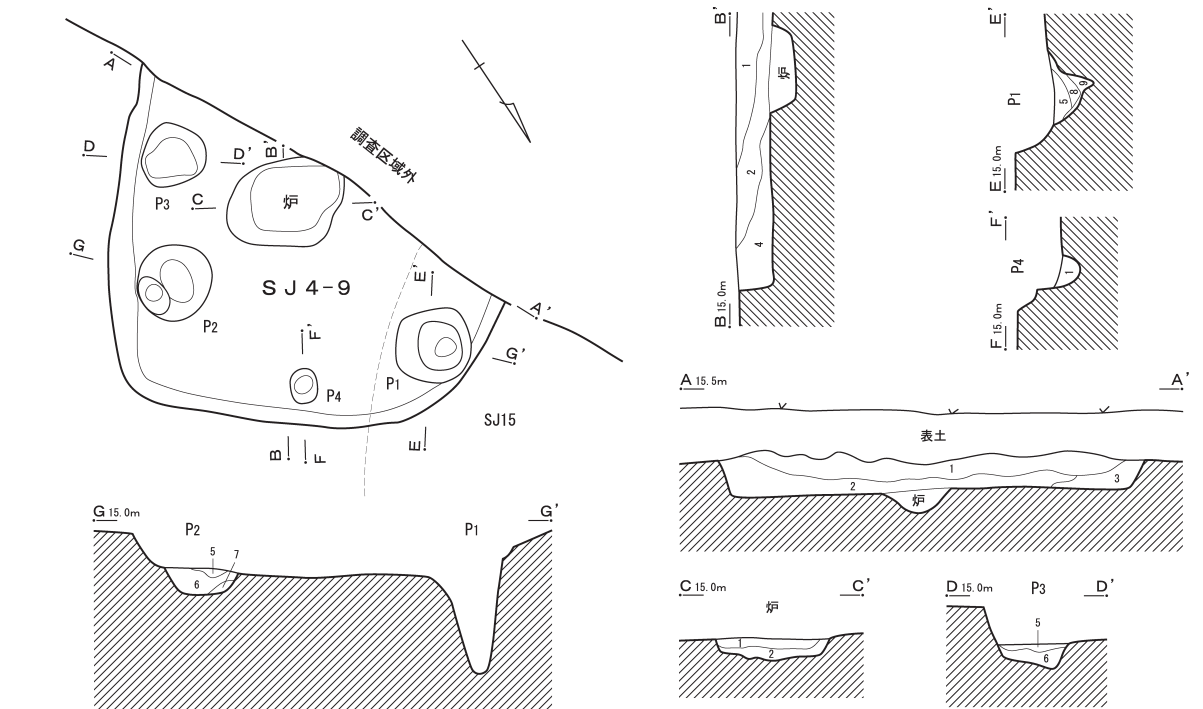
L5・I9グリッドに位置する。第4-6・4-8号住居跡の東側に隣接している。住居跡は殆どが床面下まで耕作等によって削平されたおり、遺存状況は悪く、北西の壁の一部のみが検出された。遺構確認面からの深さは残りの良い部分で0.2mである。柱穴または炉跡等の付属設備は検出されず、規模は不明である。

遺物は殆ど検出されなかった。

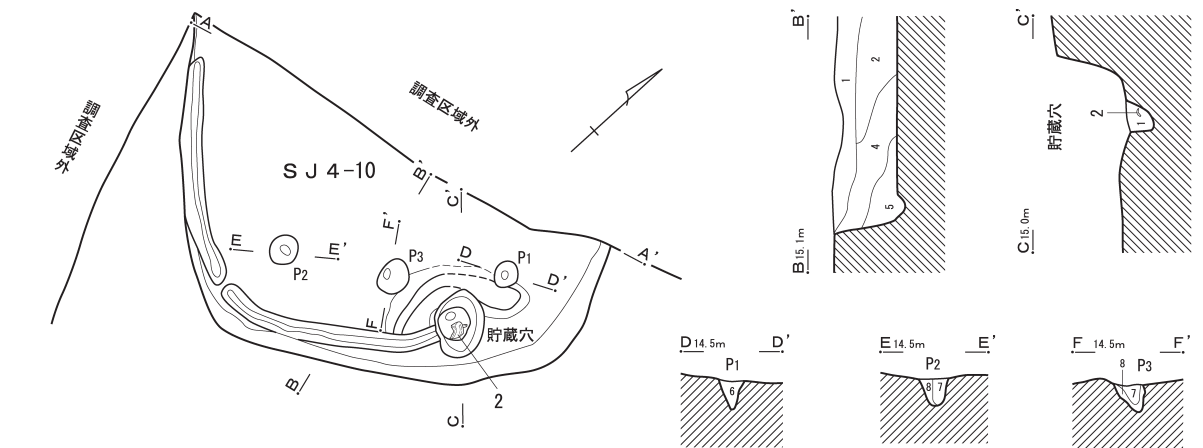
第4-8号住居跡 (第238図)

L5・H9グリッドに位置する。第4-6号住居跡と第4-9号住居跡に挟まれるかたちで隣接している。住居跡北東コーナー部のみが調査され、殆どが調査区外となるため、規模等は不明である。遺構確認面からの深さは0.2mである。ピットは1箇所、住居跡コーナーから検出されたが、性格は不明である。深さは0.5mである。

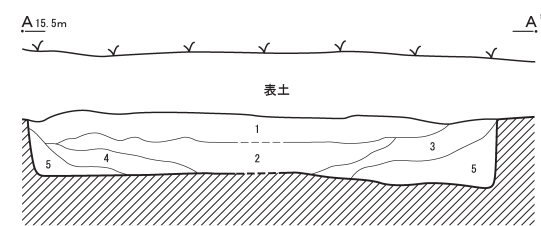
遺物は殆ど検出されなかった。



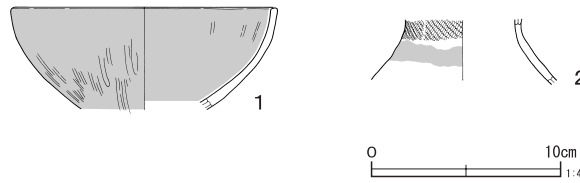
- | | | | |
|---------------|-------------------|------------|-----------------|
| SJ 4-9 | | ピット | 炉 |
| 1 黒色土 | ロームブロック・炭化物粒子多量 | 5 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック多量 炭化物少量 | 6 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロック多量 | 7 黄褐色土 | 再堆積ローム層 黒色土粒子少量 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック多量 | 8 黒褐色土 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | 焼土粒子微量 | 9 暗褐色土 | ローム粒子多量 焼土粒子少量 |



- | | | | |
|----------------|------------------------------|------------|---------------|
| SJ 4-10 | | ピット | 貯蔵穴 |
| 1 暗褐色土 | ローム粒子若干 ロームブロック少量 炭化物微量 | 6 暗褐色土 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色土 | ローム粒子やや多量 ロームブロック若干 | 7 黒色土 | ローム粒子・炭化物粒子少量 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒子少量 炭化物粒子微量 | 8 暗褐色土 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック少量 | | |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子やや多量 ロームブロック若干 焼土ブロック少量 | | |



第239図 第4-9・10号住居跡



第240図 第4-10号住居跡出土遺物

第23表 第4-10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	20	(13.8)		[5.3]	白	普通	赤彩
2	壺	20			[3.5]	白	普通	赤彩

第4-9号住居跡 (第239図)

L5・H8、H9グリッドに位置する。西側は調査区外となるため、1/3程度が調査された。

平面形は、コーナーがやや丸くなる方形か長方形を呈すると思われる。短軸は3.2m、確認面からの深さは0.2mである。炉跡は、調査区外との境に近いがほぼ全体が調査でき、焼土粒子と焼土ブロックが多く検出された。北側壁付近に小形のピットが1箇所検出された。掘り方をみると壁に向かって斜めになっており、入り口に伴うピットと考えられる。P4の深さは0.15mである。炉跡とP4の位置から、住居跡の主軸方位はN-51°-Wを指すと考えられる。

主柱穴と思われるピットが3箇所検出されたが、P3に関してはP2及び炉跡との距離が近すぎるように思われる。P1は深さ0.32m、P2は深さ0.22m、P3は深さ0.2mである。壁溝は確認されなかった。

第4-10号住居跡 (第239・240図)

L5・G8グリッドに位置する。北側が調査区外となるため、全体の1/5程度しか調査できなかった。

平面形は、コーナーがやや丸くなる方形を呈すると思われる。短軸は計測可能な部分で3.5m、確認面からの深さは0.4~0.5mと遺存状況は良好である。住居跡の主軸方位はN-56°-Eを指すと思

われる。

貯蔵穴は南壁の東側に寄った地点から検出され、長径0.55m、短径0.4mの楕円形で深さは床面から0.2mである。覆土中から壺(2)が出土している。貯蔵穴を囲むように幅0.35m、現状の高さ0.1mの盛土状の高まりが、C字状に囲んでいる。

ピットは、南壁に並行するように3箇所検出された。P1・2は主柱穴と思われる。P1の深さは0.22m、P2の深さは0.2mである。P3はP1とP2の中間に位置し、南壁に向かって斜めに掘られており、入り口部に関連するピットと思われる。深さは0.23mである。

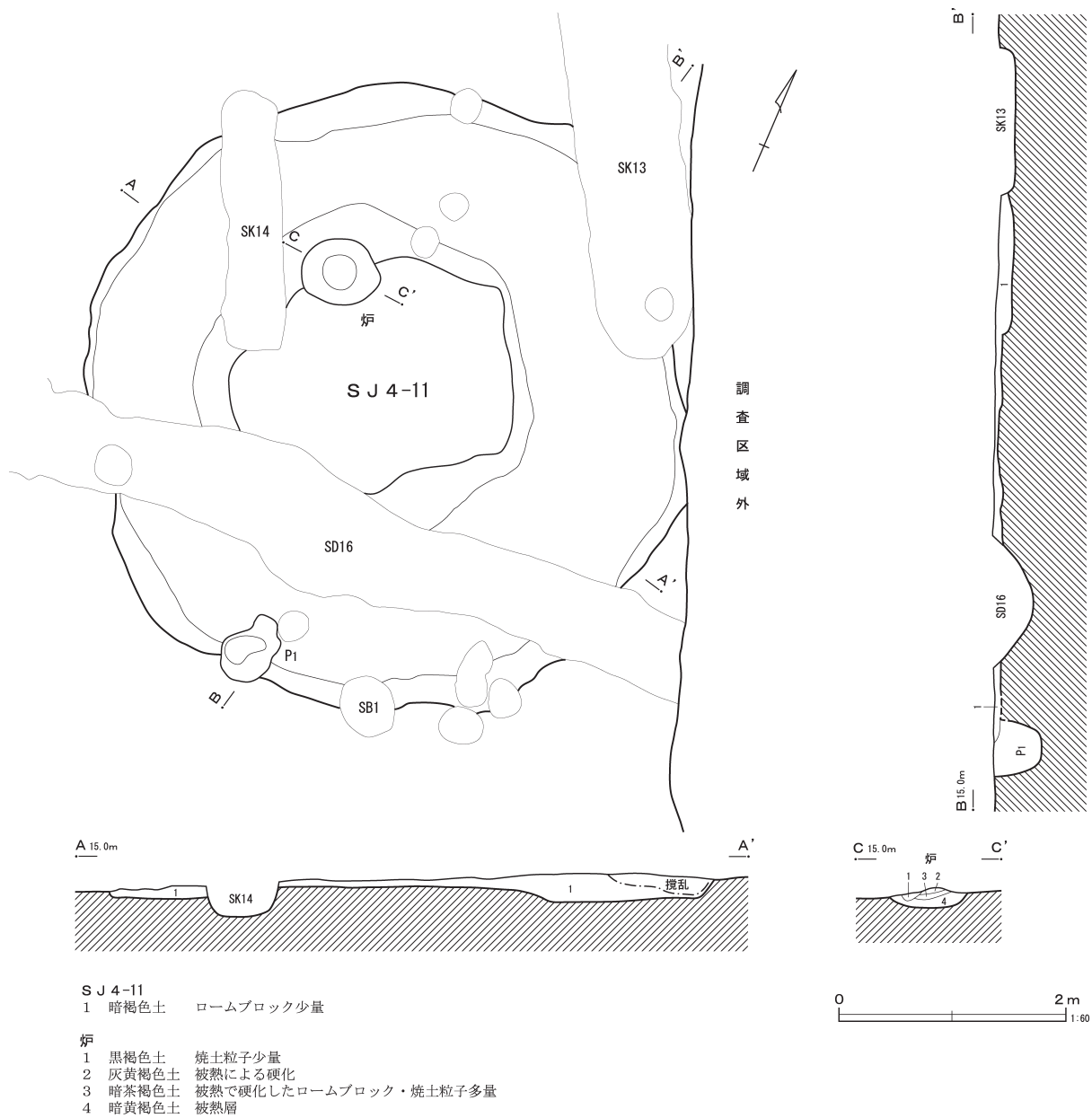
壁溝は貯蔵穴を始点に南西壁に沿って掘られている、幅は0.17m、深さは0.08mである。

第4-11号住居跡 (第241図)

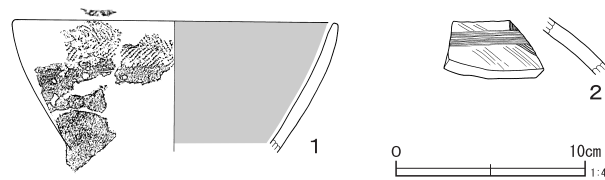
L6・G1、H1グリッドに位置する。

遺構の遺存状態は悪く、遺構確認の段階でドーナツ状に幅広の浅い凹地がめぐり、中央が若干高くなっている状態で、掘り方面まで耕作等で削平されていた。

平面形は隅丸方形になると思われるが、現況では径約5.5mの円形に近い。北西部から炉跡が検出された、住居跡の主軸方位はN-45°-Eを指すと思われる。炉跡は上面に焼土粒子、炭化物が少量含まれ、下層は被熱のためロームが硬化している。



第241図 第4-11号住居跡



第242図 グリッド出土遺物

第24表 グリッド出土遺物観察表

番号	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	備考
1	高坏	5	(16.6)		(6.8)	赤・白・黒	普通	赤彩
2	壺	5			(3.1)	雲・角・白	普通	

5. 近 世

(1) 建物群 (掘立柱建物跡・柵列跡)

第4・6地点では、大略3つの掘立柱建物跡群が認められる。内訳は、単独の第1号掘立柱建物跡、第4-2～5・7号掘立柱建物跡(SB6は欠番)の5棟、および第6-1・2号掘立柱建物跡の2棟である。重複関係をもつものがあるため、同時に何棟が存在していたかは不明である。

第4-1号掘立柱建物跡は、幅約3mでほぼ東西に走る第1号溝跡を挟んで他の2群と対峙する形となっている。他の2群は掘立柱建物跡が重複していることから近い位置での建て替えが行われていることが分かる。そして、第4-1号溝跡によって区画された屋敷地内に位置していると考えられる。なお、第6-8号溝跡がこの屋敷地を東西に分ける溝であるとの可能性を指摘しておきたい。

第4-1号掘立柱建物跡 (第244図)

L5・H10、L6・H1グリッドに位置する。

建物の範囲内に土坑やピットが存在するが、本遺構には伴わないと判断した。新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行1間(2.4m)、面積は18.48㎡である。主軸方位はN-82°-Eを指す。

柱穴の規模は40×50cm～75×80cmの円形または楕円形で、深さは50～75cmと比較的規模が大きいといえる。

P7からは、瀬戸・美濃系の陶磁器(小坏)が1点(第260図1)出土した。

第4-2号掘立柱建物跡 (第245～248図)

L5・J10、L6・J1、I1グリッドに位置する。

4面廂をもつ建物跡である。第4-3～5号掘立柱建物跡のほか幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

母屋の規模は、桁行4間(9.9m)×梁行2間(4.9m)、面積は48.51㎡である。廂を含めた規模は、

桁行7間(11.7m)梁行4間(6.7m)、主軸方位はN-69°-Eを指す。

母屋の桁行南から2間目の柱間が大きく(3.8m)、3間目が小さい(1.9m)といえる。母屋の柱間は、桁行1.9～3.8m(平均2.48m)、北側梁行2.3～2.6mである。南側では、P9-10間に柱穴は確認されなかった。

廂は母屋から90cm(半間)張り出す形となる。この部分を除いた廂部分での柱間は、桁行1.8～2.1m(平均1.97m)を測る。

母屋の柱穴規模は、55×66cm～90×105cmで、多くは円形または楕円形であるが、隅柱の内、P1・9・10はやや隅丸方形に近い。深さは70～110cmである。

廂の柱穴規模は、25×30cm～50×67cmで、円形または楕円形で、深さは20～54cm。

第4-2号掘立柱建物跡は、今回の調査で検出された掘立柱建物跡の中で、最も規模の大きなものである。

P2～10・14・16・31・33では、柱痕跡(第1層)が確認された。

遺物は、P21から肥前系の磁器碗(2)、P10・4から瀬戸・美濃系の陶器碗(3・4)、P10・6からかわらけ(5・6)、P15・32から砥石(7・8)、そしてP6・9からは寛永通宝(9・10)が出土した。

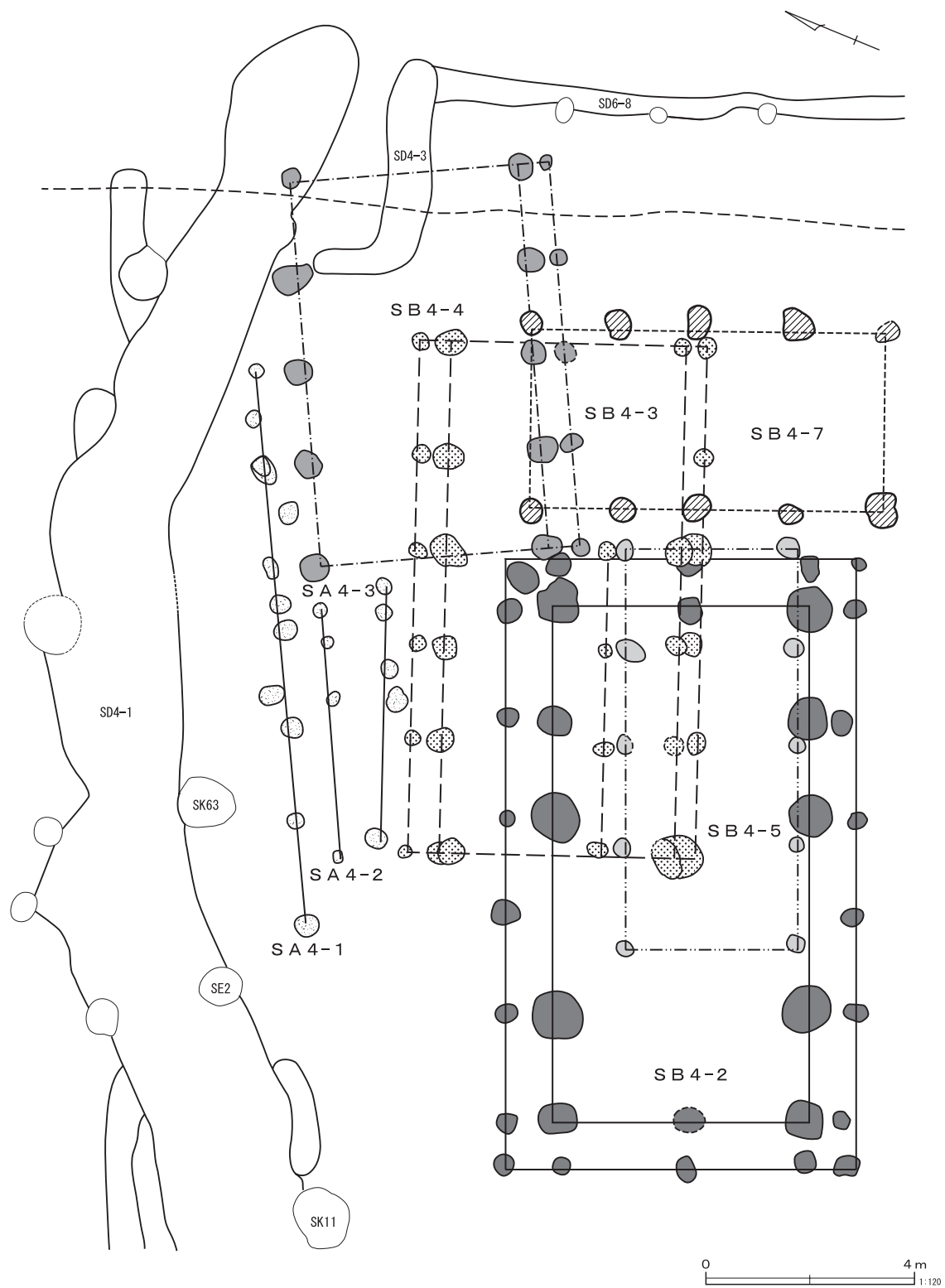
第4-3号掘立柱建物跡 (第249・250図)

L6・I1、I2、L6・J1、J2グリッドに位置する。

第4-2・4・5・7号掘立柱建物跡のほか、幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

桁行に廂または(縁)をもつ。

母屋の規模は、桁行5間(9.8m)×梁行1間(5.5m)、面積は53.9㎡である。廂(縁)を含めた規模は、桁行5間×梁行3間(6.7m)、面積は78.39



第243图 第4地点掘立柱建物跡配置図

m²、主軸方位はN-69°-Eを指す。

母屋の柱間は、桁行1.9～3.8m(平均2.48m)、北側桁行2.3～2.6mである。南側では、P 8・12間に柱穴は確認されなかった。廂(縁)は母屋から90cm(半間)張り出す形となる。

母屋の柱穴規模は、32×35cm～55×65cmで円形または楕円形で、深さは49～92cmである。

廂の柱穴規模は、25×27cm～58×67cmで、円形または楕円形で、深さは33～76cmである。

3間にわたる、間仕切りと推定される柱穴列をもつ(P 25～28)。この部分の柱間は1.8～2.0m(平均1.9m)である。P 5・7・9・25～27は床支えの柱穴であろうか。

遺物は、P 4からはかわらけ1点、P 8からはかわらけ3点、P 11からはかわらけ1点が出土している(11～15)。掘立柱建物を建てるにあたっての地鎮行為の痕跡であろうか。

第4-4号掘立柱建物跡(第251・252図)

L 6・I 1、I 2、L 6・J 1グリッドに位置する。

第4-3・7号掘立柱建物跡のほか幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。東側の桁行に廂(縁)を有する。

母屋の規模は、桁行4間(7.4m)×梁行1間(4.4m)、面積は32.56m²である。廂(縁)を含めた規模は、桁行4間(7.4m)×梁行2間(5.0m)、面積は37.0m²、主軸方位はN-63°-Eを指す。

母屋の柱間は、桁行1.7～2.0m(平均1.85m)。廂(縁)は母屋から60cm張り出す形となる。

母屋の柱穴規模は、25×30cm～55×80cmで円形または楕円形で、深さは28～90cmと幅がある。

廂の柱穴規模は、20×30cm～30×43cmで、円形または楕円形で、深さは20～57cm、P 12-14間の柱穴P 13は確認されなかった。

位置・方位関係から、第4-1号柵列跡(方位N-62°-E、距離10.8cm)との関連性あると考えられる。因みに、第4-1号柵列跡の北端部は、第4-4

号掘立柱建物跡の西側桁行の北から2間目と一致する。

第4-2号柵列跡については、第4-4号掘立柱建物跡の延長線上90cm(半間)から始まるという位置関係である。

P 2・10から鉄製品が各1点ずつ(第260図16・17)検出された。

第4-5号掘立柱建物跡(第253図)

L 6・J 1グリッドに位置する。

第2・3号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行1間(3.3m)、面積は25.41m²である。主軸方位はN-63°-Eを指す。

柱間は桁行1.8～2.0m(平均1.93m)である。

柱穴の規模は、28×30cm～38×60cmの円形または楕円形で、深さは38～63cmと比較的小規模であるが、柱穴の径に較べて深度は大きいといえる。

P 5からは砥石、P 1からはかわらけ、P 10からは焙烙のそれぞれ小破片(第260図19～21)が出土した。

第4-7号掘立柱建物跡(第254図)

L 6・I 1、I 2、L 6・J 1、J 2グリッドに位置する。

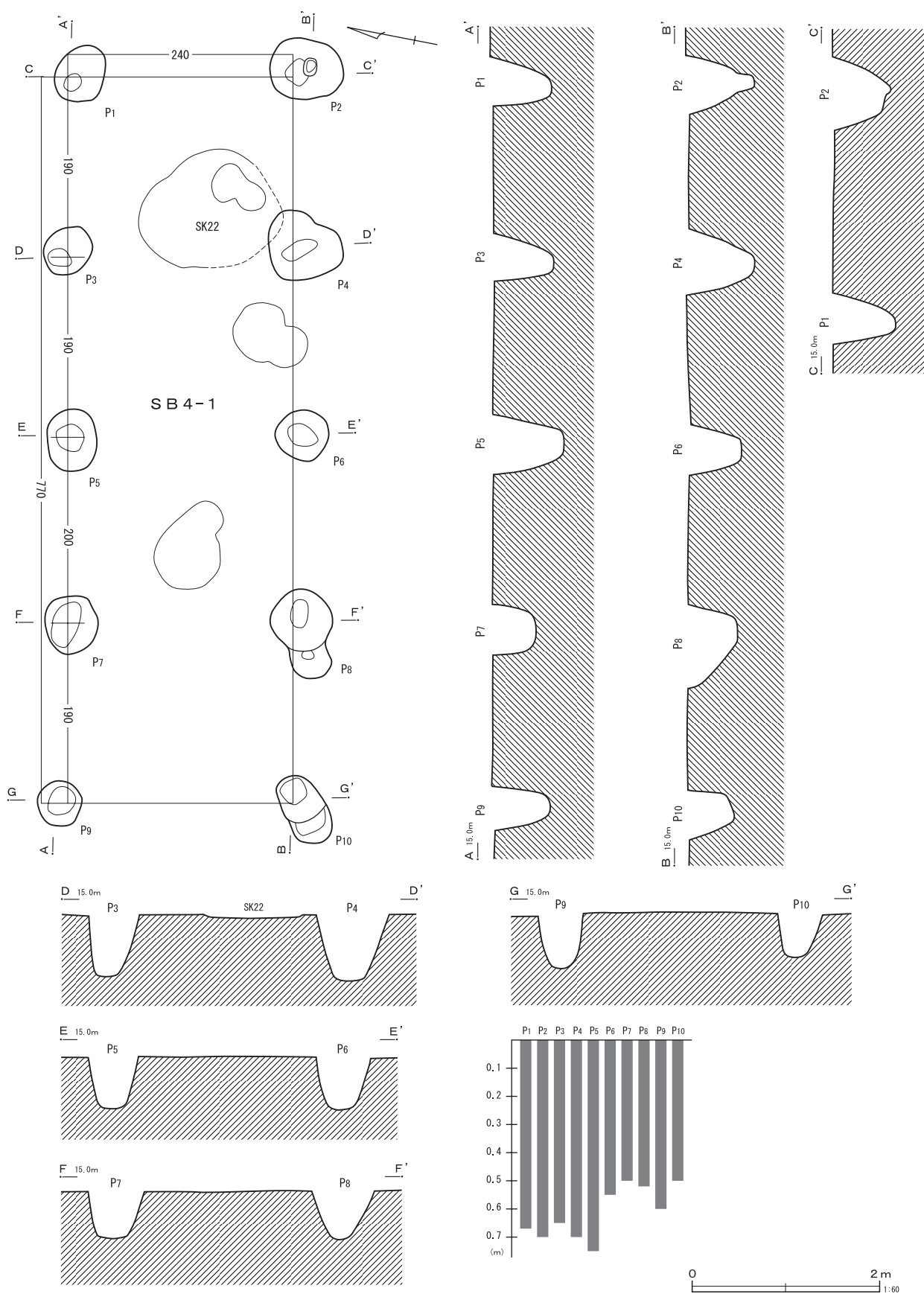
第4-3・4号掘立柱建物跡およびピットと重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(6.8m)×梁行1間(3.4m)、面積は23.12m²である。主軸方位はN-21°-Wを指す。柱間は桁行1.5～1.9m(平均1.7m)である。

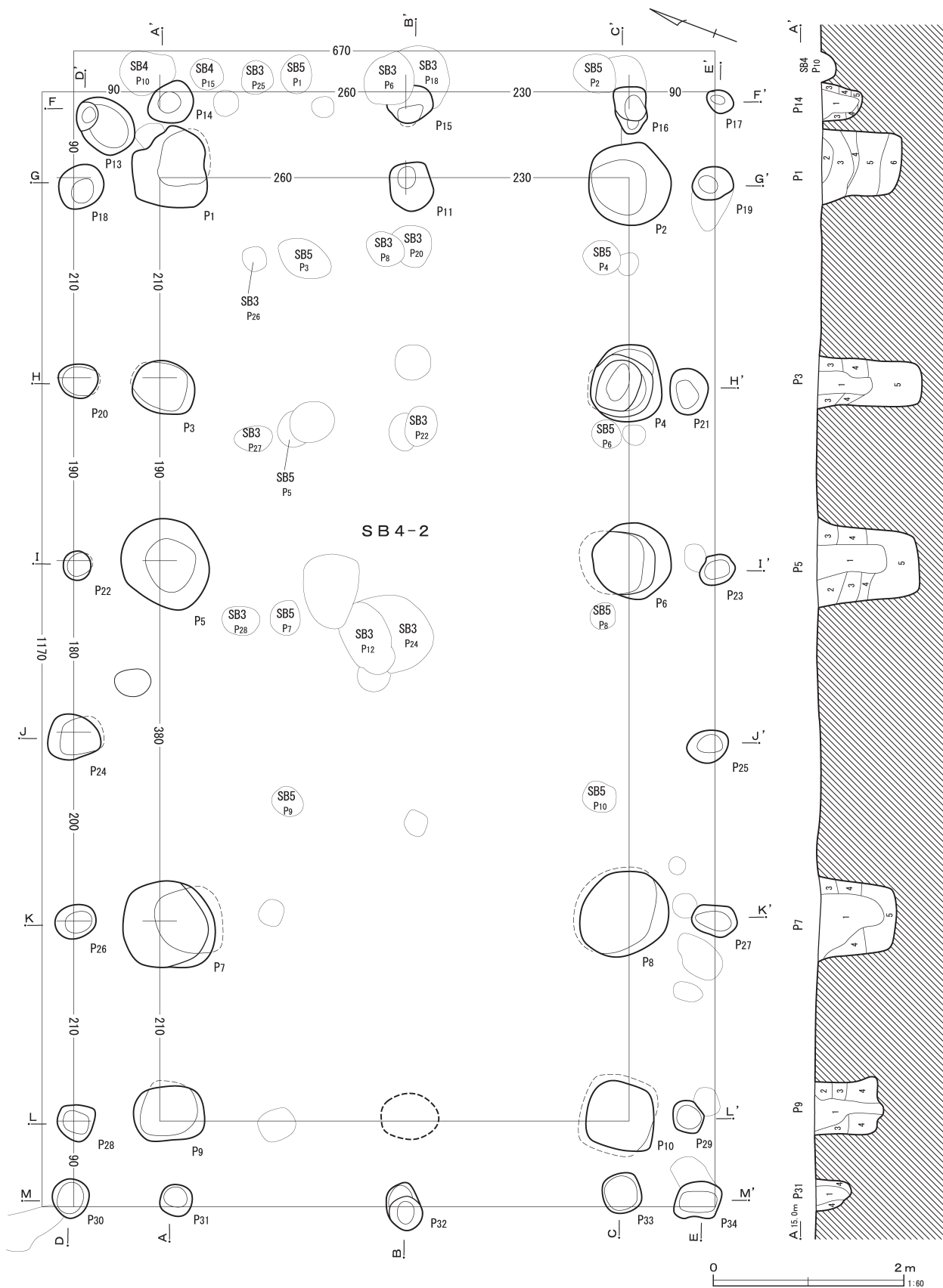
柱穴の規模は32×35cm～60×62cmの円形または楕円形で、深さは40～63cmと全体的に小規模である。

P 6では、柱痕跡(第5層)が確認された。

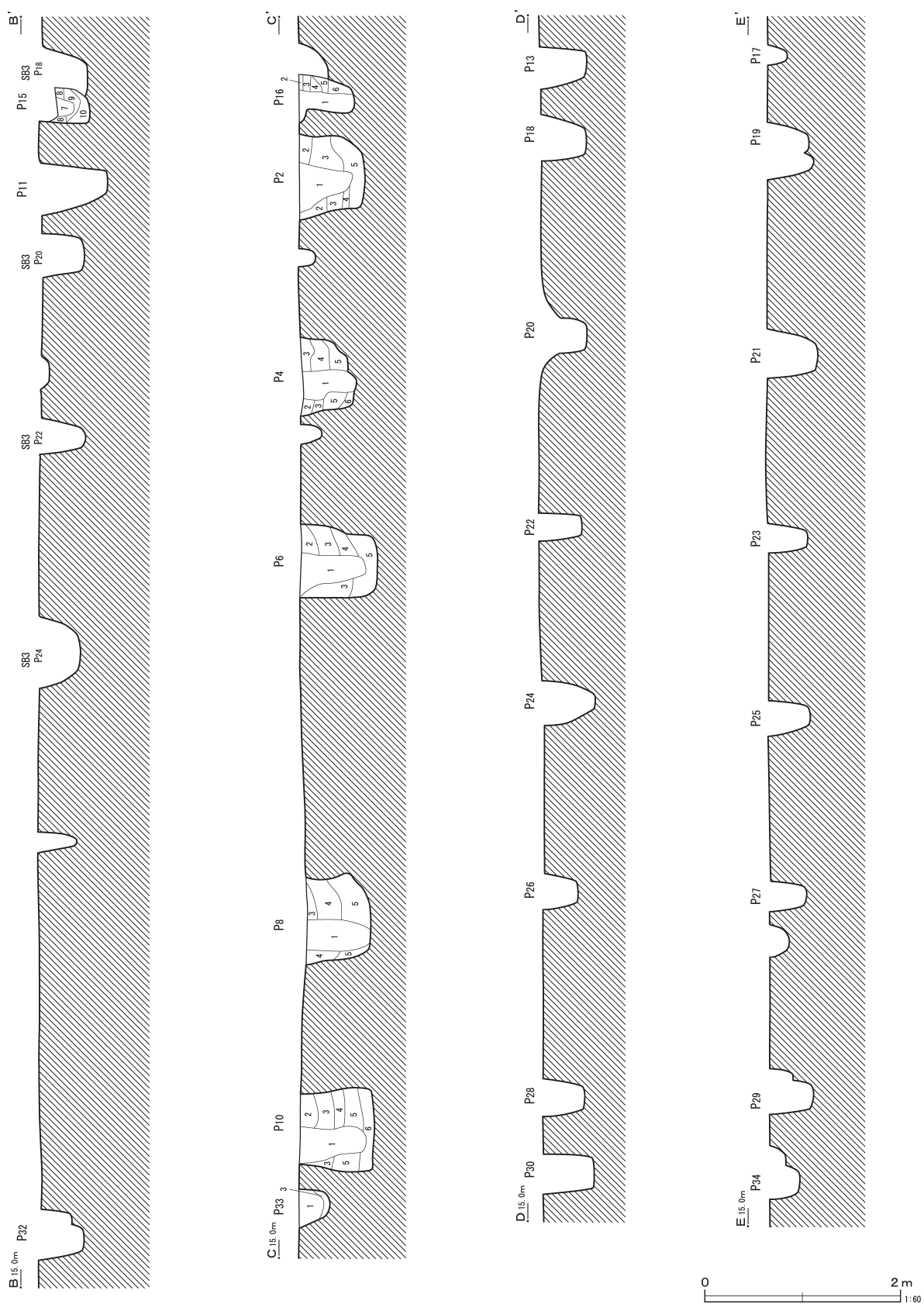
P 3からは、釘の一部と思われる鉄製品が出土した(第260図22)。



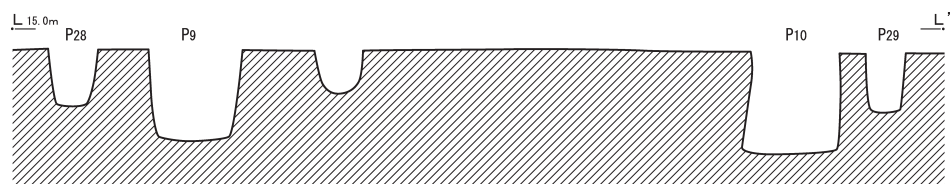
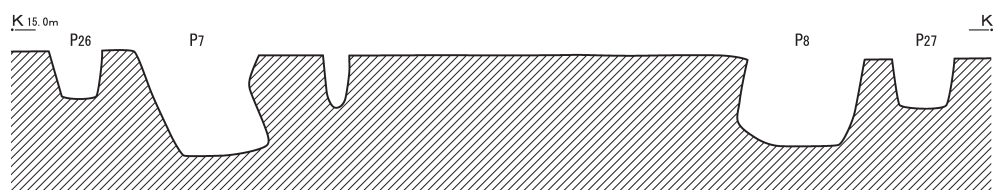
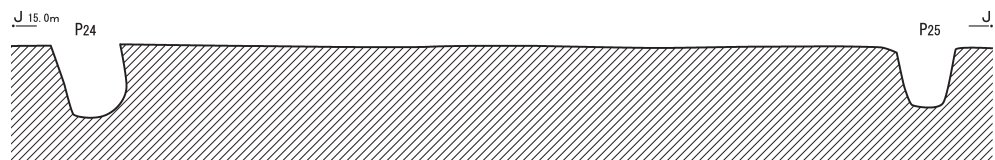
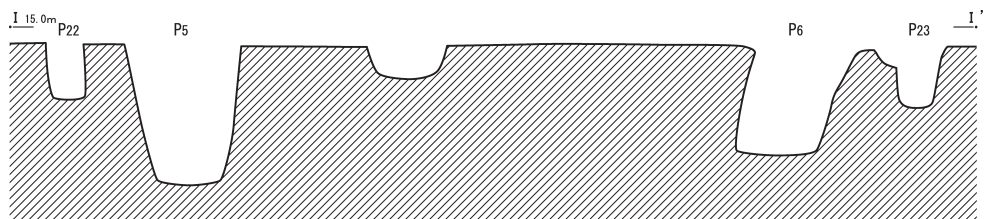
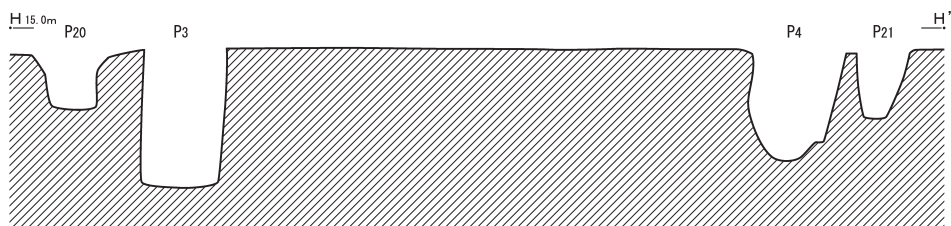
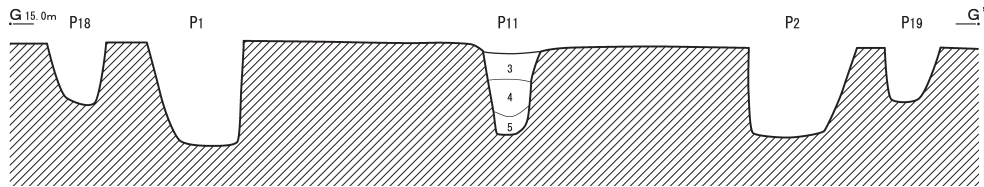
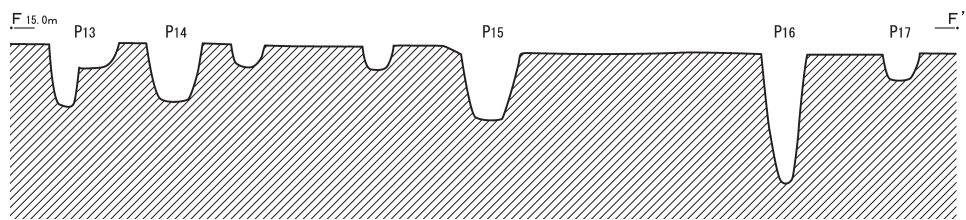
第244图 第4-1号掘立柱建物迹



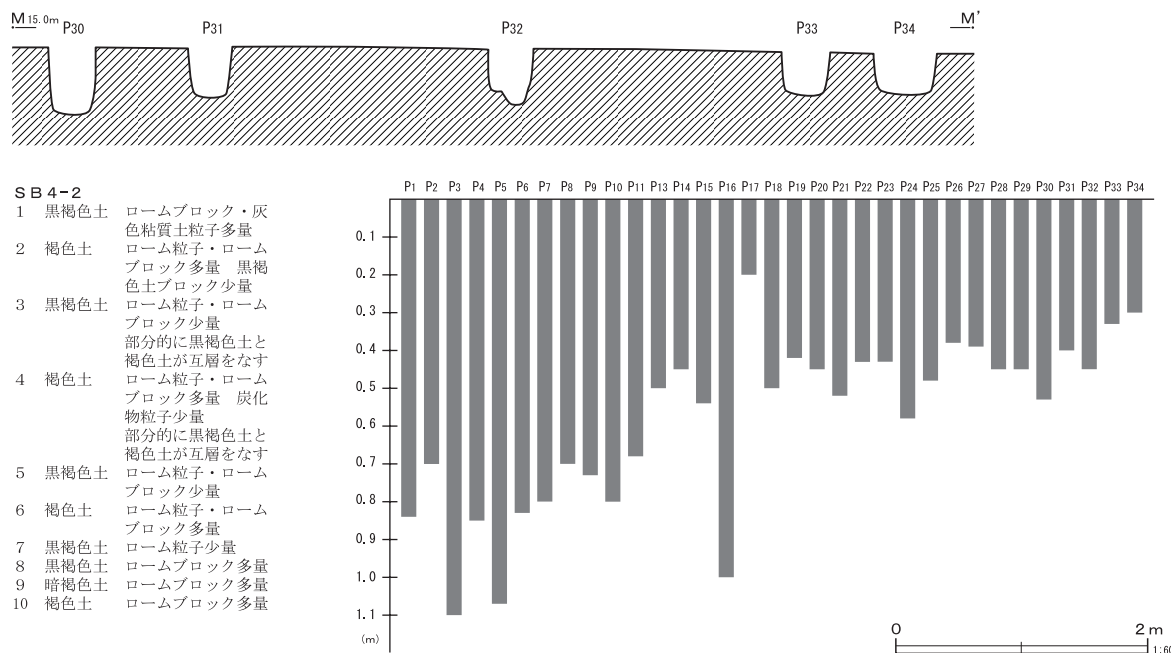
第245图 第4-2号掘立柱建物跡(1)



第246图 第4-2号掘立柱建物跡(2)



第247图 第4-2号掘立柱建物跡(3)



第248図 第4-2号掘立柱建物跡(4)

第4-1号柵列跡(第255図)

L5・I10、L6・I1グリッドに位置する。

P1~12が確認された。総延長10.8mにわたる。柱間の並びが不規則な点があること、柱穴の重複があることなどから、柱穴の建て替えがあったとも考えられる。

柱間は0.5~2.0m(平均1.2m)、柱穴の規模は、25×28cm~38×43cmで円形または楕円形、深さは12~72cmと幅がある。方位はN-62°-Eを指す。軸方位から推して、第4-2号柵列と同じく、第4-4号掘立柱建物跡(N-63°-E)との関連が想定される。

第4-2号柵列跡と第4-4号掘立柱建物跡との距離は45cm程である。本柵列跡は第4-4号掘立柱建物跡の西側桁行の北から2間目から始まり、第4-2号柵列跡(N-63°-E)とも平行関係にあるといえる。

遺物は出土しなかった。

第4-2号柵列跡(第255図)

L6・I1グリッドに位置する。

P1~4が確認された。総延長4.8m、3間である。

柱間は0.7~2.9m(平均1.6m)、柱穴の規模は、16×23cm~23×32cmで円形または楕円形、深さは28~35cmを測る。方位はN-63°-Eを指す。本柵列の方位から推して、第4-1号柵列跡(N-63°-E)と同じく、第4-4号掘立柱建物跡(N-63°-E)との関連が想定される。

第4-4号掘立柱建物跡の、北側桁行の延長線上を西へ0.4m程の距離に位置する。第4-1号柵列跡との距離は0.8m程である。

遺物は出土しなかった。

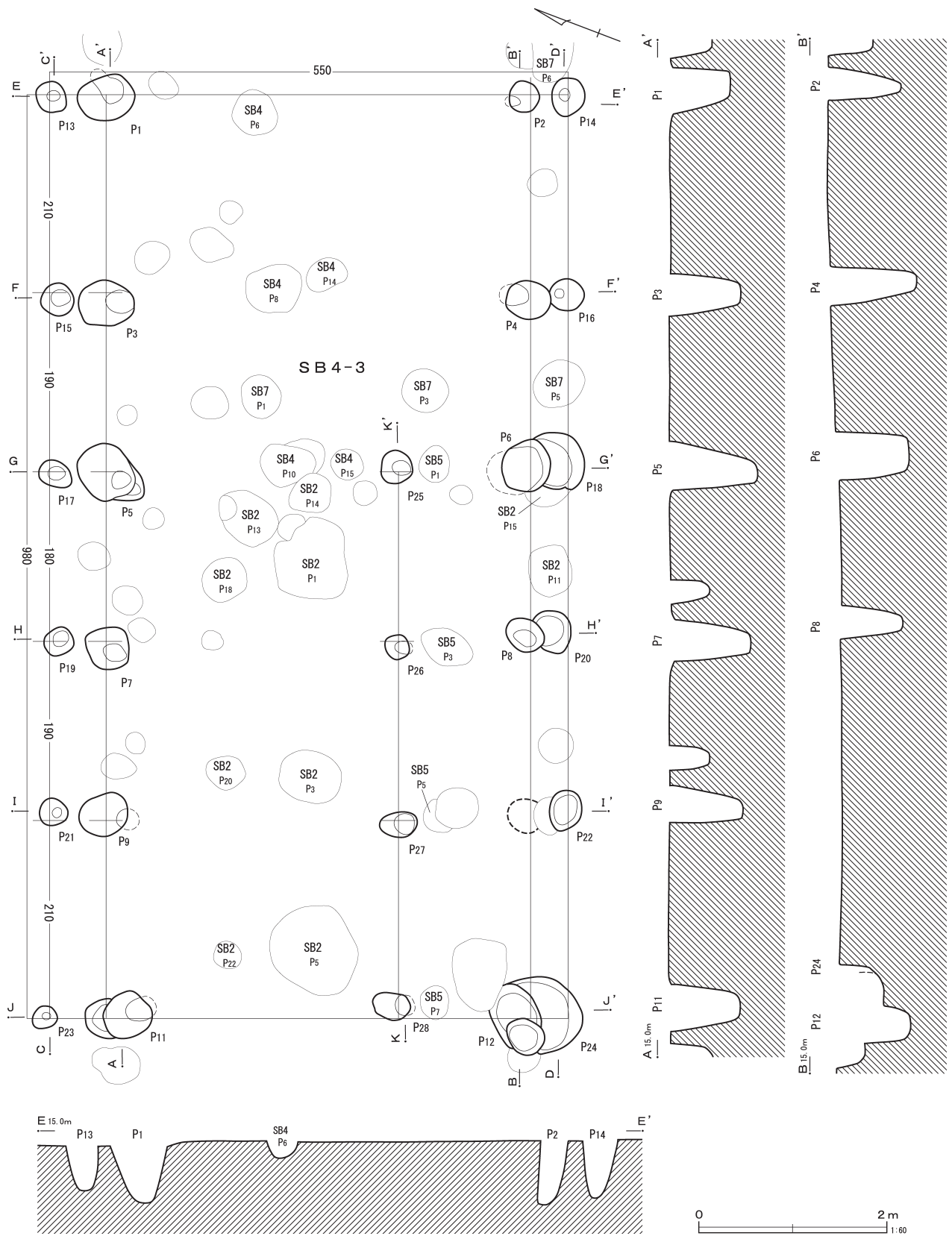
第4-3号柵列跡(第255図)

L6・I1グリッドに位置する。

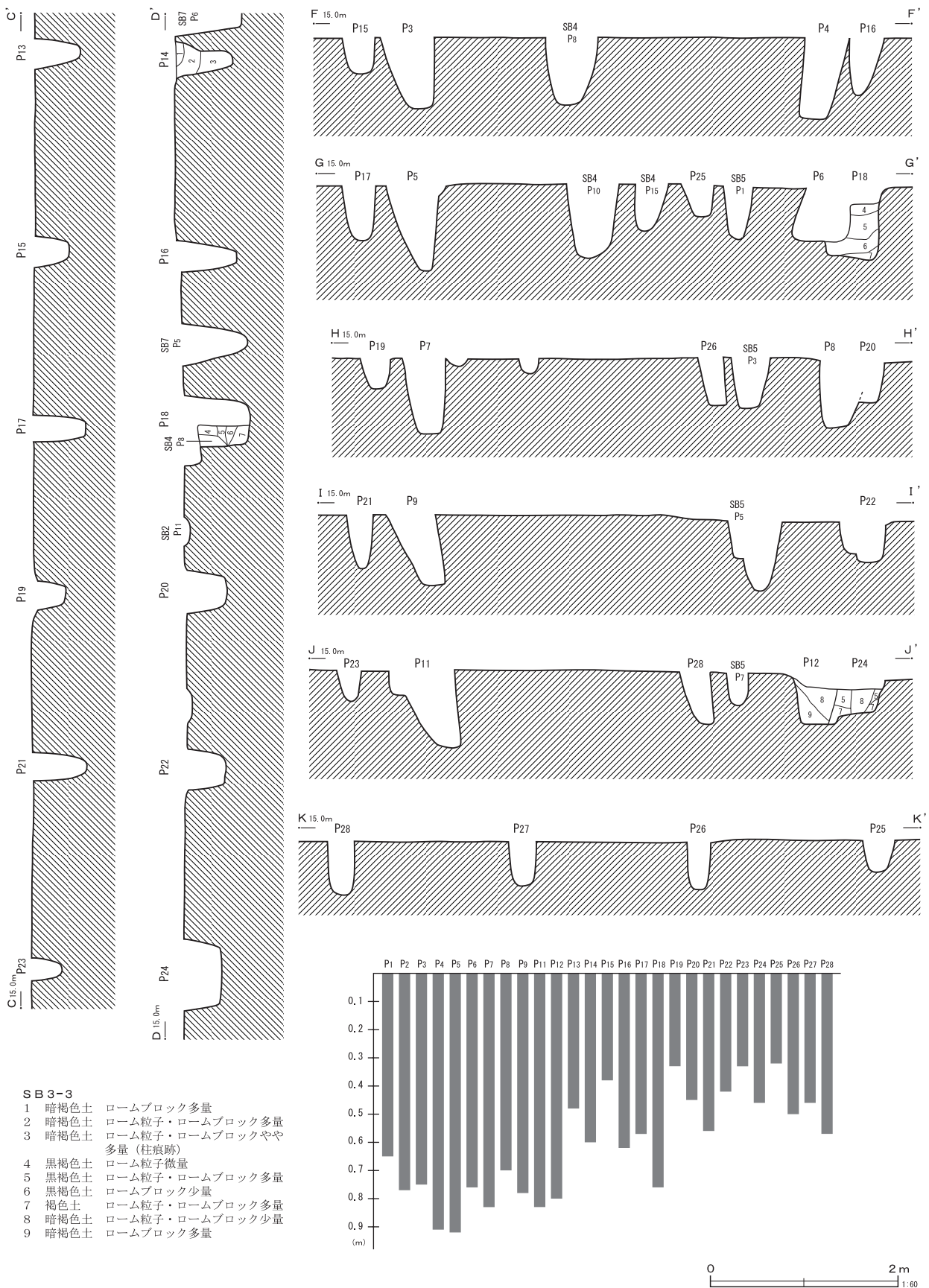
P1~6が確認された。総延長4.4mである。重複する柱穴が存在することから、建て替えの可能性が想定される。

柱穴の規模は、25×30cm~37×43cmの円形または楕円形、深さは19~68cmと幅がある。方位はN-68°-Eを指す。本柵列の方位と位置から推して、第4-3号掘立柱建物跡(N-69°-E・距離60cm)との関連が想定される。第3号掘立柱建物跡との距離は60cm程である。

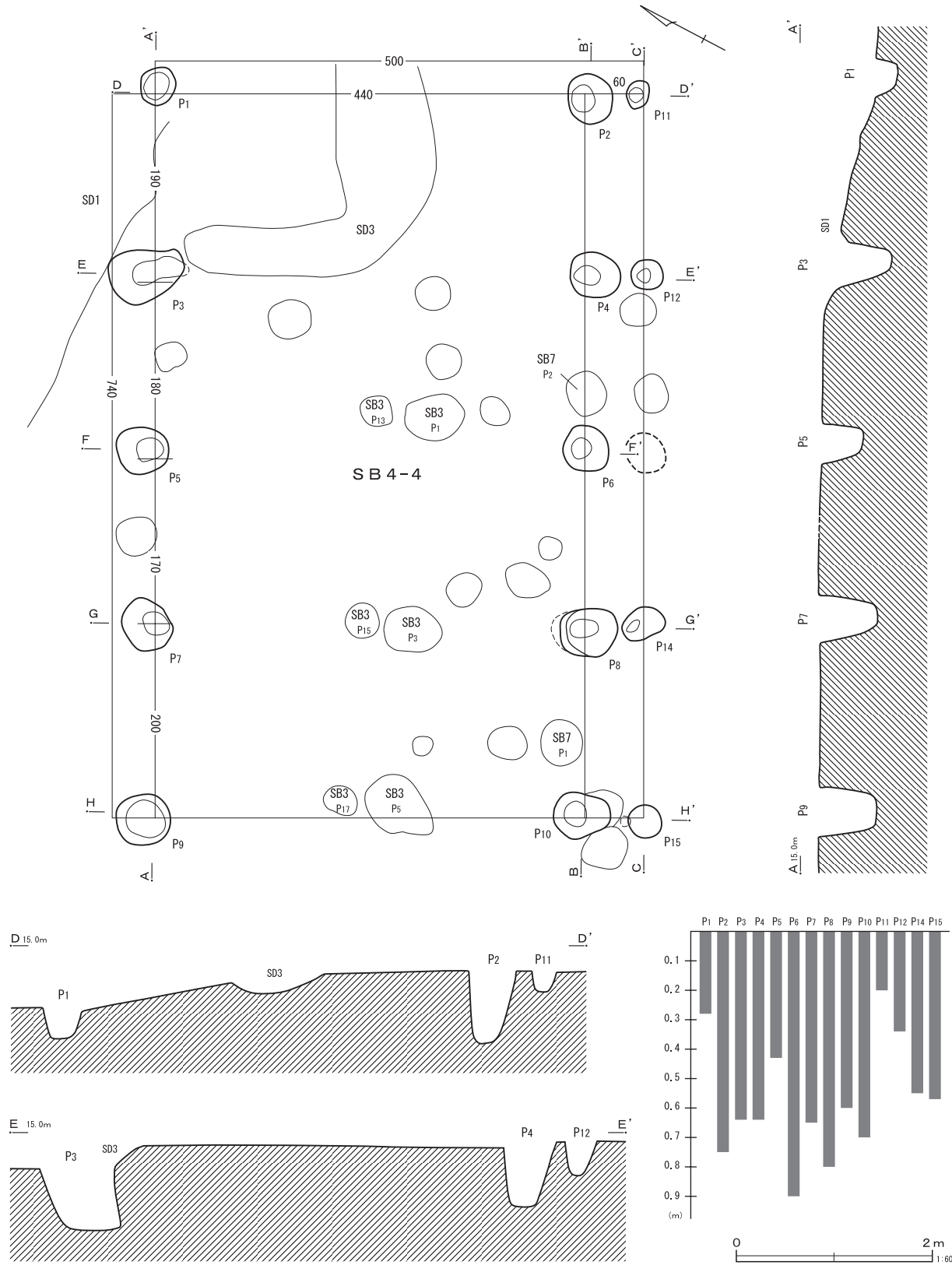
遺物は出土しなかった。



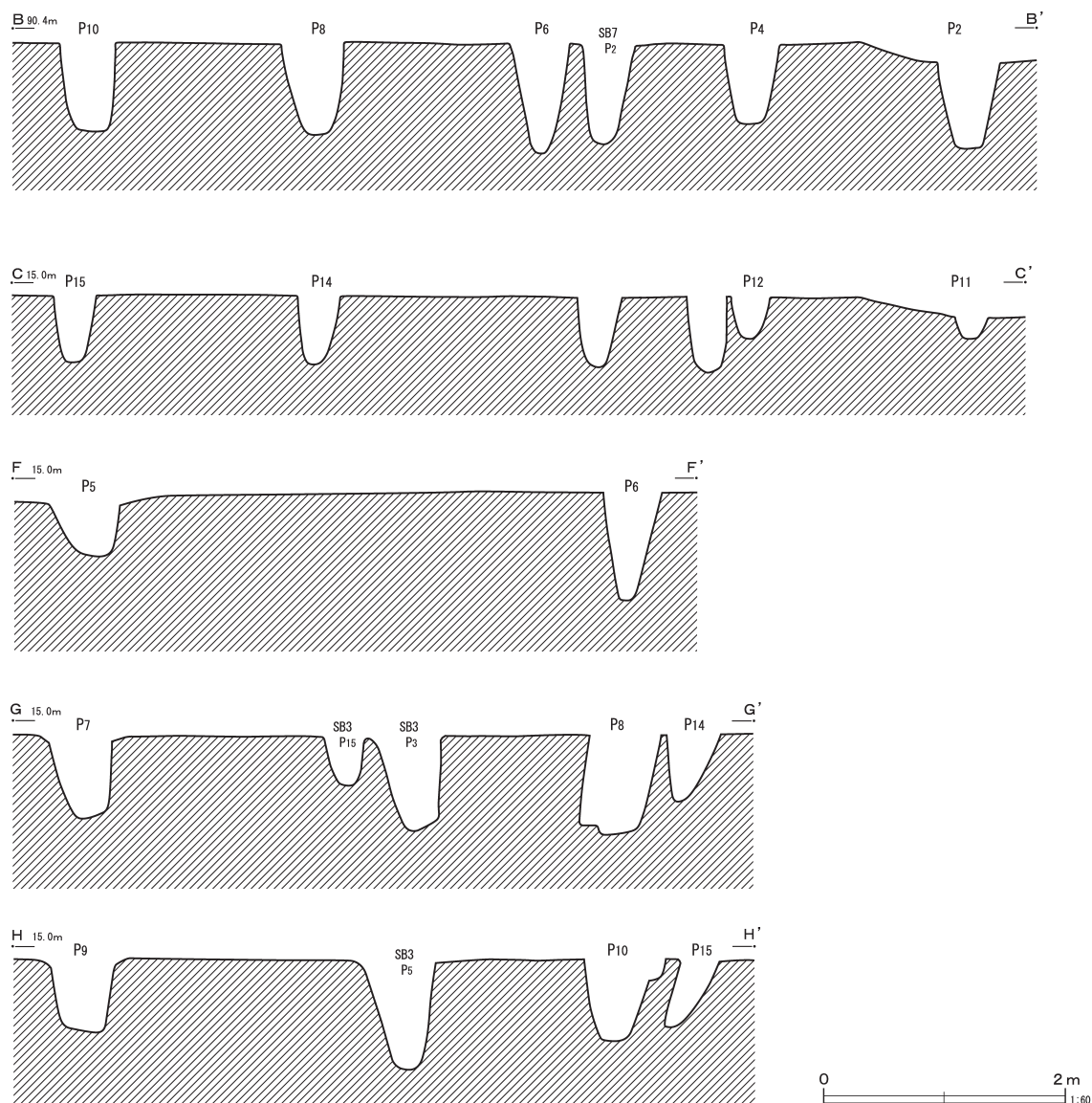
第249图 第4-3号掘立柱建物跡(1)



第250図 第4-3号掘立柱建物跡(2)



第251图 第4-4号掘立柱建物迹(1)



第252図 第4-4号掘立柱建物跡(2)

第6-1号掘立柱建物跡(第258図)

L6・J3、M6・A2、A3グリッドに位置する。

第6-2・3号掘立柱建物跡、第6-38・44・49号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行3間(5.1m)×梁行1間(2.9m)、面積は14.79㎡である。主軸方位はN-24°-Wを指す。柱間は桁行1.6~1.8m(平均1.7m)である。

柱穴の規模は28×30cm~31×35cmの円形または楕円形で、深さは42~85cmである。柱穴の径に

較べて深度は大きいといえよう。

P6では、柱痕跡が確認された。

遺物は出土しなかった。

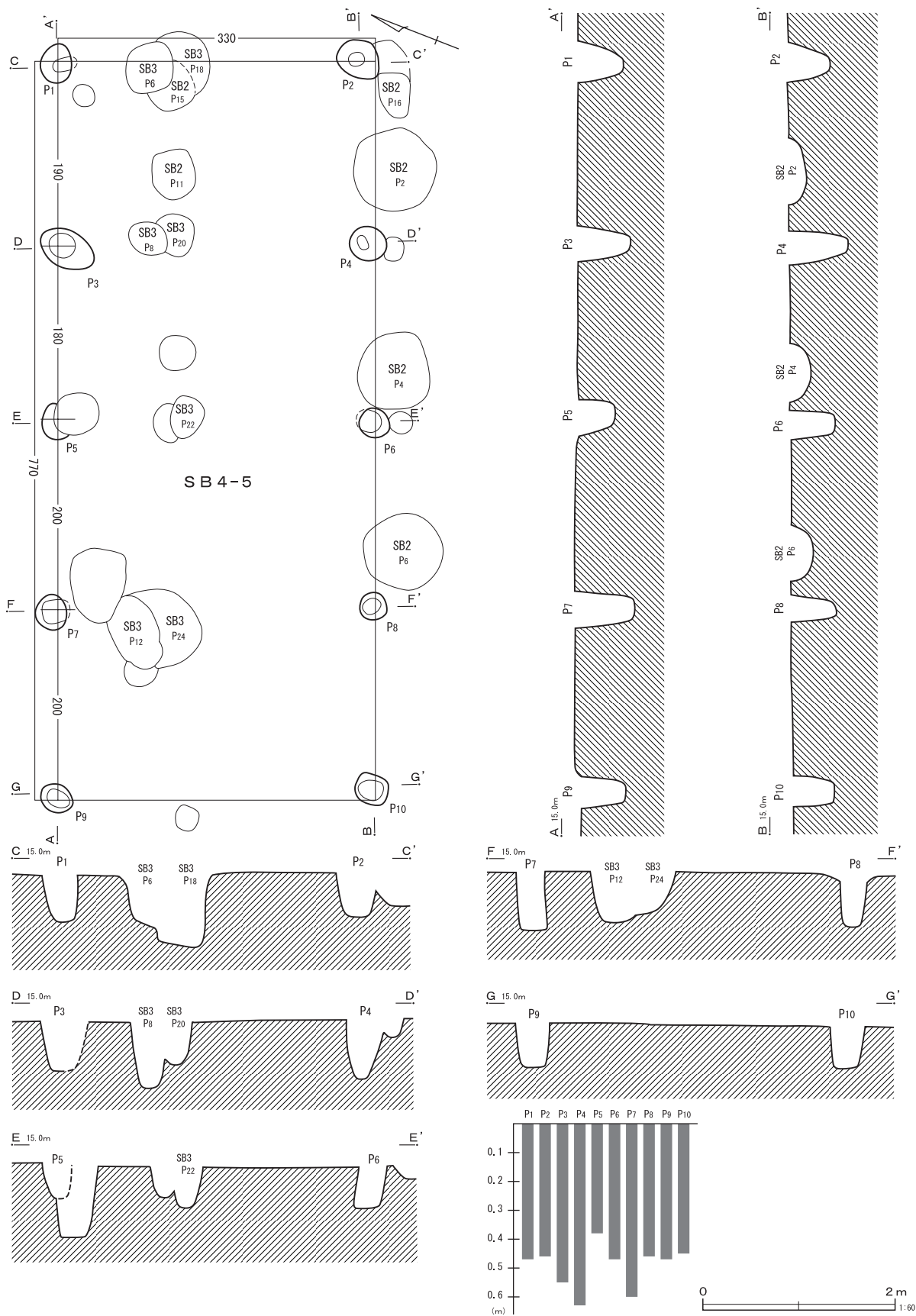
第6-2号掘立柱建物跡(第257図)

M6・A3グリッドに位置する。

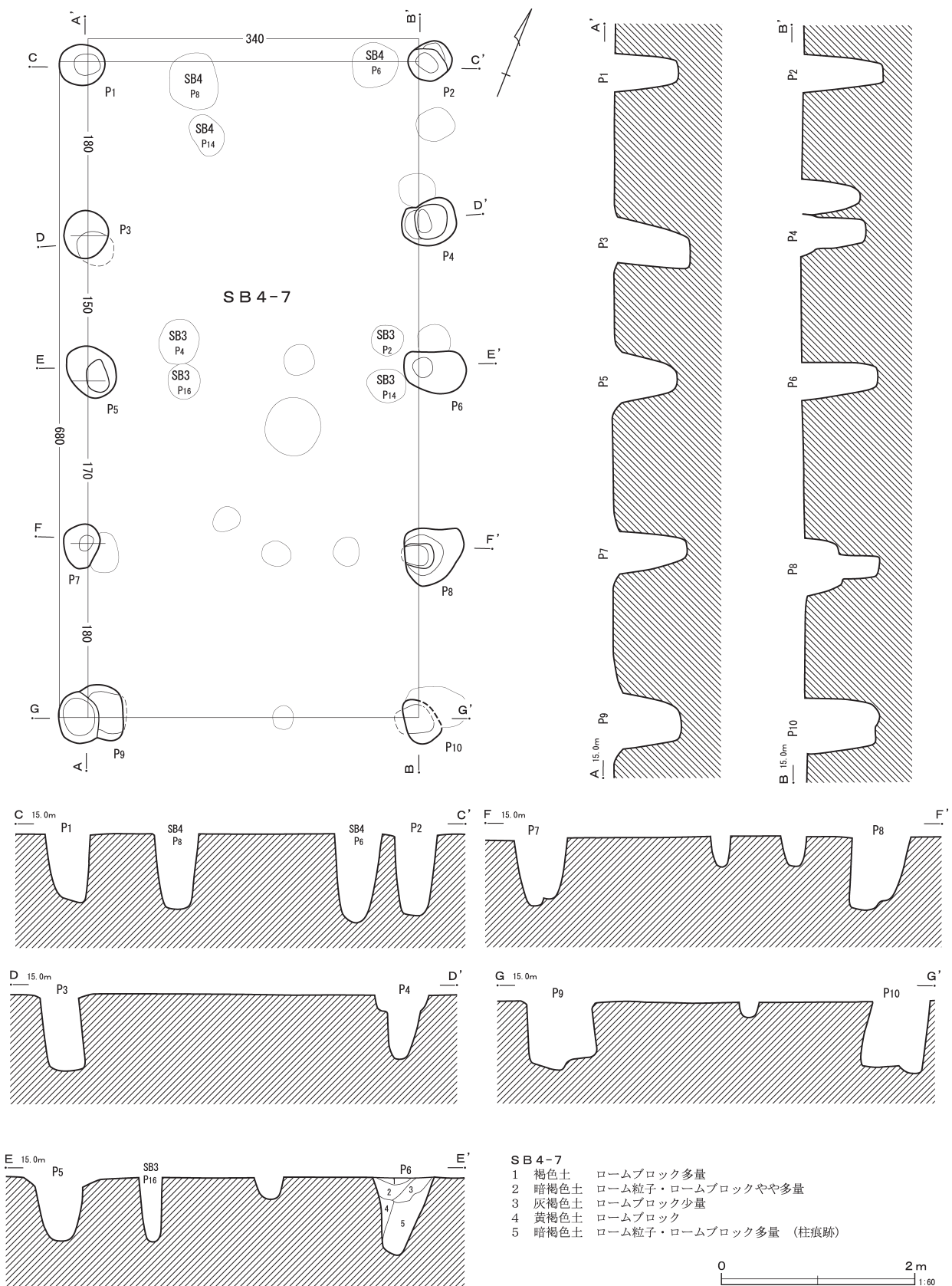
第6-1・3号掘立柱建物跡、第6-38号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行南北1間(2.9m)×梁行東西2間(3.0m)、面積は8.7㎡である。主軸方位はN-27°-Wを指す。柱間は梁行1.5mである。

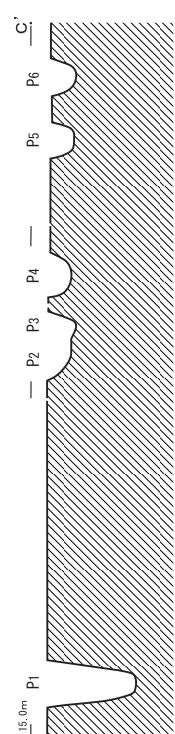
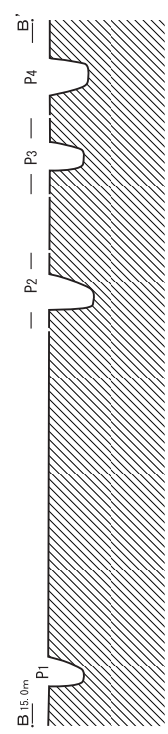
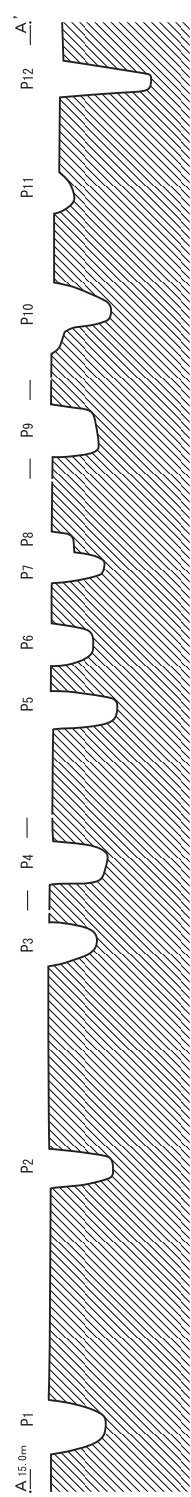
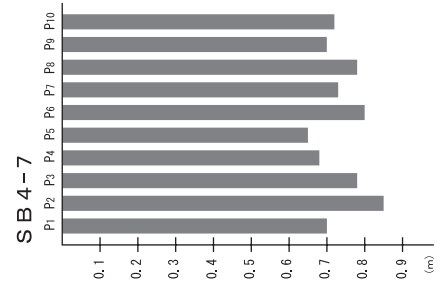
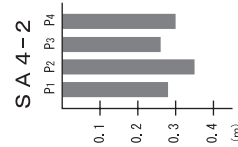
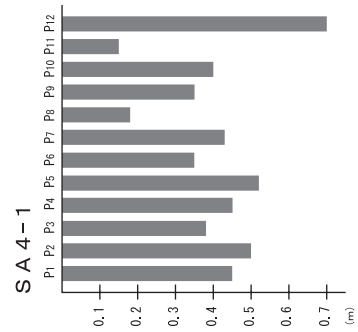
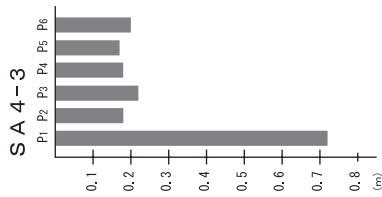
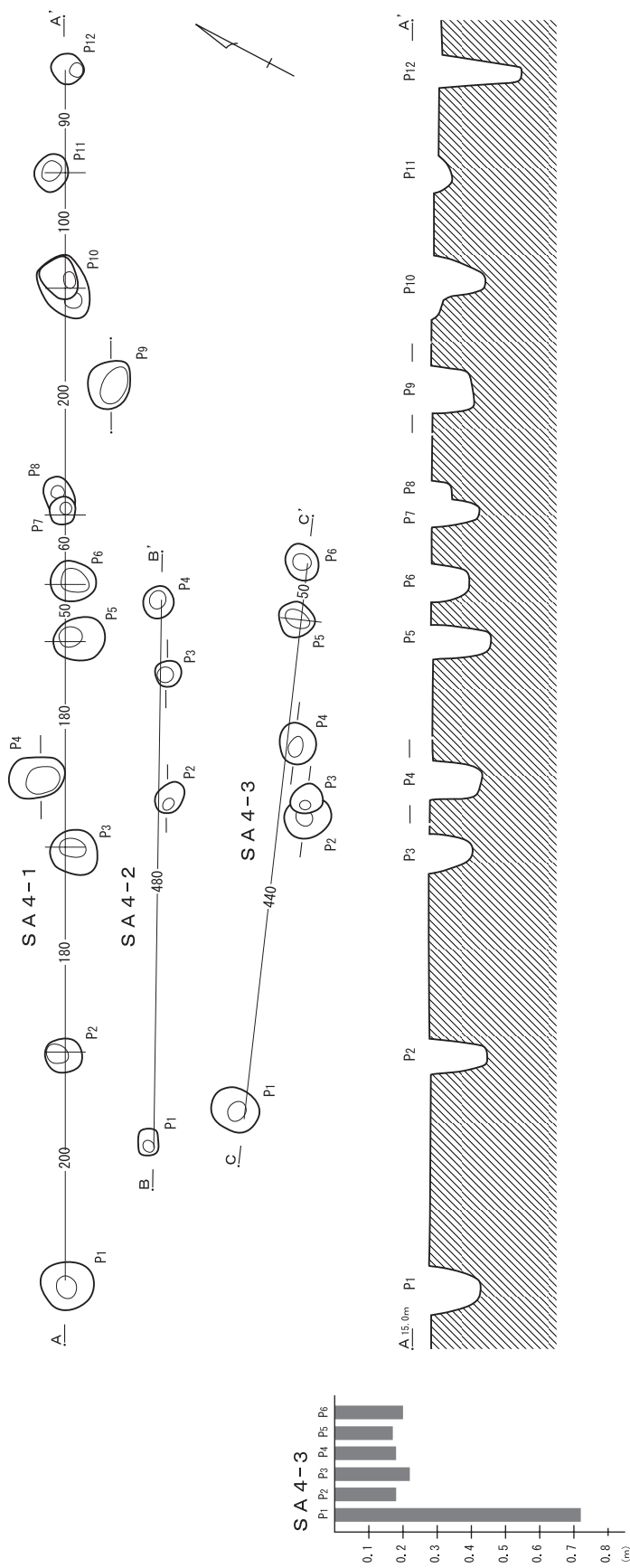
柱穴の規模は21×25cm~30×35cmの円形または楕円形で、深さは35~57cmと小規模である。



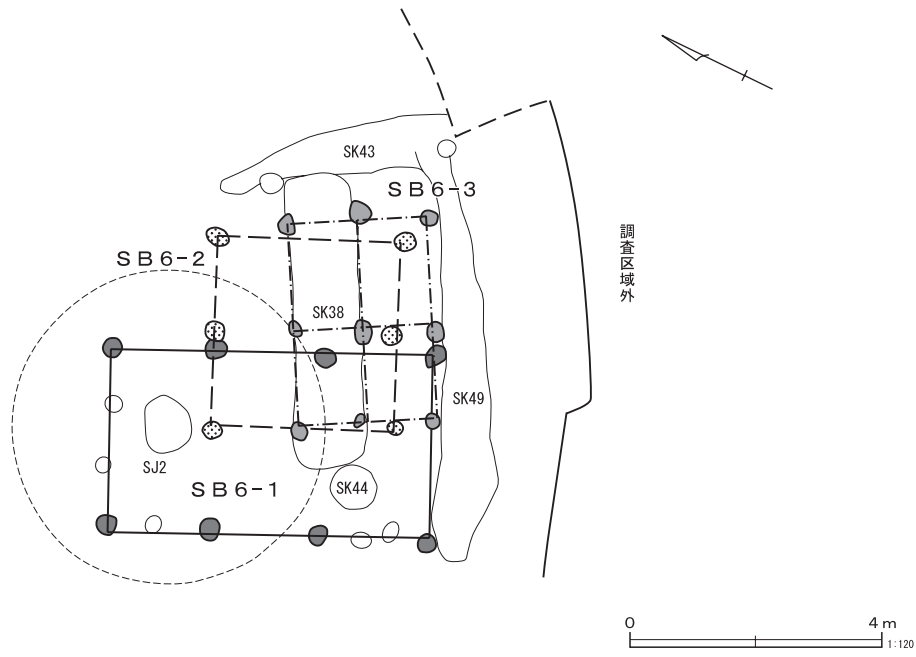
第253图 第4-5号掘立柱建物跡



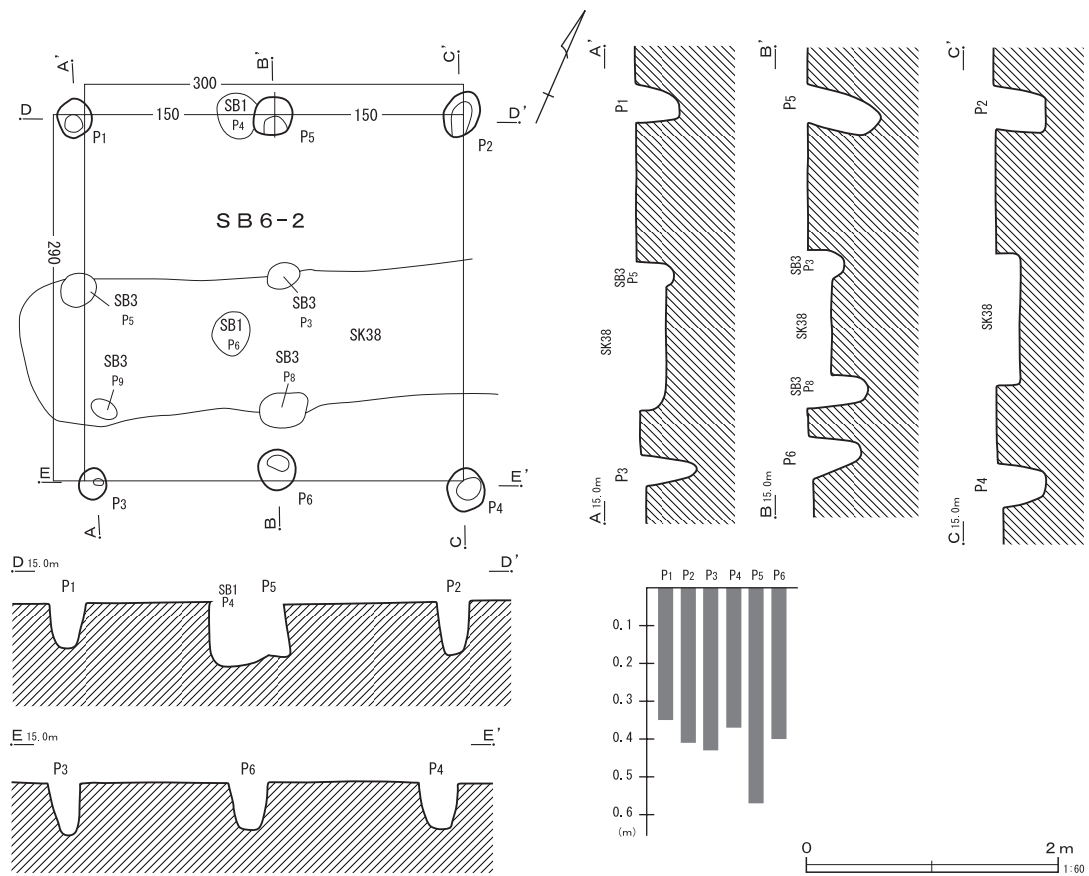
第254図 第4-7号掘立柱建物跡



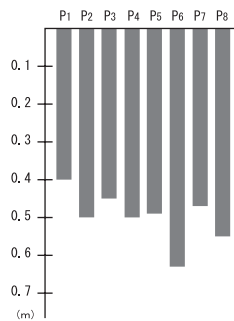
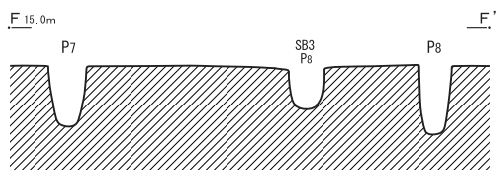
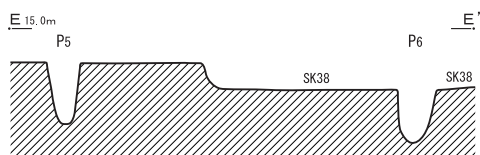
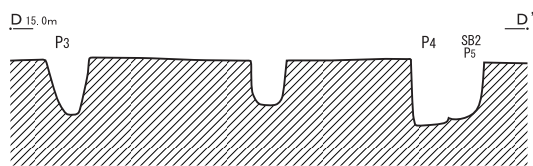
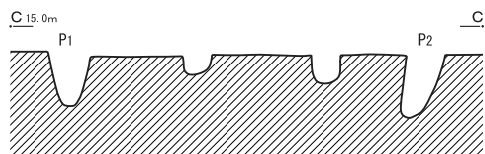
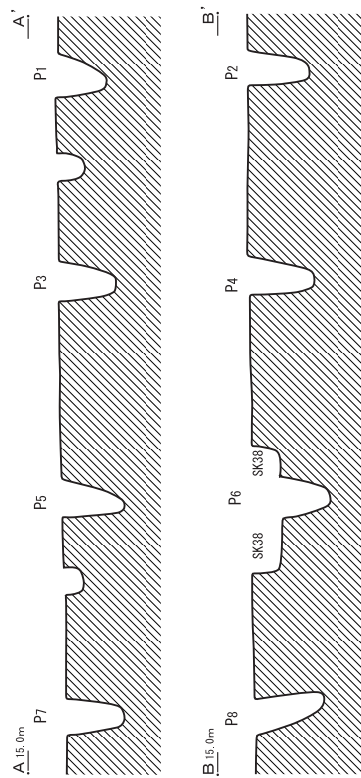
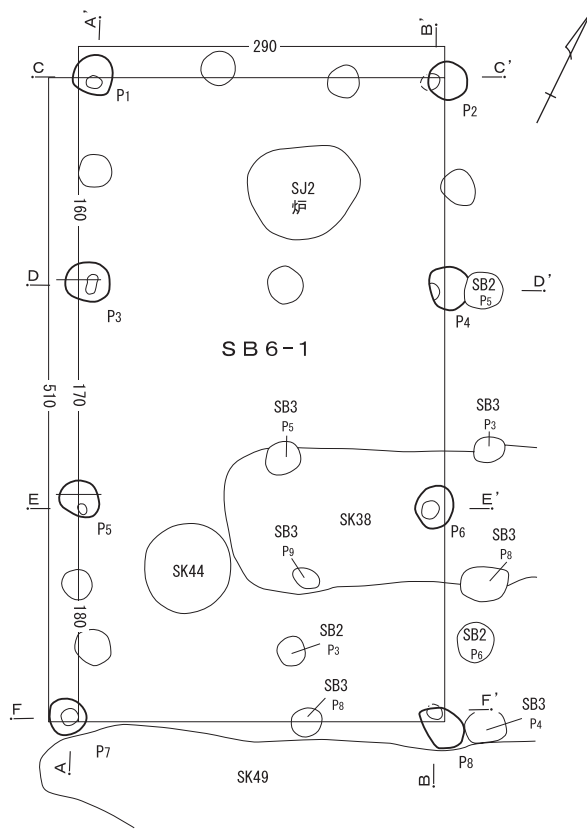
第255图 栅列



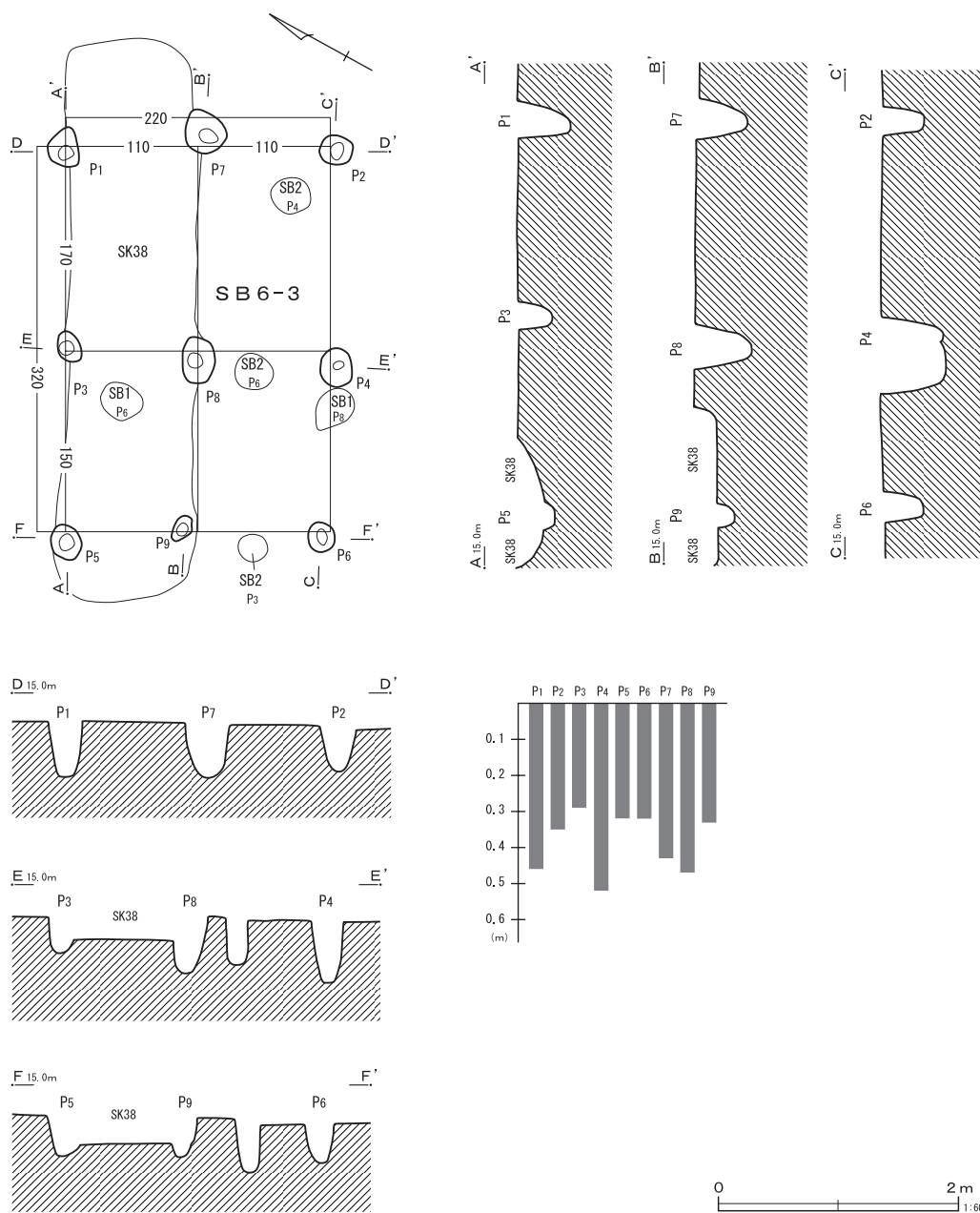
第256图 第6地点掘立柱建物跡配置図



第257图 第6-2号掘立柱建物跡



第258图 第6-1号掘立柱建物跡



第259図 第6-3号掘立柱建物跡

遺物は出土しなかった。

第6-3号掘立柱建物跡 (第259図)

M6・A3グリッドに位置する。

第6-1・2号掘立柱建物跡、第6-38号土壇と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行2間(3.2m)×梁行2間(2.2m)、面積は7.04㎡の、総柱建物である。主軸方

位はN-62°-Eを指す。柱間は、桁行1.4~1.8m(平均1.6m)、梁行1.0~1.2m(平均1.1m)である。

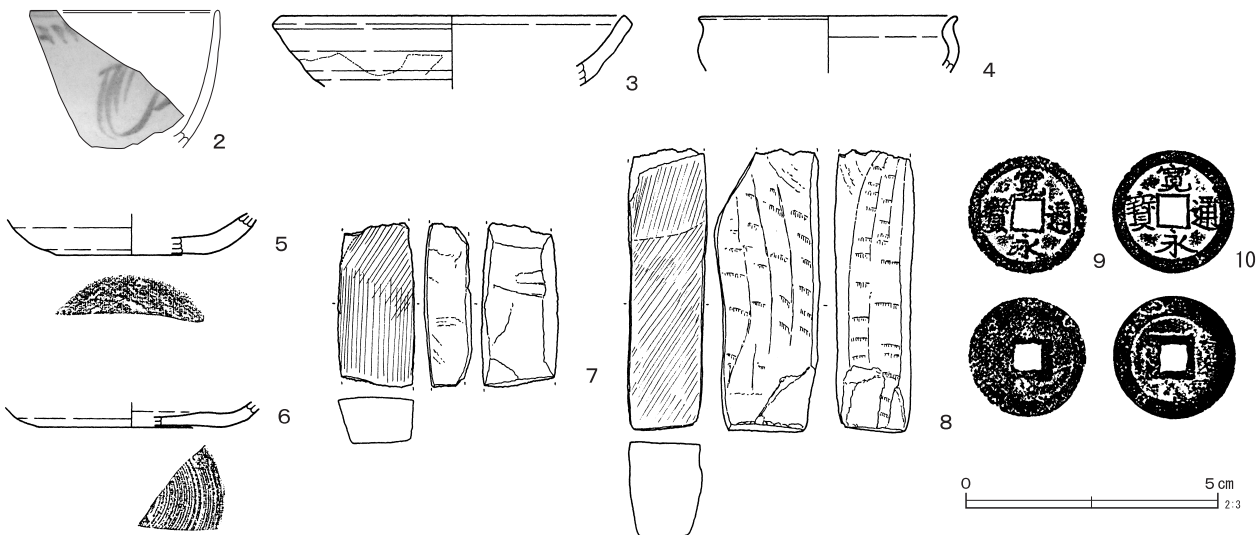
柱穴の規模は15×24cm~35×38cmの円形または楕円形で、深さは29~52cmと小規模である。柱穴の径に較べて深度は大きいといえよう。

遺物は出土しなかった。

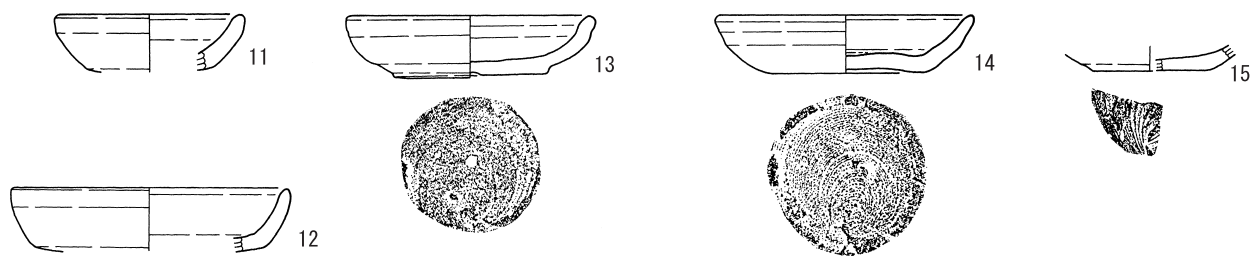
SB 4-1



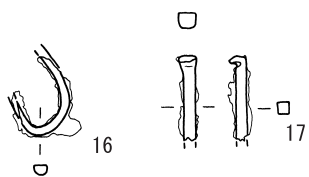
SB 4-2



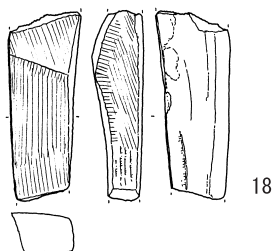
SB 4-3



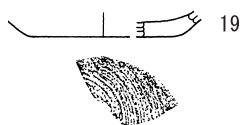
SB 4-4



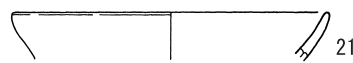
SB 4-5



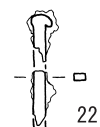
SB 4-5 · 6



SB 4-6



SB 4-7



第260図 掘立柱建物跡出土遺物

第25表 掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	SB4-1	陶器	小坏	瀬戸・美濃	20	(7.9)	(3.9)	3.3	灰白	普通	鉄釉	轆轤	削り出し高台		17C後半 P7
2	SB4-2	磁器	碗	肥前	5			[5.5]	灰白緻密	良好	灰釉	轆轤		草文か	18C前～中
3	SB4-2	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(13.6)		[2.8]	灰白微砂粒	普通	灰釉	轆轤			17C代か P7
4	SB4-2	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(10.0)		[2.3]	灰白	良好	灰釉	轆轤			貫入多 18C P4
5	SB4-2	土器	かわらけ		25		(6.0)	[1.6]	褐	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		磨減著しい P15
6	SB4-2	土器	かわらけ		10		(7.4)	[1.0]	橙	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		P5
7	SB4-2	石製品	砥石			長さ6.5cm 幅3.0cm 厚さ1.8cm 重さ49.7g 凝灰岩								P31	
8	SB4-2	石製品	砥石			長さ11.1cm 幅2.9cm 厚さ3.8cm 重さ212.5g 凝灰岩								P20	
9	SB4-2	古銭	寛永通宝												
10	SB4-2	古銭	寛永通宝												
11	SB4-3	土器	かわらけ		10	(7.4)		[2.2]	橙	普通		轆轤			P11
12	SB4-3	土器	かわらけ		15	(11.0)	(9.0)	[2.4]	橙	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		器面磨減 P8
13	SB4-3	土器	かわらけ		95	9.6	6.0	2.4	浅黄緻密	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		P8
14	SB4-3	土器	かわらけ		90	10.0	6.1	2.3	褐 砂粒	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し	斑文状にタール付着 灯明皿に転用か	P8
15	SB4-3	土器	かわらけ		20		(4.6)	[1.0]	にぶい橙	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		P4
16	SB4-4	鉄製品	釣針か			A3.1cm B2.1cm C0.4cm D0.5cm 重さ3.6g								錆化著しい P2	
17	SB4-4	鉄製品	釘			A3.3cm B0.7cm C0.6cm D0.5cm 重さ2.2g								錆化著しい P10	
18	SB4-5	石製品	砥石			長さ7.4cm 幅2.9cm 厚さ1.6cm 重さ48.6g 凝灰岩								P5	
19	SB4-5・6	土器	かわらけ		5		(5.8)	[1.0]	鈍い褐微砂粒	普通		轆轤	底部回転糸切り 離し		器面磨減 P1
20	SB4-5・6	土器	焙烙		5			[5.5]	灰黄	普通					外面煤付着 P5
21	SB4-6	土器	かわらけ		5	(12.4)		[1.9]	橙	普通		轆轤			P1
22	SB4-7	鉄製品	釘			錆化著しい A3.5cm B1.0cm C0.3cm D0.5cm 重さ3.8g P3									

(2) 土壌

第4-6号土壌 (第261図)

L5・G10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.65m、短軸は0.77m、深さは0.10mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-12号土壌 (第261図)

L6・H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。東側は調査区外となるため、長軸は不明である。短軸は0.94m、深さは0.70mである。長軸方位はN-69°-Eを指す。

遺物は第270図1～7が出土した。1は肥前系の白磁の小鉢、2・3は肥前系の碗、5～7は瀬戸・美濃系と丹波系の摺鉢、4は瀬戸・美濃系の瓶と思われる。

他に礫が多数検出されている。

第4-13号土壌 (第261図)

L6・G1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.65m、短軸は0.90m、深さは0.17mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-14号土壌 (第261図)

L6・G1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.28m、短軸は0.50m、深さは0.21mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-22号土壌 (第261図)

L6・H1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、北西側が深くなっている。長径は1.45m、短径は1.20m、深さは0.19mである。長軸方位はN-37°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-24号土壌 (第261図)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.33m、短径は1.09m、深さは0.13mである。長軸方位はN-23°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-25号土壌 (第261図)

L5・I10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.15m、短径は1.03m、深さは0.11mである。長軸方位はN-83°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-39号土壌 (第261図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.11m、短軸は0.57m、深さは0.11mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-40号土壌 (第261図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.77m、短軸は0.41m、深さは0.06mである。長軸方位はN-57°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-41号土壌 (第261図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.15m、短軸は0.63m、深さは0.24mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-43土壌 (第262図)

L5・H10、I10グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。東側を第4-44号土壌によって切られているため、長軸は不明である。短軸は0.86m、深さは0.09mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-44土壌 (第262図)

L5・H10、I10、L6・H1、I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.30m、短軸は0.98m、深さは0.44mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-45土壌 (第262図)

L5・H10、L6・H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。南側を4-44号土壌、東側を4-46号土壌によって切れているため大きさ

は不明である。深さは現況で0.12mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-46号土壌 (第262図)

L6・H1、L6・I1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。南側を第4-44・47号土壌によって切られているため、短径は不明である。長径は0.93m、深さは0.22mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-47号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は方形になると思われるが、西側を第4-44号土壌、東側を第4-48号土壌によって切られているため、大きさは不明である。深さは現況で0.14mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-48号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.53m、短軸は0.76m、深さは0.24mである。長軸方位はN-83°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-52号土壌 (第262図)

M6・A1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.03m、短軸は0.45m、深さは0.18mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-53号土壌 (第262図)

M6・A1、M6・A2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.52m、短軸は0.56m、深さは0.12mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-57号土壌 (第262図)

L5・J10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で2.56m、短軸は0.56m、深さは0.05mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

す。

遺物は出土していない。

第4-58号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径は1.50m、短径は0.47m、深さは0.06mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-65号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.93m、短径は0.38m、深さは0.06mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-59号土壌 (第262図)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する、北側は第4-60号土壌と接している。長軸は1.10m、短軸は0.50m、深さは0.13mである。長軸方位は、N-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-69号土壌 (第262図)

L5・I9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する、南側は第4-59号土壌と接している。長軸は1.32m、短軸は0.48m、深さは0.13mである。長軸方位は、N-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-63号土壌 (第262図)

L5・I10、L6・I1グリッドに位置する。北西部を第4-1号溝跡によって一部削平されているが、平面形は楕円形である。長径は1.06m、短径は0.93m、深さは0.20mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第4-64号土壌 (第262図)

L6・I1グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。径は約1.00mで深さは0.51mである。

遺物は出土していない。

第4-66号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円

形を呈する。長径は0.93m、短径は0.46m、深さは0.07mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4-67号土壌 (第262図)

M5・A10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.90m、短径は0.37m、深さは0.13mである。長軸方位はN-47°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-1号土壌 (第263図)

L4・H4グリッドに位置する。第6-3・4・6号溝跡の中に位置する。平面形は楕円形で底部は2箇所深い部分がある。長径は1.83m、短径は1.30mで、掘り込みは深く1.78mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-2号土壌 (第263図)

L6・J6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.16m、短径は1.00m、深さは0.35mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-3号土壌 (第263図)

L6・J6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.35m、短軸は0.75m、深さは0.38mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第6-4号土壌 (第263図)

M6・A5、A6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.42m、短軸は1.03m、深さは0.14mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-5号土壌 (第263図)

L6・J7グリッドに位置する。南側は第6-6号土壌と重複している。平面形は円形を呈し、南側がやや深くなっている。長径は0.78m、短径は0.60m、深さは0.35mである。

遺物は出土していない。

第6-6号土壌 (第263図)

L6・J7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は現況で1.05m、短径は0.93m、深さは0.14mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-7号土壌 (第263図)

M6・B3グリッドに位置する。南側が調査区外になる。平面形は円形を呈する。径は0.76m、深さは0.21mである。

遺物は出土していない。

第6-8号土壌 (第264図)

M6・A3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側が調査区外となるため長軸は不明である。短軸は0.62m、深さは0.36mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-9号土壌 (第264図)

M6・A4グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側が調査区外となるため長軸は不明である。短軸は0.56m、深さは0.30mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-10号土壌 (第264図)

L4・H4、H5グリッドに位置する。第6-11号土壌と重複する。平面形は円形を呈し、開口部より掘り込み部分は袋状になっている。深さは1.83mである。

遺物は出土していない。

第6-11号土壌 (第264図)

L4・H4、H5グリッドに位置する。底面北西側に第6-10号土壌が掘られていた。平面形は長方形を呈する。長軸は2.00m、短軸は0.73m、深さは0.29mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-13号土壌 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方

形を呈する。長軸は3.57m、短軸は0.53m、深さは0.19mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第6-14号土壙 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。中央が大きく攪乱されていた。長軸は3.20m、短軸は0.50m、深さは0.11mである。長軸方位はN-21°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-15号土壙 (第264図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側は第6-14号土壙と重複し、攪乱が入っていた。短軸は0.56m、深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-16号土壙 (第264図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は3.05m、短軸は0.54m、深さは0.20mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-17号土壙 (第265図、第270図8)

L6・I2グリッドに位置する。第6-17～24号土壙が重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は4.27m、短軸は0.47m、深さは0.30mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は8の瀬戸・美濃系の皿が出土した。

第6-18号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形で、北側を攪乱で壊されている。長軸は現況で5.66m、短軸は0.55m、深さは0.14mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-19号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北側は第6-18号土壙によって切られているため、不明である。長軸は現況で6.90m、短軸は0.55m、深さは0.10mである。長軸方位は

N-15°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-20号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。東西部分を6-17・18号土壙によって切られているため規模は不明である。北側の短軸面から平面形は長方形になると思われる。深さは0.18mである。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第6-21号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。北側を第6-22号土壙に切られているため長軸は不明である。平面形は長方形を呈する。短軸は0.45m、深さは0.12mである。

遺物は出土していない。

第6-22号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。西側を第6-19号土壙に切られており、規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-23号土壙 (第265図)

L6・I2グリッドに位置する。長軸両端を第6-19・24号土壙によって切られているため、規模は不明である。深さは0.08mである。

遺物は出土していない。

第6-24号土壙 (第265図、第270図9)

L6・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.50m、短軸は0.75m、深さは0.20mである。長軸方位はN-17°-Wを指す。

遺物は、9の瀬戸・美濃系の菊皿の破片が出土した。

第6-25号土壙 (第266図)

L6・I2、I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.07m、短軸は0.58m、深さは0.22mである。長軸方位はN-75°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-26号土壌 (第266図)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.10m、短軸は0.42m、深さは0.19mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。

遺物は瀬戸・美濃系の鉢、かわらけの破片が出土した。

第6-27号土壌 (第266図)

L6・I3、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。西側は第6-26・33号土壌と重複するため、長軸は不明である。短軸は0.58m、深さは0.16mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-33号土壌 (第266図、第270図13)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。一辺の長さは1.42m、深さは0.43mである。

遺物は、13の古銭が出土した。

他にかわらけの破片が出土している。

第6-28号土壌 (第266図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.5m、短軸は0.6m、深さは0.3mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-36号土壌 (第266図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.22m、短軸は0.52m、深さは0.13mである。長軸方位はN-63°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第6-29号土壌 (第267図、第270図10~12)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は7.40m、短軸は0.55m、深さは0.30mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は10~12が出土した。10は瀬戸・美濃系の皿、11は肥前の皿、12は焙烙である。

他に瀬戸・美濃系の高炉、甕、皿の破片、焙烙

とかわらけの破片が出土している。

第6-30号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。西側の一部が第6-29号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.23m、短軸は0.54m、深さは0.25mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-31号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北西側を第6-29号土壌と重複している。長軸は2.25m、短軸は0.62m、深さは0.14mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-32号土壌 (第267図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。西側を第6-29号土壌と重複しているため、短軸の大きさは不明である。長軸は1.38m、深さは0.14mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-34号土壌 (第267図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.62m、短軸は0.50m、深さは0.19mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は瀬戸・美濃系の碗破片が出土した。

第6-35号土壌 (第267図)

L6・J2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.53m、短軸は0.38m、深さは0.25mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

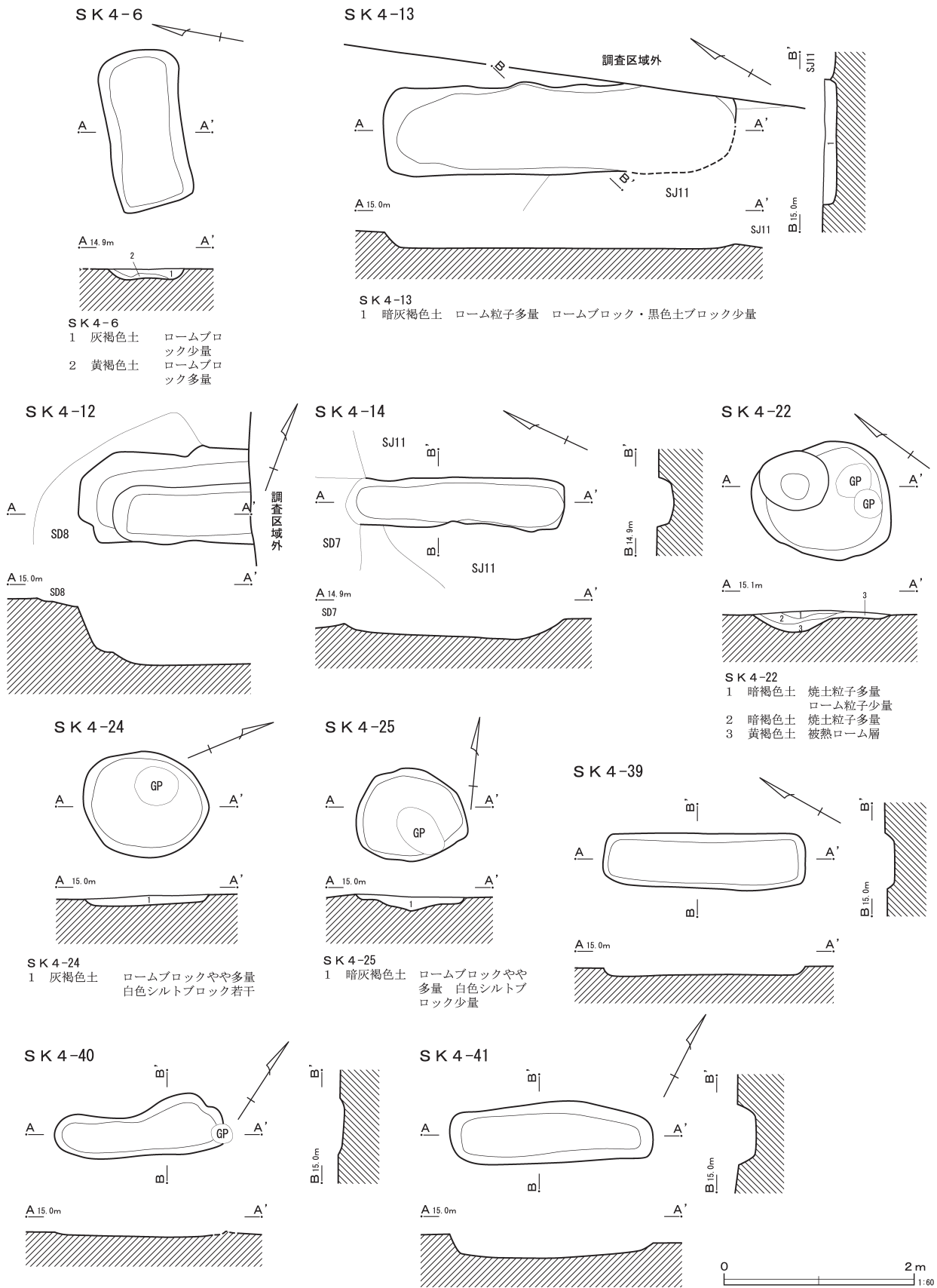
第6-37号土壌 (第267図)

L6・I3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.16m、深さは0.41mである。

遺物は瀬戸・美濃系の碗破片が出土した。

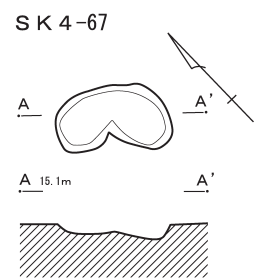
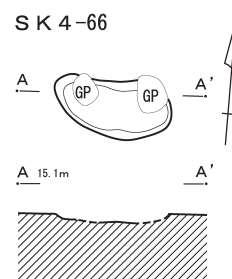
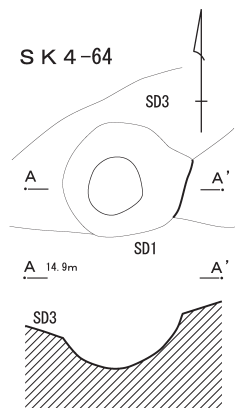
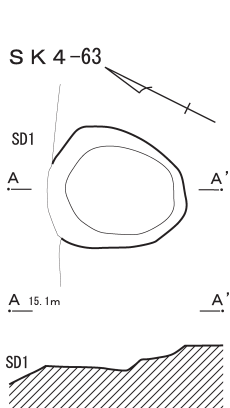
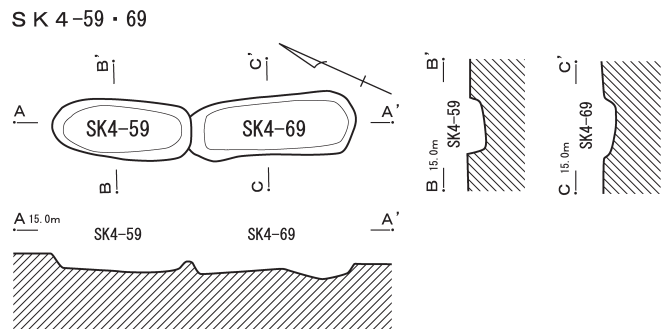
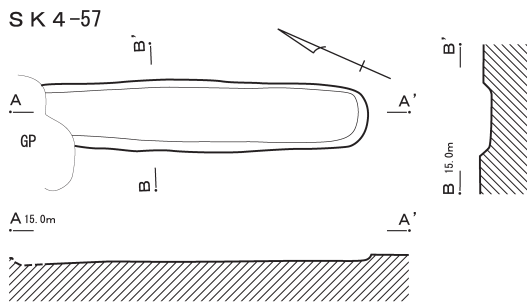
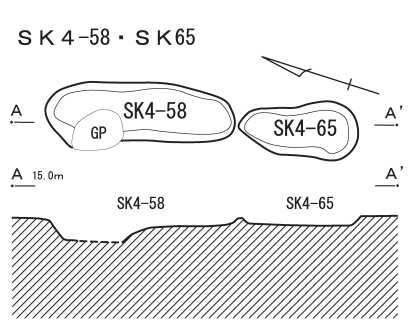
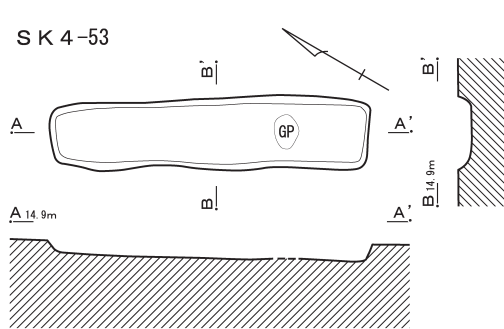
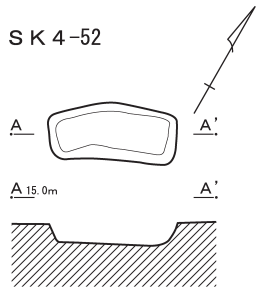
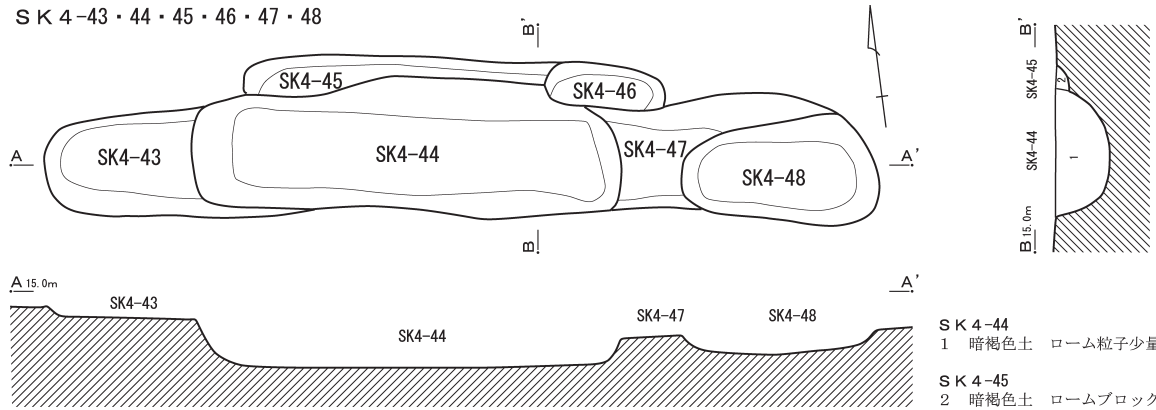
第6-39号土壌 (第267図)

L6・I3グリッドに位置する。南側を攪乱によって壊されている。現況では平面形は楕円形を

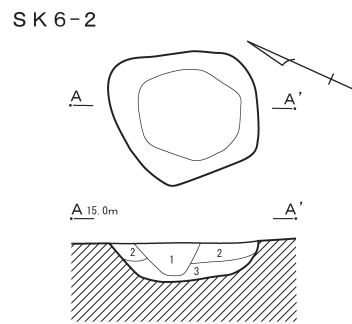
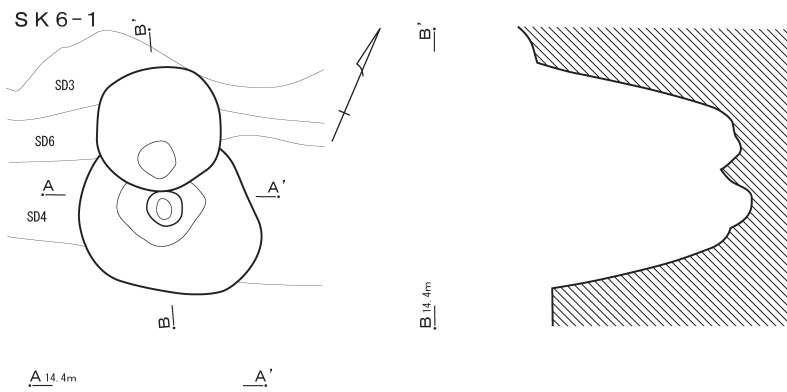


第261図 土壌 (1)

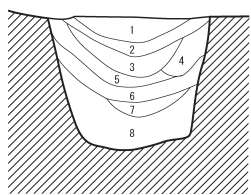
SK 4-43・44・45・46・47・48



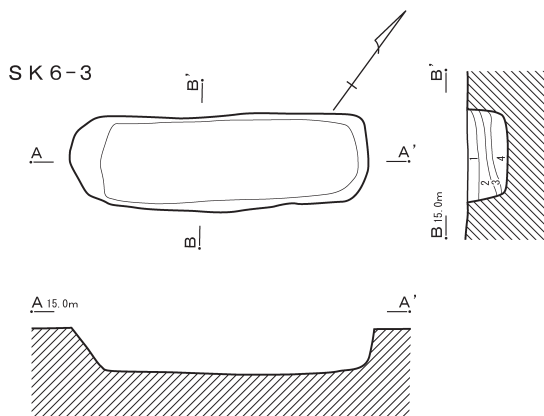
第262図 土坑 (2)



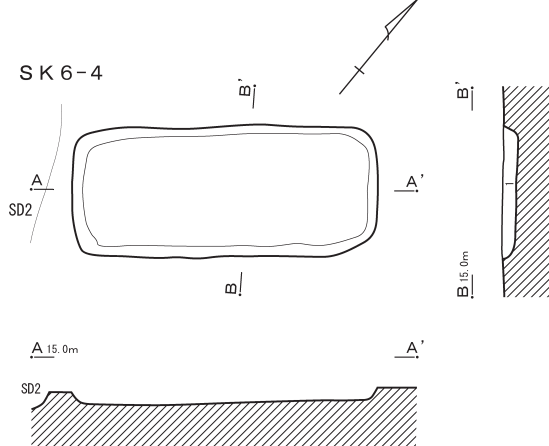
SK 6-2
 1 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子・焼土粒子若干
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物粒子若干
 3 褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック若干



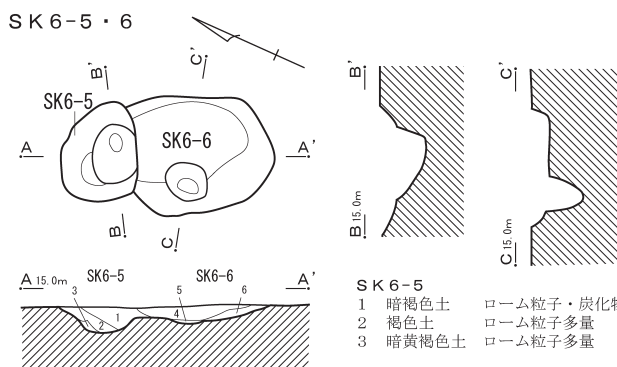
SK 6-1
 1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物粒子若干
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 3 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック若干
 4 暗褐色土 ローム粒子少量
 5 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子少量
 7 褐色土 ローム粒子多量
 8 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック若干



SK 6-3
 1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 2 黒褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量
 3 黒褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量
 4 黒褐色土 ローム粒子・ローム粒子多量 ロームブロック少量

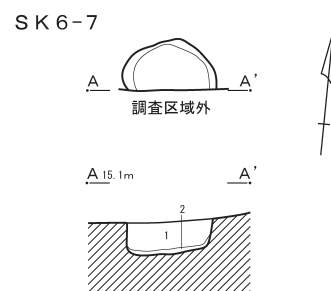


SK 6-4
 1 黒褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子若干



SK 6-5
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子若干
 2 褐色土 ローム粒子多量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK 6-6
 4 黒褐色土 ローム粒子少量
 5 暗褐色土 ローム粒子少量
 6 暗黄褐色土 ローム粒子多量

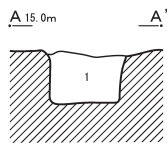
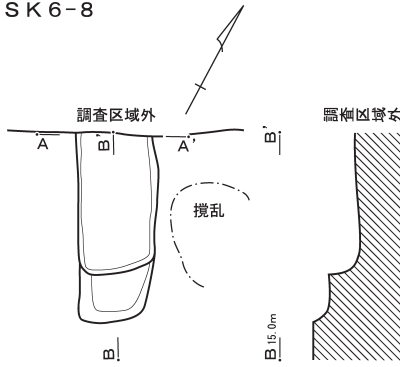


SK 6-7
 1 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 灰白色粘土粒子若干 灰白色粘土ブロック多量
 2 黒褐色土 ローム粒子少量



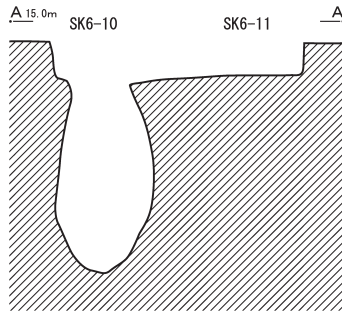
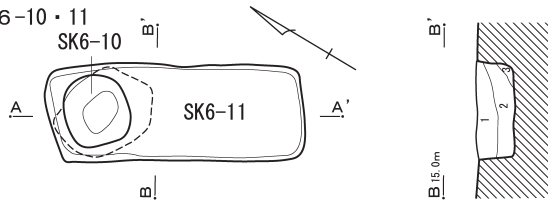
第263図 土壌 (3)

SK 6-8



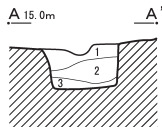
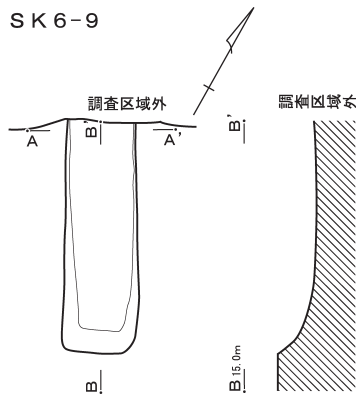
SK 6-8
1 暗灰褐色土 灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック多量
ローム粒子少量

SK 6-10・11



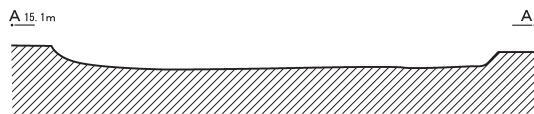
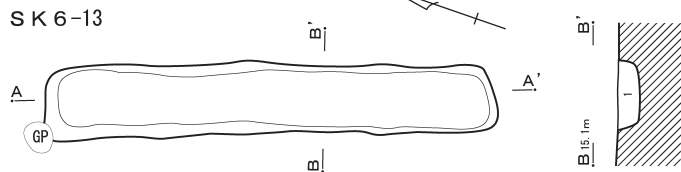
SK 6-11
1 黒褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子若干
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
3 黒褐色土 ロームブロック多量

SK 6-9



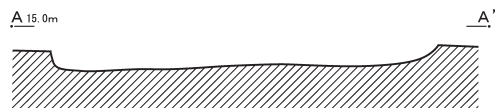
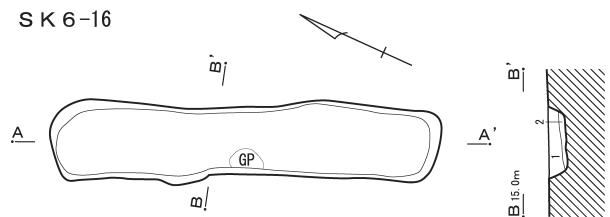
SK 6-9
1 暗灰褐色土 ロームブロック若干 灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 灰白色粘土粒子若干
3 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

SK 6-13



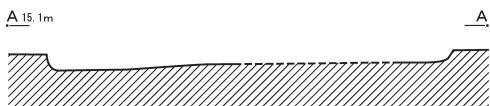
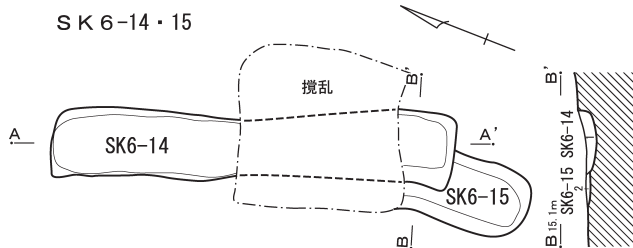
SK 6-13
1 暗灰褐色土 ローム粒子少量 灰白色粘土ブロック多量
ロームブロック若干

SK 6-16



SK 6-16
1 暗灰褐色土 ローム粒子・灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック少量
ロームブロック多量
2 暗褐色土 ローム粒子少量

SK 6-14・15

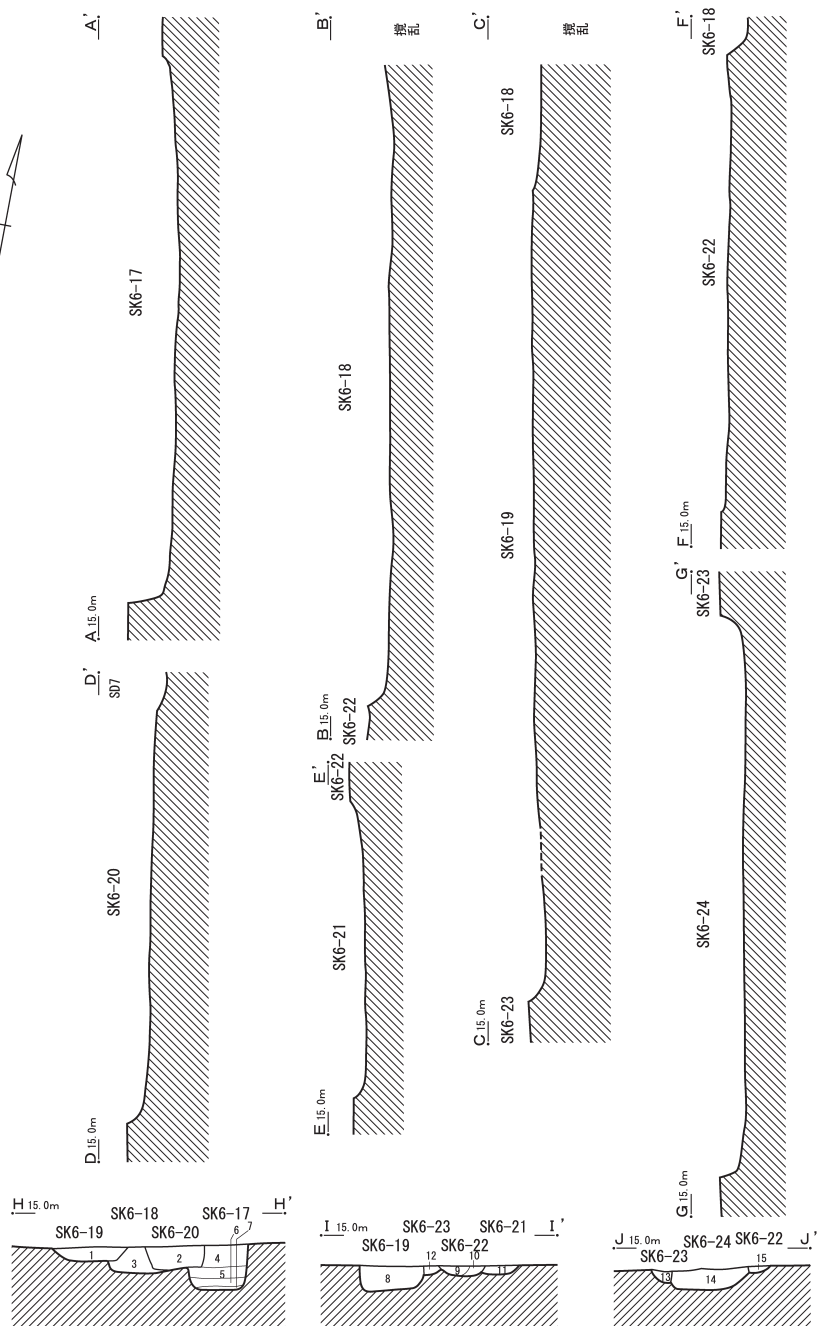
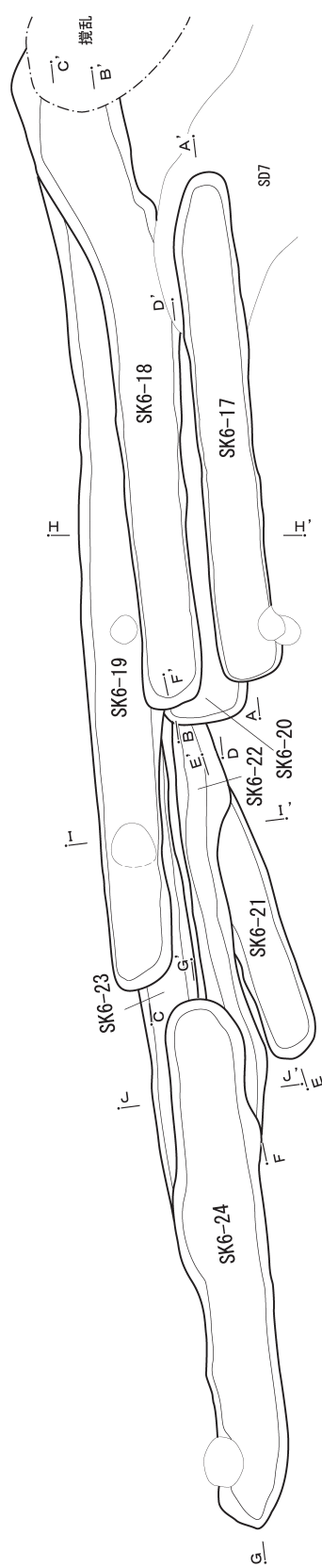


SK 6-14
1 暗灰褐色土 ローム粒子多量 灰白色粘土粒子少量

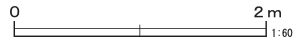
SK 6-15
2 黒褐色土 ローム粒子少量



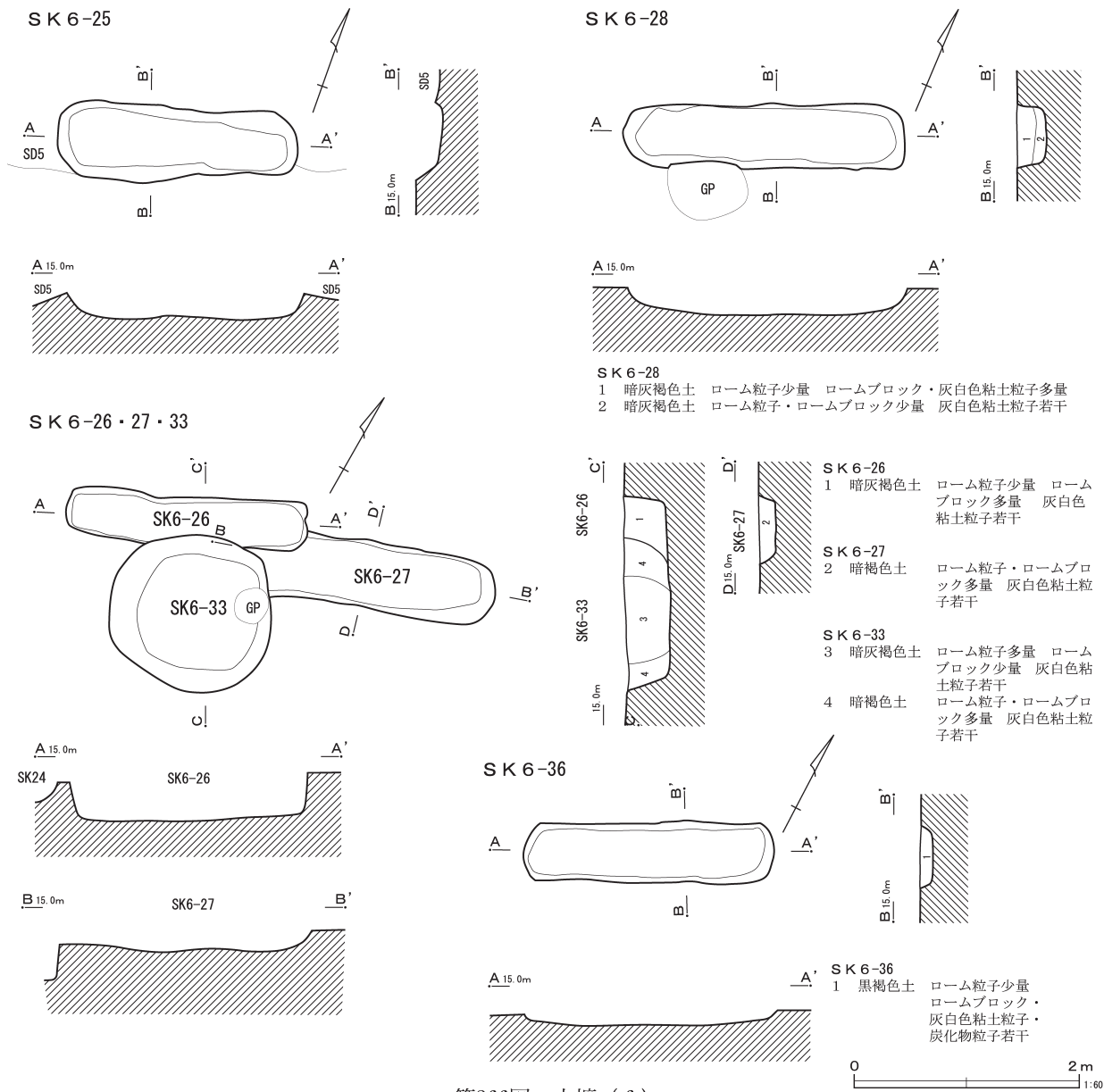
SK6-17・18・19・20・21・22・23・24



- SK6-17~24
- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | ローム粒子・青灰色粘土ブロック多量 |
| | ロームブロック少量 灰白色粘土粒子・炭化物粒子若干 |
| 2 暗灰褐色土 | ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土粒子少量 |
| | 焼土粒子若干 |
| 3 暗灰褐色土 | ローム粒子多量 ローム粒子・灰白色粘土粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子・暗灰褐色土粒子多量 |
| | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック多量 |
| 6 暗灰褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色土 | ローム粒子少量 |
| 8 暗灰褐色土 | ローム粒子・青灰色粘土ブロック多量 ロームブロック少量 |
| | 灰白色粘土粒子 炭化物粒子若干 |
| 9 黒褐色土 | ローム粒子少量 |
| 10 黒褐色土 | ローム粒子多量 |
| 11 黒褐色土 | ローム粒子多量 |
| 12 暗灰褐色土 | ローム粒子少量 灰白色粘土粒子若干 |
| 13 暗灰褐色土 | ローム粒子少量 灰白色粘土粒子若干 |
| 14 暗灰褐色土 | ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土粒子少量 焼土粒子若干 |
| 15 黒褐色土 | ローム粒子多量 |



第265図 土壌 (5)



第266図 土坑 (6)

呈すると思われる。現況で計測可能な長径は1.17m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第6-40号土坑 (第267図)

L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、西側が深くなっている。長径は0.99m、短径は0.63m、深さは0.70mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-41号土坑 (第267図)

L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は円形

を呈する。径は0.95m、深さは0.68mである。

遺物は出土していない。

第6-42号土坑 (第267図)

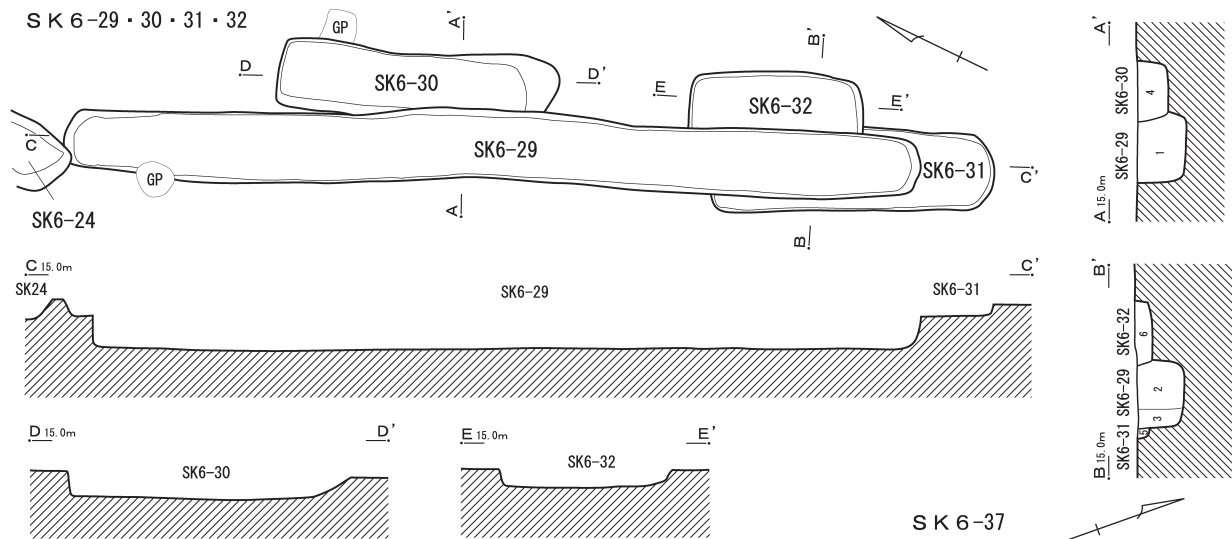
L 6・J 3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は約0.80m、深さは0.80mである。

遺物は出土していない。

第6-38号土坑 (第268図)

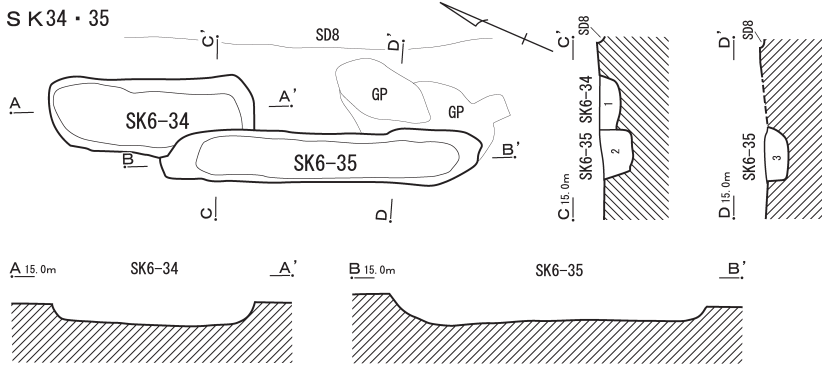
M 6・A 3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.66m、短軸は1.05m、深さは0.21mである。長軸方位はN-61°-Eを指す。

遺物は出土していない。

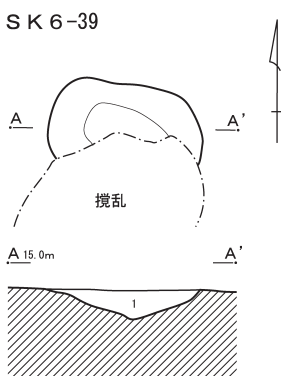


- SK 6-29**
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土粒子少量 焼土粒子若干
 - 2 暗灰褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土粒子少量 焼土粒子若干
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量 灰白色粘土粒子・炭化物粒子若干

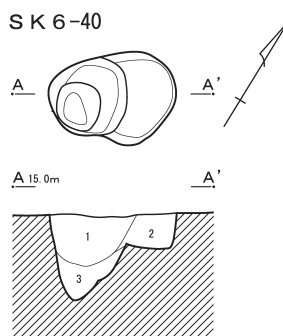
- SK 6-30**
- 4 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土粒子若干
- SK 6-31**
- 5 暗灰褐色土 ローム粒子少量 灰白色粘土粒子若干
- SK 6-32**
- 6 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 灰白色粘土粒子若干



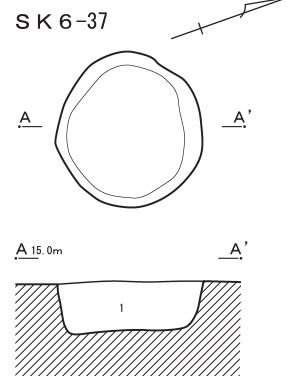
- SK 6-34**
- 1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 灰白色粘土粒子若干
- SK 6-35**
- 2 灰褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子・灰白色粘土粒子若干
 - 3 灰褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子・灰白色粘土粒子若干



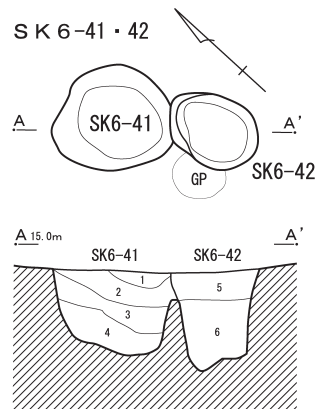
- SK 6-39**
- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量



- SK 6-40**
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 灰白色粘土粒子若干
 - 2 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 - 3 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量



- SK 6-37**
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量



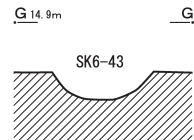
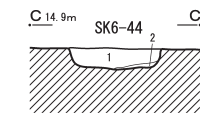
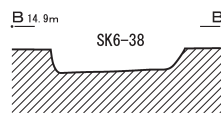
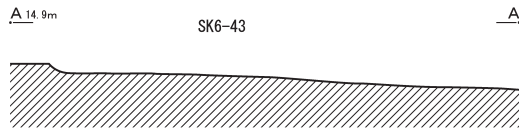
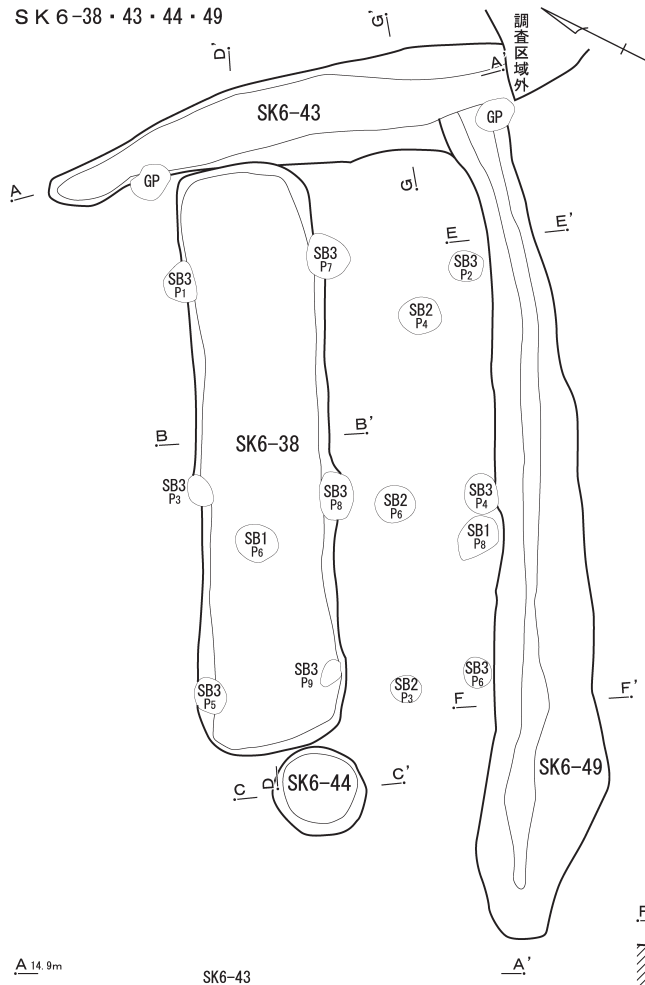
- SK 6-41**
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック・灰白色粘土粒子・炭化物粒子少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量 焼土粒子若干
 - 3 暗灰褐色土 ロームブロック多量
 - 4 暗灰褐色土 ロームブロック多量

- SK 6-42**
- 5 暗灰褐色土 ロームブロック多量 灰白色粘土粒子若干
 - 6 暗灰褐色土 ロームブロック少量



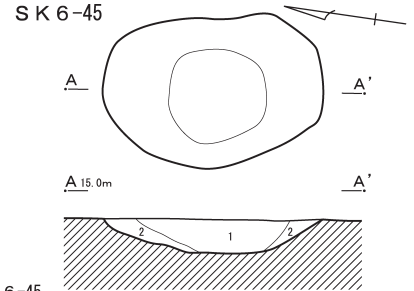
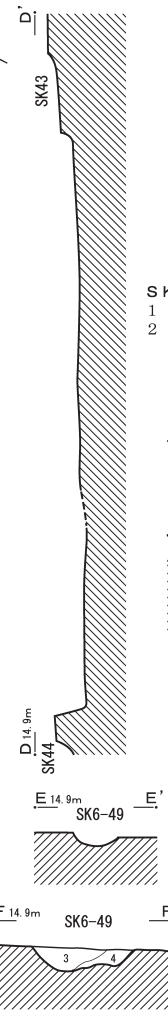
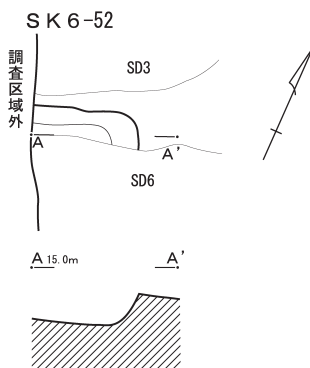
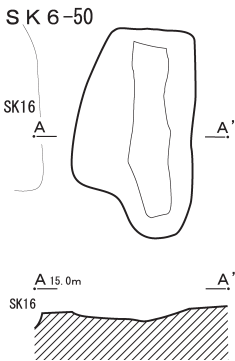
第267図 土壌 (7)

SK 6-38・43・44・49

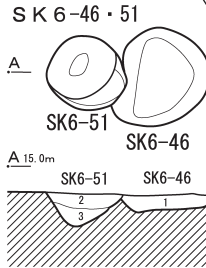


SK 6-44
1 暗灰褐色土 ローム粒子・灰白色粘土粒子少量
2 暗灰褐色土 ローム粒子少量

SK 6-49
3 黒褐色土 ローム粒子・灰白色粘土粒子・炭化物粒子少量
4 黒褐色土 ローム粒子多量

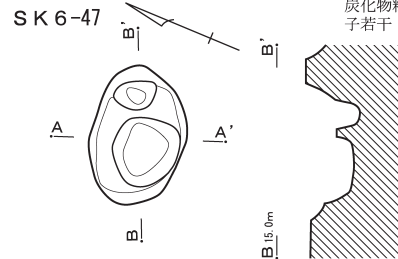


SK 6-45
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子少量
2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

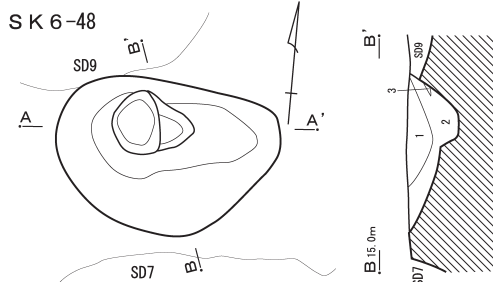


SK 6-46
1 暗褐色土 ローム粒子微量

SK 6-51
2 暗褐色土 ローム粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子少量
ロームブロック・炭化物粒子若干



SK 6-47
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
2 褐色土 ロームブロック若干



SK 6-48
1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
炭化物粒子若干
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
3 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子少量



第268図 土壌 (8)

第6-43号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。北東部は調査区外となるため、長さは不明である。平面形は長楕円形を呈する。短径は0.73m、深さは0.10mである。長軸方位はN-40°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-44号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.69m、深さは0.23mである。

遺物は瀬戸・美濃系の摺鉢、かわらけ、焙烙の破片が出土した。

第6-49号土壌 (第268図)

M6・A3グリッドに位置する。北東側は第6-43号土壌に切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径は現況で6.70m、短径は1.00m、深さは0.20mである。長軸方位はN-62°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-45号土壌 (第268図)

L6・J2、J3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.70m、短径は1.13m、深さは0.27mである。長軸方位はN-8°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第6-46号土壌 (第268図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.80m、深さは0.12mである。

遺物は出土していない。

第6-51号土壌 (第268図)

L6・J3グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.65m、深さは0.32mである。

遺物は出土していない。

第6-47号土壌 (第268図)

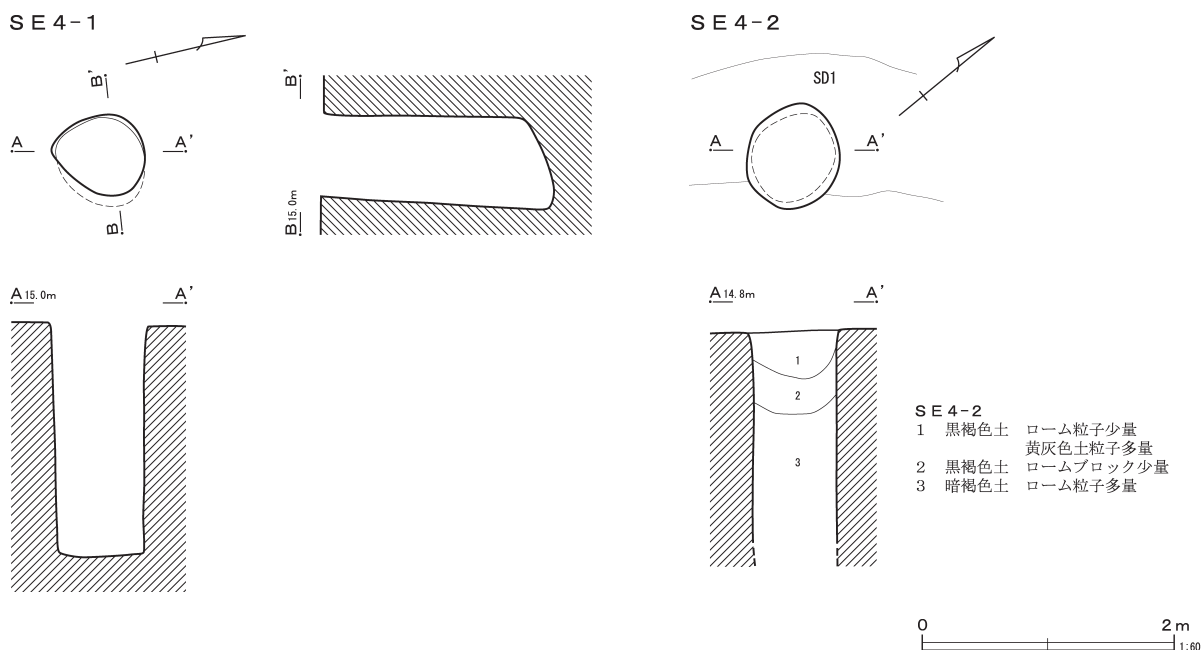
L6・J2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、底面に2箇所の窪みがある。長径は1.09m、短径は0.72m、深さは0.38mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6-48号土壌 (第268図)

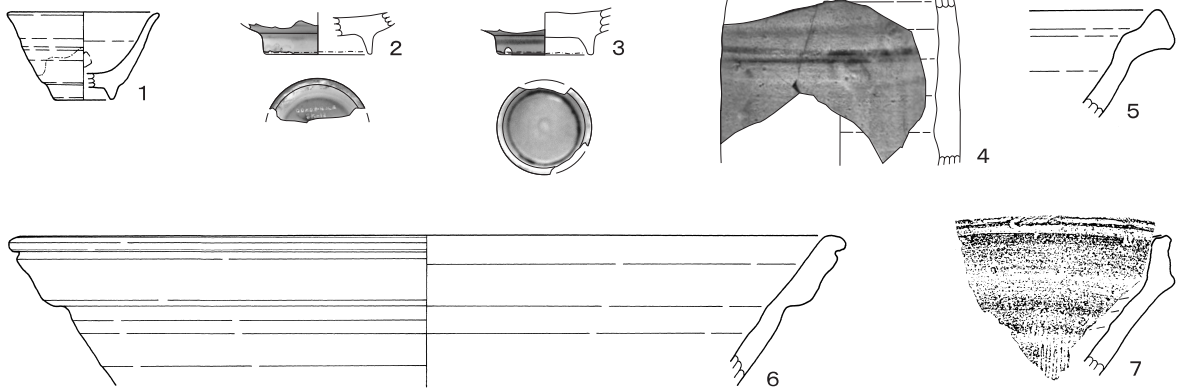
L6・H2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、中央部に1段深くなっている。長径は1.77m、短径は1.22m、深さは0.66mである。長軸方位はN-85°-Eを指す。遺物は出土していない。

遺物は焙烙の破片が出土した。

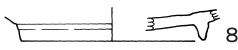


第269図 井戸跡

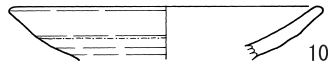
SK 4-12



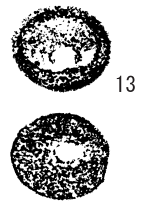
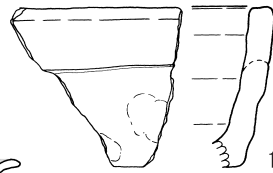
SK 6-17



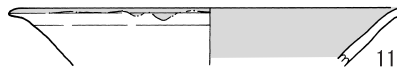
SK 6-29



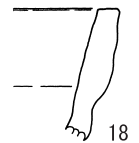
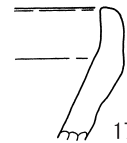
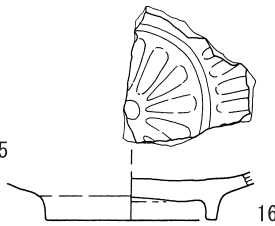
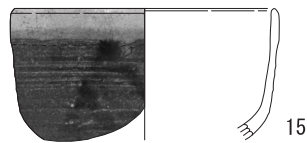
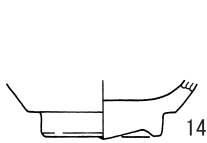
SK 6-33



SK 6-24



SE 4-1



0 5cm 2:3

0 10cm 1:3

第270図 土壌・井戸跡出土遺物

第26表 土壌・井戸跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の微特	文様	備考
1	SK 4-12	白磁	小坏	肥前	40	(6.0)	(2.4)	3.5	灰白 緻密	良好		轆轤	削り出し高台		17C後半
2	SK 4-12	磁器	碗	肥前	5		(4.2)	(1.7)	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	高台脇一重圈線 際二重圈線 内一重圈線+銘		17C前半か
3	SK 4-12	磁器	碗	肥前	90		3.7	(1.7)	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤	貫入多 高台際二重圈線 内一重圈線		貫入多 高台 18C代
4	SK 4-12	陶器	瓶	瀬戸・美濃	10			(6.7)	浅黄	良好	長石釉 鉄釉	轆轤			志野 二次的被熱か 17C初
5	SK 4-12	陶器	搦鉢	瀬戸・美濃	5			(4.2)	灰白 微砂粒	良好	鉄釉	轆轤			17C中～後
6	SK 4-12	陶器	搦鉢	瀬戸・美濃	10	(33.0)		(6.0)	灰黄 微砂粒	普通	鉄釉	轆轤			18C後半～19C前半
7	SK 4-12	陶器	搦鉢	丹波	5			(5.0)	灰褐 砂粒	良好	鉄漿か		輪積みか		17C後半か
8	SK 6-17	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(7.2)	(1.3)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	見込み高台跡		貫入少 (内) 18C前～中
9	SK 6-24	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			(1.5)	浅黄	普通	灰・緑釉	轆轤	型打ち 貫入多		菊皿 17C代
10	SK 6-24	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(11.8)		(2.1)	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	型打ち 貫入多		17C後～18C前

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 特	文様	備考
11	SK 6-24	陶器	皿か	肥前	5	(15.2)		[2.3]	灰白	良好	外銅緑釉・ 内透明釉	轆轤			17C後半～18C前半
12	SK 6-24	土器	焙烙		5			[6.3]	灰黄	良好					
13	SK 6-33	古銭か	寛永通寶												煙管の火皿を潰したものの
14	SE 4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	70		4.8	[2.3]	灰白微砂粒	良好	鉄釉	轆轤	削り出し高台		天目碗 二次的被熱か(見込み 白色化し気泡あり) 18C前 ～中
15	SE 4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(10.4)		[5.3]	微砂粒微量	良好	灰釉 鉄釉	轆轤			腰錆煎茶碗 18C末～19C前半
16	SE 4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(6.8)	[1.8]	浅黄	良好	灰釉	轆轤 型打ち	削り出し高台 回転糸切り		菊皿 見込みに円錐ピン跡1カ 所 18C前半
17	SE 4-1	土器	焙烙		5			[5.2]	灰褐微砂粒	普通					外面スス付着
18	SE 4-1	土器	焙烙		5			[5.2]	灰褐微砂粒	普通					外面スス付着

第6-50土壌 (第268図)

L 6・I 2、I 3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.64m、短軸は0.90m、深さは0.09mである。長軸方位はN-15°-Wを指す。遺物は出土していない。

第6-52土壌 (第268図)

L 6・H 3グリッドに位置する。東側が調査区外、南側を第6-6号溝によって削平されているため、遺構の規模は不明である。深さは0.23mである。遺物は出土していない。

(3) 井戸跡

第4-1号井戸跡 (第269図)

L 5・H10グリッドに位置する。第4-1号掘立柱建物跡の西側に近接する。平面形は円形を呈する。径は0.70m、深さは1.30mである。

遺物は出土しなかった。

第4-2号井戸跡 (第269図)

L 5・H10グリッドに位置する。第4-2号掘立柱建物跡の北側、第4-1号柵列の西端に近接している。平面形は円形を呈し、径は0.90mである。深さは1.20mまで調査したが、安全のためそこで中止した。

遺物は出土しなかった。

(4) 溝跡

第4地点で検出された溝跡は11条、第6地点では10条、計21条である。これらの溝跡の何条かは、掘立柱建物跡や柵列跡、井戸跡などを取り込むかのように存在しており、家敷地を区画する溝と考えられる。

第4-1号溝跡 (第271・272図、第274図1～18)

L 5・I 9、I 10、J 8、J 9、J 10、M 5・A 7、A 8、L 6・I 1、I 2グリッドに位置する。

第4-1・2・11・18・63号土壌と第4-2号井戸跡およびピットと重複するが、いずれも新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びている、東側は途切れる。第6-5号溝跡との距離は1.5mである。第4-2号溝跡とは、平行に走っている。

検出した範囲内での長さは55.0m、幅は1.7～3.2m、深さは0.6～1.1mを測り、方位はN-62°-Eを指す。西端部より43mの部分から、30度程南に屈曲する。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は幅広な薬研堀に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。本溝跡は、南に存在する掘立柱建物跡や柵列跡を、第6-5号溝跡 (または第6-3・4・6号溝跡)

と共に取り込む区画溝と推定される。

遺物は、1～6は瀬戸・美濃系の陶器類、他に焙烙・かわらけ・砥石・金属製品等、あわせて18点が出土した。

第4-2号溝跡（第271・272図、第274図19～21）

L5・I9、I10、J7、J8、J9グリッドに位置する。

第4-1号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は途絶えているが、東側については第4-11号溝跡と重複もしくは、合流している。両溝跡は平行に走っている。

検出した範囲内での長さは29.0m、幅は0.8m、深さは0.2mを測り、方位はN-62°-Eを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は椀状に近い。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。しかし、第4-1号溝跡とは位置関係から、関連性があると考えられる。

遺物は、19の瀬戸・美濃系の陶器（播鉢）の他、鉄製の火打ち金（20）、砥石（21）が出土した。

第4-3号溝跡（第272図）

L6・H1、H2、I1、I2グリッドに位置する。

第4-64号土壇、第4-1号土壇と重複するが、新旧関係は不明である。西側は第4-1号溝跡と重複している。東側は途切れる。

検出した範囲内での長さは3.2m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位はN-19°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面の形状は箱型である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。これらの溝跡が、家敷地の区画溝か、根切溝かは不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-4号溝跡（第271・272図、第274図22～31）

L5・H9、H10、K9・I9、I10グリッドに位置する。

平面図上では、何条もの溝跡があるかのような表現となっている。これは、同場所に溝を複数条掘られている為と考えられる。第4-11号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。西側と東側は共に、調査区内で収束するが、東側については第4-11号溝跡と合流した可能性がある。

検出した範囲内での長さは11.5m、幅は0.6m、深さは0.2～0.4mを測り、方位はN-67°-Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は、底面が平坦な逆台形である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。これらの溝跡が、家敷地の区画溝か、根切溝かは不明である。

遺物は、肥前系の磁器碗4点をはじめとして、計10点の遺物が出土した。

第4-5号溝跡（第272図、第277図72～78）

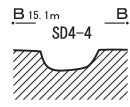
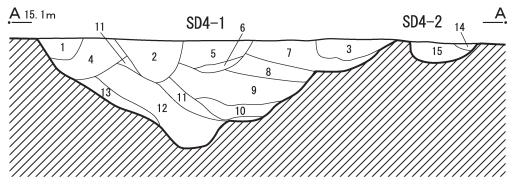
L5・G9、G10、H10グリッドに位置する。

南北に複数条の溝跡が存在するが、同一の遺構番号が付されている。調査時の所見で、同じ場所に溝を複数条掘り直した結果と考えられる。

第4-8号掘立柱建物跡、第4-6・7・9・10号溝跡および1つのピットと重複するが、新旧関係は不明である。北側は調査区外に続き、南側はやや鍵の手状に屈曲して途絶える。本溝跡は、一つの可能性として、第4-6号溝跡に連結する可能性も考えられる。

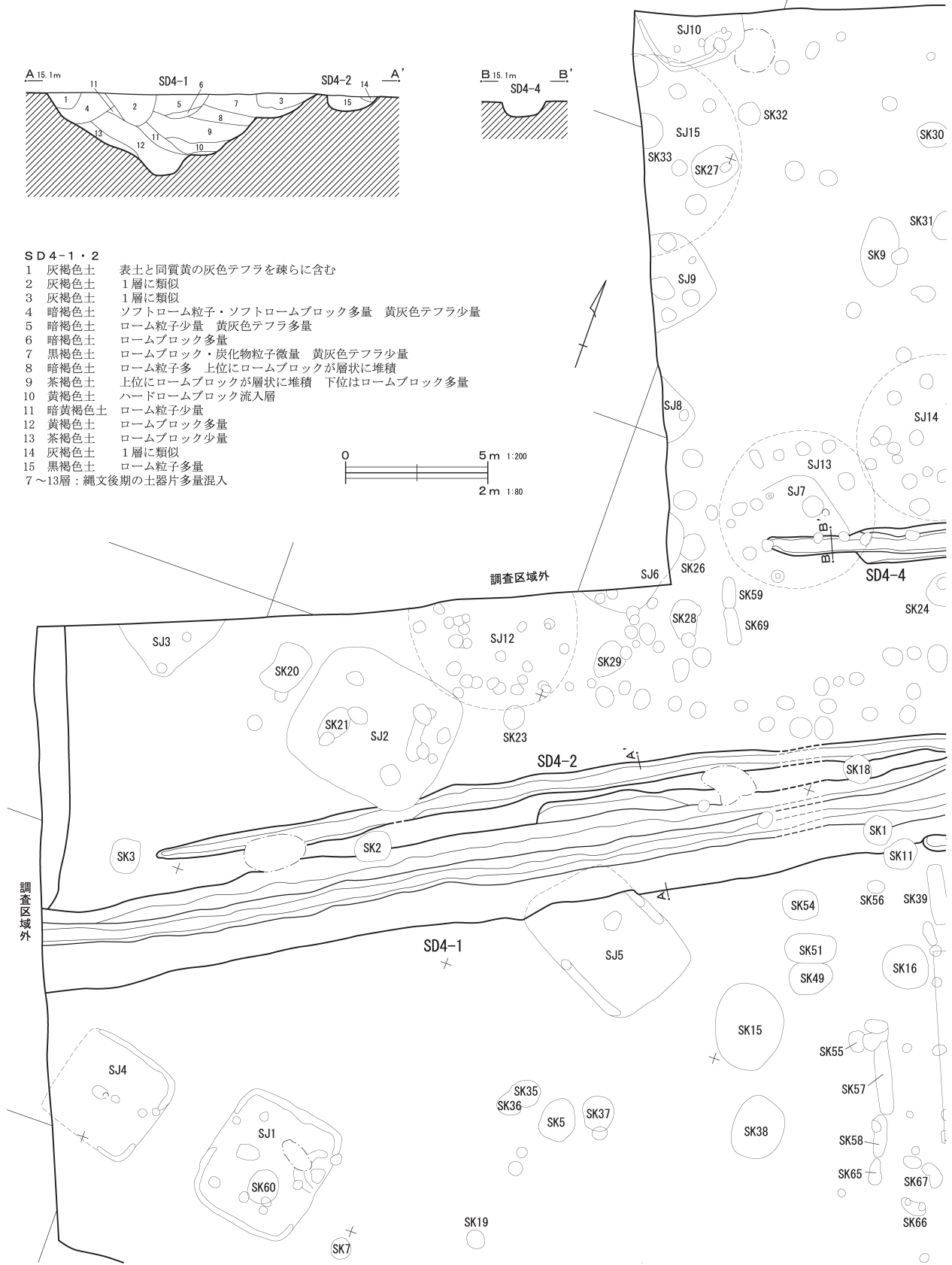
検出した範囲内での長さは16.5m、幅は0.12～0.22m、深さは0.3～0.5mを測り、方位はN-25°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈する。断面形は、皿状もしくは椀状である。

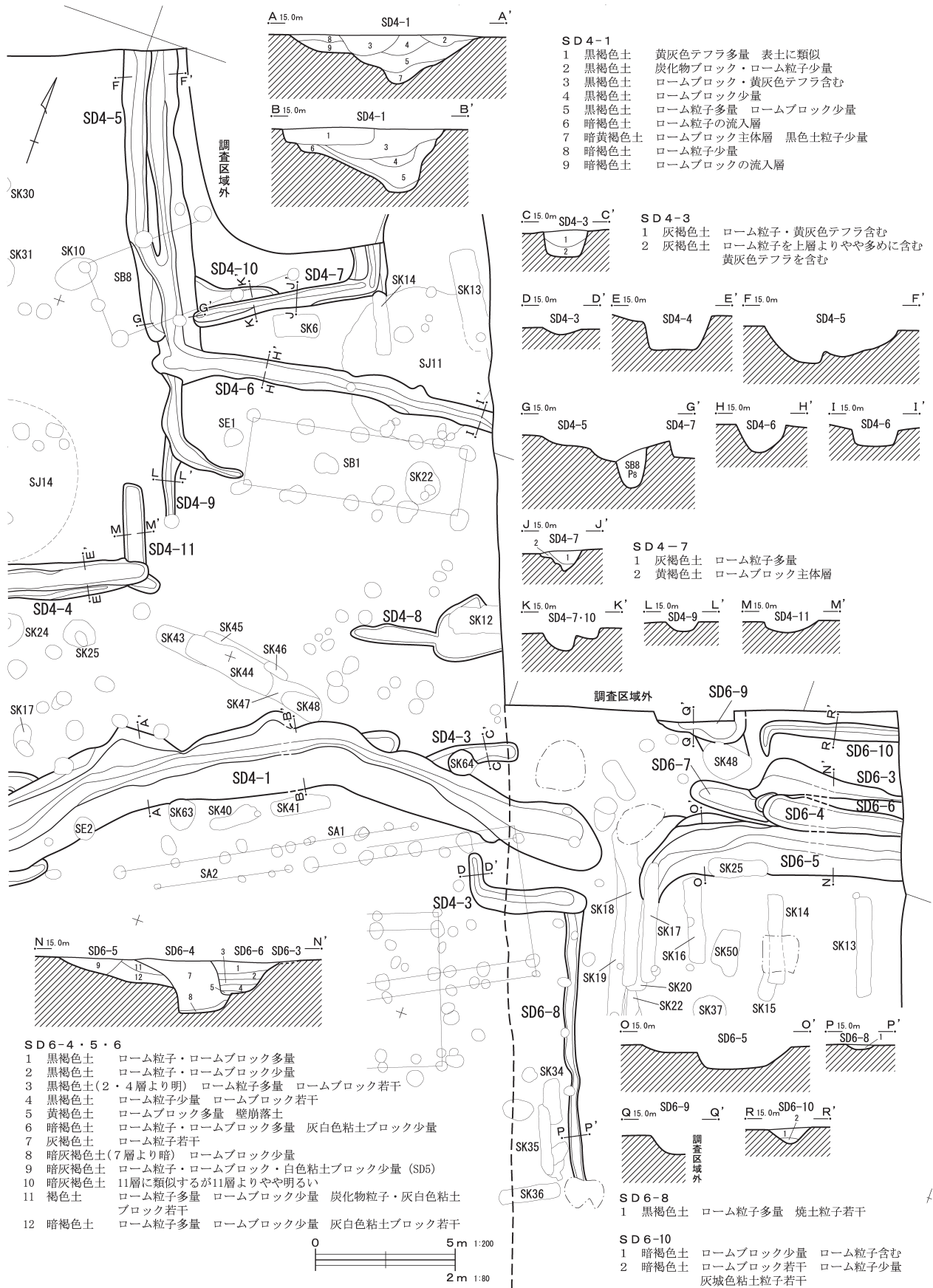


SD4-1・2

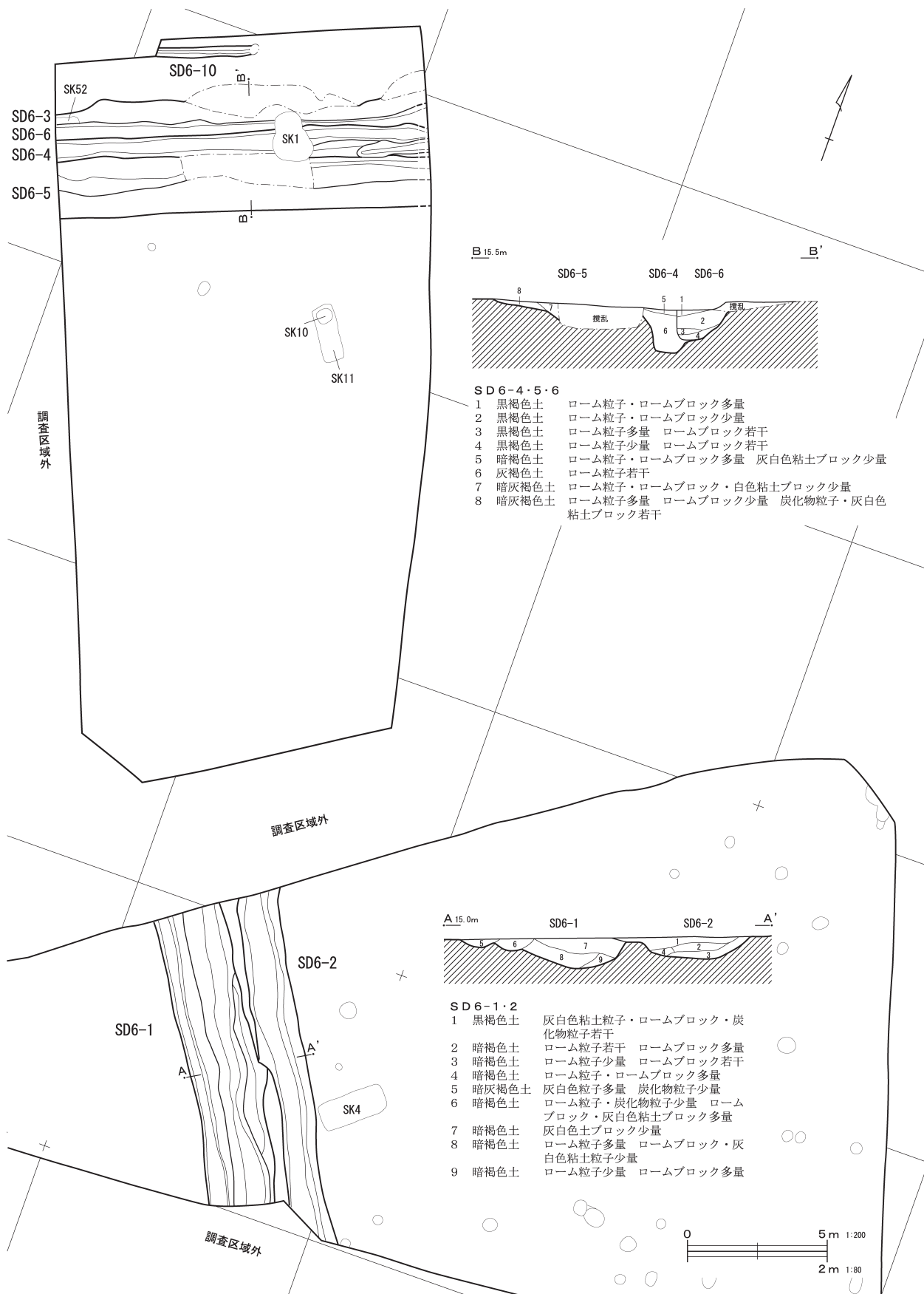
- 1 灰褐色土 表土と同質黄の灰色テフラを疎らに含む
 - 2 灰褐色土 1層に類似
 - 3 灰褐色土 1層に類似
 - 4 暗褐色土 ソフトローム粒子・ソフトロームブロック多量 黄灰色テフラ少量
 - 5 暗褐色土 ローム粒子少量 黄灰色テフラ多量
 - 6 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 7 黒褐色土 ロームブロック・炭化物粒子微量 黄灰色テフラ少量
 - 8 暗褐色土 ローム粒子多 上位にロームブロックが層状に堆積
 - 9 茶褐色土 上位にロームブロックが層状に堆積 下位はロームブロック多量
 - 10 黄褐色土 ハードロームブロック流入層
 - 11 暗黄褐色土 ローム粒子少量
 - 12 黄褐色土 ロームブロック多量
 - 13 茶褐色土 ロームブロック少量
 - 14 灰褐色土 1層に類似
 - 15 黒褐色土 ローム粒子多量
- 7～13層：縄文後期の土器片多量混入



第271図 溝跡 (1)



第272図 溝跡 (2)



第273図 溝跡（3）

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。しかし、配置等から屋敷地に伴う区画溝の可能性が考えられる。

遺物は、肥前系の磁器は72の碗、陶器は73の鉢、瀬戸・美濃系の陶器は74の皿と76の播鉢の他、75・77・78が出土した。

第4-6号溝跡 (第272図、第277図79～84)

L5・G9、G10、H10グリッドに位置する。

第4-5号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。第4-5号溝跡に連結する可能性が考えられる。

東側は調査区外に延び、西側は第4-5号溝跡に重複もしくは合流して途絶える。

検出した範囲内での長さは12.6m、幅は0.8m、深さは0.2～0.4mを測り、方位はN-80°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。しかし、1m程南に位置する第4-1号掘立柱建物跡の主軸方向(N-78°-W)と近似しており、位置的にみても、両者は関連性があると考えられる。

遺物は、出土していない。

第4-7号溝跡 (第272図、第277図85)

L5・G10、L6・G11グリッドに位置する。

南北に2数条の溝跡が存在するが、同一の遺構番号が付されている。調査時の所見では、同じ場所に複数条に渡って、掘り直しが行われた結果と考えられる。

第4-5・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北側は調査区外に延びている。西側は、やや鍵の手状に屈曲して第4-5号溝跡に重複もしくは合流して収束している。本溝跡は、第4-5号溝跡と一連の溝跡の可能性が考えられる。

検出した範囲内での長さは8.0m、幅は0.6m、

深さは0.2mを測る。方位はN-60°-EとN-25°-Wである。平面形は、北側に屈曲する鍵の手状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明であるが、屋敷地に伴う区画溝の可能性が考えられる。

遺物は、出土していない。

第4-8号溝跡 (第272図)

L6・H1グリッドに位置する。

本溝跡は、第4-12号土壇と重複し西側は途切れている。第4-12号土壇との新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは3.1m、幅は0.5～0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-71°-Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。家敷地を区画する溝か、根切り溝か不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-9号溝跡 (第272図)

L5・H11グリッドに位置する。

北側は第4-5号土壇と重複して終わり、南側はピットと重複して収束する。第4-5号土壇との新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは3.0m、幅は0.6m、深さは0.1mを測り、方位はN-19°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状を呈している。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。家敷地を区画する溝か、根切り溝か不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-10号溝跡 (第272図)

L5・H10グリッドに位置する。

第4-5・7号溝跡およびピットと重複するが、新旧関係は不明である。両溝跡との重複により、

本溝跡の規模・形状は不明である。

検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.7m、深さは0.1mを測る。方位については不明である。

平面形は不明で、断面形は椀状に近い。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第4-11号溝跡 (第272図)

L5・H10グリッドに位置する。

第4-4号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北側は途絶えている。南側については第4-4号溝跡の一部の可能性もある。検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-19°-Wを指す。

平面形は逆J字状を呈しており、断面形は皿状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や、新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第6-1号溝跡 (第273図、第275図32~38)

L6・J5、M6・A5グリッドに位置する。

平面形や断面から、本溝跡は複数条に渡り掘り直しが行われたと推定される。

第6-2号溝跡と並行に走っている。北側・南側共に調査区外に延びている。検出した範囲内での長さは10.7m、幅は2.5m、深さは0.4mを測り、方位はN-29°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状もしくは皿状である。

本溝跡は、第4-1号溝跡と共に、掘立柱建物跡や柵列跡を取り込むための区画溝の可能性が高いと推定される。

遺物は、図示したのは7点(32~38)である。他に、肥前系の陶器鉢1点、瀬戸・美濃系の陶器皿1点、丹波系と思われる播鉢1点、かわらけ1点のほか、焙烙の破片4点の小破片が出土している。

第6-2号溝跡 (第273図)

L6・J5、M6・A5、A6グリッドに位置する。

本溝跡は複数条に渡り掘り直しが行われたためと思われる。

第6-1号溝と平行し、北側・南側共に調査区外に延びている。検出した範囲内での長さは12.6m、幅は1.3~1.9m、深さは0.3mを測り、方位はN-29°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状である。

本溝跡は、第4-1号溝跡と共に、掘立柱建物跡や柵列跡を取り込むための区画溝の可能性が高いと推定される。

遺物は出土しなかった。

第6-3号溝跡 (第272・273図、275・276図)

L6・H3、H4、H5、G4、G5グリッドに位置する。

第6-3~6号溝跡は、複数条に渡り掘り返された結果と考えられる。土層断面から、第6-5号→第6-4号→第6-6号溝跡の順に掘られたことがわかる。

第6-3号溝跡については、遺存状況が悪く切り合い関係を知ることはできなかったが、先にみた第6-5・4・6号溝跡が北へ移動している(=家敷地の北への拡大)ことから、本溝跡が最も新しい可能性が考えられる。

検出した範囲内での長さは21.5m、幅は0.4m、深さは0.1m以下、方位はN-70°-Eである。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は極浅い皿状である。

第4-1号溝跡と共に、家敷地を区画するための溝であったと考えられる。

遺物は、調査時に溝跡の条数が特定できなかったため、第6-3~6号溝跡とし一括で取り上げたため、各溝跡に帰属する遺物の分離はできなかった。

遺物は、出土しなかった。

第6-4号溝跡 (第272・273図、第275・276図)

L6・H2・H3、H4、H5グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは21.0m、幅は0.8m、深さは0.2～0.8mを測り、方位はN-70°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は底面が平坦な逆台形に近い。

第6-5号溝跡 (第273図)

L6・H2・H3、H4、H5、I2、I3グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは26.0m、幅は2.2m、深さは0.4mを測り、方位はN-68°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は椀状に近い。

第6-6号溝跡 (第273図)

L6・H3、H4、H5グリッドに位置する。

検出した範囲内での長さは21.3m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位はN-70°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はU字状または逆台形に近い。

第6-7号溝跡 (第272図)

L6・H2、H3グリッドに位置する。

第6-4号溝跡との関連が考えられる。検出した範囲内での長さは2.8m、幅は0.9m、深さは0.4mを測り、方位はN-88°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はV字状である。

遺物は出土しなかった。

第6-8号溝跡 (第272図)

L6・I2、J2グリッドに位置する。

第4-3号溝跡との新旧関係は不明である。検出した範囲内での長さは9.5m、幅は0.3～0.7m、深さは0.1mを測り、方位はN-22°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第6-9号溝跡 (第272図)

L6・H2グリッドに位置する。

溝と判断したが、土壌の可能性も否定できない。北側は調査区外に続く。検出した範囲内での長さは0.8m、幅は3.2m、深さは0.2mを測る。方位・平面形・断面形は不明である。

遺物は出土しなかった。

第6-10号溝跡 (第272・273図)

L6・H2、H3、H4グリッドに位置する。

西側・東側共に途切れる。検出した範囲内での長さは14.7m、幅は0.3～0.6m、深さは0.2mを測り、方位はN-72°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形はV字状である。

遺物は出土しなかった。

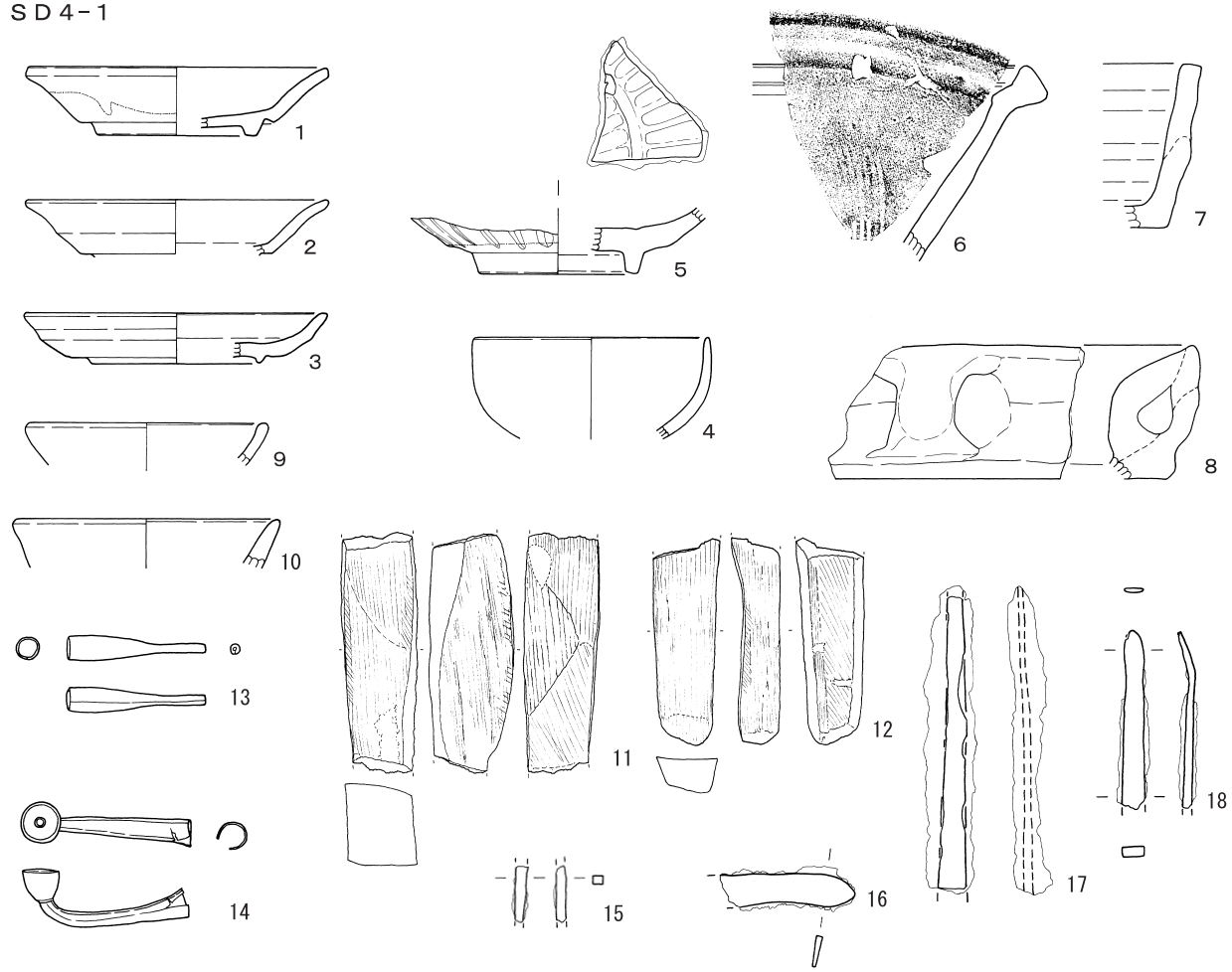
(5) ピット (第278～282図)

ピットは295基検出された。第4地点は掘立柱建物跡群の周辺と、第4-1号溝跡の北側で溝跡の沿うように密に分布し、第4-1号溝跡の南側の掘立柱建物跡群から離れると殆ど分布しなくなる。

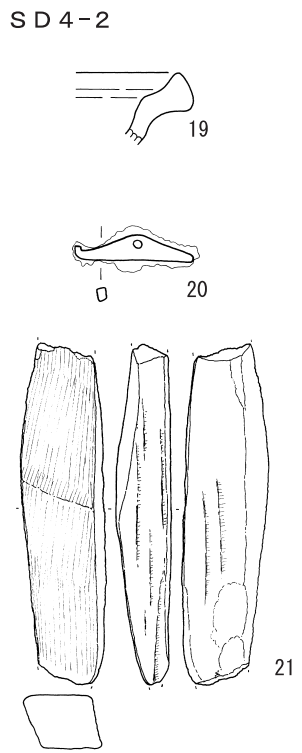
掘立柱建物跡群周辺のピットは、掘立柱建物跡の建て替え等と関連すると思われるが、配列が整わなかった。

第6地点は、散漫な分布で有機的なまとまりはみられなかった。

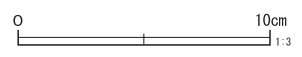
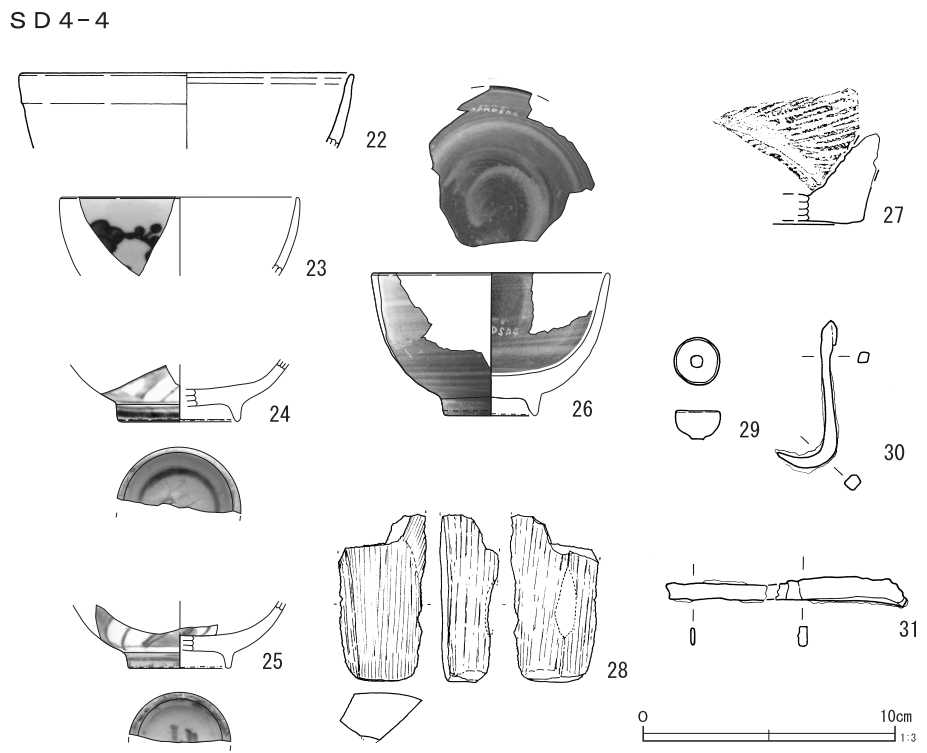
SD 4-1



SD 4-2

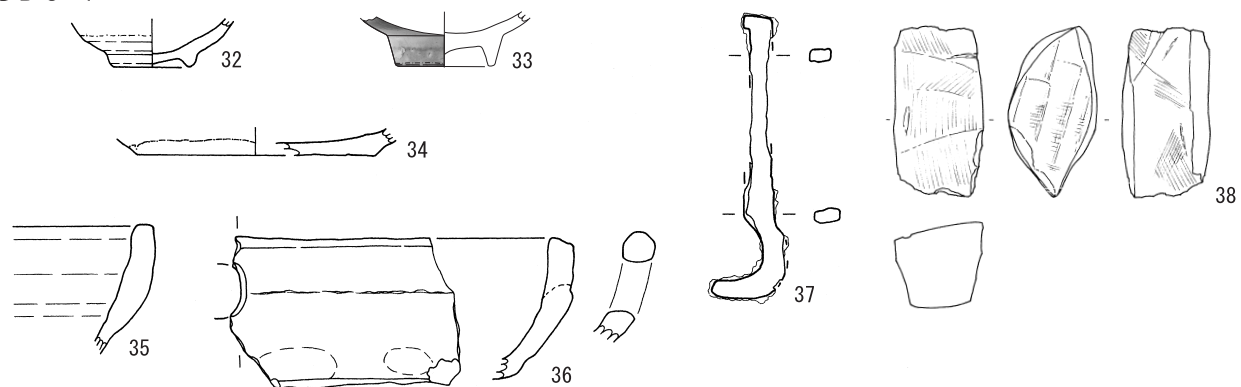


SD 4-4

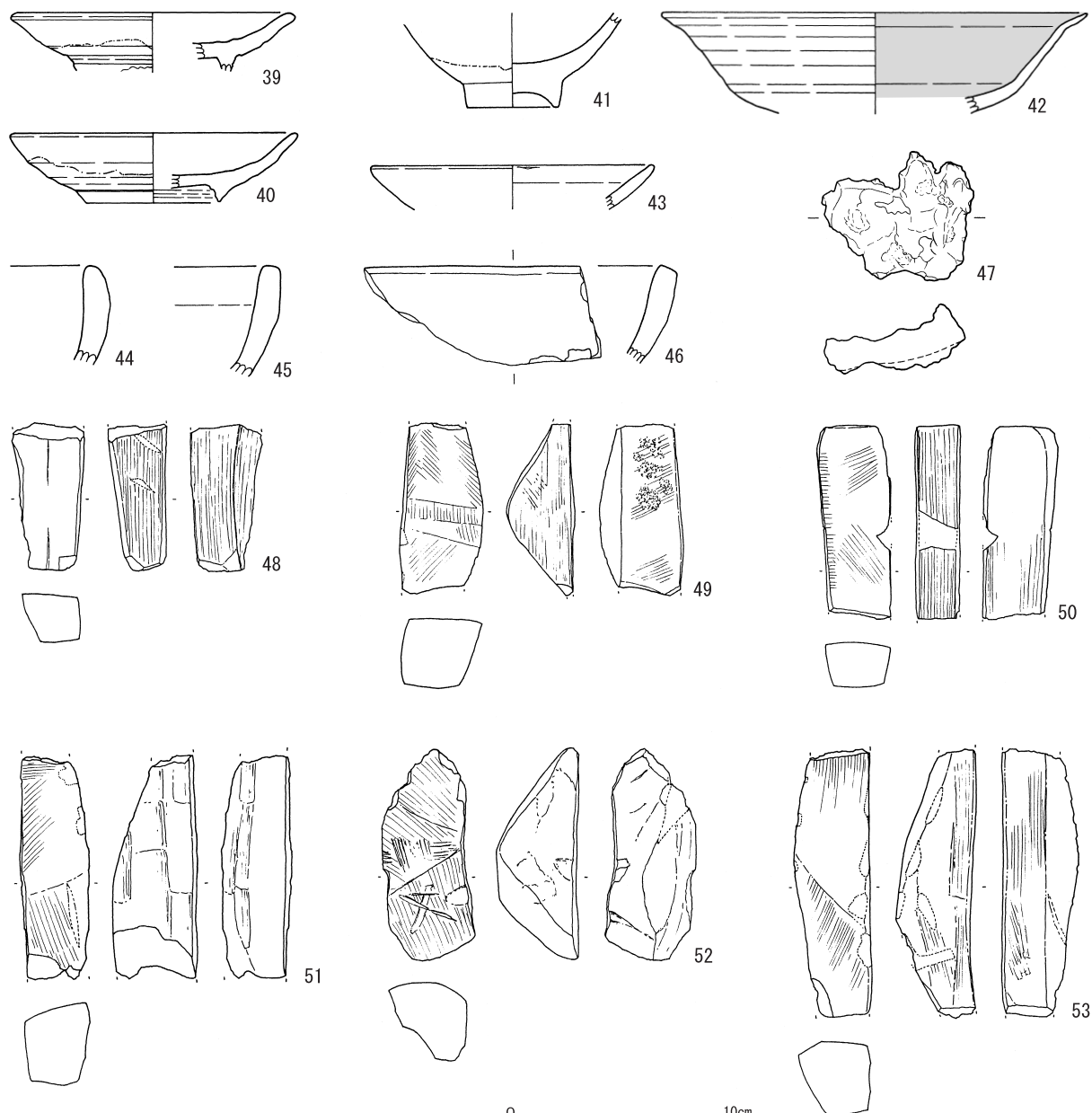


第274图 沟迹出土遗物(1)

SD 6-1



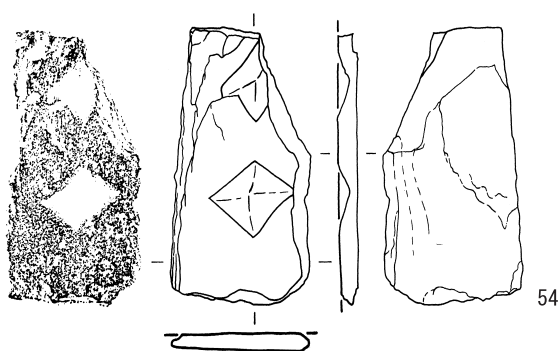
SD 6-3~6



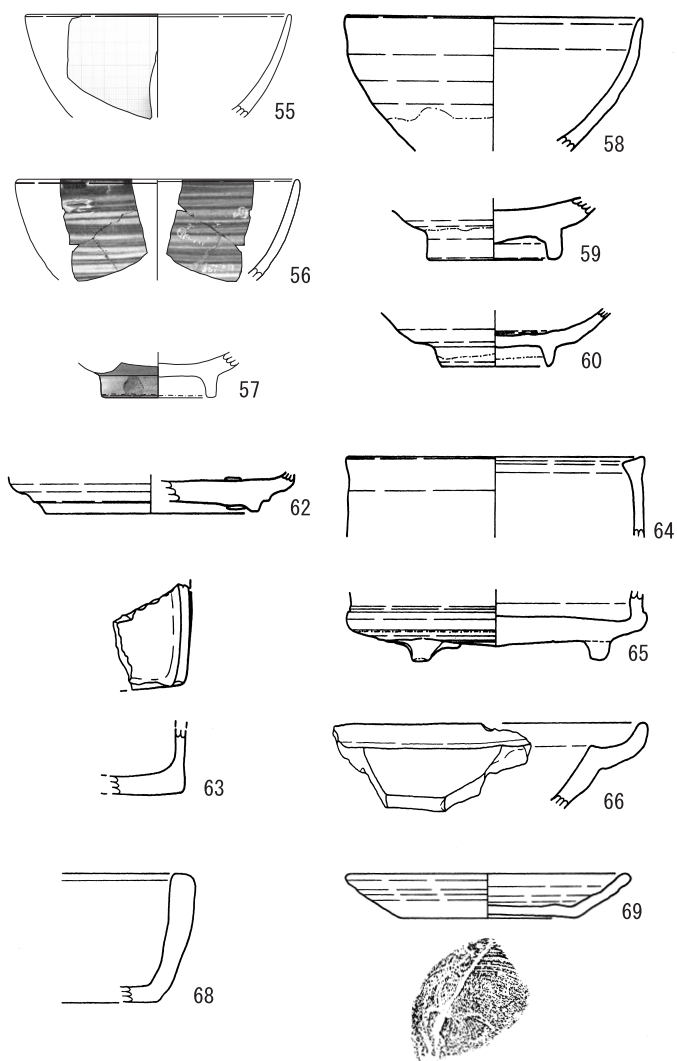
0 10cm 1:3

第275図 溝跡出土遺物(2)

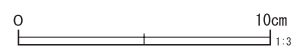
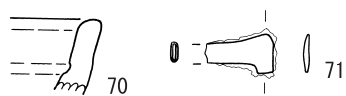
SD 6-3~6



SD 6-4~6

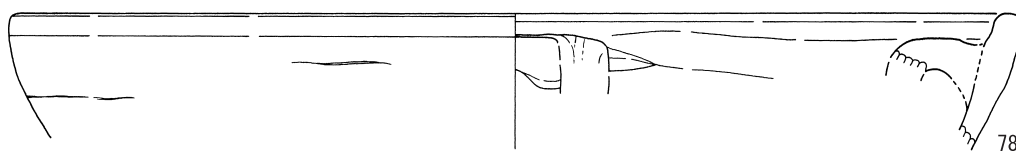
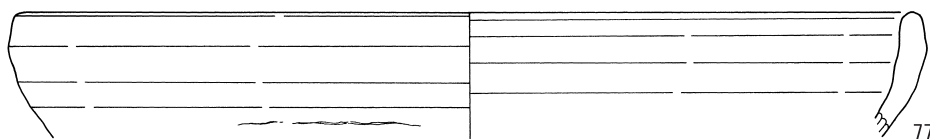
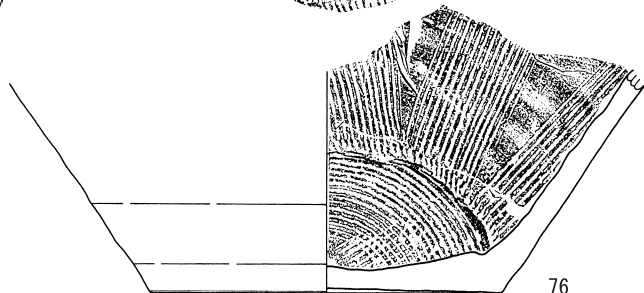
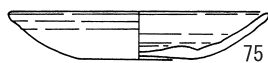
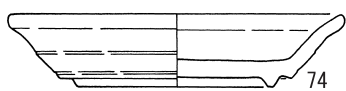
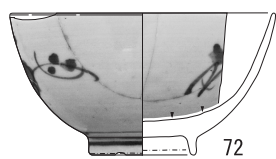


SD 6-5

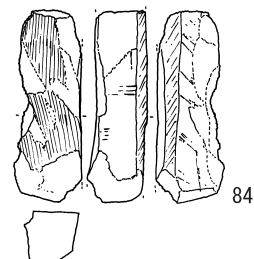
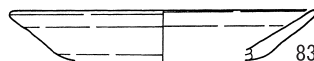
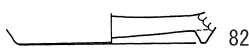
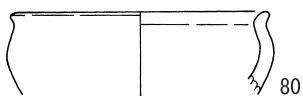
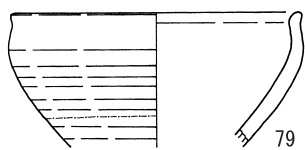


第276図 溝跡出土遺物(3)

SD 4-5



SD 4-6



SD 4-7



第277図 溝跡出土遺物(4)

第27表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	20	(11.7)	(6.4)	2.7	灰白微砂粒	普通	灰釉	轆轤	削り出し高台		17C
2	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.0)		[2.3]	灰黄	良好	灰釉	轆轤			17C
3	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(12.0)	6.6	[2.0]	灰緻密	良好	長石釉	轆轤	削り出し高台 貫入多		高台内円錐ピン跡 17C後半
4	SD4-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	15		(6.2)	[3.7]	浅黄微砂粒	良好	灰釉	型打ち 轆轤	付け高台		菊皿 見込み円錐ピン跡 17C
5	SD4-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	30	(9.3)		[4.0]	灰オリーブ 緻密	良好	透明釉	轆轤	貫入多		18C代
6	SD4-1	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			[7.7]	褐微砂粒礫	良好	鉄釉	轆轤			卸目7本/条 剥落見られず 内面に目跡1カ所残 17C代
7	SD4-1	土器	焙烙		5			[6.5]	黄灰	普通					
8	SD4-1	土器	焙烙		5			5.3	褐	普通					外面スス付着
9	SD4-1	土器	かわらけ		5	(9.6)		[1.6]	黄橙微砂粒	普通		轆轤			微砂粒
10	SD4-1	土器	かわらけ		5	(10.3)		[2.0]	橙	普通		轆轤			
11	SD4-1	石製品	砥石						長さ9.6cm 幅3.0cm 厚さ3.4cm 重さ g 凝灰岩						両端部欠損
12	SD4-1	石製品	砥石						長さ8.2cm 幅2.7cm 厚さ1.5cm 重さ g 凝灰岩						両端部欠損
13	SD4-1	金属製品	煙管(吸口)		95	A5.4cm	B0.9cm	C0.4cm	重さ4.4g						緑錆 口付部分一部欠損 内部 に布状のもの残存
14	SD4-1	金属製品	煙管(雁首)		100	A6.2cm	B2.2cm	C1.6cm	D1.1cm	重さ6.7g	銅合金				緑錆 小口一部欠損 17C後半
15	SD4-1	金属製品	釘か			A2.2cm	B0.5cm	C0.4cm	重さ1.1g						錆化著しい
16	SD4-1	鉄製品	刀子か			A5.3cm	B1.3cm	重さ9.8g							錆化著しい
17	SD4-1	鉄製品	不明			A11.6cm	B0.6cm	C1.1cm	重さ35.5g						錆化著しい
18	SD4-1	鉄製品	鋸か			A7.1cm	B0.8cm	C0.9cm	D0.4cm	E0.15cm	重さ12.0g				錆化著しい
19	SD4-2	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	5			[2.8]	灰白	良好	鉄釉				18C
20	SD4-2	鉄製品	火打金			A4.6cm	B0.6cm	C1.0cm	重さ5.8g						
21	SD4-2	石製品	砥石						長さ13.4cm 幅3.4cm 厚さ2.2cm						
22	SD4-4	陶器	碗	肥前	5	(13.2)		[3.0]	灰褐微砂粒	普通	外銅緑釉 内透明釉 か	轆轤			17C中～後
23	SD4-4	磁器	碗	肥前	5	(9.4)		[3.2]	灰白緻密	良好	灰釉	轆轤		梅文か	18C前～中
24	SD4-4	磁器	碗	肥前	45		(4.8)	[2.3]	灰白砂粒微量	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重 圓縁に印判か	18C前半
25	SD4-4	磁器	碗	肥前	10		(3.9)	[2.7]	灰白緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内銘	曇付に砂粒付着 18C前～中
26	SD4-4	陶器	碗	肥前	30	(9.2)	3.6	5.7	褐灰緻密	良好	灰釉 鉄釉 白化粧土		貫入多	刷毛目文	肥前 17C後半
27	SD4-4	陶器	播鉢					[3.5]	橙 砂粒	良好					焼き締め 卸目はやや磨耗して いる
28	SD4-4	石製品	砥石						長さ6.6cm 幅3.5cm 厚さ1.9cm 重さ g 凝灰岩						
29	SD4-4	金属製品	煙管(火皿)		100	A1.8cm	B1.1cm	重さ2.7g	銅合金						
30	SD4-4	鉄製品	釣下げ用具			A5.8cm	B2.5cm	C0.4cm	D0.5cm	E0.4cm	F0.6cm	重さ★g			
31	SD4-4	鉄製品	不明			A9.8cm	B4.0cm	C1.8cm	D0.4cm	E0.7cm	F0.2cm	重さ★g			
32	SD6-1	陶器	小坏	瀬戸・美濃	20		(2.8)	[1.8]	灰白 微砂粒	良好	鉄釉	轆轤	削り出し高台		17C後半～18C前半
33	SD6-1	磁器	碗	肥前	20		(3.8)	[2.2]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			高台内砂粒付着 17C後～18C 前
34	SD6-1	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5		(9.0)	[1.0]	灰白 微砂粒	良好	鉄釉	轆轤			17C後～18C前

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴特	文様	備考
35	SD6-1	土器	焙烙		5			[4.9]	灰	普通					外面スス付着
36	SD6-1	土器	土鍋		10			[5.4]	灰黄	普通					
37	SD6-1	鉄製品	不明			A10.7cm B0.9cm C0.4cm D2.8cm E0.6cm F1.0cm 重さ29.6g									
38	SD6-1	石	砥石			長さ6.84cm 幅3.34cm 厚さ3.62cm 重さ95.5g									
39	SD6-3~6	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(11.4)		[2.4]	灰黄 微砂粒	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		貫入 見込高台跡 二次的被熱か 17C後半~18C前半
40	SD6-3~6	陶器	皿	瀬戸・美濃	30	(12.0)	(6.0)	[3.0]	灰 緻密	良好	灰釉	轆轤	轆轤目顕著 削り出し高台		貫入多 見込高台跡 18C前 ~中葉
41	SD6-3~6	陶器	碗	肥前	80		(3.9)	[4.0]	灰白 緻密	良好	銅緑釉	轆轤	削り出し高台		高台に釉付着 17C後半
42	SD6-3~6	陶器	皿	肥前	10	(18.8)		[4.5]	灰	良好	内銅緑釉 外透明釉	轆轤	轆轤目顕著		17C後半~18C前半
43	SD6-3~6	土器	かわらけ		10	(11.8)		[1.9]	橙	普通		轆轤			
44	SD6-3~6	土器	焙烙		5			[4.1]	灰白						
45	SD6-3~6	土器	焙烙		5			[4.6]	灰白						
46	SD6-3~6	土器	焙烙		5			[4.1]	灰白	普通					
47	SD6-3~6		鉄滓			A6.4 B3.3 C1.6 重さ71.4g									
48	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ5.86cm 幅3.02cm 厚さ2.69cm 重さ47.2g									
49	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ7.20cm 幅3.42cm 厚さ2.89cm 重さ79.2g									
50	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ8.00cm 幅2.89cm 厚さ1.80cm 重さ73.1g									
51	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ9.23cm 幅2.78cm 厚さ3.71cm 重さ117.9g									
52	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ8.82cm 幅3.33cm 厚さ3.39cm 重さ97.7g									
53	SD6-3~6	石製品	砥石			長さ11.18cm 幅3.18cm 厚さ3.40cm 重さ124.6g									
54	SD6-3~6	石製品	板碑			縦10.9cm 横5.4cm 厚さ0.7(MAX1.1)cm 緑泥片岩									
55	SD6-4~6	磁器	碗	肥前	10	(10.6)		[4.0]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤			草花文 17C後半~18C前半
56	SD6-4~6	陶器	碗	肥前	5	(11.2)		[4.1]	灰黄	良好	灰釉 白化粧土	轆轤			刷毛目 貫入多 17C後半か
57	SD6-4~6	磁器	碗	肥前	20		(4.6)	[1.8]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台 二次的被熱か		17C後半~18C前半
58	SD6-4~6	陶器	碗	瀬戸・美濃	15	(11.6)		[5.3]	灰黄	良好	鉄釉	轆轤			天目碗 17C後半~18C前半
59	SD6-4~6	陶器	碗	瀬戸・美濃	70		5.3	[2.4]	浅黄	良好	灰釉	轆轤			17C後~18C前半
60	SD6-4~6	陶器	碗	肥前	25		(4.2)	[2.3]	灰	良好	灰釉 白化粧土	轆轤	削り出し高台 蛇の目釉剥ぎ		刷毛目 17C後半~18C前半
61	SD6-4~6	陶器	鉢	肥前	15		(10.5)	[5.3]	明赤褐 緻密	良好	灰釉・緑釉 白化粧土	轆轤	削り出し高台		刷毛目 砂目跡多 畳付重ね焼痕 17C後~18C前
62	SD6-4~6	陶器	皿	瀬戸・美濃	10		(8.4)	[1.6]	灰黄	普通	長石釉	轆轤	削り出し高台		貫入多 見込・高台内円錐ピン 付着 17C初
63	SD6-4~6	陶器	向付	瀬戸・美濃	10			[2.4]	灰黄		銅緑釉	型打			青織部向付 貫入多 17C前葉
64	SD6-4~6	陶器	香炉	瀬戸・美濃	10	(11.7)		[3.2]	浅黄 緻密	良好	鉄釉	轆轤			貫入多 17C後半~18C前半
65	SD6-4~6	陶器	香炉	瀬戸・美濃	40		(11.8)	[2.9]	浅黄 緻密	良好	鉄釉	轆轤			貫入多 三足(付け高台) 見 込円錐ピン跡 2箇所 18C前 ~中
66	SD6-4~6	陶器	播鉢	瀬戸・美濃	10			[3.4]	灰黄	普通	錆釉	轆轤			微砂粒 18C前~中
67	SD6-4~6	土器	焙烙		5			[5.2]	灰黄	普通					
68	SD6-4~6	土器	焙烙		10			[5.0]	灰黄	普通					
69	SD6-4~6	土器	かわらけ		30	(11.0)	(6.8)	[1.8]	にぶい黄橙	良好		轆轤			
70	SD4-5	土器	焙烙		5			[2.9]	灰白	普通					

番号	遺構	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
71	SD4-5	鉄製品	不明			A2.6	B1.6	C0.7	D0.3 重さ2.6g						
72	SD4-5	磁器	碗	肥前	50	(10.5)	4.1	5.7	灰白緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台内一重圏線	見込蛇の目軸削ぎ・高台跡 畳付砂粒付着 17C後半
73	SD4-5	陶器	鉢	肥前	10			[3.8]	赤褐微砂粒	良好	透明釉	轆轤	白化粧土なし		三島手 17C末~18C前半
74	SD4-5	陶器	皿	瀬戸・美濃	30	(13.1)	(7.7)	2.8	黄灰微砂粒	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み円錐ピン跡2カ所 高台内円錐ピン跡1カ所 18C後半
75	SD4-5	土器	かわらけ		30	(10.1)	4.6	1.9	にぶい橙	普通		轆轤	回転糸切り離し		
76	SD4-5	陶器	挿鉢	瀬戸・美濃	60		(13.8)	[8.8]	にぶい黄橙	良好	錆釉	轆轤	回転糸切り離し		御目15本/条 左回転で施文 見込みと周辺軸が一部剝離(使用痕か) 内面目跡残
77	SD4-5	土器	焙烙		5	(35.0)		[5.0]	灰黄微砂粒	普通					外面煤付着
78	SD4-5	土器	焙烙		10	(39.6)		[5.4]	灰褐	普通					内耳痕2カ所 外面スス付着
79	SD4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(11.3)		[5.3]	灰黄	良好	鉄釉	轆轤			天目碗 二次的被熱 18C末
80	SD4-6	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(9.8)		[3.3]	灰白微砂粒	普通	鉄釉	轆轤			天目碗 18C初
81	SD4-6	磁器	小坏	肥前	5		2.4	[1.6]	灰白緻密	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台	高台際一重圏線	高台内砂粒付着 18C代か
82	SD4-6	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(7.6)	[1.2]	鈍い黄橙	普通	灰釉	轆轤	付け高台		18C代
83	SD4-6	土器	かわらけ		15	(12.0)		[2.0]	橙	普通		轆轤			
84	SD4-6	石製品	砥石			長さ7.5cm 幅2.7cm 厚さ2.0cm 重さ59.6g 凝灰岩									
85	SD4-7	陶器	皿	瀬戸・美濃			(6.0)	[1.5]	灰白微砂粒	良好	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み高台トテ跡 18C

第28表 ピット計測表

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L5・J8	1	0.38	—	0.20	4	L5・I9	9	0.42	0.42	0.38
4	L5・J8	2	0.58	0.58	0.40	4	L5・I9	12	0.70	0.62	0.70
4	M5・A8	1	0.42	0.40	0.67	4	L5・I9	13	0.50	0.74	0.53
4	L5・G9	1	0.46	0.46	0.76	4	L5・I9	14	0.60	0.52	0.53
4	L5・G9	2	0.60	0.46	0.22	4	L5・I9	15	0.66	0.78	0.22
4	L5・G9	3	0.32	0.26	0.33	4	L5・I9	16	0.70	0.66	0.17
4	L5・G9	4	0.28	0.28	0.25	4	L5・I9	17	0.42	0.32	0.29
4	L5・G9	5	0.54	0.50	0.19	4	L5・I9	18	0.24	0.24	0.14
4	L5・G9	6	0.68	0.64	0.18	4	L5・I9	19	0.46	0.38	0.17
4	L5・G9	7	0.68	0.72	0.53	4	L5・I9	20	0.64	0.58	0.36
4	L5・H9	1	0.88	0.52	0.38	4	L5・I9	21	0.78	0.62	0.68
4	L5・H9	2	0.48	0.48	0.64	4	L5・I9	22	0.38	0.36	0.46
4	L5・H9	3	0.56	0.54	0.32	4	L5・I9	23	0.50	0.28	0.26
4	L5・H9	4	0.46	0.52	0.29	4	L5・I9	24	0.36	0.32	0.37
4	L5・H9	5	0.52	0.48	0.41	4	L5・I9	25	0.46	—	0.17
4	L5・H9	6	0.46	0.52	0.41	4	L5・I9	26	0.34	0.36	0.15
4	L5・H9	7	0.40	0.44	0.20	4	L5・I9	27	0.42	0.40	0.23
4	L5・I9	1	0.60	0.46	0.36	4	L5・I9	28	0.30	0.30	0.20
4	L5・I9	2	0.30	0.32	0.52	4	L5・I9	29	0.44	0.42	0.37
4	L5・I9	3	0.46	0.46	0.39	4	L5・I9	30	0.70	0.58	0.60
4	L5・I9	4	0.62	0.60	0.96	4	L5・I9	31	0.66	0.56	0.41
4	L5・I9	5	0.46	0.56	0.39	4	L5・I9	32	0.44	0.42	0.38
4	L5・I9	8	0.52	0.56	0.65	4	L5・I9	33	0.68	0.58	0.45



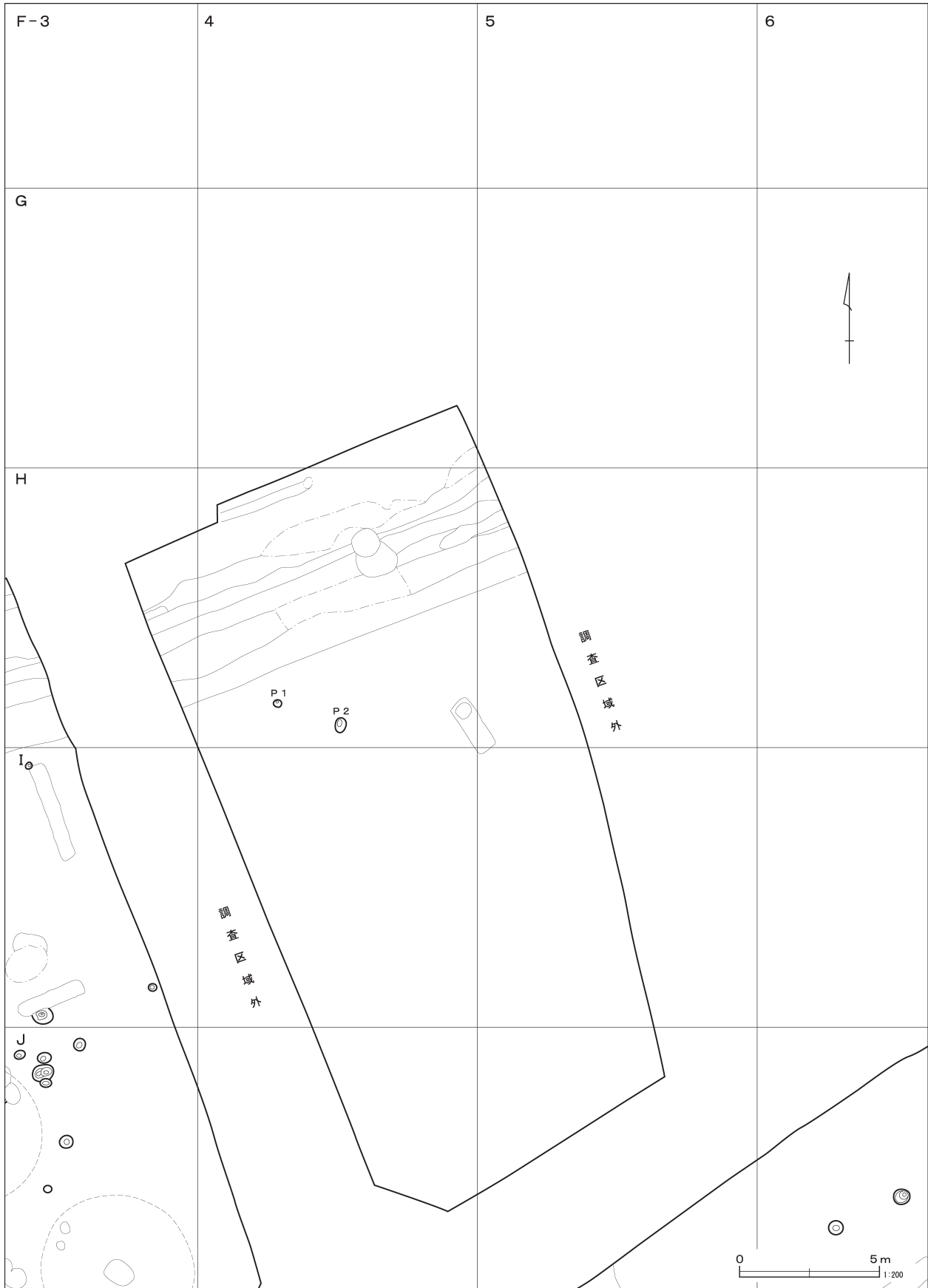
第278図 ピット (1)



第279図 ピット (2)



第280図 ピット (3)



第281図 ピット(4)



第282図 ピット (5)

第4・6地点

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L5・I9	34	0.28	0.28	0.14
4	L5・I9	35	0.38	0.34	0.25
4	L5・I9	36	0.40	0.40	0.48
4	L5・I9	37	0.52	0.44	0.32
4	L5・J9	1	0.44	0.48	0.30
4	L5・J9	2	0.60	0.54	0.40
4	M5・A9	1	0.46	0.42	0.13
4	M5・A9	2	0.54	0.52	0.46
4	M5・A9	3	0.56	0.48	0.23
4	L5・G10	1	0.36	0.30	0.45
4	L5・H10	2	0.68	0.62	0.29
4	L5・H10	3	0.50	0.24	0.15
4	L5・I10	1	0.70	0.76	0.55
4	L5・I10	2	0.52	0.46	0.07
4	L5・I10	3	0.46	0.38	0.08
4	L5・I10	4	0.56	0.46	0.22
4	L5・I10	5	0.72	0.72	0.23
4	L5・I10	6	0.58	0.52	0.60
4	L5・I10	7	0.54	0.46	0.38
4	L5・I10	8	0.66	0.54	0.48
4	L5・I10	9	0.46	0.44	0.17
4	L5・I10	10	0.38	—	0.11
4	L5・I10	11	0.54	0.54	0.20
4	L5・I10	12	0.68	0.64	0.15
4	L5・I10	13	0.58	0.34	0.43
4	L5・I10	14	0.58	0.38	0.10
4	L5・I10	15	0.50	0.50	0.22
4	L5・I10	16	0.60	0.50	0.44
4	L5・I10	17	0.64	0.64	0.19
4	L5・I10	18	0.28	0.22	0.06
4	L5・I10	19	0.54	0.36	0.25
4	L5・I10	20	0.52	0.48	0.21
4	L5・I10	21	0.54	0.44	0.21
4	L5・I10	22	0.44	0.40	0.13
4	L5・I10	23	0.44	0.26	0.25
4	L5・J10	1	0.90	0.40	0.19
4	L5・J10	2	0.34	0.28	0.18
4	L5・J10	3	0.38	0.32	0.34
4	L5・J10	4	0.26	0.22	0.36
4	L5・J10	5	0.24	0.24	0.11
4	L5・J10	6	0.36	—	0.20
4	L5・J10	7	0.30	0.24	0.31
4	L5・J10	11	0.76	0.48	0.36
4	L5・J10	12	0.58	—	0.26
4	M5・A10	1	0.28	0.26	0.16
4	M5・A10	2	0.48	0.38	0.35

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	M5・A10	3	0.28	0.28	0.12
4	M5・A10	4	0.32	0.30	0.50
4	M5・A10	5	0.20	0.20	0.19
4	M5・A10	6	0.30	0.24	0.06
4	M5・A10	7	0.40	0.26	0.31
4	L6・G1	1	0.30	0.26	0.30
4	L6・G1	2	0.24	0.24	0.12
4	L6・G1	3	0.28	0.24	0.36
4	L6・G1	4	0.28	0.24	0.20
4	L6・G1	5	0.34	0.28	0.41
4	L6・G1	6	0.32	0.24	0.11
4	L6・G1	7	0.34	0.32	0.41
4	L6・G1	8	0.26	0.26	0.18
4	L6・H1	1	0.44	0.44	0.47
4	L6・H1	2	0.54	0.48	0.54
4	L6・H1	3	0.26	0.24	0.25
4	L6・H1	4	0.28	0.28	0.36
4	L6・H1	5	0.50	0.34	0.93
4	L6・H1	6	0.40	0.38	0.88
4	L6・H1	7	0.48	0.32	0.04
4	L6・H1	8	0.54	0.44	0.02
4	L6・H1	9	0.42	0.42	0.35
4	L6・H1	10	0.48	0.40	0.84
4	L6・H1	11	0.56	0.54	0.45
4	L6・H1	12	0.60	0.50	0.29
4	L6・H1	13	0.56	0.54	0.74
4	L6・H1	14	0.62	0.50	0.76
4	L6・H1	15	0.34	0.32	0.59
4	L6・H1	16	0.58	0.56	0.27
4	L6・H1	17	0.40	0.40	0.83
4	L6・H1	18	0.42	0.38	0.29
4	L6・H1	19	0.94	0.70	—
4	L6・H1	20	0.30	0.28	0.45
4	L6・H1	21	0.38	0.32	0.32
4	L6・H1	22	0.34	0.30	0.41
4	L6・H1	23	0.42	—	0.55
4	L6・H1	24	0.80	0.44	0.69
4	L6・H1	25	0.38	0.34	0.35
4	L6・H1	26	0.38	0.34	0.08
4	L6・H1	27	0.16	0.16	0.04
4	L6・I1	1	0.32	0.32	0.26
4	L6・I1	2	0.20	0.20	0.09
4	L6・I1	3	0.24	0.22	0.27
4	L6・I1	4	0.42	0.40	0.41
4	L6・I1	15	0.18	0.16	0.15
4	L6・I1	23	0.18	0.24	0.14

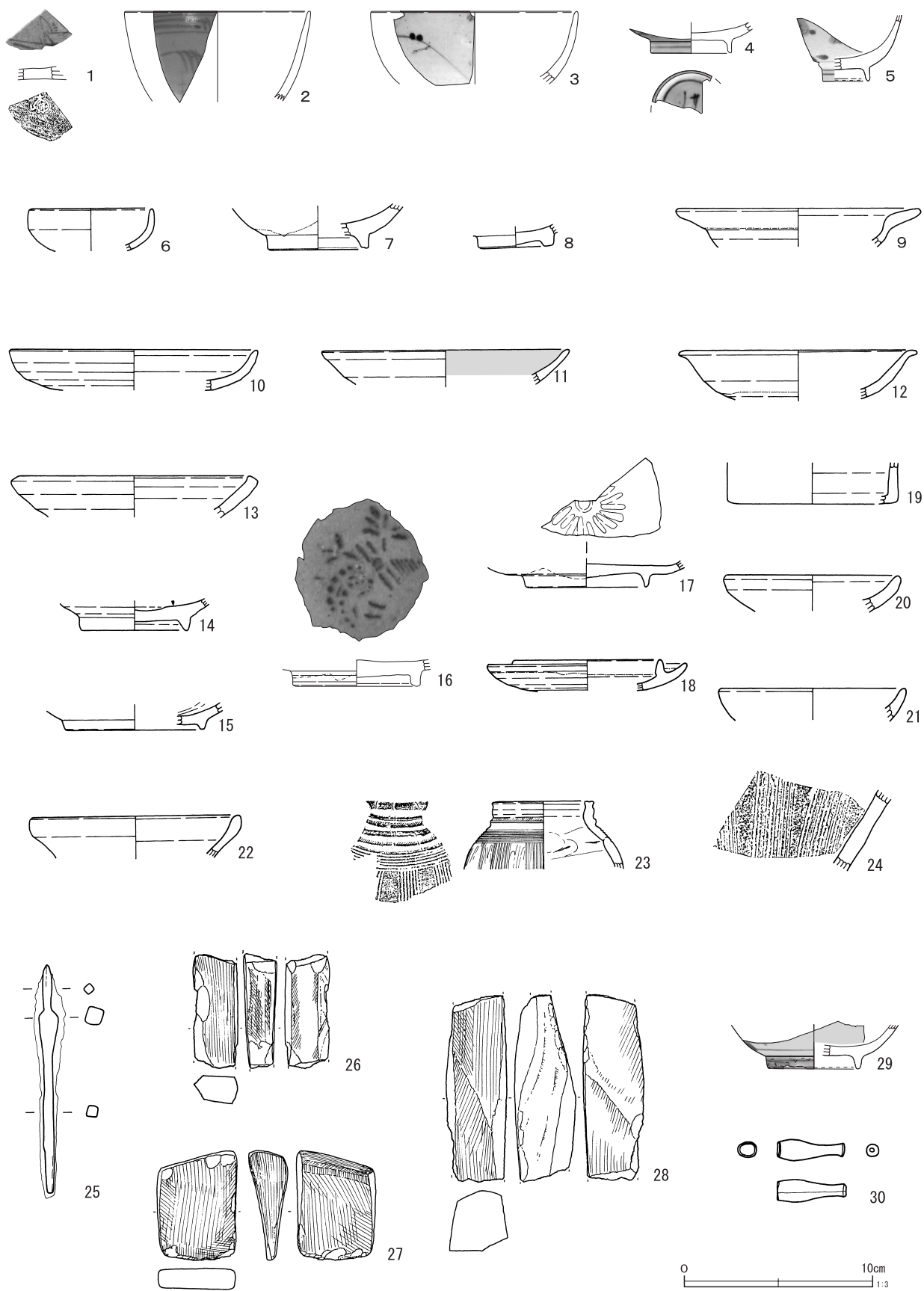
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
4	L 6・I 1	24	0.26	0.36	0.36
4	L 6・I 1	25	0.24	0.20	0.14
4	L 6・I 1	26	0.24	0.20	0.16
4	L 6・I 1	27	0.26	0.24	0.33
4	L 6・I 1	28	0.32	0.30	0.42
4	L 6・I 1	29	0.28	0.32	0.17
4	L 6・I 1	30	0.36	0.38	0.59
4	L 6・I 1	31	0.36	0.32	0.45
4	L 6・I 1	32	0.44	0.36	0.43
4	L 6・I 1	33	0.24	0.24	0.09
4	L 6・I 1	34	0.70	0.42	0.23
4	L 6・I 1	35	0.22	0.22	0.07
4	L 6・J 1	1	0.80	0.58	0.16
4	L 6・J 1	2	0.24	—	0.09
4	L 6・J 1	3	0.30	—	0.50
4	L 6・J 1	4	0.38	—	0.23
4	L 6・J 1	5	0.26	0.26	0.18
4	L 6・J 1	6	0.32	0.28	0.51
4	L 6・J 1	7	0.42	0.30	0.48
4	L 6・J 1	8	0.32	0.18	—
4	L 6・J 1	11	0.26	—	0.18
4	L 6・J 1	12	0.18	0.18	0.27
4	L 6・J 1	14	0.30	0.22	0.38
4	L 6・J 1	15	0.42	0.48	0.73
4	L 6・J 1	16	0.22	0.22	0.21
4	L 6・J 1	17	0.40	—	0.30
4	L 6・J 1	18	0.38	0.36	0.06
4	L 6・J 1	19	0.22	0.24	0.15
4	L 6・J 1	20	0.24	—	0.13
4	L 6・J 1	21	0.34	0.36	0.39
4	L 6・J 1	22	0.28	—	0.33
4	L 6・J 1	23	0.24	0.24	0.38
4	L 6・J 1	24	0.30	—	0.31
4	L 6・J 1	25	0.60	0.34	0.52
4	M 6・A 1	1	0.64	—	0.15
4	M 6・A 1	2	0.56	0.38	0.50
4	M 6・A 1	3	0.64	0.46	0.32
4	M 6・A 1	4	0.40	—	0.20
4	M 6・A 1	5	0.62	0.44	0.28
4	M 6・A 1	6	0.40	0.22	0.14
4	M 6・A 1	7	0.44	0.42	0.10
4	M 6・A 1	8	0.26	0.20	0.25
6	L 6・H 2	1	0.48	0.38	0.25
6	L 6・H 2	2	0.42	0.40	0.14
6	L 6・H 2	3	0.38	0.40	0.36
6	L 6・H 2	4	0.64	0.64	0.22

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
6	L 6・H 2	5	0.68	0.60	0.30
4	L 6・I 2	1	0.44	0.42	0.08
4	L 6・I 2	2	0.36	0.34	0.42
4	L 6・I 2	3	0.34	0.28	0.34
4	L 6・I 2	5	0.34	0.32	0.62
4	L 6・I 2	6	0.46	0.40	0.60
4	L 6・I 2	7	0.36	0.34	0.46
4	L 6・I 2	8	0.38	0.32	0.58
6	L 6・I 2	9	0.30	0.26	0.37
6	L 6・I 2	10	0.36	0.34	0.15
6	L 6・I 2	12	0.38	0.28	0.18
6	L 6・I 2	13	0.80	0.78	0.20
6	L 6・I 2	14	0.64	—	0.09
6	L 6・I 2	16	0.22	0.26	0.30
6	L 6・I 2	17	0.48	0.50	0.66
6	L 6・I 2	20	0.46	0.32	0.46
6	L 6・I 2	21	0.30	0.28	0.47
6	L 6・I 2	22	0.40	0.34	0.32
6	L 6・I 2	23	0.24	0.22	0.14
6	L 6・I 2	24	0.26	0.18	0.22
6	L 6・I 2	25	0.22	—	0.40
6	L 6・I 2	26	0.26	—	0.26
6	L 6・I 2	27	0.30	0.28	0.38
6	L 6・I 2	28	0.30	0.28	0.33
4	L 6・J 2	1	0.32	0.32	0.23
4	L 6・J 2	2	0.34	—	0.56
4	L 6・J 2	3	0.58	0.60	0.20
4	L 6・J 2	4	0.22	0.28	0.33
4	L 6・J 2	5	0.40	0.40	0.67
4	L 6・J 2	6	0.48	—	0.74
4	L 6・J 2	7	0.24	0.20	0.16
4	L 6・J 2	8	0.42	—	0.63
4	L 6・J 2	10	0.30	0.28	0.32
4	L 6・J 2	11	0.30	0.24	0.31
4	L 6・J 2	12	0.38	0.26	0.36
4	L 6・J 2	18	0.50	0.48	0.40
4	L 6・J 2	19	0.50	0.40	0.53
4	L 6・J 2	20	0.36	0.38	0.22
6	L 6・J 2	28	0.46	0.48	0.33
6	L 6・J 2	29	0.32	0.30	0.60
6	L 6・J 2	31	0.84	0.40	0.20
6	L 6・J 2	32	0.66	—	0.22
6	L 6・J 2	33	0.40	0.32	0.17
6	L 6・J 2	34	0.30	0.26	0.17
4	M 6・A 2	1	0.28	0.26	0.22
4	M 6・A 2	2	0.30	0.26	0.16

第4・6地点

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
6	L 6・I 3	1	0.24	0.22	0.23
6	L 6・I 3	2	0.46	0.40	0.23
6	L 6・I 3	3	0.70	0.42	0.64
6	L 6・I 3	4	0.30	0.28	0.08
6	L 6・J 3	1	0.30	0.32	0.34
6	L 6・J 3	2	0.40	0.30	0.60
6	L 6・J 3	3	0.40	0.30	0.32
6	L 6・J 3	4	0.42	0.42	0.41
6	L 6・J 3	5	0.76	0.56	0.73
6	L 6・J 3	6	0.42	0.34	0.59
6	L 6・J 3	7	0.42	—	0.43
6	L 6・J 3	8	0.26	—	0.16
6	L 6・J 3	9	0.46	0.44	0.30
6	L 6・J 3	10	0.32	0.30	0.54
6	L 6・J 3	13	0.38	0.30	0.30
6	L 6・J 3	14	0.28	0.28	0.72
6	M 6・A 3	1	0.28	0.26	0.20
6	M 6・A 3	2	0.32	0.28	0.23
6	M 6・A 3	4	0.26	0.24	0.16
6	M 6・A 3	5	0.30	0.28	0.38
6	M 6・A 3	6	0.31	0.24	0.28
6	M 6・A 3	7	0.37	0.35	0.17
6	M 6・A 3	8	0.50	0.32	0.45
6	L 6・H 4	1	0.28	0.28	0.34
6	L 6・H 4	2	0.58	0.50	0.22
6	M 6・A 4	1	0.38	0.30	0.38
6	M 6・B 4	1	0.35	0.35	0.31
6	M 6・A 5	1	0.64	0.50	0.28
6	M 6・A 5	2	0.25	0.20	0.26
6	L 6・J 6	1	0.30	0.28	0.19
6	L 6・J 6	2	0.56	0.53	0.24
6	L 6・J 6	3	0.60	0.50	0.15
6	L 6・J 6	4	0.65	0.48	0.19

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
6	L 6・J 6	5	0.54	0.36	0.24
6	M 6・A 6	1	0.50	0.46	0.33
6	M 6・A 6	2	0.40	0.30	0.39
6	M 6・A 6	3	0.32	0.30	0.13
6	M 6・A 6	4	0.33	0.27	0.17
6	M 6・A 6	5	0.58	0.45	0.17
6	M 6・A 6	6	0.64	0.50	0.25
6	M 6・A 6	7	0.72	0.60	0.37
6	M 6・A 6	8	0.38	0.33	0.11
6	M 6・A 6	9	0.35	0.30	0.15
6	L 6・I 7	1	0.70	—	0.08
6	L 6・I 7	2	—	0.50	0.09
6	L 6・J 7	1	0.47	0.43	0.21
6	L 6・J 7	2	0.66	0.60	0.33
6	L 6・J 7	3	0.73	0.43	0.11
6	L 6・J 7	4	0.60	0.42	0.08
6	L 6・J 7	5	0.69	0.52	0.12
6	L 6・J 7	6	0.43	0.40	0.19
6	L 6・J 7	7	0.56	0.43	0.26
6	M 6・A 7	1	0.64	0.46	0.31
6	M 6・A 7	2	0.36	0.30	0.24
6	M 6・A 7	3	0.40	0.34	0.10
6	M 6・A 7	4	0.45	0.44	0.13
6	M 6・A 7	5	0.42	0.30	0.19
6	M 6・A 7	6	0.60	0.60	0.30
6	M 6・A 7	7	0.40	0.32	0.15
6	M 6・A 7	8	0.46	0.37	0.17
6	M 6・A 7	9	0.68	0.45	0.29
6	M 6・A 7	10	0.58	0.42	0.15
6	M 6・A 7	11	0.60	0.42	0.37
6	M 6・A 7	12	0.73	0.38	0.38
6	M 6・A 7	13	0.56	0.54	0.38



第283図 グリッド出土遺物

第29表 グリッド出土遺物観察表

番号	種別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の徴	文様	備考
1	陶器	碗	肥前	5			[0.6]	浅黄	良好	灰釉	轆轤		見込み桜閣山 水文 高台内	刻印「木下弥」 17C後半 京焼風
2	磁器	碗	肥前	5	(5.0)		[4.8]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		絵草文か	18C前～中
3	磁器	碗	肥前	20	(10.9)		[3.5]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤		草文	18C中
4	磁器	碗	肥前	5		(4.2)	[1.6]	灰白	良好		轆轤		草花文 高台 内崩れ「木明 年製」か	17C後～18C前か
5	陶器	碗	肥前	5			[3.6]	灰白 緻密	良好	透明釉	轆轤			18C前～中
6	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(6.4)		[2.3]	灰白	良好	透明釉	轆轤	貫入多		18C代
7	陶器	碗	瀬戸・美濃	5		(5.0)	[2.3]	灰白	良好	鉄釉	轆轤		削り出し高台	天目碗 18C
8	陶器	碗	瀬戸・美濃	5		2.0	[1.1]	灰白	良好	鉄釉	轆轤		削り出し高台	天目碗 18C
9	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.8)		[2.0]	灰白	普通	長石釉	轆轤	貫入多		志野 17C初
10	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(13.0)		[2.2]	灰白 微砂粒	良好	灰	轆轤			17C後～18C前
11	陶器	皿	肥前	5	(13.0)		[1.9]	灰オリーブ	良好	透明・ 銅緑釉	轆轤			17C後～18C前
12	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.6)		[2.6]	灰褐	良好	鉄釉	轆轤			18C代か
13	陶器	皿か	瀬戸・美濃	5	(12.2)		[2.1]	灰白	良好	灰釉	轆轤			18C代
14	陶器	皿か	瀬戸・美濃	50		(5.6)	[1.6]	にぶい橙	良好	灰釉	轆轤	貫入多 見込 み蛇の目釉刺 ぎ 輪トチ痕	削り出し高台	18C後半
15	陶器	皿	瀬戸・美濃	5		(7.2)	[1.4]	灰白	普通	長石釉	轆轤		削り出し高台	志野 菊皿 17C初
16	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(6.5)	[1.5]	灰	良好	灰釉	轆轤	貫入多 微砂 粒 付け高台	見込み摺絵	摺絵皿 17C後半～18C前半
17	陶器	皿	瀬戸・美濃	10		(6.4)	[1.4]	灰黄	良好	灰釉	轆轤	貫入多 付け 高台	見込み摺絵	摺絵皿 18C中～後
18	陶器	灯明受皿	瀬戸・美濃	15			[1.6]	灰褐	良好	鉄釉	轆轤	油溝切立状		18C後半
19	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5		(8.9)	[2.2]	灰黄 緻密	良好	鉄釉	轆轤			18Cか
20	土器	かわらけ		20	(9.0)		[1.9]	にぶい橙	普通		轆轤			
21	土器	かわらけ		5	(9.8)		[1.7]	橙	普通		轆轤			
22	土器	かわらけ			(10.8)		[2.3]	黄橙 緻密	普通		轆轤	外面へラ磨き 後櫛描き		
23	陶器	壺		20	(5.4)		[3.6]	褐	良好		輪積み			18C中～後半
24	陶器	播鉢	丹波か	5			[4.4]	褐	良好	焼しめ		輪積み 卸目 10本/条		18C代か
25	鉄	鈍												A12.0 B1.0 C0.5 重さ35.1g
26		砥石												長さ6.1cm 幅2.4cm 厚さ1.5cm 重さ g
27	粘板岩	砥石												長さ5.7cm 幅4.1cm 厚さ1.1cm 重さ g
28		砥石												長さ9.7cm 幅3.2cm 厚さ3.2cm 重さ g
29	磁器	碗				(5.0)	[2.5]	灰白 緻密	良好	灰釉	轆轤	高台脇一重圈 線 際二重圈 線	グス絵草文か	18C前～中
30	金属製	煙管		100										A3.6cm B0.8cm C0.6cm 緑錆

報告書抄録

ふりがな	おおきどいせき							
書名	大木戸遺跡 I							
副書名	大宮西部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第355集							
編著者名	西井幸雄 鈴木孝之							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2008(平成20)年12月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
おおきどいせき 大木戸遺跡	さいたまけん 埼玉県さいたま市西区指扇 ばんちほか 3747番地3他	11100	425	35°55'30"	139°34'46"	20000901～ 20010323 20010801～ 20020322 20041018～ 20050210 20050926～ 20051130	31,724	区画整理
所収遺跡	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大木戸遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 近世	石器集中 住居跡 掘立柱建物跡 土壌 集石土壌 炉穴 住居跡 掘立柱建物跡 柵列 土壌 井戸 溝跡 ピット	7箇所 25軒 1棟 137基 12基 11基 11軒 28棟 11列 394基 7基 134条 多数	旧石器 縄文土器 石器 弥生土器 陶磁器類 石製品	大宮台地では出土例の少ない、後期旧石器前半の石器集中が検出された。 縄文中期末葉から後期初頭の柄鏡形住居跡が多数検出された。1軒は平坦な礫が敷かれており、台地部では珍しい敷石住居跡である。 近世は江戸時代初期から続く、堀を有する屋敷跡が検出された。		
要約	<p>大木戸遺跡は大宮台地の西縁、滝沼川左岸の台地上に立地している。大木戸遺跡の調査は、一般国道16号バイパスの建設に伴いさいたま市(当時大宮市)が発掘調査を実施し、西大宮バイパスNo.6遺跡として報告書が刊行されている。その後、大宮西部特定土地区画整理事業に伴い、当事業団が平成12年度から継続的に発掘調査を実施してきた。本書は、第2～5次調査の報告である。</p> <p>大木戸遺跡は、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。</p> <p>旧石器時代は大宮台地で発見例が少ない古段階の石器群が出土した。近接する清河寺前原遺跡からも古段階の石器集中が検出されており、大宮台地で最初に人が住み始めた地域の一つである。</p> <p>縄文時代は、中期末葉から後期初頭と後期の集落跡が調査された。広範に住居跡が検出され、柄鏡形住居跡が多く見ついている。1軒は台地部では珍しい敷石住居跡である。住居跡の床面に大きく扁平な片岩が敷いてあった。石材は荒川上流域から運ばれたと思われる。荒川とその支流の滝沼川を利用した広域での物の交流があったことが窺える。</p> <p>弥生時代は調査区の北西部から、後期の住居跡が11軒まとまって検出された。大木戸遺跡全域には広がっておらず、小さな集落であったと思われる。遺構の遺存状況は、耕作等の削平によって良好ではなかったが、第4-2号住居跡から一括廃棄されたと思われる土器群が出土している。</p> <p>近世は、江戸時代の掘立柱建物跡群が3箇所見ついている。</p>							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第355集

大木戸遺跡 I

大宮西部特定土地地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

平成20年12月22日 印刷

平成20年12月26日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1
電話 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社